

Collaboration - Forum システム管理者 ガイド

解説・手引・操作書

3020-3-H11-C0

■ 対象製品

P-2646-6364 Groupmax Collaboration Portal 07-91 (適用 OS : Windows Server2012[※], Windows Server 2012 R2[※], Windows Server 2008 R2[※], Windows Server 2008 x64[※], Windows Server 2008 x86)

P-2746-E364 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 (適用 OS : Windows Server2012[※], Windows Server 2012 R2[※], Windows Server 2008 R2[※], Windows Server 2008 x64[※], Windows Server 2008 x86)

注※ WOW64 環境だけで使用できます。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

SOAP (Simple Object Access Protocol) は、分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Windows Server 2008 x86	<ul style="list-style-type: none">Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit 日本語版Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit 日本語版
Windows Server 2008 x64	<ul style="list-style-type: none">Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 日本語版Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 日本語版
Windows Server 2008 R2	<ul style="list-style-type: none">Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Vista	<ul style="list-style-type: none">Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版 (32 ビット版)Microsoft(R) Windows Vista(R) Business 日本語版 (64 ビット版)Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版 (32 ビット版)Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise 日本語版 (64 ビット版)Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版 (32 ビット版)Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate 日本語版 (64 ビット版)
Windows 7	<ul style="list-style-type: none">Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional 日本語版 (64 ビット版)Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)

表記	製品名
Windows 7	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate 日本語版 (64 ビット版)
Windows Server2012	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter 日本語版 • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard 日本語版
Windows Server2012 R2	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter 日本語版 • Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard 日本語版
Windows 8.1	<ul style="list-style-type: none"> • Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (32 ビット版) • Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (32 ビット版) • Windows(R) 8.1 Pro 日本語版 (64 ビット版) • Windows(R) 8.1 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Windows Server 2008 x86, Windows Server 2008 x64, Windows Server 2008 R2, Windows Vista, Windows 7, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, および Windows 8.1 を総称して Windows と表記しています。

■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-H11-C0

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2004, 2015, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-H11-C0) Groupmax Collaboration Portal 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91

追加・変更内容	変更箇所
次の OS を対象製品の適用 OS に追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• Windows Server 2012 R2	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは、Collaboration - Forum の環境設定および運用方法について説明したものです。

■ 対象読者

Collaboration - Forum を使用したシステムを管理および運用するシステム管理者、またはシステムインテグレーターを対象としています。なお、次に示す知識を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS (Operating System) および Web ブラウザの操作
- Collaboration - Forum の各機能および操作 (マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」をお読みください)
- データベース (HiRDB) の操作
- HiRDB Text Search Plug-in の操作

■ 読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて次の箇所をお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
Collaboration - Forum の概要について知りたい。	1 章
Collaboration - Forum を利用するための設定について知りたい。	2 章
Collaboration - Forum を運用するための操作について知りたい。	3 章
Collaboration - Forum のコマンドについて知りたい。	4 章
Collaboration - Forum の障害対策について知りたい。	5 章
Collaboration - Forum のインストールディレクトリ構成について知りたい。	付録 A
モデルケースごとの RD エリア、テーブル、およびインデクスの容量について知りたい。	付録 B
データベース容量を見積もる際に使用する値について知りたい。	付録 C
Collaboration - Forum を旧バージョンから移行する場合について知りたい。	付録 D
Collaboration - Forum を SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応させる場合の設定方法について知りたい。	付録 E
Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合に、どの言語の情報を取得するかを指定する方法について知りたい。	付録 F
メール配信時の文字コードを設定する方法について知りたい。	付録 G
ユーザ ID およびファイル名に使用できない文字について知りたい。	付録 H
コマンドの実行時に使用されるユーザ情報について知りたい。	付録 I
会議室の発言をインポート・エクスポートする際に使用するファイルについて知りたい。	付録 J
Collaboration - Forum が対象としている監査事象、および監査ログが出力される操作について知りたい。	付録 K
Collaboration - Forum でコマンドを実行したときに出力されるメッセージおよび対処について知りたい。	付録 L
監査ログに出力されるメッセージについて知りたい。	付録 M

マニュアルを読む目的	記述箇所
Collaboration - Forum のアクセス権について知りたい。	付録 N
このマニュアルを読むに当たっての参考情報について知りたい。	付録 O
このマニュアルで使用する用語について知りたい。	付録 P

■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する主な記号を次に示します。

記号	意味
↑ ↑	計算結果の値を小数点以下で切り上げることを示します。 (例) $\uparrow 34 \div 3 \uparrow$ の計算結果は 12 となります。
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」の意味を表します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを意味します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) { A B C } A, B, または C のどれかを指定することを示します。
[]	構文の説明では、この記号で囲まれている項目は省略してよいことを意味します。複数の項目が横に並べて記述されている場合は、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
[]	ポートレット名、画面名、または画面に表示されている項目を示します。
会議室 ID	文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

目次

1	Collaboration - Forum の概要	1
1.1	Collaboration - Forum とは	2
1.2	Collaboration - Forum のシステム構成	3
1.2.1	システム構成	3
1.2.2	前提プログラム	3
1.2.3	前提 OS	3
1.2.4	Collaboration - Forum を利用できる Web ブラウザ	4
2	Collaboration - Forum の環境設定	5
2.1	Collaboration - Forum の環境設定の流れ	6
2.2	Collaboration - Forum のインストール	7
2.3	Collaboration - Forum のセットアップ	8
2.3.1	パーソナライズ情報の見積もり	8
2.3.2	データベースサーバの構築	8
2.3.3	メールサーバの設定	17
2.3.4	Cosminexus DABroker Library の設定	18
2.3.5	アプリケーションサーバの設定	18
2.3.6	プロパティファイルの編集	23
2.3.7	ユティリティのセットアップ	24
2.3.8	ユティリティコマンドの設定	24
2.3.9	システムパラメタの設定	61
2.3.10	RAS 用 Conf ファイルの設定	61
2.3.11	ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定	62
3	Collaboration - Forum の運用	65
3.1	作業一覧	66
3.2	メールの配信	68
3.3	メールによる議題または発言の投稿	69
3.4	お知らせメールの配信	71
3.5	会議室の開催通知の登録	72
3.6	会議室の状態変更通知の登録	73
3.7	回答期限通知の登録	74
3.8	会議室の状態変更	75
3.8.1	会議室状態	75
3.8.2	期間と会議室状態の遷移	75
3.9	会議室の強制再開	80

3.10	会議室のアーカイブ	81
3.11	会議室の削除	82
3.12	関連づけられていない添付ファイルの削除	83
3.13	会議室のリストア	84
3.14	会議室の復活	85
3.15	会議室の検索	86
3.16	会議室の期間延長	87
3.17	会議室の所有者変更	88
3.18	発言のインポート・エクスポート	89
3.19	システムパラメタ変更	90
3.20	全文検索の準備	91
3.20.1	議題または発言の主題、本文、もしくは発言者に対する全文検索の準備	91
3.20.2	添付ファイルに対する全文検索の準備	92
3.20.3	システムの負荷軽減と実行頻度	93
3.21	個人（ユーザ自身）の会議室の利用の抑止	94
3.21.1	個人（ユーザ自身）の会議室の利用可否の決定	94
3.21.2	個人（ユーザ自身）の会議室の利用抑止の設定方法	94
3.21.3	コミュニティ解散時の注意事項	95
3.22	メッセージキューの参照	96
3.23	メッセージキューの削除	97
4	Collaboration - Forum のコマンド	99
4.1	コマンド一覧	100
4.2	コマンドの詳細	102
	frmappedel (添付ファイル削除)	102
	frmarch (会議室アーカイブ)	103
	frmchown (会議室所有者変更)	105
	frmchstat (会議室状態変更)	106
	frmcmdsetup (セットアップ)	108
	frmdel (会議室削除)	109
	frmexpopn (発言のエクスポート)	110
	frmext (会議室期間延長)	116
	frmimpopn (発言のインポート)	119
	frminformail (お知らせメール配信)	122
	frmopnmail (メール配信)	123
	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)	124
	frmquedel (メッセージキューの削除)	126
	frmqueview (メッセージキューの参照)	127
	frmreopn (会議室強制再開)	129
	frmrest (会議室リストア)	132

frmrev (会議室復活)	134
frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)	137
frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)	141
frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)	142
frmsrch (会議室検索)	144
frmsys (システムパラメタ変更)	148

5

Collaboration - Forum の障害対策	151
5.1 コマンド実行中の障害について	152
5.2 コマンド実行中の強制終了について	153
5.3 コマンド実行中の OutOfMemory エラーについて	154
5.4 コマンドの二重起動について	155
5.5 uCosminexus Enterprise Search との連携時の障害について	156

付録

付録 A インストールディレクトリ構成	158
付録 B モデルケースごとのデータベース容量	159
付録 B.1 モデルケースごとの RD エリアの容量	162
付録 B.2 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数	167
付録 C データベース容量の見積もりで使用する値	206
付録 C.1 容量見積もりの前提条件	206
付録 C.2 値の説明で使用する記号	206
付録 C.3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値	208
付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値	209
付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値	240
付録 C.6 ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値	257
付録 D 旧バージョンからの移行について	259
付録 D.1 Collaboration - Forum 01-90 に移行する場合の注意事項	259
付録 D.2 データベースのバックアップ	261
付録 D.3 プロパティファイルのバックアップ	263
付録 D.4 Collaboration - Forum のインストールと運用ディレクトリの設定	263
付録 D.5 RD エリアの拡張	263
付録 D.6 RD エリアの作成	265
付録 D.7 グローバルバッファの割り当て	266
付録 D.8 カラムの追加およびレコードの更新・設定	266
付録 D.9 テーブルおよびインデクスの作成	268
付録 D.10 インデクス情報の変更	269
付録 D.11 レコードの更新と設定	270
付録 D.12 マスタデータの削除	270

付録 D.13	マスタデータの登録	271
付録 D.14	コネクション共有時の設定	271
付録 D.15	プロパティファイルの更新	271
付録 D.16	バッファサイズの見直し	274
付録 D.17	シーケンスマスタレコードの登録	275
付録 D.18	ユティリティの設定	275
付録 E	SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定	276
付録 E.1	hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat (移行用コマンド)	276
付録 F	Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語	278
付録 G	メール配信時の文字コードの指定	279
付録 H	使用できない文字	280
付録 H.1	ユーザ ID に使用できない文字	280
付録 H.2	ファイル名に使用できない文字	280
付録 I	コマンドの実行時に使用されるユーザ情報	281
付録 J	frmimpopn コマンド (発言のインポート) ・ frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で使用するファイル	283
付録 J.1	発言データファイル	283
付録 J.2	本文ファイル	288
付録 J.3	添付ファイル	289
付録 J.4	発言ヘッダファイル	289
付録 J.5	会議室一覧ファイル	290
付録 J.6	アクセス権一覧ファイル	293
付録 J.7	発言一覧ファイル	294
付録 J.8	属性一覧ファイル	295
付録 J.9	重要度一覧ファイル	297
付録 J.10	議論状態一覧ファイル	298
付録 K	Collaboration - Forum の監査ログ	300
付録 K.1	監査ログが出力される操作	301
付録 K.2	監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報の意味	306
付録 L	Collaboration - Forum のコマンド実行時に出力されるメッセージ	309
付録 L.1	コマンド実行時に出力されるメッセージの形式	309
付録 L.2	コマンド実行時に出力されるメッセージの記載形式	309
付録 L.3	コマンド実行時に出力されるメッセージの一覧	310
付録 M	監査ログのメッセージ	337
付録 M.1	監査ログのメッセージの記載形式	337
付録 M.2	監査ログのメッセージの詳細	338
付録 N	Collaboration - Forum のアクセス権	384
付録 O	このマニュアルの参考情報	385
付録 O.1	関連マニュアル	385
付録 O.2	このマニュアルでの表記	388

付録 O.3 英略語	390
付録 O.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	391
付録 P 用語解説	392

索引	393
----	-----

1

Collaboration - Forum の概要

この章では、Collaboration - Forum の概要およびほかのプログラムとの関係について説明します。

1.1 Collaboration - Forum とは

Collaboration - Forum は、企業内で利用する電子会議室です。

Collaboration - Forum は単なるディスカッションの場を提供するだけでなく、議論状態や回答責任者を明確にすることで、問題解決・意思決定支援ツールとしての具体的な機能を備えています。

会議室のメンバには、クロス・ファンクショナル・チームに所属するメンバをそのまま登録できるため、プロジェクトの推進に必要な問題解決の場をタイムリーに提供できます。

また、ユーザが [電子会議室] ポートレットに対して実行した操作およびコマンドの履歴が監査ログに出力されます。監査ログの概要や設定方法については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

監査ログが出力される操作、および監査ログのメッセージについては、次の個所を参照してください。

- 付録 K Collaboration - Forum の監査ログ
- 付録 M 監査ログのメッセージ

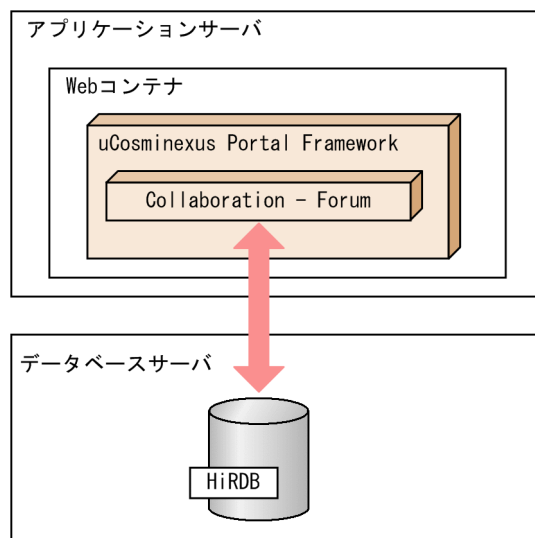
1.2 Collaboration - Forum のシステム構成

1.2.1 システム構成

Collaboration - Forum は、アプリケーションサーバ上で動作し、uCosminexus Portal Framework を前提としています。電子会議室の内容を登録したデータベースサーバ上の HiRDB にアクセスします。

Collaboration - Forum のシステム構成を次の図に示します。

図 1-1 Collaboration - Forum のシステム構成



1.2.2 前提プログラム

Collaboration - Forum を利用するには、次のプログラムプロダクトが必要です。

- uCosminexus Application Server
- uCosminexus Portal Framework
- HiRDB/Single Server または HiRDB/Parallel Server
- HiRDB/Runtime (アプリケーションサーバとデータベースサーバを別のマシンで運用する場合だけ必要です)
- HiRDB Text Search Plug-in
- HiRDB Text Search Plug-in Index Generator

1.2.3 前提 OS

Collaboration - Forum の前提 OS を次に示します。

- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2008 x64
- Windows Server 2008 x86
- Windows Server 2012 Standard

- Windows Server 2012 Datacenter
- Windows Server 2012 R2 Standard
- Windows Server 2012 R2 Datacenter

1.2.4 Collaboration - Forum を利用できる Web ブラウザ

Collaboration - Forum で利用できる Web ブラウザは、マニュアル「Collaboration ユーザーズガイド」を参照してください。

2

Collaboration - Forum の環境設定

この章では、Collaboration - Forum を利用するための環境の設定方法について説明します。

2.1 Collaboration - Forum の環境設定の流れ

ここでは、Collaboration - Forum の環境設定の流れについて説明します。Collaboration - Forum の環境を設定する手順を次の図に示します。

図 2-1 Collaboration - Forum の環境設定の流れ

	[参照先]
Collaboration - Forumのインストール	マニュアル「Collaboration 導入ガイド」
パーソナライズ情報の見積もり	2.3.1 パーソナライズ情報の見積もり
データベースサーバの構築	2.3.2 データベースサーバの構築
メールサーバの設定	2.3.3 メールサーバの設定
Cosminexus DABroker Libraryの設定	2.3.4 Cosminexus DABroker Libraryの設定
アプリケーションサーバの設定	2.3.5 アプリケーションサーバの設定
プロパティファイルの編集	2.3.6 プロパティファイルの編集
ユティリティのセットアップ	2.3.7 ユティリティのセットアップ
ユティリティコマンドの設定	2.3.8 ユティリティコマンドの設定
システムパラメタの設定	2.3.9 システムパラメタの設定
RAS用Confファイルの設定	2.3.10 RAS用Confファイルの設定
ほかのシステムとコネクションを共有する場合の設定	2.3.11 ほかのシステムとコネクションを共有する場合の設定

2.2 Collaboration - Forum のインストール

Collaboration - Forum は、統合インストーラからインストールします。インストール手順などの詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。また、Collaboration - Forum のインストールディレクトリ構成の詳細は、「付録 A インストールディレクトリ構成」を参照してください。

2.3 Collaboration - Forum のセットアップ

Collaboration - Forum のセットアップについて説明します。

2.3.1 パーソナライズ情報の見積もり

Collaboration - Forum では、ユーザ単位に [発言一覧] 画面の表示項目^{※1}、または [新着情報] ポートレットに一覧として表示する場合の条件^{※2} をカスタマイズできます。カスタマイズされた結果は、パーソナライズ情報として、uCosminexus Portal Framework 上で管理されます。

ここでは、Collaboration - Forum がカスタマイズで必要とするデータ量の計算式を示します。なお、パーソナライズ情報の見積もりの詳細は、マニュアル「uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド」を参照してください。

注※1

[発言一覧] 画面の表示項目は、[設定] 画面で設定します。[設定] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

注※2

[新着情報] ポートレットに一覧として表示する場合の条件は、新着情報編集画面で設定します。新着情報編集画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

(1) [設定] 画面

[設定] 画面でのデータ量の計算式を次に示します。

利用ユーザ数 × (1216 + 平均利用ワークスペース数 × 1032) バイト

(2) 新着取得条件編集画面

新着取得条件編集画面でのデータ量の計算式を次に示します。

利用ユーザ数 × 平均新着情報電子会議室アイテム数 × (664 × 平均利用ワークスペース数 - 24) バイト

2.3.2 データベースサーバの構築

Collaboration - Forum を利用する上で、データベースサーバの構築が必要です。ここではデータベースサーバの構築方法について説明します。

(1) データベース容量の見積もり

Collaboration - Forum では次に示す条件ごとのモデルケースを提供しています。

- システム内で作成する会議室の最大数
 - 165 個
 - 825 個
 - 1,650 個
- 会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)
 - 250 件
 - 500 件

- 1 発言（または議題）当たりの参照ユーザ数
 - 10 人
 - 50 人

次の条件をすべて満たす場合は、「付録 B モデルケースごとのデータベース容量」に示すモデルケースを使用して、データベースを構築してください。

- システム内で作成する会議室の最大数が 1,650 個以下
- 会議室に登録する議題と発言の最大数（平均値）が 500 件以下
- 1 発言（または議題）当たりの参照ユーザ数が 50 人以下

これらの条件を一つでも満たさない場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に「付録 C データベース容量の見積もりで使用する値」に示す値を代入して、データベース容量を見積もってください。

(2) パラメタの設定

ここでは、パラメタの設定について説明します。

(a) 環境変数グループの登録

Collaboration - Forum は、uCosminexus Portal Framework 上で動作するアプリケーションの一つです。このため、HiRDB に対する設定が、ほかのアプリケーションと干渉しないように HiRDB の環境変数グループを使用します。この環境変数グループを uCosminexus Application Server に引き継ぎます。詳細は、「2.3.5(2) J2EE Resources のデータソースへの指定」を参照してください。この環境変数グループの名称は、「HPTLCLBCFR」としてください。

HiRDB クライアント環境変数登録ツールを使用してシステムグループに登録する項目を次の表に示します。

表 2-1 HiRDB クライアント環境変数登録ツールを使用して登録する項目

項番	項目	機能	設定内容
1	PDCLTCNVMODE	文字コードを変換しないで、データをそのまま受け渡します。	「NOUSE」を指定します。
2	PDBLKF	HiRDB サーバから HiRDB クライアントに検索結果を転送するときの、1 回の転送処理で送られる行数を指定します。	「50」を指定します。 性能測定を実施し、性能チューニング項目として設定します。
3	PDISLLVL	SQL 文のデータ保証レベルを指定します。	「0」（ダーティリード）を指定します。
4	PDLOCKSKIP	無排他条件判定をするかどうかを指定します。	「YES」を指定します。
5	PDIPC	サーバとクライアントが同一ホストにある場合、プロセス間の通信方法を指定します。	アプリケーションサーバと DB サーバが同一マシンの場合、「MEMORY」を指定します。
6	PDSWATCHTIME	トランザクション外の HiRDB サーバが、HiRDB クライアントからの要求に回答してから、次に HiRDB クライアントから要求があるまでの HiRDB サーバの最大待ち時間を指定します。	「0」（HiRDB クライアントからの要求があるまで HiRDB サーバが待ち続ける）を指定します。

項番	項目	機能	設定内容
7	PDCWAITTIME	HiRDB クライアントが HiRDB サーバに要求をしてから、応答が戻ってくるまでの HiRDB クライアントの最大待ち時間を指定します。	「180」を指定します。
8	PDSWAITTIME	トランザクション中の HiRDB クライアントに、HiRDB サーバが応答してから、次に要求があるまでの最大待ち時間を指定します。	「180」を指定します。
9	PDCLTPATH	HiRDB クライアントが作成する SQL トレースファイルおよびエラーログファイルの格納先ディレクトリを指定します。	任意で指定します。 値を指定する場合は、コネクション単位で指定してください。

PDHOST などのデータベースの接続に必要な項目は、ご使用の環境に合わせて設定してください。

なお、HiRDB クライアント環境変数登録ツールの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド」を参照してください。

(b) グローバルバッファの計算方法

グローバルバッファの計算方法を次に示します。ここでは、グローバルバッファの設定条件を決定してから HiRDB システム共通定義を作成するまでの例を示しています。なお、ここでは、グローバルバッファと RD エリアを一对一で割り当てる場合の例を示します。

グローバルバッファの計算方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

• グローバルバッファの設定条件

ここでは、次に示す条件でグローバルバッファを設定します。

- RD エリアのページ長によってバッファを分けます。
- インデクス用 RD エリアのバッファは専用に設定し、メモリ常駐となるような容量を確保します。
- BLOB 用 RD エリアのバッファは専用に設定します。このバッファは LOB 用エリアの管理領域用バッファとし、LOB 用エリア自体 (LOB データ用バッファ) はメモリ常駐しません。
- 採番 1 および採番 2 テーブル用 RD エリアのバッファは専用に設定し、メモリ常駐となるような容量を確保します。
- RD エリアの分類に従って RD エリアと一对一でグローバルバッファを割り当てます。RD エリアの分類の詳細は、「2.3.2(5)(b) RD エリアの分類」を参照してください。

• グローバルバッファの計算方法

グローバルバッファの容量はユーザ環境に依存します。このため、共用メモリの上限値とバッファヒット率を考慮し、必要最低限の入出力性能が得られる大きさにします。

• HiRDB システム共通定義

HiRDB システム共通定義に次の記述を追加します。

```
pdbuffer -a CFRGBUFDATA10 -r CFRRDDATA10 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA20 -r CFRRDDATA20 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA30 -r CFRRDDATA30 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA40 -r CFRRDDATA40 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA50 -r CFRRDDATA50 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA60 -r CFRRDDATA60 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA70 -r CFRRDDATA70 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFDATA80 -r CFRRDDATA80 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX10 -r CFRRDINDX10 -n 100
```

```

pdbuffer -a CFRGBUFINDX20 -r CFRRDINDX20 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX30 -r CFRRDINDX30 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX40 -r CFRRDINDX40 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX50 -r CFRRDINDX50 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX60 -r CFRRDINDX60 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX70 -r CFRRDINDX70 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX80 -r CFRRDINDX80 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFINDX90 -r CFRRDINDX90 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFLOBB10 -r CFRRDLOBB10 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFLOBB11 -b CFRRDLOBB10 -n 10
pdbuffer -a CFRGBUFLOBD10 -r CFRRDLOBD10 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFLOBD11 -b CFRRDLOBD10 -n 10
pdbuffer -a CFRGBUFLOBD20 -r CFRRDLOBD20 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFLOBD21 -b CFRRDLOBD20 -n 10
pdbuffer -a CFRGBUFLOBI10 -r CFRRDLOBI10 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFLOBI11 -b CFRRDLOBI10 -n 10
pdbuffer -a CFRGBUFLOBI20 -r CFRRDLOBI20 -n 100
pdbuffer -a CFRGBUFLOBI21 -b CFRRDLOBI20 -n 10

```

(3) ユーザ権限の設定

Collaboration - Forum の利用に合わせて、使用するユーザ権限を設定してください。

ユーザ権限の設定方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

(4) 文字コードの変更

Collaboration - Forum の文字コードは UTF-8 を前提としています。このため、データベースを構築する前に、HiRDB の動作環境の設定 (pdntenv) コマンドで、使用する文字コードを UTF-8 に変更してください。HiRDB の動作環境の設定 (pdntenv) コマンドの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

(5) RD エリアの作成

(a) RD エリアの設定条件

ここでは、次に示す条件で RD エリアを設定します。

- テーブルとインデクスは、RD エリアを別に設定します。
- 容量が大きくなるテーブルは、専用の RD エリアを設定します。このテーブルに対するインデクスの RD エリアも専用に設定します。
- 容量が大きくならないテーブルは、複数のテーブルで同一の RD エリアを設定します。このテーブルに対するインデクスの RD エリアも同様とします。なお、RD エリアのセグメント数には、各テーブルのセグメント数の総和を指定してください。
- BLOB のカラムは、単独で専用の RD エリアを設定します。
- 全文検索用テキストデータ (SGMLTEXT) のカラムは、専用の RD エリアを設定します。
- 全文検索用テキストデータ (SGMLTEXT) のカラムに対するインデクス (NGRAM インデクス) は、専用の RD エリアを設定します。
- 頻繁にアクセスするテーブルは、専用の RD エリアを設定します。

(b) RD エリアの分類

表 2-2 から表 2-4 に示すグローバルバッファについては、「2.3.2(2)(b) グローバルバッファの計算方法」の例にしています。

- テーブル

テーブルごとの RD エリアの分類を次の表に示します。

表 2-2 テーブル一覧

項番	RD エリア	テーブル	グローバルバッファ
1	CFRRDDATA10	発言テーブル	CFRGBUFDATA10
2	CFRRDDATA20	本文テーブル	CFRGBUFDATA20
3	CFRRDDATA30	添付ファイルテーブル	CFRGBUFDATA30
4	CFRRDDATA40	既読テーブル	CFRGBUFDATA40
5	CFRRDDATA50	採番 1 テーブル	CFRGBUFDATA50
6	CFRRDDATA60	採番 2 テーブル	CFRGBUFDATA60
7	CFRRDDATA70	<ul style="list-style-type: none"> • 会議室テーブル • メイン会議室 ID テーブル • 属性テーブル • 重要度テーブル • 議論状態テーブル • メール送信ユーザテーブル • ユーザアクセス権テーブル • コミュニティアクセス権テーブル • 属性マスタテーブル • 重要度マスタテーブル • 議論状態マスタテーブル • パラメタ管理テーブル • 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル • 会議室タイプの属性マスタテーブル • 組織アクセス権テーブル 	CFRGBUFDATA70
8	CFRRDDATA80	<ul style="list-style-type: none"> • メッセージキューテーブル • メッセージキュー採番テーブル • お知らせメールメッセージ用バッファテーブル • お知らせメール宛先用バッファテーブル • お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル • お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル 	CFRGBUFDATA80

• カラム

カラムごとの RD エリアの分類を次の表に示します。

表 2-3 カラム一覧

項番	RD エリア	カラム	グローバルバッファ
1	CFRRDLOBB10	添付ファイルテーブルの内容カラム	CFRGBUFLOBB10 CFRGBUFLOBB11

項番	RD エリア	カラム	グローバルバッファ
2	CFRRDLOBD10	本文テーブルの全文検索用テキストデータカラム	CFRGBUFLOBD10 CFRGBUFLOBD11
3	CFRRDLOBD20	添付ファイルテーブルの全文検索用テキストデータカラム	CFRGBUFLOBD20 CFRGBUFLOBD21

- インデクス
インデクスごとの RD エリアの分類を次の表に示します。

表 2-4 インデクス一覧

項番	RD エリア	インデクス	グローバルバッファ
1	CFRRDINDEX10	発言テーブルのインデクス (idx_opinion17 を除く)	CFRGBUFINDEX10
2	CFRRDINDEX20	本文テーブルのインデクス (全文検索用テキストデータのインデクスは除く)	CFRGBUFINDEX20
3	CFRRDINDEX30	添付ファイルテーブルのインデクス (全文検索用テキストデータのインデクスは除く)	CFRGBUFINDEX30
4	CFRRDINDEX40	既読テーブルのインデクス	CFRGBUFINDEX40
5	CFRRDINDEX50	次に示すテーブルのインデクスが対象。 <ul style="list-style-type: none"> • 会議室テーブル (idx_forum2 および idx_forum3 を除く) • メイン会議室 ID テーブル • 属性テーブル • 重要度テーブル • 議論状態テーブル • メール送信ユーザテーブル • ユーザアクセス権テーブル • コミュニティアクセス権テーブル • 属性マスタテーブル • 重要度マスタテーブル • 議論状態マスタテーブル • パラメタ管理テーブル • 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル • 会議室タイプの属性マスタテーブル • 組織アクセス権テーブル 	CFRGBUFINDEX50
6	CFRRDINDEX60	<ul style="list-style-type: none"> • メッセージキューテーブル • お知らせメールメッセージ用バッファテーブル • お知らせメール宛先用バッファテーブル • お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル • お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル 	CFRGBUFINDEX60

項番	RD エリア	インデクス	グローバルバッファ
7	CFRRDINDEX70	会議室テーブルのインデクス (idx_forum2 および idx_forum3)	CFRGBUFINDEX70
8	CFRRDINDEX80	発言テーブルのインデクス (idx_opinion17)	CFRGBUFINDEX80
9	CFRRDINDEX90	<ul style="list-style-type: none"> 採番1 テーブルのインデクス 採番2 テーブルのインデクス 	CFRGBUFINDEX90
10	CFRRDLOBI10	本文テーブルの全文検索用テキストデータのインデクス	CFRGBUFLOBI10 CFRGBUFLOBI11
11	CFRRDLOBI20	添付ファイルテーブルの全文検索用テキストデータのインデクス	CFRGBUFLOBI20 CFRGBUFLOBI21

(c) RD エリアの作成

HiRDB のデータベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を使用して、容量を計算の上、RD エリアの分類に示した RD エリアを作成します。RD エリアを作成する場合には、RD エリア作成 SQL (*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_area.sql) を使用してください。

！ 注意事項

RD エリアの作成で RD エリア作成 SQL (*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_area.sql) に記載しているセグメント数をそのまま使用する場合、ユーザ LOB 用 RD エリアで使用する HiRDB ファイルシステム領域サイズは 2GB 以上 (約 9GB) が必要です。このため、HiRDB ファイルシステム領域に関するオペランドの pd_large_file_use には「Y」を指定する必要があります。HiRDB ファイルシステム領域に関するオペランドの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用)」を参照してください。

パラレルサーバ使用時に RD エリアを作成する場合は、RD エリア作成 SQL に create rdarea 文の server name オペランドを追加し、RD エリアを管理するサーバを指定してください。create rdarea 文の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

また、次の項目はユーザ環境に合わせて変更してください。

- 認可識別子
- RD エリアを構成する HiRDB ファイル名
- セグメント情報 (ページ数, 初期セグメント数, 増分など)

なお、初期セグメント数には、次に示す最小セグメント数以上の値を指定してください。

表 2-5 RD エリアの最小セグメント数

項番	RD エリア	最小セグメント数
1	CFRRDDATA10	1
2	CFRRDDATA20	1
3	CFRRDDATA30	1
4	CFRRDDATA40	1

項番	RD エリア	最小セグメント数
5	CFRRDDATA50	1
6	CFRRDDATA60	1
7	CFRRDDATA70	15
8	CFRRDDATA80	6
9	CFRRDINDEX10	17
10	CFRRDINDEX20	1
11	CFRRDINDEX30	4
12	CFRRDINDEX40	2
13	CFRRDINDEX50	20
14	CFRRDINDEX60	7
15	CFRRDINDEX70	2
16	CFRRDINDEX80	1
17	CFRRDINDEX90	2
18	CFRRDLOBB10	1
19	CFRRDLOBD10	587
20	CFRRDLOBD20	587
21	CFRRDLOBI10	48,861
22	CFRRDLOBI20	48,861

データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

(6) HiRDB Text Search Plug-in の設定

(a) 使用するプラグイン

Collaboration - Forum では、議題と発言の主題、添付ファイルなどの全文検索には、HiRDB Text Search Plug-in を使用します。HiRDB Text Search Plug-in 設定時の注意事項を次に示します。

- HiRDB Text Search Plug-in のセットアップでは、使用する文書検索プラグインとして、SGML プラグインと n-gram インデクスプラグインを指定してください。
- HiRDB のシステム共通定義を変更する場合、文書検索プラグインとして、SGML プラグインと n-gram インデクスプラグインを指定してください。
- 議題および発言の登録と検索を同時に実行できるように、HiRDB Text Search Plug-in の構築で、登録と検索を同時に実行する設定にしてください。

なお、SGML プラグインおよび n-gram インデクスプラグインの設定方法の詳細は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

(b) プラグインコンフィグで指定するパラメタ

Collaboration - Forum を利用するために、SGML プラグインと n-gram インデクスプラグインの環境定義ファイルで指定するパラメタを次の表に示します。

表 2-6 SGML プラグインの定義項目

項番	パラメタ項目	値
1	phs_search_wait	[nowait_with_update] を指定します。

表 2-7 n-gram インデクスプラグインの定義項目

項番	パラメタ項目	値
1	phn_lock_pool_size	HiRDB Text Search Plug-in の見積もり式に従って算出した値 (単位: KB) を指定します。
2	phn_mem_build	添付されるファイルの平均サイズの 10 倍を目安に値 (単位: KB) を指定します。
3	phn_mem_search	検索で使用するメモリサイズ (単位: KB) を指定します。 使用できる物理メモリ ÷ 同時実行数を目安にメモリを指定します。ただし、メモリが十分に確保できない場合は、不足分を補うため、ワークファイルを使用してください。この場合は、phn_opt_search パラメタおよび phn_dir_search パラメタも指定してください。
4	phn_opt_search	[file] を指定します。
5	phn_dir_search	ワークファイルの作成ディレクトリを指定します。

(7) テーブルおよびインデクスの作成

HiRDB のデータベース定義ユーティリティ (pddef) を使用して、テーブルおよびインデクスを作成します。テーブルおよびインデクスを作成する場合には、テーブル・インデクス作成 SQL (*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_table.sql) を使用してください。

データベース定義ユーティリティ (pddef) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

(8) マスタレコードの作成

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq) を使用してマスタレコードを作成します。マスタレコードを作成する場合には、マスタレコードファイル (*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_master.sql)、およびシーケンスマスタレコードファイル (*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_master_sequence.sql) を使用してください。なお、シーケンスマスタレコードファイルは再登録しないでください。

HiRDB SQL Executer を所有していない場合は、データベース作成ユーティリティ (pload) コマンドで使用できるマスタレコードファイルを使用します。

会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsq)、およびデータベース作成ユーティリティ (pload) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

2.3.3 メールサーバの設定

投稿メールを送信または受信するためには、メールサーバの設定が必要です。ここでは、Groupmax Mail Server の設定方法について説明します。

(1) 投稿メールを受信するためのユーザの登録と設定

ここでは、投稿メールを受信するために必要な Groupmax Mail Server の設定について説明します。なお、Groupmax Mail Server の設定方法の詳細は、マニュアル「Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編」を参照してください。

(a) 投稿メールを受信するためのユーザの登録

投稿メールを受信するためのユーザを、メール属性を持つアドレスユーザとして登録します。

投稿メールを受信するためのユーザは、どの組織の下でも登録できます。

(b) Groupmax Mail Server 環境テンプレートファイルの設定

投稿メールを受信するためのユーザが利用する、Groupmax Mail Server 環境テンプレートファイルの PCfgUnseen キーワードに、ALL を設定します。

なお、投稿メールを受信するためのユーザとして、「ログイン ID # 環境テンプレートの番号 #」のフォーマットが設定できます。このことによって、投稿メールを受信するためのユーザ用として、新規の環境テンプレートファイルを作成したり、既存の環境テンプレートを使用したりできます。

(c) POP3 プロトコルアクセスの設定

投稿メールを受信するためのユーザは、POP3 プロトコルでアクセスできる必要があります。

Groupmax Mail Server の Mail Server オプションで、[POP3/IMAP4 を使用する] を有効にしてください。

(2) メール送信者の E-mail アドレスの設定

メール送信者の E-mail アドレスと、ディレクトリサーバに登録されている mail 属性の値を一致させてください。また、ディレクトリサーバの mail 属性に複数の値を設定している場合は、先頭の mail 属性の値と一致させてください。

(3) MIME 構造情報の設定

Groupmax Mail - SMTP の MIME 構造情報の設定によっては、悪意のあるメールが正常データとして扱われてしまい、議題または発言として登録されてしまう場合があります。このことを回避するために、Groupmax Mail - SMTP の MIME 構造情報には必ず「on」を設定してください。

(4) メールの受信サイズの設定

メールの受信サイズを設定してください。

なお、メールを使用するために必要なメモリは、次に示す式で算出してください。

メールサーバで制限した 1 メール サイズ × メールサーバに接続するスレッド最大数
(hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail) × メールサーバから一度に受信するメール件数
(hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number)

2.3.4 Cosminexus DABroker Library の設定

Cosminexus DABroker Library の環境設定ユーティリティを使用して設定する項目を次の表に示します。

表 2-8 Cosminexus DABroker Library の設定項目

項番	タブ名称	項目	値
1	リモートアクセス設定	BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分	パラメタ管理 (tbl_param) の DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize) より大きい値を指定します。
2	共通設定※	表検索カラム数	60 を指定します。
		更新・検索条件カラム数	60 を指定します。

注※

検索性能に影響します。

この設定は、システム全体に影響するため、ほかのアプリケーションが表に示す項目で別の設定を要求している場合は、アプリケーション間で設定内容を調整してください。

Cosminexus DABroker Library の環境設定ユーティリティの詳細は、Cosminexus 付属の DABroker のドキュメントを参照してください。

2.3.5 アプリケーションサーバの設定

(1) 全体の調整

Collaboration - Forum は uCosminexus Portal Framework 上で動作する一つのアプリケーションですが、ほかのアプリケーションも同じ環境で動作します。Collaboration 全体で設定方法および設定値の調整を実施してください。

詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(2) J2EE Resources のデータソースへの指定

uCosminexus Portal Framework で Collaboration - Forum が提供するポートレットを使用して、Web アプリケーションを構築する場合、登録した環境変数グループのグループ名称を Web アプリケーションの J2EE Resources のデータソースとして設定します。環境変数グループの名称は、「2.3.2(2)(a) 環境変数グループの登録」を参照してください。

Resource Adapters として uCosminexus Application Server の DB Connector を使用します。

Resource Adapters への組み込み方法の詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバシステム構築・運用ガイド」を参照してください。

(a) DB Connector の設定

Connector 属性ファイルを取得し、編集後、Connector 属性ファイルを Resource Adapters に反映してください。詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド」を参照してください。

DB Connector の次に示すプロパティ設定項目を設定してください。

- DB Connector の一般情報

- コンフィグレーションプロパティ
- 実行時プロパティ

これらのプロパティで設定する項目を次に示します。そのほかの項目については環境に合わせて設定してください。

- DB Connector の一般情報
DB Connector の一般情報属性 (<outbound-resourceadapter>タグ) の項目を設定します。

表 2-9 一般情報属性で設定する項目

項番	項目名	値
1	<transaction-support>	LocalTransaction

形式：

<transaction-support>LocalTransaction</transaction-support>

- コンフィグレーションプロパティ
DB Connector のコンフィグレーションプロパティ (<outbound-resourceadapter> - <connection-definition> - <config-property>タグ) の項目を設定します。

表 2-10 コンフィグレーションプロパティで設定する項目 (アプリケーションサーバの設定)

項番	<config-property-name>	<config-property-value>
1	networkProtocol	lib
2	databaseName	HIRDB
3	description	@DABENVGRP=HPTLCLBCFR
4	encodLang	UTF-8
5	bufSize	パラメタ管理 (tbl_param) の DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize) より大きい値を指定します。
6	CallableStatementPoolSize	0

- 実行時プロパティ
DB Connector の実行時プロパティ (<outbound-resourceadapter> - <connection-definition> - <connector-runtime>タグ) の<property>タグの項目を設定します。

表 2-11 実行時プロパティの<property>タグで設定する項目 (アプリケーションサーバの設定)

項番	<property-name>	<property-value>	備考
1	MaxPoolSize	webserver.connector.ajp13.max_threads に指定した値より大きい値	MaxPoolSize の接続ができる値を HiRDB の pd_max_users に設定してください。なお、pd_max_users には同時に実行するユーティリティコマンド数分の値を加算して設定してください。
2	MinPoolSize	webserver.connector.ajp13.max_threads に指定した値	
3	User	認可識別子	—
4	Password	「User」で示すユーザのパスワード	—

(凡例)

— : 該当なし

(3) メソッドキャンセル機能と業務アプリケーションの強制停止

uCosminexus Application Server のメソッドキャンセル機能を利用して Collaboration の実行時間を監視する場合は、次の表に示すクラスを保護区として登録します。

表 2-12 保護区一覧

項番	クラス名
1	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.engine.common.FrPortletCustomizeInfo
2	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.engine.common.FrWorkplaceCustomizeInfo
3	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.engine.common.FrLayoutCustomizeInfo
4	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.engine.common.FrCustomizeInfoFor0110
5	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.util.FrUploadFile

メソッドタイムアウト時間を短く設定していると、エラーが多発することがあります。

このようなエラーが多発する場合は、メソッドタイムアウト時間の設定を変更してください。

保護区の登録方法、およびメソッドタイムアウト時間の設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(4) uCosminexus Enterprise Search と連携する場合の設定

uCosminexus Enterprise Search と連携した議題および発言の全文検索機能を使用する場合、Collaboration - Forum のアクセス権に従った検索結果を表示させるため、Cosminexus が提供する Web サービスセキュリティ機能を使用します。

uCosminexus Enterprise Search と連携する場合の設定について説明します。

(a) 認証機能の設定

Cosminexus Web Services - Security が提供する認証機能を使用するための設定をします。認証機能の設定の詳細はマニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ Web サービス開発ガイド」を参照してください。

(b) JAAS のコンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定

JAAS のコンフィグレーションファイル (jaas.conf) に次の値を設定します。

表 2-13 JAAS のコンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定値

項番	項目	設定値
1	ログインモジュール名	jp.co.Hitachi.soft.collaboration.external.soap.ClbLoginModule
2	Flag	required

この表以外の JAAS のコンフィグレーションファイル (jaas.conf) の設定値については、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」を参照してください。

(c) Web サービスプロパティファイル (hptl_clb_ws.properties) の設定

Collaboration - Forum をインストール後、運用ディレクトリにコピーした Web サービスプロパティファイル (hptl_clb_ws.properties) を変更してください。

プロパティファイルの名称と格納場所は次のとおりです。

Collaboration インストールディレクトリ¥clb_home¥conf¥hptl_clb_ws.properties

プロパティ名を次の表に示します。必要に応じて変更してください。なお、指定した値の大文字と小文字は区別されます。

表 2-14 編集プロパティ一覧 (hptl_clb_ws.properties)

項番	プロパティ名	内容	初期値
1	hptl_clb_operatorIdn	Web サービスに接続するユーザ ID を 255 バイト以内で指定します。プロパティの値の指定は、省略できません。 Web サービスでは、添え字 <i>n</i> が同じ値の hptl_clb_operatorPassword <i>n</i> に指定したパスワードで認証されます。 添え字 <i>n</i> は「1」から「64」までの値を指定します。ただし、添え字 <i>n</i> は、範囲内であれば、通番になっていなくてもエラーにはなりません。 「64」よりも大きな添え字 <i>n</i> が指定されている場合、その指定は無効になります。	—
2	hptl_clb_operatorPasswordn	Web サービスに接続するユーザのパスワードを 255 バイト以内で指定します。プロパティの値の指定は、省略できません。 添え字 <i>n</i> は「1」から「64」までの値を指定します。ただし、添え字 <i>n</i> は、範囲内であれば、通番になっていなくてもエラーにはなりません。 「64」よりも大きな添え字 <i>n</i> が指定されている場合、その指定は無効になります。	—

(凡例)

—：初期値は設定されていません。

また、プロパティファイルは、実行時のクラスパスに登録してください。クラスパスへの登録方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(d) 共通インターフェースプロパティファイル (hptl_clb_common_api.properties) の設定

Collaboration - Forum をインストール後、運用ディレクトリにコピーした共通インターフェースプロパティファイル (hptl_clb_common_api.properties) を変更してください。

プロパティファイルの名称と格納場所は次のとおりです。

Collaboration インストールディレクトリ¥clb_home¥conf¥hptl_clb_common_api.properties

プロパティ名を次の表に示します。必要に応じて変更してください。なお、指定した値の大文字と小文字は区別されます。

表 2-15 編集プロパティ一覧 (hptl_clb_common_api.properties)

項番	プロパティ名	内容	初期値
1	hptl_clb_common_api_logPath	<p>共通インターフェースログファイルの出力先ディレクトリを指定します。指定したディレクトリの直下に次に示すファイルが出力されます。</p> <p>hptl_clb_common_apin.log</p> <p>n :</p> <p>1 から hptl_clb_common_api_logFileNum で指定した値を示します。</p> <p>なお, 出力先のディレクトリを指定する場合, 区切り文字 (記号) には, 「\backslash」または 「/」を使用してください。</p> <p>プロパティ名または値を省略した場合, 共通インターフェースログファイルは出力されません。</p>	—
2	hptl_clb_common_api_logLevel	<p>ログレベルのしきい値を-1 から 30 までの数値で指定します。指定した値より大きいレベルを持ったログは出力されません。</p> <p>「-1」を指定するとログ情報は出力されません。</p> <p>次の場合はデフォルト値の「20」が仮定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロパティ名または値を省略した場合 -1 から 30 までの数値以外の値を指定した場合 	20
3	hptl_clb_common_api_logFileNum	<p>切り替えて使用するログファイルの面数を 1 から 16 までの数値で指定します。</p> <p>「16」を指定した場合, 17 番目のログ情報は, 1 番目のログ情報が採取されているファイルに採取 (上書き) されます。</p> <p>次の場合はデフォルト値の「8」が仮定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロパティ名または値を省略した場合 1 から 16 までの数値以外の値を指定した場合 	8
4	hptl_clb_common_api_logFileSize	<p>1 個のログファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は, 4096 から 2147483647 です。</p> <p>次の場合はデフォルト値の「2097152」が仮定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> プロパティ名または値を省略した場合 4096 から 2147483647 までの数値以外の値を指定した場合 	2097152

(凡例)

— : 初期値は設定されていません。

また、プロパティファイルは、実行時のクラスパスに登録してください。クラスパスへの登録方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(e) SOAP アプリケーションの実行

EAR ファイルを作成し、SOAP アプリケーションを J2EE サーバにデプロイして実行します。SOAP アプリケーションの実行方法の詳細は、マニュアル「Cosminexus V9 アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」を参照してください。

2.3.6 プロパティファイルの編集

Collaboration - Forum をインストール後、運用ディレクトリにコピーしたプロパティファイル (hptl_clb_cfr_engine.properties) を変更してください。

プロパティファイルの名称と格納場所は次のとおりです。

Collaboration インストールディレクトリ*clb_home*conf*hptl_clb_cfr_engine.properties

変更が必要なプロパティ名を次の表に示します。なお、指定した値の大文字と小文字は区別されます。

表 2-16 変更できるプロパティ一覧

項番	プロパティ名	内容	初期値
1	hptl_clb_cfr_log_file_path	ログファイルの出力先ディレクトリをフルパスで指定します。指定したディレクトリの直下に次に示すファイルが出力されます。 hptl_clb_cfr_engine- <i>n</i> .log <i>n</i> : 1 から hptl_clb_cfr_log_file_num で指定した値を示します。 なお、出力先のディレクトリを指定する場合、区切り文字（記号）には、「*」または「/」を使用してください。 インストール時は、ログファイルの出力先ディレクトリが設定されていないので、次に示す格納場所を指定してください。 <i>Collaboration</i> インストールディレクトリ/ clb_home/log	—
2	hptl_clb_cfr_log_file_num	切り替えて使用するログファイルの面数を 1 から 16 までの数値で指定します。 「16」を指定した場合、17 番目のログ情報は、1 番目のログ情報が採取されているファイルに採取（上書き）されます。	16
3	hptl_clb_cfr_log_file_size	1 個のログファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は、4096 から 2147483647 です。	1048576
4	hptl_clb_cfr_log_level	ログレベルのしきい値を-1 から 40 までの数値で指定します。指定した値より大きいレベルを持ったログは出力されません。 「-1」を指定するとログ情報は出力されません。	20
5	hptl_clb_cfr_log_encoding	ログを出力するときに使用するエンコーディング値を指定します。	Windows-31J

項番	プロパティ名	内容	初期値
6	hptl_clb_cfr_db_schema	アクセスするデータベースのスキーマ名を指定します。	—
7	hptl_clb_cfr_frmopnregist_display	メール投稿設定の表示/非表示を指定します。	0

(凡例)

—：初期値は設定されていません。

また、プロパティファイルは、実行時のクラスパスに登録してください。クラスパスへの登録方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

2.3.7 ユティリティのセットアップ

前提プログラムを含めたインストールの作業が終了したことを確認後、ユティリティの起動ファイルを生成するため、`frmcmdsetup` コマンド (セットアップ) を実行します。`frmcmdsetup` コマンド (セットアップ) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmcmdsetup` (セットアップ)」を参照してください。

2.3.8 ユティリティコマンドの設定

Collaboration - Forum が提供するユティリティコマンドも、Collaboration - Forum が利用するデータベースサーバや SMTP サーバへ接続します。

(1) 定義ファイルの設定

ユティリティコマンドを実行する前に、Collaboration - Forum をインストール後、運用ディレクトリにコピーしたコマンド用の定義ファイル (`hptl_clb_cfr_command.properties`) を編集してください。

定義ファイルには次の情報を定義します。

- ログ情報
- データベースの接続情報
- トランザクション情報
- Collaboration - Forum の言語コード情報
- タイムゾーン情報
- メールサーバの接続情報
- コンソールの文字コード情報
- メール通知情報
- メール投稿設定情報
- 移行情報
- 発言のインポート・エクスポート情報
- システムパラメタの設定情報

定義ファイルの名称と格納場所は次のとおりです。

Collaboration インストールディレクトリ¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cfr_command.properties

注意事項

- 定義ファイルに同じプロパティが複数記述されていた場合、あとに記述されている行を優先します。
- システムパラメタの設定情報のプロパティを記述する場合、「プロパティ名 = 」のような値のない記述があるとエラーになります。
- 指定した値の大文字と小文字は区別されます。

定義ファイルに設定するプロパティを次の表に示します。

表 2-17 プロパティ項目一覧

項番	区分	プロパティ名	設定内容
1	ログ情報	hptl_clb_cfr_log_file_path	ログファイルの出力先ディレクトリ名
2		hptl_clb_cfr_log_file_num	ログファイルの面数
3		hptl_clb_cfr_log_file_size	ログファイルのサイズ
4		hptl_clb_cfr_log_level	ログレベル
5		hptl_clb_cfr_log_encoding	ログ情報のエンコーディング値
6	データベースの接続情報	hptl_clb_cfr_db_schema	スキーマ名
7		hptl_clb_cfr_db_driver	ドライバ名
8		hptl_clb_cfr_db_url	URL
9		hptl_clb_cfr_db_username	ユーザ名
10		hptl_clb_cfr_db_password	パスワード
11		hptl_clb_cfr_db_character_encoding	データベースに登録する文字コード
12	トランザクション情報	hptl_clb_cfr_all_del_aldyread_max_num	1 度のトランザクション中に削除できる最大既読レコード数
13		hptl_clb_cfr_use_exclusive_mode	テーブル単位の排他ロック指定有無
14	Collaboration - Forum の言語コード情報	hptl_clb_cfr_i18n_supports	リソースとして指定できる言語コードの一覧
15		hptl_clb_cfr_adm_lang	管理者指定用の言語コード
16	タイムゾーン情報	hptl_clb_cfr_timezone	タイムゾーン
17	メールサーバの接続情報	hptl_clb_cfr_mail_address	メールサーバのアドレス
18		hptl_clb_cfr_mail_port	メールサーバのポート番号
19		hptl_clb_cfr_mail_maxuser	メールサーバの最大送信ユーザ数

項番	区分	プロパティ名	設定内容
20	メールサーバの接続情報	hptl_clb_cfr_mail_charset_XX	メール配信時の文字コード
21	コンソールの文字コード情報	hptl_clb_cfr_console_encodelang1	コンソールの文字コード1
22		hptl_clb_cfr_console_encodelang2	コンソールの文字コード2
23	メール通知情報	hptl_clb_cfr_mail_to	To 属性に設定するダミー文字列
24		hptl_clb_cfr_notice_period_effectiveend	開催期間 終了日の通知期間
25		hptl_clb_cfr_notice_period_referenceend	参照期間 終了日の通知期間
26		hptl_clb_cfr_mail_from_address	From に設定する E-mail アドレス
27		hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period	回答期限の事後通知期間
28	メール投稿設定情報	hptl_clb_cfr_mail_frmopnregist_set	メール投稿情報の設定有無
29		hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_001 : hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_010	投稿メールを受信するための E-mail アドレス
30		hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_address	POP3 サーバのアドレス
31		hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_port	POP3 サーバのポート番号
32		hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number	メールサーバから一度に受信するメール件数
33		hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number	メールサーバへの接続回数
34		hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_001 : hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_010	投稿されたメールを取得するためのユーザ名
35		hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_001 : hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_010	投稿されたメールを取得するためのパスワード
36	hptl_clb_cfr_opnregist_trace_mail_header	メールヘッダのログ出力制御	
37	hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail	メールサーバに接続するスレッド最大数	

項番	区分	プロパティ名	設定内容	
38	メール投稿設定情報	hptl_clb_cfr_opnregist_send_error_mail	エラーメールの通知有無	
39		hptl_clb_cfr_opnregist_send_mail_messaging_exception	MessagingException発生時のエラーメール通知の有無	
40		hptl_clb_cfr_opnregist_measure_nested_mimepart_number	MIME パートのネスト解析数を越えた場合の後処理	
41		hptl_clb_cfr_opnregist_send_nested_mimepart_number	MIME パートのネスト解析数を越えた場合のエラーメール通知の有無	
42		hptl_clb_cfr_opnregist_check_messageid_maxlen	二重投稿抑止チェック対象のメールのメッセージ ID 長	
43	移行情報	hptl_clb_cfr_shift0103_before_convert_string	変換前文字列	
44		hptl_clb_cfr_shift0103_after_convert_string	変換後文字列	
45	発言のインポート・エクスポート情報	hptl_clb_cfr_opinion_message_count	メッセージの通知単位	
46		hptl_clb_cfr_opinion_identifier_max_num	登録発言 ID の上限値	
47		hptl_clb_cfr_opinion_max_num	発言データファイルの最大行数	
48	システムパラメタの設定情報	システム共通※1	max_forumnum	会議室の最大作成数
49			def_roompreparation	会議室準備期間最大値
50			max_roomeffective	会議室開催期間最大値
51			max_roomreference	会議室参照期間最大値
52			def_autocrtfstate	会議室自動生成時の会議室状態
53			max_opinion	発言の最大登録数
54			max_pagetotalopinion	ページめくり用発言の最大数
55			max_contentsfilesize	本文の最大サイズ
56			max_apdfiletotalsize	添付ファイルの合計最大サイズ
57			max_apdfilesize	添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズ
58			max_commentmailnum	発言メール最大送信回数

項番	区分		プロパティ名	設定内容
59	システムパラメタの設定情報	システム共通*1	mail_sendnum	frmopnmail コマンド (メール配信) で送信する発言件数
60			mail_threadnum	frmopnmail コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数
61			def_nestedmimpartnum	MIME パートのネスト解析数
62			dab_buffsize	DABroker のデータ受信バッファサイズ
63			db_type	データベースの種類
64			db_retrynum	データベース排他リトライ回数
65			db_retryintervaltime	データベース排他リトライ間隔
66			def_denialpersonalroom	個人 (ユーザ自身) の会議室の利用状態
67			def_templatecontentssize	ひな形の内容の最大サイズ
68			def_mailaddmembers	メンバ追加お知らせ機能デフォルト値
69			def_mqmaxnumber	メッセージキューの一時保存数
70			def_mqwarningborder	キューテーブル境界値
71			def_mqretryborder	リトライ境界値
72			def_mqapietry	メッセージキューの API 取得処理リトライ実行回数
73			def_mqapiinterval	メッセージキューの API 取得処理リトライ実行間隔
74			def_mqmessagingnumber	メッセージキューの取得件数
75	def_mqretrygetnumber	メッセージキューの取得処理リトライ実行回数		
76	def_mqretrygetinterval	メッセージキューの取得処理リトライ実行間隔		

項番	区分		プロパティ名	設定内容
77	システムパラメタの設定情報	システム共通※1	def_infomailretrynumber	メッセージキューの配信処理リトライ実行回数
78			def_infomailretryinterval	メッセージキューの配信処理リトライ実行間隔
79			max_errormailbodysize	メール投稿のエラー通知の本文の最大サイズ
80			def_distributemail	メール配信設定のデフォルト値
81			def_displaymailsetting	メール設定欄表示状態
82			def_executenotification	お知らせメール機能使用制御
83			全般※2	def_newperiod
84	def_filter	フィルタ条件デフォルト値		
85	def_opiniondragdrop	発言のドラッグ & ドロップのデフォルト値		
86	def_returnright	本文自動折り返しデフォルト値		
87	def_returnrighttab	タブ文字置き換えデフォルト値		
88	def_charactercount	文字数カウント単位のデフォルト値		
89	def_printreturnright	印刷画面の自動折り返しデフォルト値		
90	def_printreturnrighttab	印刷画面のタブ文字置き換えデフォルト値		
91	def_printreturnnum	印刷画面の改行文字数デフォルト値		
92	ワークスペース※3	def_subjectnum		主題表示文字数最大値
93		def_discussionnum	発言一覧表示発言数最大値	
94		def_treenum	発言一覧表示議題数最大値	
95		def_roomtreedisp	会議室一覧表示デフォルト値	
96		def_previewdisp	プレビュー表示デフォルト値	

項番	区分		プロパティ名	設定内容
97	システムパラメタの設定情報	ワークブレース※ 3	def_headerdisp	発言ヘッダ情報表示デフォルト値
98			def_datedisp	日付表示形式デフォルト値
99			def_orgdisp	組織表示デフォルト値
100			def_postdisp	役職表示デフォルト値
101			def_roomcol	会議室名表示位置
102			def_attrcol	属性表示位置
103			def_apdcol	添付ファイル有無表示位置
104			def_statecol	議論状態表示位置
105			def_subjectcol	主題表示位置
106			def_usercol	発言者表示位置
107			def_crecol	発言日時表示位置
108			def_replierinchargecol	回答責任者表示位置
109			def_replycol	回答期限表示位置
110			def_aldycol	未読/既読表示位置
111	def_impcol	重要度表示位置		
112	def_opnidcol	発言番号表示位置		
113	def_validitycol	有効期限表示位置		
114	レイアウト※4	def_subjectnumdgt	主題表示文字数最大値	
115		def_discussionnumdgt	発言一覧表示発言数最大値	
116		def_treenumdgt	発言一覧表示議題数最大値	
117		def_roomtreedispdgt	会議室一覧表示デフォルト値	
118		def_previewdispdgt	プレビュー表示デフォルト値	
119		def_headerdispdgt	発言ヘッダ情報表示デフォルト値	
120		def_datedispdgt	日付表示形式デフォルト値	
121		def_orgdispdgt	組織表示デフォルト値	
122		def_postdispdgt	役職表示デフォルト値	

項番	区分		プロパティ名	設定内容
123	システムパラメタの設定情報	レイアウト※4	def_roomcoldgt	会議室名表示位置
124			def_apdcoldgt	添付ファイル有無表示位置
125			def_subjectcoldgt	主題表示位置
126			def_usercoldgt	発言者表示位置
127			def_replierinchargecoldgt	回答責任者表示位置
128			def_replycoldgt	回答期限表示位置
129			def_aldycoldgt	未読/既読表示位置
130			def_attrcoldgt	属性表示位置
131			def_impcoldgt	重要度表示位置
132			def_statecoldgt	議論状態表示位置
133			def_crecoldgt	発言日時表示位置
134			def_opnidcoldgt	発言番号表示位置
135			def_validitycoldgt	有効期限表示位置
136			新着情報	def_newperiodinfoview
137	def_yetterminfoview	未読の議題または発言を新着として扱う期間		

注※1 システム管理者だけが編集できるシステムで共通の項目

注※2 [設定] 画面の [全般] タブの項目

[設定] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

注※3 [設定] 画面の [ワークスペースごとの設定] タブの項目

[設定] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

注※4 [設定] 画面の [レイアウトごとの設定] タブの項目

[設定] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

注※5 新着条件編集画面の「n 日以内の発言を新着として扱う」新着取得条件

新着条件編集画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

(2) 定義ファイルの設定例

定義ファイルの設定例を次に示します。なお、定義ファイルを編集する場合、文字コード「UTF-8」で記述します。

```
# Trace Information
# File Path
hptl_clb_cfr_log_file_path = ログファイルの出力先ディレクトリ名
# File Number
hptl_clb_cfr_log_file_num = 16
# File Size
hptl_clb_cfr_log_file_size = 1048576
# Log Level
hptl_clb_cfr_log_level = 20
# Encoding
hptl_clb_cfr_log_encoding = Windows-31J
```

```

# Database Information
# Schema
hptl_clb_cfr_db_schema = スキーマ名
# Driver
hptl_clb_cfr_db_driver = データベースドライバ名
# Url
hptl_clb_cfr_db_url = データベースのURL
# UserName
hptl_clb_cfr_db_username = ユーザ名
# Password
hptl_clb_cfr_db_password = パスワード
# Content Type Encoding Language
hptl_clb_cfr_db_character_encoding = UTF-8

# 1度のトランザクションで削除する最大既読レコード数
hptl_clb_cfr_all_del_aldyread_max_num = 20000
# DBの排他資源に関する処理方式の選択
hptl_clb_cfr_use_exclusive_mode = 0

# The language to support is set up by comma pause in ISO language code.
hptl_clb_cfr_i18n_supports = ja,en

#Administrator Language
hptl_clb_cfr_adm_lang = ja

# Timezone
hptl_clb_cfr_timezone = GMT+09:00

# Mail Information
# Mail Server Address
hptl_clb_cfr_mail_address = メールサーバのアドレス
# Mail Server Port
hptl_clb_cfr_mail_port = 25
# Mail Max Send User
hptl_clb_cfr_mail_maxuser = 0
#charset
hptl_clb_cfr_mail_charset_ja = Windows-31J
hptl_clb_cfr_mail_charset_en = Windows-31J

#Console EncodeLang
# Platform EncodeLang1
hptl_clb_cfr_console_encodelang1 = Windows-31J
# Platform EncodeLang2
hptl_clb_cfr_console_encodelang2 = Windows-31J

# Notice by Mail
# Dummy character string to be set in TO attribute
hptl_clb_cfr_mail_to =
# Open-period-End period notification period
hptl_clb_cfr_notice_period_effectiveend = 7
# Reference period-End date notification period
hptl_clb_cfr_notice_period_referenceend = 7
# E-mail address to be set in From attribute
hptl_clb_cfr_mail_from_address =
hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period = 1

#Contribution by Mail
# frmopnregist Command Information
# Usage/non usage of Discussion Contribution By Mail
hptl_clb_cfr_mail_frmopnregist_set = 0

# Reply-To Email Address 1
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_001 = aaa@collabo

# Reply-To Email Address 2
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_002 = bbb@collabo

# Reply-To Email Address 3
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_003 = ccc@collabo

# Reply-To Email Address 4
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_004 = ddd@collabo

```

```
# Reply-To Email Address 5
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_005 = eee@collabo

# Reply-To Email Address 6
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_006 = fff@collabo

# Reply-To Email Address 7
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_007 = ggg@collabo

# Reply-To Email Address 8
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_008 = hhh@collabo

# Reply-To Email Address 9
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_009 = iii@collabo

# Reply-To Email Address 10
hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_010 = jjj@collabo

# POP3 Server Address
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_address = http://XXXX

# POP3 Server Port
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_port = 110

# POP3 Server Mail Receive Number per Connection
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number= 20

# POP3 Server Connection Number per Execution
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number= 5

# POP3 Server User Name 1 & Password 1
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_001 = aaa
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_001 = aaa

# POP3 Server User Name 2 & Password 2
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_002 = bbb
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_002 = bbb

# POP3 Server User Name 3 & Password 3
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_003 = ccc
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_003 = ccc

# POP3 Server User Name 4 & Password 4
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_004 = ddd
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_004 = ddd

# POP3 Server User Name 5 & Password 5
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_005 = eee
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_005 = eee

# POP3 Server User Name 6 & Password 6
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_006 = fff
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_006 = fff

# POP3 Server User Name 7 & Password 7
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_007 = ggg
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_007 = ggg

# POP3 Server User Name 8 & Password 8
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_008 = hhh
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_008 = hhh

# POP3 Server User Name 9 & Password 9
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_009 = iii
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_009 = iii

# POP3 Server User Name 10 & Password 10
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_010 = jjj
hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_010 = jjj

# Trace Mail Header setting
hptl_clb_cfr_opnregist_trace_mail_header= 0

# POP3 Receive Mail Thread
```

```

hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail = 1

#Error mail is Notified or not
hptl_clb_cfr_opnregist_send_error_mail= 0

#MessagingException発生時のエラーメール通知の有無
hptl_clb_cfr_opnregist_send_mail_messaging_exception = 0
#MIMEパートのネスト解析数を越えた場合の後処理
hptl_clb_cfr_opnregist_measure_nested_mimepart_number = 0
#MIMEパートのネスト解析数を越えた場合のエラーメール通知の有無
hptl_clb_cfr_opnregist_send_nested_mimepart_number = 0

#Message id Length
hptl_clb_cfr_opnregist_check_messageid_maxlen = 64

#Version Shift 01-30
#hptl_clb_cfr_shift0130_before_convert_string =
#hptl_clb_cfr_shift0130_after_convert_string =

#Import-Export Command Parameter
hptl_clb_cfr_opinion_message_count= 100
hptl_clb_cfr_opinion_identifier_max_num= 9999
hptl_clb_cfr_opinion_max_num= 2000

# System Parameter

# システム共通
max_forumnum = 1000
def_roompreparation = 10
max_roomeffective = 365
max_roomreference = 93
def_autocrtfstate = 1
max_opinion = 2000
max_pagetotalopinion = 10000
max_contentsfilesize = 100
max_apdfiletotalsize = 10
max_apdfilesize = 2
max_commentmailnum = 5
mail_sendnum = 100
mail_threadnum = 3
def_nestedmimepartnum = 50
dab_buffsize = 130048
db_type = 0
db_retrynum = 10
db_retryintervaltime = 50
def_denialpersonalroom = 0
def_templatecontentssize = 512

# Addition of member notification
def_mailaddmembers = 0

# Maximum number of messages that can be stored in queue
def_mqmaxnumber = 100
# Queue table boundary value
def_mqwarningborder = 70
# Retrial boundary value
def_mqretryborder = 5
# Default retry time for MQF operations
def_mqapiretry = 5
# Default retry interval for MQF operations
def_mqapiinterval = 100

# Notice by Infomail
# Number of messages to be acquired per execution of command
def_mqmessagenumber = 10
# Retry count for GET message acquisition process
def_mqretrygetnumber = 5
# Retry interval for GET message acquisition process
def_mqretrygetinterval = 100
# Retry count for mail distribution process
def_infomailretrynumber = 5
# Retry interval for mail distribution process
def_infomailretryinterval = 100

```

```
# メール投稿のエラー通知の本文の最大サイズ
max_errormailbodysize = 100

#property indicating whether distribution of mail is allowed or not
def_distributemail = 1

#property indicating whether display of "Edit mail setting" and "View mail setting" menu item
is allowed or not.
def_displaymailsetting = 1
def_executenotification = 0

# 全般
def_newperiod = 72
def_filter = 5
def_opiniondragdrop = 0
def_returnright = 1
def_returnrighttab = 4
def_charactercount = 1
def_printreturnright = 1
def_printreturnrighttab = 4
def_printreturnnum = 80

# ワークスペース
def_subjectnum = 40
def_discussionnum = 50
def_treenum = 10
def_roomtreedisp = 1
def_previewdisp = 1
def_headerdisp = 0
def_datedisp = 0
def_orgdisp = 0
def_postdisp = 0
def_roomcol = 1
def_attrcol = 2
def_apdcol = 3
def_statecol = 4
def_subjectcol = 5
def_usercol = 6
def_crecol = 7
def_replierinchargecol = 8
def_replycol = 9
def_aldycol = 0
def_impcol = 0
def_opnidcol = 0
def_validitycol = 0

# レイアウト
def_subjectnumdgt = 40
def_discussionnumdgt = 50
def_treenumdgt = 10
def_roomtreedispdgt = 0
def_previewdispdgt = 1
def_headerdispdgt = 0
def_datedispdgt = 0
def_orgdispdgt = 0
def_postdispdgt = 0
def_roomcoldgt = 1
def_apdcoldgt = 2
def_subjectcoldgt = 3
def_usercoldgt = 4
def_replierinchargecoldgt = 5
def_replycoldgt = 6
def_aldycoldgt = 0
def_attrcoldgt = 0
def_impcoldgt = 0
def_statecoldgt = 0
def_crecoldgt = 0
def_opnidcoldgt = 0
def_validitycoldgt = 0

# 新着情報
def_newperiodinfoview = 72
def_yetterminfoview = 0
```

(3) プロパティの詳細 (ログ情報)

(a) ログファイルの出力先ディレクトリ名 (hptl_clb_cfr_log_file_path)

ログ情報を出力するディレクトリ名をフルパスで指定します。指定したディレクトリの直下に次に示すファイルを出力します。

出力されるログ情報	出力されるファイル
frmimpopn コマンド (発言のインポート) 実行時または frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) 実行時のログ情報	hptl_clb_cfr_コマンド名_通算ミリ秒_n.log
上記以外	hptl_clb_cfr_command_コマンド名_n.log

コマンド名：

対象となるコマンドです。

n：

1 からログファイルの面数で指定した値の範囲内の値を示します。

通算ミリ秒：協定世界時の 1970 年 1 月 1 日午前 0 時からコマンド実行日時までの差をミリ秒で示した値を示します。

発言のインポート時または発言のエクスポート時に生成されるログファイルは、コマンドを実行するたびに追加されます。そのため、ログファイルのバックアップと削除は定期的に行うことをお勧めします。

なお、出力先のディレクトリを指定する場合、区切り文字 (記号) には、「¥」または「/」を使用してください。半角スペースが含まれている場合でも、「"」で囲む必要はありません。パスの最後に「¥」または「/」が付加されていない場合は、自動的に付加されます。パスに日本語を含むディレクトリは指定できません。

インストール時は、ログファイルの出力先ディレクトリ名が設定されていないので、次に示す格納場所を指定してください。

*Collaboration*インストールディレクトリ/clb_home/log

hptl_clb_cfr_log_file_path プロパティに、値を指定しなかったり、不正な値を指定したりした場合は、Collaboration - Forum の機能をすべて使用できません。必ず指定してください。

なお、コマンドごとに専用のログ情報を出力する場合には、次に示すプロパティを追記 (指定) してください。

hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_path = ログファイルの出力先ディレクトリ名

コマンド名：

対象となるコマンドです。コマンド名は、大文字と小文字を区別しません。

ログファイルの出力先ディレクトリ名: ログ情報を出力するディレクトリ名をフルパスで指定します。区切り文字 (記号) には、「¥」または「/」を使用してください。半角スペースが含まれている場合でも、「"」で囲む必要はありません。パスの最後に「¥」または「/」が付加されていない場合は、自動的に付加されます。パスに日本語を含むディレクトリは指定できません。

hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_path を指定していない場合、または不正な値を指定した場合は、その指定は無効となり、hptl_clb_cfr_log_file_path プロパティの指定が有効となります。hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_path が指定されていても、値が指定されない場合は不正となります。

(b) ログファイルの面数 (hptl_clb_cfr_log_file_num)

切り替えて使用するログファイルの面数を 1 から 16 までの数値で指定します。

「16」を指定した場合、17 番目のログ情報は、1 番目のログ情報が採取されているファイルに採取（上書き）されます。

インストール時のログファイルの面数は「16」です。

なお、コマンドごとに専用のログファイルの面数を指定する場合には、次に示すプロパティを追記（指定）してください。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_num` = ログファイルの面数

コマンド名：

対象となるコマンドです。コマンド名は、大文字と小文字を区別しません。

ログファイルの面数：

1 から 16 までの数値で指定します。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_num` を指定していない場合、または不正な値を指定した場合は、その指定は無効となり、`hptl_clb_cfr_log_file_num` プロパティの指定が有効となります。`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_num` が指定されていても、値が指定されない場合は不正となります。

(c) ログファイルのサイズ (hptl_clb_cfr_log_file_size)

1 個のログファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は、4096 から 2147483647 です。

インストール時のログファイルのサイズは「1048576」です。

なお、コマンドごとに専用のログファイルのサイズを指定する場合には、次に示すプロパティを追記（指定）してください。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_size` = ログファイルのサイズ

コマンド名：

対象となるコマンドです。コマンド名は、大文字と小文字を区別しません。

ログファイルのサイズ：

4096 から 2147483647 までの数値で指定します。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_size` を指定していない場合、または不正な値を指定した場合は、その指定は無効となり、`hptl_clb_cfr_log_file_size` プロパティの指定が有効となります。`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_size` が指定されていても、値が指定されない場合は不正となります。

(d) ログレベル (hptl_clb_cfr_log_level)

ログレベルを-1 から 1000 までの数値で指定します。指定した値より大きいレベルを持ったログは出力されません。

「-1」を指定するとログ情報は出力されません。

インストール時のログレベルは「20」です。

なお、コマンドごとに専用のログレベルを指定する場合には、次に示すプロパティを追記（指定）してください。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_level` = ログレベル

コマンド名：

対象となるコマンドです。コマンド名は、大文字と小文字を区別しません。

ログレベル：

-1 から 1000 までの数値で指定します。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_level` を指定していない場合、または不正な値を指定した場合は、その指定は無効となり、`hptl_clb_cfr_log_level` プロパティの指定が有効となります。`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_level` が指定されていても、値が指定されない場合は不正となります。

出力基準と出力内容については、「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

(e) ログ情報のエンコーディング値 (`hptl_clb_cfr_log_encoding`)

ログを出力するときに使用するエンコーディング値を指定します。

インストール時のログ情報のエンコーディング値は「Windows-31J」です。

なお、コマンドごとに専用のログ情報のエンコーディング値を指定する場合には、次に示すプロパティを追記（指定）してください。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_encoding` = ログ情報のエンコーディング値

コマンド名：

対象となるコマンドです。コマンド名は、大文字と小文字を区別しません。

ログ情報のエンコーディング値：

ログを出力するときに使用するエンコーディング値を指定します。

`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_encoding` を指定していない場合、または不正な値を指定した場合は、その指定は無効となり、`hptl_clb_cfr_log_encoding` プロパティの指定が有効となります。`hptl_clb_cfr_コマンド名_log_file_encoding` が指定されていても、値が指定されない場合は不正となります。

(4) プロパティの詳細（データベースの接続情報）

(a) スキーマ名 (`hptl_clb_cfr_db_schema`)

アクセスするデータベースのスキーマ名を指定します。

インストール時は、スキーマ名が指定されていません。

(b) ドライバ名 (`hptl_clb_cfr_db_driver`)

アクセスするデータベースのドライバ名を指定します。

インストール時は、ドライバ名が指定されていません。

(c) URL (`hptl_clb_cfr_db_url`)

アクセスするデータベースの URL を指定します。

URL での指定項目について次の表に示します。

表 2-18 URL での指定項目

項番	URL での指定項目	値
1	DB	HIRDB
2	DBID	@DABENVGRP=HPTLCLBCFR
3	BUF_SIZE	パラメタ管理 (tbl_param) の DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize) × 2 + 811 以上の値 (単位: KB) を指定します。
4	ENCODELANG	UTF-8

それ以外の指定項目の詳細は、マニュアル「DABroker for Java™ Version 2 DABroker Driver for Java™ Technology」を参照してください。

インストール時は、URL が指定されていません。

(d) ユーザ名 (hptl_clb_cfr_db_username)

データベースにアクセスするユーザ名を指定します。

インストール時は、ユーザ名が指定されていません。

(e) パスワード (hptl_clb_cfr_db_password)

データベースにアクセスするパスワードを指定します。

インストール時は、パスワードが指定されていません。

(f) データベースに登録する文字コード (hptl_clb_cfr_db_character_encoding)

データベースに登録する文字コードを指定します。文字コードには、hptl_clb_cfr_db_character_encoding プロパティに設定している値と同じ値を指定してください。

インストール時のデータベースに登録する文字コードは「UTF-8」です。

(5) プロパティの詳細 (トランザクション情報)

(a) 1 度のトランザクション中に削除できる最大既読レコード数 (hptl_clb_cfr_all_del_aldyread_max_num)

frmdel コマンド (会議室削除) 実行中に既読レコードを一括して削除する場合、1 度のトランザクション中に削除できる最大既読レコード数を、0 から 2147483647 までの数値で指定します。HiRDB が許容できる最大の排他資源数を指定することをお勧めします。frmdel コマンド (会議室削除) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frmdel (会議室削除)」を参照してください。

インストール時の 1 度のトランザクション中に削除できる最大既読レコード数は「20000」です。

不正な値を指定した場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

このプロパティへの指定値と占有する排他資源数 (概算式) の対応を次の表に示します。

表 2-19 指定値と占有する排他資源数の対応

項番	指定値	占有する排他資源数 (概算式)
1	0~254*	処理対象の既読レコード数×3

項番	指定値		占有する排他資源数 (概算式)
2	255～2147483647	指定値< 処理対象のレコード数	指定値×3
3		指定値≥ 処理対象のレコード数	処理対象の既読レコード数×3

注※

このプロパティに0から254までの数値を指定した場合、使用するHiRDBの排他制御のための作業領域を抑制しません。このため、大量の既読レコードが存在すると、HiRDBで使用する排他制御のための作業領域が不足してエラーになるおそれがあります。HiRDBが許容できる最大の排他資源数の計算式に従って適切な値を指定してください。HiRDBが許容できる最大の排他資源数の計算式を次に示します。

$$(pd_lck_pool_size \times a - b) \div 3$$

pd_lck_pool_size：サーバ当たりの排他制御用プールサイズ

pd_lck_pool_sizeの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用)」を参照してください。

a：1KBの排他制御用プールサイズで管理できる排他要求の件数

HiRDBの種類によって異なります。マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用)」を参照してください。

b：frmdel コマンド (会議室削除) 以外のポートレットの機能およびユティリティコマンドから、HiRDBの排他資源を使用する場合の最大の排他資源数

bの値は、pd_lck_pool_sizeの範囲内で、最適値を求めてください。

このプロパティへの指定値と、トランザクション回数、性能、および排他資源不足の制御可否の関係を次の表に示します。

表 2-20 指定値とトランザクション回数、性能、および排他資源不足の制御可否の関係

項番	指定値		トランザクション回数	性能	排他資源不足の制御可否
1	0～254		1回	高	×※1
2	255～ 2147483647	指定値< 処理対象のレコード数	分割削除する回数	低※2	○※3
3		指定値≥ 処理対象のレコード数	1回	高	

(凡例)

×：排他資源不足を制御できません (排他資源不足エラーになるおそれがあります)。

○：排他資源不足を制御できます (排他資源不足エラーになりません)。

注※1

排他資源の使用量は処理対象のレコード数によって決まります。排他資源の使用量が排他資源領域を超えると、排他資源不足エラーになります。排他資源不足エラーを回避するためには、実データ量に合わせてHiRDBの設定を調整してください。

注※2

分割削除するトランザクションの回数が多いほど、性能が低くなります。

注※3

指定値<処理対象のレコード数の場合は、排他資源不足エラーにはなりません。ただし、既読レコードを分割削除すると、トランザクション回数が増えるため、性能が低くなります。性能を上げるためには、実データ量に合わせてHiRDBの設定を調整してください。

(b) テーブル単位の排他ロック指定有無 (hptl_clb_cfr_use_exclusive_mode)

frmarch コマンド (会議室アーカイブ) または frmddl コマンド (会議室削除) 実行時に、HiRDB の排他制御処理で、処理対象のデータをテーブル単位に排他ロックするかどうかを指定します。このプロパティを指定することで、HiRDB が排他制御時に使用する作業領域の消費量を抑えられます。frmarch コマンド (会議室アーカイブ) および frmddl コマンド (会議室削除) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frmarch (会議室アーカイブ)」および「frmddl (会議室削除)」を参照してください。

- 0: 処理対象のデータを行単位に排他ロックする
テーブル単位に排他ロックしません。
- 1: 処理対象のデータをテーブル単位に排他ロックする
テーブル単位に排他ロックする際に、exclusive mode を使用します。

インストール時のテーブル単位の排他ロック指定有無は「0」です。

「1」を指定すると、HiRDB で排他制御時に使用する作業領域の消費量を抑えられます。HiRDB で排他制御時に使用する作業領域の消費量が多くなるのは、次の場合です。

- frmarch コマンド (会議室アーカイブ) 実行時に、アーカイブ対象となる会議室に大量の既読情報がある
- frmddl コマンド (会議室削除) 実行時に、削除対象となる会議室に大量の既読情報がある

不正な値を指定した場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

注意事項

「1」を指定した場合、frmarch コマンド (会議室アーカイブ) および frmddl コマンド (会議室削除) 実行中は、既読情報のあるテーブルがテーブル単位に排他ロックされます。このため、[電子会議室] ポートレットを利用できなくなります。これらのコマンド実行中に [電子会議室] ポートレットを操作すると、次のエラーメッセージが表示されます。

「KDCN00903-E 現在、非常に混み合っています。再度実行してください。(-770)」

このため、「1」を指定した場合は、次の手順でコマンドを実行してください。

手順

1. アプリケーションサーバを停止します。
2. frmarch コマンド (会議室アーカイブ) または frmddl コマンド (会議室削除) を実行します。

(6) プロパティの詳細 (Collaboration - Forum の言語コード情報)

(a) リソースとして指定できる言語コードの一覧 (hptl_clb_cfr_i18n_supports)

リソースとして指定できる言語コードの一覧を指定します。

インストール時には、「ja, en」が指定されています。

(b) 管理者指定用の言語コード (hptl_clb_cfr_adm_lang)

ユーザ情報を Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得する場合の言語コードを指定します。

- ja: 日本語
- en: 英語

インストール時の管理者指定用の言語コードは「ja」です。

(7) プロパティの詳細 (タイムゾーン情報)

(a) タイムゾーン (hptl_clb_cfr_timezone)

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンのアーカイブファイルをリストアする場合に設定するタイムゾーンを指定します。

インストール時のタイムゾーンは「GMT+09:00」です。

(8) プロパティの詳細 (メールサーバの接続情報)

(a) メールサーバのアドレス (hptl_clb_cfr_mail_address)

メールサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

インストール時は、メールサーバのアドレスが指定されていません。

(b) メールサーバのポート番号 (hptl_clb_cfr_mail_port)

メールサーバのポート番号を指定します。

インストール時は、メールサーバのポート番号が指定されていません。

(c) メールサーバの最大送信ユーザ数 (hptl_clb_cfr_mail_maxuser)

メールサーバが 1 回の送信で受け付けるユーザ数を指定します。無制限の場合は「0」を指定します。

インストール時は、メールサーバの最大送信ユーザ数が指定されていません。

(d) メール配信時の文字コード (hptl_clb_cfr_mail_charset_XX)

メールを配信するときの文字コードを指定します。XX には言語を示す文字列を指定します。

インストール時のメール配信時の文字コードの設定を次に示します。

- hptl_clb_cfr_mail_charset_ja = Windows-31J
 - hptl_clb_cfr_mail_charset_en = Windows-31J
- ja : 日本語
en : 英語

(e) メールサーバとのコネクション確立までの通信タイムアウト時間 (hptl_clb_cfr_mail_smtp_connectiontimeout)

メールサーバとのコネクション確立までの通信タイムアウト時間 (単位: ミリ秒) を指定します。

指定できる範囲は 0 から 2147483647 以下の正数とします。

無制限の場合は「0」を指定します。指定できない範囲や無指定の場合は「120000」を指定します。

インストール時のメールサーバとのコネクション確立までの通信タイムアウト時間は「120000」です。

なお、指定する時間は `frminfomail` (お知らせメール配信) や `frmopnmail` (メール配信) のコマンドを実行する間隔より短い時間を指定してください。

(f) メールサーバとの通信タイムアウト時間 (hptl_clb_cfr_mail_smtp_timeout)

メールサーバとの通信タイムアウト時間 (単位: ミリ秒) を指定します。

指定できる範囲は 0 から 2147483647 以下の正数とします。

無制限の場合は「0」を指定します。指定できない範囲や無指定の場合は「120000」を指定します。

インストール時のメールサーバとの通信タイムアウト時間は「120000」です。

なお、指定する時間は `frminfomail` (お知らせメール配信) や `frmopnmail` (メール配信) のコマンドを実行する間隔より短い時間を指定してください。

(9) プロパティの詳細 (コンソールの文字コード情報)

(a) コンソールの文字コード 1 (hptl_clb_cfr_console_encodelang1)

コマンドを実行するプラットフォームで使用している文字コードを指定します。

インストール時のコンソールの文字コード 1 は「Windows-31J」です。

(b) コンソールの文字コード 2 (hptl_clb_cfr_console_encodelang2)

コマンドを実行するプラットフォームで使用している文字コードに対して、どの文字コードでその文字を解析するかを指定します。

インストール時のコンソールの文字コード 2 は「Windows-31J」です。

(10) プロパティの詳細 (メール通知情報)

(a) To 属性に設定するダミー文字列 (hptl_clb_cfr_mail_to)

メールのヘッダの To 属性に設定する文字列を指定します。文字列には、実在しない E-mail アドレスを指定します。なお、E-mail アドレスは、RFC822 に従った文字列で指定してください。

インストール時は、To 属性に設定するダミー文字列が指定されていません。

`frmopnmail` コマンド (メール配信) 実行時に、キーの指定がない場合は、配信するメールの To 属性に値を設定しません。値の指定がない場合は、エラーメッセージを表示して `frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行を終了します。

`frmopnmail` コマンド (メール配信) 以外の実行時に、キーまたは値の指定がない場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

メールのヘッダの To 属性にダミーの文字列が指定されているメールに対して全員に返信する操作を実行すると、ダミーのメールアドレスが引き継がれるため、メール送信時にエラーとなります。このため、ユーザ側で宛先を削除する必要があります。

`frmopnmail` コマンド (メール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmopnmail` (メール配信)」を参照してください。

(b) 開催期間 終了日の通知期間 (hptl_clb_cfr_notice_period_effectiveend)

開催期間 終了日の何日前からお知らせメールを配信するかを、日数単位で指定します。指定できる範囲は 3 から 14 です。

インストール時の開催期間 終了日の通知期間は「7」です。

不正な値を指定した場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

(c) 参照期間 終了日の通知期間 (hptl_clb_cfr_notice_period_referenceend)

参照期間終了日の何日前からお知らせメールを配信するかを、日数単位で指定します。指定できる範囲は 3 から 14 です。

インストール時の参照期間 終了日の通知期間は「7」です。

不正な値を指定した場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

なお、参照期間 終了日の通知期間の設定が、開催期間 終了日の通知期間の設定より大きい場合は、開催期間 終了日の通知と参照期間 終了日の通知が前後することがあります。

(d) From に設定する E-mail アドレス (hptl_clb_cfr_mail_from_address)

メールのヘッダの From に設定する E-mail アドレスを指定します。E-mail アドレスは、RFC822 に従った文字列で指定してください。

インストール時は、From に設定する E-mail アドレスが指定されていません。

設定値がない場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

配信されたお知らせメールに返信した場合、このプロパティに指定した E-mail アドレスにメールが送信されます。このため、システム管理者は、定期的にこの E-mail アドレスのメール受信情報を削除することをお勧めします。

また、設定した E-mail アドレスにメールサーバが対応していない場合は、お知らせメールを配信できません。この場合は、設定した E-mail アドレスをメールサーバが対応している RFC822 に従った文字列に変更してください。

(e) 回答期限の事後通知期間 (hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period)

回答期限を過ぎて何日以内の議題または発言に対して通知メールを送信するかを、日数単位で指定します。指定できる範囲は 0 から 14 です。0 を指定した場合は通知メールを送信しません。

インストール時の回答期限の事後通知期間は「1」です。

不正な値を指定した場合は、エラーメッセージを表示してコマンドの実行を終了します。

(11) プロパティの詳細 (メール投稿設定情報)

(a) メール投稿情報の設定有無 (hptl_clb_cfr_mail_frmopnregist_set)

メールによる投稿機能の使用の有無を指定します。

- 0: メールによる投稿機能を使用しない
- 1: メールによる投稿機能を使用する

インストール時のメール投稿情報の設定有無は「0」です。

値を設定していない場合は、メールによる議題または発言の投稿機能を使用しません。

なお、「1」を設定すると、frmopnmail コマンド (メール配信) で配信するすべてのメールフォーマットが変わります。

frmopnmail コマンド (メール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frmopnmail (メール配信)」を参照してください。

(b) 投稿メールを受信するための E-mail アドレス (hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_n)

投稿メールを受信するための E-mail アドレスを指定します。 n の値を 001 から 010 に変更することで、10 個まで E-mail アドレスを指定できます。

なお、異なる項目名に同じ値を指定した場合は、小さい項目名の設定を有効にします。例えば、hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_002 と hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_007 に同じ値を指定した場合は、hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_002 に指定した値だけが有効になります。

インストール時は、投稿メールを受信するための E-mail アドレスが指定されていません。

(c) POP3 サーバのアドレス (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_address)

POP3 サーバのアドレスを指定します。

インストール時は、POP3 サーバのアドレスは指定されていません。

(d) POP3 サーバのポート番号 (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_port)

POP3 サーバのポート番号を指定します。

インストール時の POP3 サーバのポート番号は「110」です。

(e) メールサーバから一度に受信するメール件数 (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number)

メールサーバから一度に受信するメールの件数を 1 から 127 の整数で指定します。

インストール時のメールサーバから一度に受信するメール件数は「20」です。

(f) メールサーバへの接続回数 (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number)

1 回のコマンド実行でメールサーバに接続する回数を 1 から 100 までの整数で指定します。

インストール時のメールサーバへの接続回数は「5」です。

(g) 投稿されたメールを取得するためのユーザ名 (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_n)

投稿されたメールを取得するためのユーザ名を指定します。 n の値を 001 から 010 に変更することで、10 個までユーザ名を指定できます。

インストール時は、投稿されたメールを取得するためのユーザ名が指定されていません。

なお、異なる項目名に同じ値を指定した場合は、小さい項目名の設定を有効にします。例えば、hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_002 と hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_007 に同じ値を指定した場合は、hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_002 に指定した値だけが有効になります。

(h) 投稿されたメールを取得するためのパスワード (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_n)

投稿されたメールを取得するためのパスワードを指定します。 n の値を 001 から 010 に変更することで、10 個までパスワードを指定できます。

インストール時は、投稿されたメールを取得するためのパスワードが指定されていません。

(i) メールヘッダのログ出力制御 (hptl_clb_cfr_opnregist_trace_mail_header)

メールによる議題または発言の投稿に失敗したメールのヘッダ情報をログに出力するかどうかを指定します。

- 0：出力しない
- 1：出力する

値を設定していない場合は、メールのヘッダ情報をログに出力しません。

インストール時のメールヘッダのログ出力制御は「0」です。

(j) メールサーバに接続するスレッド最大数 (hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail)

メールサーバに接続するための最大スレッド数を指定します。

「投稿されたメールを取得するためのユーザ名 (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_n)」および「投稿されたメールを取得するためのパスワード (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_n)」に設定した有効な設定数と、この設定値を比較して、小さい値だけスレッドを生成します。

インストール時のメールサーバに接続するスレッド最大数は「1」です。

(k) エラーメールの通知有無 (hptl_clb_cfr_opnregist_send_error_mail)

メールによる議題または発言の投稿に失敗した場合に、エラーメールを送信するかどうかを指定します。

- 0：エラーメールを送信しない
- 1：エラーメールを送信する

値が設定されていない場合は、エラーメールを送信しません。

インストール時の、エラーメールの通知有無は「0」です。

(l) MessagingException 発生時のエラーメール通知の有無 (hptl_clb_cfr_opnregist_send_mail_messaging_exception)

MessagingException が JavaMail で発生した場合に、エラーメールで通知するかどうかを指定します。

- 0：エラーメールで通知しない
- 1：エラーメールで通知する

値が設定されていない場合は、エラーメールで通知しません。

インストール時の、MessagingException 発生時のエラーメール通知の有無は「0」です。

(m) MIME パートのネスト解析数を越えた場合の後処理 (hptl_clb_cfr_opnregist_measure_nested_mimepart_number)

MIME パートのネスト解析数を越えた場合に、解析した情報までを正常なデータとして処理するかどうかを指定します。

- 0：不正なデータとして処理する
- 1：正常なデータとして処理する

値が設定されていない場合は、エラーメールを送信しません。

インストール時の、MIME パートのネスト解析数を超えた場合の後処理は「0」です。

(n) MIME パートのネスト解析数を超えた場合のエラーメール通知の有無
(hptl_clb_cfr_opnregist_send_nested_mimepart_number)

このプロパティは、2.3.8(11)(m)に示す hptl_clb_cfr_opnregist_measure_nested_mimepart_number プロパティの値が「0」の場合に有効です。

データを処理する場合に、エラーメールで通知するかどうかを指定します。

- 0：エラーメールで通知しない
- 1：エラーメールで通知する

値が設定されていない場合は、エラーメールを送信しません。

インストール時の、MIME パートのネスト解析数を超えた場合のエラーメール通知の有無は「0」です。

(o) 二重投稿抑止チェック対象のメールのメッセージ ID 長
(hptl_clb_cfr_opnregist_check_messageid_maxlen)

二重投稿抑止チェック処理の対象にするメールのメッセージ ID の長さを 0 から 255 までの値で指定します。指定した値より短いメッセージ ID を持つメールに対して、二重投稿抑止チェックを実行します。0 を指定した場合は二重投稿抑止チェックをしません。

インストール時の二重投稿抑止チェック対象のメールのメッセージ ID 長は「64」です。

(12) プロパティの詳細 (移行情報)

(a) 変換前文字列 (hptl_clb_cfr_shift0103_before_convert_string)

リバースプロキシに対応する場合に指定します。

このプロパティは、リバースプロキシに対応する場合だけ指定するため、インストール時は、コメントアウトされています。また、変換前文字列は指定されていません。このプロパティを指定する場合には、コメントを削除して、文字列を指定してください。

例えば、Collaboration - Forum 01-20 以前で、リバースプロキシ対応前の会議室 URL が、「http://aaa:8080/clbforum1/portal/action/MarkRefPage/portlet/xxxx/layout_id/default/tab_id/yyyy」である場合、指定する文字列は「http://aaa:8080」となります。

(b) 変換後文字列 (hptl_clb_cfr_shift0103_after_convert_string)

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから 01-30 以降に移行する場合で、かつリバースプロキシに対応する場合に指定します。

このプロパティは、移行のときだけ指定するため、インストール時は、コメントアウトされています。また、変換前文字列は指定されていません。このプロパティを指定する場合には、コメントを削除して、文字列を指定してください。

例えば、Collaboration - Forum 01-20 以前で、リバースプロキシ対応後の会議室 URL が、「https://aaa:8081/clbforum1/portal/action/MarkRefPage/portlet/xxxx/layout_id/default/tab_id/yyyy」である場合、指定する文字列は「https://aaa:8081」となります。

(13) プロパティの詳細 (発言のインポート・エクスポート情報)

(a) メッセージの通知単位 (hptl_clb_cfr_opinion_message_count)

frmimpopn コマンド (発言のインポート) または frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) を実行した際、発言の処理件数がこのキーの指定値に達するたびに、メッセージ KDCN12009-I が標準出力に出力されます。

値は 1 から 5000 までの数値で指定します。

インストール時のメッセージ KDCN12009-I の出力件数は「100」です。

(b) 登録発言 ID の上限値 (hptl_clb_cfr_opinion_identifier_max_num)

frmimpopn コマンド (発言のインポート) を実行した際、発言データファイルで使用できる登録発言 ID の上限値を指定します。

値は 1 から 9999 の範囲で指定します。

インストール時の登録発言 ID の上限値は「9999」です。

(c) 発言データファイルの最大行数 (hptl_clb_cfr_opinion_max_num)

frmimpopn コマンド (発言のインポート) および frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) を実行した際、発言データファイルに記述する発言データの最大数を指定します。

値は 1 から 9999 の範囲で指定します。

インストール時の発言データファイルの最大行数は「2000」です。

(14) プロパティの詳細 (システムパラメタの設定情報 (システム共通))

(a) 会議室の最大作成数 (max_forumnum)

一つのシステムに作成できる最大会議室数を 1 から 9999 までの数値で指定します。

インストール時の会議室の最大作成数は「1000」です。

(b) 会議室準備期間最大値 (def_roompreparation)

会議室の準備期間最大値を日数単位で指定します。指定できる範囲は 1 から 14 です。

インストール時の会議室準備期間最大値は「10」です。

(c) 会議室開催期間最大値 (max_romeffective)

会議室を開催できる期間の最大値を日数単位で指定します。指定できる範囲は 1 から 730 です。

インストール時の会議室開催期間最大値は「365」です。

(d) 会議室参照期間最大値 (max_roomreference)

会議室を参照できる期間の最大値を日数単位で指定します。指定できる範囲は 1 から 183 です。

インストール時の会議室参照期間最大値は「93」です。

(e) 会議室自動生成時の会議室状態 (def_autocrtfstate)

Collaboration - Online Community Management との連携によって、会議室を自動生成する場合の会議室状態を指定します。

- 0：準備中
- 1：会議中

インストール時の会議室自動生成時の会議室状態は「1」です。

(f) 発言の最大登録数 (max_opinion)

一つの会議室に登録できる最大発言数を 1 から 9999 までの数値で指定します。

インストール時の発言の最大登録数は「2000」です。

(g) ページめくり用発言の最大数 (max_pagetotalopinion)

ページめくりで管理する発言一覧での発言の最大数を 0 から 2147483647 までの数値で指定します。

インストール時のページめくり用発言の最大数は「10000」です。

(h) 本文の最大サイズ (max_contentsfilesize)

一つの発言で登録できる本文の最大サイズを KB 単位で指定します。指定できる範囲は、1 から 1024 です。

インストール時の本文の最大サイズは「100」です。

(i) 添付ファイルの合計最大サイズ (max_apdfiletotalsize)

一つの発言で登録できる添付ファイルの最大合計サイズを MB 単位で指定します。指定できる範囲は、1 から 20 です。

インストール時の添付ファイルの合計最大サイズは「10」です。

(j) 添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズ (max_apdfilesize)

添付ファイルの 1 ファイル当たりの最大サイズを MB 単位単位で指定します。指定できる範囲は、1 から「添付ファイルの合計最大サイズ」に指定した値までです。

インストール時の添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズは「2」です。

(k) 発言メール最大送信回数 (max_commentmailnum)

frmopnmail コマンド (メール配信) を実行してメールの送信が失敗した場合、何回まで自動的に再送を試みるかを、1 から 10 までの数値で指定します。

インストール時の発言メール最大送信回数は「5」です。

(l) frmopnmail コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (mail_sendnum)

frmopnmail コマンド (メール配信) 実行時にメールで送信する発言数を 1 から 1000 までの数値で指定します。

インストール時の frmopnmail コマンド (メール配信) で送信する発言件数は「100」です。

(m) frmopnmail コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数 (mail_threadnum)

frmopnmail コマンド (メール配信) 実行時の同時実行スレッド数を 1 から 10 までの数値で指定します。

インストール時の frmopnmail コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数は「3」です。

(n) MIME パートのネスト解析数 (def_nestedmimpartnum)

メール投稿されたメールについて、入れ子の MIME パートの解析数を 1 から 100 までの数値で指定します。

インストール時の MIME パートのネスト解析数は「50」です。

(o) DABroker のデータ受信バッファサイズ (dab_buffsize)

DABroker の BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズを 130048 から 2147483647 までの数値で指定します。

本文の最大サイズ (max_contentsfilesize) に 768 を加算した合計より大きい値を指定します。

インストール時の DABroker のデータ受信バッファサイズは「130048」です。

(p) データベースの種類 (db_type)

データベースの種類を指定します。

- 0: HiRDB

インストール時のデータベースの種類は「0」です。データベースの種類は変更できません。

(q) データベース排他リトライ回数 (db_retrynum)

データベースの排他待ち時のリトライ回数を 1 から 100 までの数値で指定します。

インストール時のデータベース排他リトライ回数は「10」です。

(r) データベース排他リトライ間隔 (db_retryintervaltime)

データベースの排他待ち時のリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 500 です。

インストール時のデータベース排他リトライ間隔は「50」です。

(s) 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用状態 (def_denialpersonalroom)

個人 (ユーザ自身) の会議室の利用を抑制するかどうかを指定します。

- 0: 利用を抑制しない
- 1: 利用を抑制する

インストール時の個人 (ユーザ自身) の会議室の利用状態は「0」です。

なお、個人 (ユーザ自身) の会議室の利用抑制の詳細は、「3.21 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用の抑制」を参照してください。

(t) ひな形の内容の最大サイズ (def_templatecontentssize)

一つの属性に記載できるひな形の内容の最大サイズをバイト単位で指定します。指定できる範囲は、1 から 2048 です。

インストール時のひな形の内容の最大サイズは「512」です。

(u) メンバ追加お知らせ機能デフォルト値 (def_mailaddmembers)

会議室またはコミュニティにメンバを追加した場合に、メールでお知らせする機能を有効にするかどうかを指定します。

- 0：無効
- 1：有効

インストール時のメンバお知らせ機能デフォルト値は「0」です。

(v) メッセージキューの一時保存数 (def_mqmaxnumber)

メッセージキューに一時的に格納するメッセージ数を 1 から 1000 までの数値で指定します。

インストール時のメッセージキューの一時保存数は「100」です。

(w) キューテーブル境界値 (def_mqwarningborder)

キューテーブルの使用率をパーセントに換算した境界値を 1 から 99 までの数値で指定します。境界値を超えると、警告がログに出力されます。

インストール時の境界値は「70」です。

(x) リトライ境界値 (def_mqretryborder)

キューテーブルのリトライ境界値を 1 から 10 までの数値で指定します。キューテーブルの runcount の値がこの境界値を超えるとエラーになります。

インストール時のリトライ境界値は「5」です。

(y) メッセージキューの API 取得処理リトライ実行回数 (def_mqapiretry)

キューテーブルからメッセージを取得する処理 1 件当たりのリトライ回数を 1 から 10 までの数値で指定します。

インストール時のメッセージキューの API 取得処理リトライ実行回数は「5」です。

(z) メッセージキューの API 取得処理リトライ実行間隔 (def_mqapiinterval)

キューテーブルからメッセージを取得する処理 1 件当たりのリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 500 です。

インストール時のメッセージキューの API 取得処理リトライ実行間隔は「100」です。

(aa) メッセージキューの取得件数 (def_mqmessagenumber)

メッセージキューテーブルからメッセージを取得する件数を 1 から 100 までの数値で指定します。

インストール時のメッセージキューの取得件数は「10」です。

(ab) メッセージキューの取得処理リトライ実行回数 (def_mqretrygetnumber)

API に要求するキューテーブルからのメッセージ取得処理 1 件当たりのリトライ回数を 1 から 10 までの数値で指定します。

インストール時のメッセージキューの取得処理リトライ実行回数は「5」です。

(ac) メッセージキューの取得処理リトライ実行間隔 (def_mqretrygetinterval)

API に要求するメッセージ取得処理 1 件当たりのリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 500 です。

インストール時のメッセージキューの取得処理リトライ実行間隔は「100」です。

(ad) メッセージキューの配信処理リトライ実行回数 (def_infomailretrynumber)

frminfomail コマンド (お知らせメール配信) の処理に失敗した場合のリトライ回数を 1 から 10 までの数値で指定します。

インストール時のメッセージキューの配信処理リトライ実行回数は「5」です。

frminfomail コマンド (お知らせメール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frminfomail (お知らせメール配信)」を参照してください。

(ae) メッセージキューの配信処理リトライ実行間隔 (def_infomailretryinterval)

frminfomail コマンド (お知らせメール配信) の処理に失敗した場合のリトライ間隔をミリ秒単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 500 です。

インストール時のメッセージキューの配信処理リトライ実行間隔は「100」です。

(af) メール投稿のエラー通知の本文の最大サイズ (max_errormailbodysize)

メール投稿のエラー通知の本文の最大サイズを KB 単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 1024 です。

指定した値にエラー通知情報の 1KB を加算した値が、エラー通知メールの本文最大サイズになります。

インストール時のメール投稿のエラー通知の本文の最大サイズは「100」です。

(ag) メール配信設定のデフォルト値 (def_distributemail)

会議室作成時に、会議室のメール配信設定を有効にするかどうかを指定します。

- 0: 無効
- 1: 有効

インストール時のメール配信設定のデフォルト値は「1」です。

(ah) メール設定欄表示状態 (def_displaymailsetting)

[メール設定編集] 画面および [メール設定参照] 画面を表示させるかどうかを指定します。

- 0: 表示させない
- 1: 表示させる

インストール時のメール設定欄表示状態は「1」です。

(ai) お知らせメール機能使用制御 (def_executenotification)

会議室ごとに設定されるお知らせメール機能を、システム全体で使用するかどうかを指定します。

- 0：お知らせメール機能を使用しない
- 1：回答期限事前通知機能を使用する

インストール時のお知らせメール機能使用制御は「0」です。

(15) プロパティの詳細 (システムパラメタの設定情報 (全般))

(a) 新着期間デフォルト値 (def_newperiod)

登録した議題または発言を新着として扱う期間のデフォルト値を時間単位で指定します。指定できる範囲は、0 から 168 です。

インストール時の新着期間デフォルト値は「72」です。

(b) フィルタ条件デフォルト値 (def_filter)

全会議室の発言一覧表示時のフィルタ条件デフォルト値を指定します。

- 2：議題のみ
- 3：フィルタなし
- 4：未読の発言
- 5：未解決の議題
- 6：自分が回答責任者の発言

インストール時のフィルタ条件デフォルト値は「5」です。

(c) 発言のドラッグ & ドロップのデフォルト値 (def_opiniondragdrop)

発言一覧の議題または発言を会議室一覧のほかの会議室へドラッグ & ドロップができるようにするかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：ドラッグ & ドロップできない
- 1：ドラッグ & ドロップできる

インストール時の発言のドラッグ & ドロップのデフォルト値は「0」です。

(d) 本文自動折り返しデフォルト値 (def_returnright)

議題または発言の本文中に表示領域の幅より長い行がある場合、表示領域の幅に合わせて本文を自動的に折り返すかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：本文を折り返さない
- 1：本文を折り返す

インストール時の本文自動折り返しデフォルト値は「1」です。

(e) タブ文字置き換えデフォルト値 (def_returnrighttab)

本文にあるタブ文字を幾つのスペースで置き換えるかのデフォルト値を指定します。指定できる範囲は、1 から 8 です。

インストール時のタブ文字置き換えデフォルト値は「4」です。

(f) 文字数カウント単位デフォルト値 (def_charactercount)

文字数のカウント単位を指定します。

- 0：文字単位
- 1：バイト（半角文字換算）単位

インストール時の文字数カウント単位デフォルト値は「1」です。

(g) 印刷画面の自動折り返しデフォルト値 (def_printreturnright)

議題または発言の本文中に印刷画面の幅より長い行がある場合、印刷画面の幅に合わせて本文を自動的に折り返すかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：本文を折り返さない
- 1：本文を折り返す

インストール時の印刷画面の自動折り返しデフォルト値は「1」です。

(h) 印刷画面のタブ文字置き換えデフォルト値 (def_printreturnrighttab)

印刷画面の本文にあるタブ文字を幾つのスペースで置き換えるかのデフォルト値を指定します。指定できる範囲は、1 から 8 です。

インストール時の印刷画面のタブ文字置き換えデフォルト値は「4」です。

(i) 印刷画面の改行文字数デフォルト値 (def_printreturnnum)

印刷画面のヘッダ情報（主題など）および本文を改行する場合の改行文字数を指定します。指定できる範囲は、30 から 200 です。

インストール時の印刷画面の改行文字数デフォルト値は「80」です。

(16) プロパティの詳細（システムパラメタの設定情報（ワークスペース））

(a) 主題表示文字数最大値 (def_subjectnum)

発言一覧での主題の表示文字数最大値をバイト単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 255 です。

インストール時の主題表示文字数最大値は「40」です。

(b) 発言一覧表示発言数最大値 (def_discussionnum)

発言一覧の 1 ページに表示する発言数の最大値を指定します。指定できる範囲は、1 から 250 です。

インストール時の発言一覧表示発言数最大値は「50」です。

(c) 発言一覧表示議題数最大値 (def_treenum)

発言一覧の 1 ページに表示する議題数の最大値を指定します。指定できる範囲は、1 から 50 です。

インストール時の発言一覧表示議題数最大値は「10」です。

(d) 会議室一覧表示デフォルト値 (def_roomtreedisp)

会議室一覧を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

インストール時の会議室一覧表示デフォルト値は「1」です。

(e) プレビュー表示デフォルト値 (def_previewdisp)

発言のプレビューを表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

インストール時のプレビュー表示デフォルト値は「1」です。

(f) 発言ヘッダ情報表示デフォルト値 (def_headerdisp)

発言のヘッダ情報の詳細を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

インストール時の発言ヘッダ情報表示デフォルト値は「0」です。

(g) 日付表示形式デフォルト値 (def_datedisp)

発言一覧などに表示する日付表示形式のデフォルト値を指定します。

- 0: 年・月・日を表示する
- 1: 月・日を表示する

インストール時の日付表示形式デフォルト値は「0」です。

(h) 組織表示デフォルト値 (def_orgdisp)

発言者の所属組織を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

インストール時の組織表示デフォルト値は「0」です。

(i) 役職表示デフォルト値 (def_postdisp)

発言者の役職を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0: 表示しない
- 1: 表示する

インストール時の役職表示デフォルト値は「0」です。

(j) 会議室名表示位置 (def_roomcol)

発言一覧での会議室名の表示位置（画面の左端からの順番）を 1 から 99 までの数値で指定します。

インストール時の画面の表示位置は、左端から「会議室名」, 「属性」, 「添付ファイル有無」, 「議論状態」, 「主題」, 「発言者」, 「発言日時」, 「回答責任者」, 「回答期限」となります。

インストール時の会議室名表示位置は「1」です。

(k) 属性表示位置 (def_attrcol)

発言一覧での属性の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に属性が表示されません。

インストール時の属性表示位置は「2」です。

(l) 添付ファイル有無表示位置 (def_apdcol)

発言一覧での添付ファイル有無の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に添付ファイル有無が表示されません。

インストール時の添付ファイル有無表示位置は「3」です。

(m) 議論状態表示位置 (def_statecol)

発言一覧での議論状態の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に議論状態が表示されません。

インストール時の議論状態表示位置は「4」です。

(n) 主題表示位置 (def_subjectcol)

発言一覧での主題の表示位置（画面の左端からの順番）を 1 から 99 までの数値で指定します。

インストール時の主題表示位置は「5」です。

(o) 発言者表示位置 (def_usercol)

発言一覧での発言者の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に発言者が表示されません。

インストール時の発言者表示位置は「6」です。

(p) 発言日時表示位置 (def_crecol)

発言一覧での発言日時の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に発言日時が表示されません。

インストール時の発言日時表示位置は「7」です。

(q) 回答責任者表示位置 (def_replierinchargecol)

発言一覧での回答責任者の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 の範囲で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に回答責任者が表示されません。

インストール時の回答責任者表示位置は「8」です。

(r) 回答期限表示位置 (def_replycol)

発言一覧での回答期限の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 の範囲で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に回答期限が表示されません。

インストール時の回答期限表示位置は「9」です。

(s) 未読/既読表示位置 (def_aldycol)

発言一覧での未読/既読の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に未読/既読が表示されません。

インストール時の未読/既読表示位置は「0」です。

(t) 重要度表示位置 (def_impcol)

発言一覧での重要度の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に重要度が表示されません。

インストール時の重要度表示位置は「0」です。

(u) 発言番号表示位置 (def_opnidcol)

発言一覧での発言番号の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に発言番号が表示されません。

インストール時の発言番号表示位置は「0」です。

(v) 有効期限表示位置 (def_validitycol)

発言一覧での有効期限の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 の範囲で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に有効期限が表示されません。

インストール時の有効期限表示位置は「0」です。

(17) プロパティの詳細（システムパラメタの設定情報（レイアウト））

(a) 主題表示文字数最大値 (def_subjectnumdgt)

発言一覧での主題の表示文字数最大値をバイト単位で指定します。指定できる範囲は、10 から 255 です。

インストール時の主題表示文字数最大値は「40」です。

(b) 発言一覧表示発言数最大値 (def_discussionnumdgt)

発言一覧の 1 ページに表示する発言数の最大値を指定します。指定できる範囲は、1 から 250 です。

インストール時の発言一覧表示発言数最大値は「50」です。

(c) 発言一覧表示議題数最大値 (def_treenumdgt)

発言一覧の 1 ページに表示する議題数の最大値を指定します。指定できる範囲は、1 から 50 です。

インストール時の発言一覧表示議題数最大値は「10」です。

(d) 会議室一覧表示デフォルト値 (def_roomtreedispgdt)

会議室一覧を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：表示しない
- 1：表示する

インストール時の会議室一覧表示デフォルト値は「0」です。

(e) プレビュー表示デフォルト値 (def_previewdispgdt)

発言のプレビューを表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：表示しない
- 1：表示する

インストール時のプレビュー表示デフォルト値は「1」です。

(f) 発言ヘッダ情報表示デフォルト値 (def_headerdispgdt)

発言のヘッダ情報の詳細を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：表示しない
- 1：表示する

インストール時の発言ヘッダ情報表示デフォルト値は「0」です。

(g) 日付表示形式デフォルト値 (def_datedispgdt)

発言一覧に表示する日付表示形式のデフォルト値を指定します。

- 0：年・月・日を表示する
- 1：月・日を表示する

インストール時の日付表示形式デフォルト値は「0」です。

(h) 組織表示デフォルト値 (def_orgdispgdt)

発言者の所属組織を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：表示しない
- 1：表示する

インストール時の組織表示デフォルト値は「0」です。

(i) 役職表示デフォルト値 (def_postdispgdt)

発言者の役職を表示するかどうかのデフォルト値を指定します。

- 0：表示しない

- 1: 表示する

インストール時の役職表示デフォルト値は「0」です。

(j) 会議室名表示位置 (def_roomcoldgt)

発言一覧での会議室名の表示位置（画面の左端からの順番）を 1 から 99 までの数値で指定します。

インストール時の画面の表示位置は、左端から「会議室名」、「添付ファイル有無」、「主題」、「発言者」、「回答責任者」、「回答期限」となります。

インストール時の会議室名表示位置は「1」です。

(k) 添付ファイル有無表示位置 (def_apdcoldgt)

発言一覧での添付ファイル有無の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に添付ファイル有無が表示されません。

インストール時の添付ファイル有無表示位置は「2」です。

(l) 主題表示位置 (def_subjectcoldgt)

発言一覧での主題の表示位置（画面の左端からの順番）を 1 から 99 までの数値で指定します。

インストール時の主題表示位置は「3」です。

(m) 発言者表示位置 (def_usercoldgt)

発言一覧での発言者の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に発言者が表示されません。

インストール時の発言者表示位置は「4」です。

(n) 回答責任者表示位置 (def_replierinchargecoldgt)

発言一覧での回答責任者の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 の範囲で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に回答責任者が表示されません。

インストール時の回答責任者表示位置は「5」です。

(o) 回答期限表示位置 (def_replycoldgt)

発言一覧での回答期限の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 の範囲で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に回答期限が表示されません。

インストール時の回答期限表示位置は「6」です。

(p) 未読/既読表示位置 (def_aldycoldgt)

発言一覧での未読/既読の表示位置（画面の左端からの順番）を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に未読/既読が表示されません。

インストール時の未読/既読表示位置は「0」です。

(q) 属性表示位置 (def_attrcoldgt)

発言一覧での属性の表示位置 (画面の左端からの順番) を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に属性が表示されません。

インストール時の属性表示位置は「0」です。

(r) 重要度表示位置 (def_impcoldgt)

発言一覧での重要度の表示位置 (画面の左端からの順番) を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に重要度が表示されません。

インストール時の重要度表示位置は「0」です。

(s) 議論状態表示位置 (def_statecoldgt)

発言一覧での議論状態の表示位置 (画面の左端からの順番) を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に議論状態が表示されません。

インストール時の議論状態表示位置は「0」です。

(t) 発言日時表示位置 (def_crecoldgt)

発言一覧での発言日時の表示位置 (画面の左端からの順番) を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に発言日時が表示されません。

インストール時の発言日時表示位置は「0」です。

(u) 発言番号表示位置 (def_opnidcoldgt)

発言一覧での発言番号の表示位置 (画面の左端からの順番) を 0 から 99 までの数値で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に発言番号が表示されません。

インストール時の発言番号表示位置は「0」です。

(v) 有効期限表示位置 (def_validitycoldgt)

発言一覧での有効期限の表示位置 (画面の左端からの順番) を 0 から 99 の範囲で指定します。

「0」を指定すると発言一覧に有効期限が表示されません。

インストール時の有効期限表示位置は「0」です。

(18) プロパティの詳細 (システムパラメタの設定情報 (新着情報))

(a) 新着期間デフォルト値 (def_newperiodinfoview)

新着情報で登録した議題または発言を新着として扱う期間のデフォルト値を時間単位で指定します。指定できる範囲は、24 から 168 です。

インストール時の新着期間デフォルト値は「72」です。

(b) 未読の議題または発言を新着として扱う期間 (def_yetterminfview)

未読の議題または発言を新着として扱う場合に、何日以内の未読の議題または発言を新着として扱うかを日単位で指定します。指定できる範囲は 0 から 730 です。0 を指定した場合、期間を限定しません。すべての未読の議題または発言を新着として扱います。

インストール時の未読の議題または発言を新着として扱う期間は「0」です。

2.3.9 システムパラメタの設定

Collaboration - Forum を利用する前に、frmsys コマンド (システムパラメタ変更) を使用して、システムパラメタを設定します。システムパラメタは、データベースサーバ上に作成した、パラメタ管理テーブル (tbl_param) に設定され、負荷分散のため、アプリケーションサーバを複数構築した場合でも、これら設定内容を共通で参照します。このため、frmsys コマンド (システムパラメタ変更) は、負荷分散構成としていても、システム全体で 1 度実行するだけでかまいません。frmsys コマンド (システムパラメタ変更) の詳細は、「3.19 システムパラメタ変更」および「4.2 コマンドの詳細」の「frmsys (システムパラメタ変更)」を参照してください。

なお、システムパラメタを変更する場合は、アプリケーションサーバを停止させる必要があります。また、RD エリアサイズについて再検討する必要があります。

変更したシステムパラメタを有効にする場合は、アプリケーションサーバを再起動させてください。

2.3.10 RAS 用 Conf ファイルの設定

Collaboration では RAS 情報収集機能を提供しています。RAS 情報収集機能とは、Collaboration の各ポートレットのログファイルに出力されたエラーメッセージおよびトレース情報を収集して、一つのファイルにまとめる機能です。RAS 情報収集機能の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

Collaboration - Forum では、RAS 情報収集機能に必要な定義ファイルとして RAS 用 Conf ファイル (hptl_clb_cfr_ras.conf) を提供します。RAS 用 Conf ファイルの名称と格納場所は次のとおりです。

Collaboration インストールディレクトリ¥clb_home¥conf¥hptl_clb_cfr_ras.conf

通常は Collaboration 共通のプロパティファイル (hptl_clb_ccu.properties) の hptl_clb_ccu_logPath プロパティで指定したディレクトリにログが収集されますので、RAS 用 Conf ファイルでログファイルディレクトリを指定する必要はありません。Collaboration 共通のプロパティファイルの詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。RAS 用 Conf ファイルでログファイルディレクトリを指定する場合は、次の例のように記述してください。

(例)

C:¥temp¥log※

注※

プロパティファイル (hptl_clb_cfr_engine.properties) の hptl_clb_cfr_log_file_path プロパティ、および定義ファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) の hptl_clb_cfr_log_file_path プロパティで別のディレクトリを指定した場合は、トレース情報の出力先ディレクトリ名を指定してください。

プロパティファイルの hptl_clb_cfr_engine.properties プロパティの詳細は、「2.3.6 プロパティファイルの編集」を参照してください。定義ファイルの hptl_clb_cfr_log_file_path プロパティの詳細

細は、「2.3.8(3)(a) ログファイルの出力先ディレクトリ名 (hptl_clb_cfr_log_file_path)」を参照してください。

2.3.11 ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定

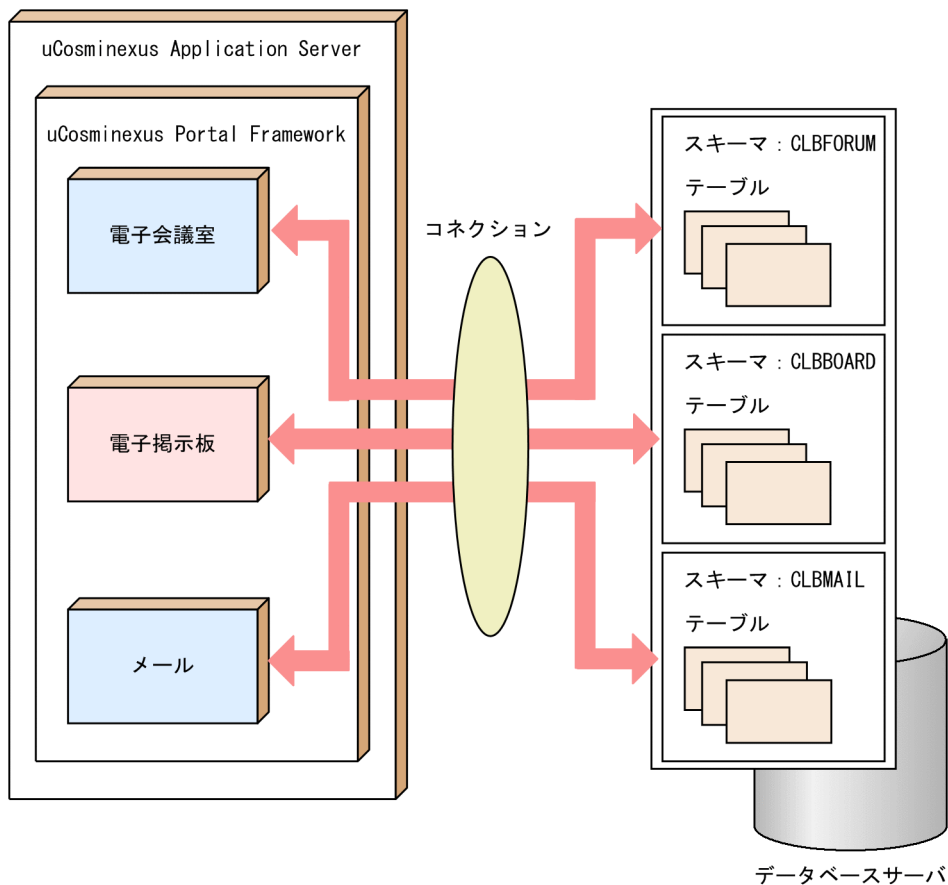
(1) 共有できるコンポーネントと共有イメージ

Collaboration - Forum では、uCosminexus Application Server の DB Connector を利用して、データベースサーバとのコネクションを確立します。このとき、データベースサーバが 1 台の場合でも、ほかのコンポーネントとコネクションを共有できます。共有できるコンポーネントを次に示します。

- Collaboration - Bulletin board 01-90
- Collaboration - Mail 01-91

コネクションを共有できるコンポーネントと、コネクションを共有した場合のイメージを次の図に示します。

図 2-2 コネクションの共有イメージ



(2) 必要な設定項目

コネクションを共有する場合に、次の項目の設定を切り替えます。

(a) 共通な認可識別子

各コンポーネントで共通に使用するための認可識別子を用意し、各コンポーネントで用意しているテーブルに対して、CONNECT 権限、およびアクセス権限を付けます。スキーマ名は、ほかのコンポーネントと異なる名称にしてください。

Collaboration - Forum 01-90

```
GRANT CONNECT TO 認可識別子(共通) IDENTIFIED BY パスワード(共通);
GRANT ALL ON CLBFORUM.TBL_FORUM TO 認可識別子(共通);
:
: (すべてのテーブルに対して、全アクセス権を付けます。)
```

Collaboration - Bulletin board 01-90

```
GRANT CONNECT TO 認可識別子(共通) IDENTIFIED BY パスワード(共通);
GRANT ALL ON CLBBOARD.TBL_FORUM TO 認可識別子(共通);
:
: (すべてのテーブルに対して、全アクセス権を付けます。)
```

Collaboration - Mail 01-91

```
GRANT CONNECT TO 認可識別子(共通) IDENTIFIED BY パスワード(共通);
GRANT ALL ON CLBMAIL.TBL_FORUM TO 認可識別子(共通);
:
: (すべてのテーブルに対して、全アクセス権を付けます。)
```

(b) クライアント環境変数グループ

クライアント環境変数グループは、コネクションを共有するコンポーネントで同じ変数を使います。名称は次のように変更できます。

クライアント環境変数グループ：HPTLCLBFMB

各コンポーネントで調整したクライアント環境変数グループに設定された項目がある場合、コネクションを共有するすべてのコンポーネントで問題ない値を設定してください。

(c) DB Connector の設定

指定した認可識別子、パスワード、およびクライアント環境変数グループ名を、DB Connector の設定に指定します。

実行時プロパティ (<outbound-resourceadapter> - <connection-definition> - <connector-runtime> タグ) の <property> タグと、コンフィグレーションプロパティ (<outbound-resourceadapter> - <connection-definition> - <config-property> タグ) で設定する項目を次の表に示します。

表 2-21 実行時プロパティの<property>タグで設定する項目 (ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定)

項番	<property-name>	<property-value>
1	User	認可識別子 (共通)
2	Password	「User」で示すユーザのパスワード (共通)

表 2-22 コンフィグレーションプロパティで設定する項目 (ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定)

項番	<config-property-name>	<config-property-value>
1	description	@DABENVGRP= HPTLCLBFMB 変更したクライアント環境変数グループ

3

Collaboration - Forum の運用

この章では、システム管理者による Collaboration - Forum の運用について説明します。

3.1 作業一覧

Collaboration - Forum を運用するための作業について次の表に示します。

表 3-1 Collaboration - Forum を運用するための作業

項番	作業項目	作業内容	使用するコマンド
1	メールの配信	会議室に登録された議題または発言の内容をメール配信希望者にメールで配信します。 強制的にメールを配信する設定をしている場合は、作成された議題または発言の内容を、会議室に参加している参照権限のあるユーザ全員に送信します。	frmopnmail (メール配信)
2	メールによる議題または発言の投稿	メールによって投稿された議題または発言を会議室に登録します。	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)
3	お知らせメールの配信	メッセージキューに登録されているメッセージを配信します。	frminfomail (お知らせメール配信)
4	会議室の開催通知の登録	会議室の開催を通知するための情報を、メッセージキューに登録します。	frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)
5	会議室の状態変更通知の登録	会議室の状態が変更されることを通知するための情報を、メッセージキューに登録します。	frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)
6	回答期限通知の登録	回答期限を通知するための情報を、メッセージキューに登録します。	frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)
7	会議室の状態変更	会議室の状態を変更します。	frmchstat (会議室状態変更)
8	会議室の強制再開	開催期間が過ぎて閉鎖中になっている会議室について、指定した日付まで「開催期間 終了日」を延期し、会議室の状態を会議中に変更します。	frmreopn (会議室強制再開)
9	会議室のアーカイブ	アーカイブ待ちになった会議室をアーカイブファイル、およびアーカイブ情報ファイルに出力します。	frmarch (会議室アーカイブ)
10	会議室の削除	削除待ちの会議室をデータベースから削除します。	frmdel (会議室削除)
11	関連づけられていない添付ファイルの削除	議題または発言と関連づけられていない添付ファイルをデータベースから削除します。	frmappeddel (添付ファイル削除)
12	会議室のリストア	アーカイブファイルからデータベースに会議室を戻します。	frmrest (会議室リストア)

項番	作業項目	作業内容	使用するコマンド
13	会議室の復活	アーカイブ待ちの会議室を閉鎖中に復活します。	frmrev (会議室復活)
14	会議室の検索	データベース内の会議室を検索します。	frmsrch (会議室検索)
15	会議室の期間延長	会議室の「開催期間 開始日」,「開催期間 終了日」, および「参照期間 終了日」を延期します。	frmext (会議室期間延長)
16	会議室の所有者変更	個人 (ユーザ自身) の会議室の所有者を変更します。	frmchown (会議室所有者変更)
17	発言のインポート	発言および添付ファイルを会議室に登録 (インポート) します。	frmimpopn (発言のインポート)
18	発言のエクスポート	会議室に登録されている発言を出力 (エクスポート) します。	frmexpopn (発言のエクスポート)
19	システムパラメタ変更	システムパラメタを変更します。	frmsys (システムパラメタ変更)
20	全文検索の準備	議題または発言の主題や添付ファイルなどを全文検索する前に、全文検索用のデータの登録や、n-gram インデクスを作成します。	—
21	個人 (ユーザ自身) の会議室の利用の抑止	必要に応じて利用者に連絡します。また、議題または発言の情報を採取します。	—
22	メッセージキューの参照	メッセージキューに格納されているメッセージを表示します。	frmqueview (メッセージキューの参照)
23	メッセージキューの削除	メッセージをメッセージキューから削除します。	frmquedel (メッセージキューの削除)

(凡例)

— : コマンドを使用しません。

3.2 メールの配信

会議室に登録された議題または発言の内容をメール配信希望者にメールで配信するためには、`frmopnmail` コマンド (メール配信) を使用します。`frmopnmail` コマンド (メール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmopnmail` (メール配信)」を参照してください。

なお、強制的にメールを配信する設定をしている場合、作成された議題または発言の内容が、会議室に参加している参照権限のあるユーザ全員に送信されます。

(1) メールの配信の頻度

`frmopnmail` コマンド (メール配信) では、システムパラメタで決められた件数を 1 回の実行でメール送信します。このため、議題または発言の作成頻度に応じて、`frmopnmail` コマンド (メール配信) を実行してください。

`frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行間隔が長いと議題または発言が登録されてから、配信を希望しているユーザにメールが届くまでの間隔が長くなります。この調整は、`frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行間隔と、`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (`mail_sendnum`) を使用して、Collaboration - Forum に未配信状態の議題および発言を滞留しないように設定します。`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数の詳細は、「2.3.8(14)(l) `frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (`mail_sendnum`)」を参照してください。

一日当たりの `frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行回数と、`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数の関係式を次に示します。この関係式から一日当たりの `frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行回数がわかるので、`frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行間隔を求められます。

`frmopnmail` コマンド (メール配信) の実行回数 (回/日) = 議題および発言の総数 (件/日) ÷ `frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (件)

(2) `frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数を増やした場合

`frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数を増やした場合、その同時実行スレッド数に応じたデータベースサーバ、および SMTP サーバへの接続数を、それぞれ用意してください。

(3) 議題および発言の総数が多く、未配信状態の議題および発言が滞留する場合

議題および発言の総数が多く、未配信状態の議題および発言が滞留する場合、複数台で `frmopnmail` コマンド (メール配信) を実行します。この場合、`frmopnmail` コマンド (メール配信) を実行するマシンでは、`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (`mail_sendnum`) を増やし、`frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数 (`mail_threadnum`) を減らす調整が必要です (これは、複数台のマシンで `frmopnmail` コマンド (メール配信) を同時に実行しても、データベースサーバ上にある未配信状態の議題または発言を処理するためです)。

`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数の詳細は、「2.3.8(14)(l) `frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (`mail_sendnum`)」を参照してください。`frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数の詳細は、「2.3.8(14)(m) `frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数 (`mail_threadnum`)」を参照してください。

(4) 注意事項

配信先のメールサーバ/LDAP サーバ/コミュニティマネージャが停止している場合は、必ず送信失敗となるため、`frmopnmail` コマンド (メール配信) を停止しておいてください。

3.3 メールによる議題または発言の投稿

メールによって投稿された議題または発言を会議室に登録するためには、`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）を使用します。`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmopnregist`（メールによる議題または発言の投稿）」を参照してください。

(1) 議題または発言の投稿の頻度

`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）では、システムパラメタで決められた件数の議題または発言を 1 回の実行で投稿します。このため、メールによる議題または発言の投稿頻度に応じて、`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）を実行してください。

`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行間隔が長いと、メールが送信されてから議題または発言が登録されるまでの間隔が長くなります。`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行間隔、メールサーバから一度に受信するメール件数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number`)、およびメールサーバへの接続回数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number`) を調整して、メールサーバに投稿用のメールが滞留しないように設定します。メールサーバから一度に受信するメールの件数の詳細は、「2.3.8(11)(e) メールサーバから一度に受信するメール件数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number`)」を、メールサーバへの接続回数の詳細は、「2.3.8(11)(f) メールサーバへの接続回数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number`)」を参照してください。

1 日当たりの `frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行回数を算出する式を次に示します。

`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行回数（回/日） = メールによる議題または発言の投稿数（件/日） ÷ `frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）で投稿する件数（件/回）

また、1 回の `frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行で投稿するメールの件数を算出する式を次に示します。

`frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）で投稿する件数（件/回） = スレッドの最大数 × （メールサーバへの接続回数 × メールサーバから一度に受信するメールの件数）

注※

メールサーバに接続するスレッド最大数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail`) で指定した値、または有効なメール投稿アドレス数のどちらか小さい方の値を代入します。メールサーバに接続するスレッド最大数の詳細は、「2.3.8(11)(j) メールサーバに接続するスレッド最大数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail`)」を参照してください。

なお、1 回の `frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行で投稿するメールの件数（件/回）は、次の値よりも短い時間で終了できる必要があります。

1（日） ÷ `frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）の実行回数（回/日）

(2) メールが二重投稿される場合

次の条件をすべて満たした場合、メールが二重投稿されます。

- メールサーバから一度で受信したメールを議題または発言として登録したあと、そのメールをメールサーバから削除できない
- メールのメッセージ ID が 255 バイトより大きい

メールサーバから一度に受信するメールの件数に小さい値を設定すると、二重投稿の影響が小さくなります。また、メールサーバから一度に受信するメールの件数に大きい値を設定しても、コマンドの実行回数を増やして、メールサーバが受信しているメールの件数を少なくすると、二重投稿の影響を小さくできます。メールサーバから一度に受信するメールの件数の詳細は、「2.3.8(11)(e) メールサーバから一度に受信するメール件数 (hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number)」を参照してください。

3.4 お知らせメールの配信

会議室に登録されたお知らせメール配信するためには、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）を使用します。

`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frminfomail`（お知らせメール配信）」を参照してください。

(1) お知らせメールの配信の頻度

`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）では、システムパラメタに設定されたメールサーバから一度に受信するメールの件数を、1 回のコマンドの実行でメッセージキューから取得してメール送信します。このため、お知らせメールの登録頻度に応じて、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）を実行します。

`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の実行間隔が長いと、お知らせメールが登録されてからユーザにメールが届くまでの間隔が長くなります。この調整は、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の実行間隔と、メールサーバから一度に受信するメールの件数を使用して、メッセージキューにメッセージが滞留しないように設定します。メールサーバから一度に受信するメールの件数の詳細は、「2.3.8(11)(e) メールサーバから一度に受信するメール件数 (`hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number`)」を参照してください。

`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の実行間隔と、1 回のコマンドの実行で取得するメッセージ件数の関係式を次に示します。

この関係式から 1 日当たりコマンド実行回数がわかるため、実行間隔を求められます。

コマンド実行回数 (回/日) = お知らせメール登録数 (件/日) ÷ 1 回のコマンドの実行で取得するメッセージ件数 (件)

(2) 注意事項

配信先のメールサーバ、ディレクトリサーバ、または Collaboration - Online Community Management が停止している場合は、お知らせメールを配信できません。このため、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）を連動して停止してください。

3.5 会議室の開催通知の登録

会議室の作成は、議題および発言の作成に比べて頻度が少ないため、`frmsetopninfo` コマンド（会議室の開催通知登録）は 1 時間に 1 回を目安に実行してください。

`frmsetopninfo` コマンド（会議室の開催通知登録）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsetopninfo`（会議室の開催通知登録）」を参照してください。

なお、システムの状態によっては、`frmsetopninfo` コマンド（会議室の開催通知登録）を実行しても会議室の開催が通知されない場合があります。

また、`frmsetopninfo` コマンド（会議室の開催通知登録）を実行しないと、メンバ追加お知らせ機能を有効にしても、会議室またはコミュニティにメンバを追加したときに、メンバを追加したことが通知されません。

3.6 会議室の状態変更通知の登録

`frmsetchstatinfo` コマンド（会議室の状態変更通知登録）は、`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）が 1 日に 1 回実行することを前提としています。`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）は 1 日に 1 回を目安に実行するため、`frmsetchstatinfo` コマンド（会議室の状態変更通知登録）も 1 日に 1 回を目安に実行してください。

`frmsetchstatinfo` コマンド（会議室の状態変更通知登録）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsetchstatinfo`（会議室の状態変更通知登録）」を参照してください。

また、`frmsetchstatinfo` コマンド（会議室の状態変更通知登録）を実行する場合は、事前に `frmchstat` コマンド（会議室状態変更）を実行してください。

なお、システムの状態によっては、`frmsetchstatinfo` コマンド（会議室の状態変更通知登録）を実行しても、会議室の開催期間 終了日および参照期間 終了日が事前に通知されなかったり、開催期間 終了日と参照期間 終了日の通知の順序が前後したりすることがあります。

また、Collaboration - Forum を負荷分散構成としている場合、`frmsetchstatinfo` コマンド（会議室の状態変更通知登録）は、システムを構成しているどのマシンから実行してもかまいません。

3.7 回答期限通知の登録

回答期限は、単位を「日」としているため、`frmsetresperiodinfo` コマンド（回答期限通知登録）は 1 日に 1 回を目安に実行してください。

`frmsetresperiodinfo` コマンド（回答期限通知登録）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsetresperiodinfo`（回答期限通知登録）」を参照してください。

3.8 会議室の状態変更

システム管理者は、会議室を決められた日付で開催したり、閉鎖したりするため、定期的に `frmchstat` コマンド（会議室状態変更）を実行して会議室の状態を更新する必要があります。

3.8.1 会議室状態

会議室には、会議室がどのような状況であるかを示す会議室状態があります。会議室状態の種類を次の表に示します。

表 3-2 会議室状態の種類

項番	会議室状態の種類	説明
1	準備中	会議室が作成された直後で、会議室が開催される前の状態です。 ^{※1} 会議室が開催される前に、会議室所有者は会議室の情報を編集して、会議室に対する準備ができます。
2	会議中	会議室が開催されている状態です。 議題および発言の作成、参照、検索などができます。
3	閉鎖中	会議室が閉鎖されている状態です。 議題および発言の参照（検索、議事録作成を含みます）だけができます（議題および発言の作成はできません）。 開催期間内にユーザ操作で会議室を閉鎖中にした場合は、ユーザ操作で会議中に戻せます。 また、会議室が開催期間を過ぎて閉鎖中になっている場合は、 <code>frmreopn</code> コマンド（会議室強制再開）で会議室を会議中に戻せます。
4	アーカイブ待ち ^{※2}	会議室がアーカイブ対象となった状態です。 この状態では、ユーザから会議室は見えません。
5	削除待ち	会議室がデータベースから削除対象となった状態です。 この状態では、ユーザから会議室は見えません。
6	参照のみ	閉鎖中と同じ状態です。ただし、会議中には戻せません。

注※1

作成した会議室をすぐに開催した場合、会議室は会議中となります。

注※2

`frmrev` コマンド（会議室復活）で会議室を閉鎖中に戻せます。

3.8.2 期間と会議室状態の遷移

会議室には、ユーザまたはシステムが期間を設定します。システム管理者が定期的に `frmchstat` コマンド（会議室状態変更）を実行すると、期間の経過とともに会議室状態が変化します。期間を次の表に示します。

表 3-3 期間

項番	期間	説明	期間経過後の会議室状態
1	準備期間	会議室のアクセス権や、会議室の情報を設定する期間です。	準備期間を過ぎた会議室は、準備中から会議中に遷移します。

項番	期間	説明	期間経過後の会議室状態
1	準備期間	会議室の作成日から開催期間 開始日の前日までの間が準備期間です。	準備期間を過ぎた会議室は、準備中から会議中に遷移します。
2	開催期間	会議室の開催または閉鎖の操作ができる期間です。 会議室の開催期間 開始日から開催期間 終了日までの間が開催期間です。	開催期間を過ぎた会議室は、会議中から閉鎖中に遷移します。
3	参照期間	会議室の参照だけが出来る期間です。 会議室の開催期間 終了日の次の日から参照期間 終了日までの間が参照期間です。	参照期間を過ぎた会議室は、閉鎖中からアーカイブ待ちに遷移します。また、参照のみの場合には、削除待ちに遷移します。

期間と会議室状態の関係を次の表に示します。

表 3-4 期間と会議室状態の関係

項番	期間	会議室状態					
		準備中	会議中	閉鎖中	アーカイブ待ち	削除待ち	参照のみ
1	準備期間	○	—	—	—	○	—
2	開催期間	—	○	○	○	○	—
3	参照期間	—	—	○	○	○	○

(凡例)

○：期間内で存在する状態です。

—：該当しません。

各期間内で会議室に対する操作をした場合の会議室状態の遷移を次の表に示します。

表 3-5 期間での会議室の操作による会議室状態の遷移

項番	期間	操作	操作前の会議室状態	操作後の会議室状態
1	準備期間	会議室の作成	—	準備中
		会議室の開催（開催期間となります）	準備中	会議中
		会議室の削除	準備中	削除待ち
		会議室の削除（強制指定）(frmdel)	準備中	—
2	開催期間	会議室の閉鎖	会議中	閉鎖中
		会議室の開催	閉鎖中	会議中
		会議室の削除	会議中	アーカイブ待ち
			閉鎖中	
		会議室の復活 (frmrev)	アーカイブ待ち	閉鎖中
会議室のアーカイブ (frmarch)	アーカイブ待ち	削除待ち		

項番	期間	操作	操作前の会議室状態	操作後の会議室状態
2	開催期間	会議室のアーカイブ（強制指定）（frmarch）	会議中	削除待ち
			閉鎖中	
			アーカイブ待ち	
		会議室の削除（frmdel）	削除待ち	—
		会議室の削除（強制指定）（frmdel）	会議中	—
			閉鎖中	
			アーカイブ待ち	
会議室のリストア（frmrest）	—	閉鎖中		
3	参照期間	会議室の削除	閉鎖中	アーカイブ待ち
			参照のみ	削除待ち
		会議室の強制再開（frmreopn）※	閉鎖中	会議中
		会議室の復活（frmrev）	アーカイブ待ち	閉鎖中
		会議室のアーカイブ（frmarch）	アーカイブ待ち	削除待ち
		会議室のアーカイブ（強制指定）（frmarch）	閉鎖中	削除待ち
			参照のみ	
		会議室の削除（frmdel）	削除待ち	—
		会議室の削除（強制指定）（frmdel）	閉鎖中	—
			アーカイブ待ち	
			参照のみ	
削除待ち				
会議室のリストア（frmrest）	—	参照のみ		

（凡例）

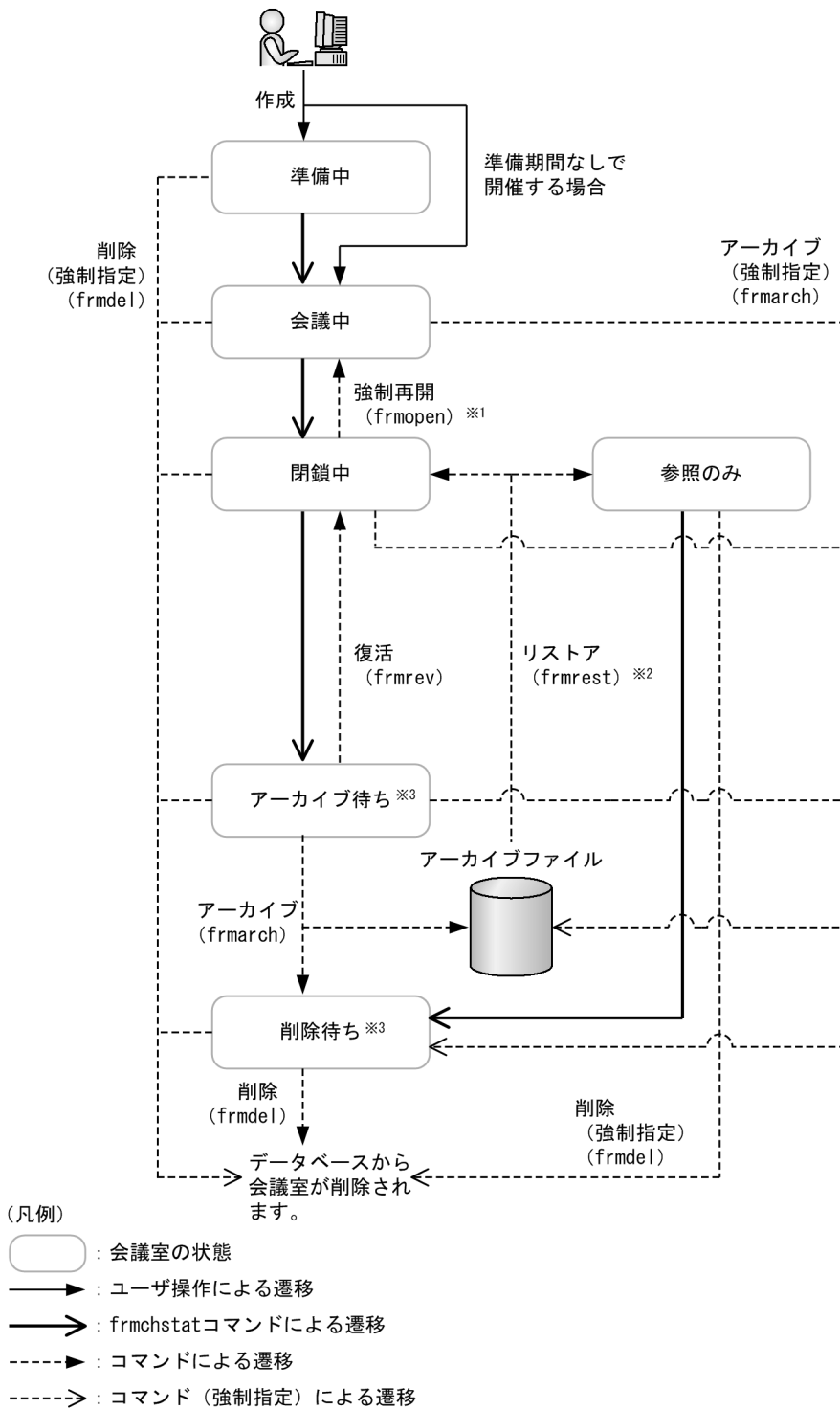
—：会議室状態がないことを示します。

注※

開催期間が過ぎて閉鎖中になっている会議室だけが対象になります。

会議室状態の遷移を次の図に示します。

図 3-1 会議室状態の遷移



注※1

開催期間が過ぎて閉鎖中になっている会議室だけ、強制再開できます。

注※2

会議室が開催期間内の場合は閉鎖中、開催期間外の場合は参照のみになります。

注※3

アーカイブ待ちおよび削除待ちの会議室は、ユーザから参照できません。

会議室の状態は、期間の単位を「日」としているため、`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）は、1日に1回実行してください。

Collaboration - Forum を負荷分散構成としている場合、`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）はシステムを構成しているどのマシンから実行してもかまいません。

なお、[会議室編集] 画面のチェックボックス（[会議室を開催する] または [会議室を閉鎖する]）で、ユーザが会議室状態を操作した場合は、会議室状態は即時反映されるため、`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）の対象外となります。[会議室編集] 画面の詳細およびその他のユーザ操作による会議室状態の遷移の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmchstat`（会議室状態変更）」を参照してください。

3.9 会議室の強制再開

開催期間が過ぎて閉鎖中になっている会議室を、会議中に変更したい場合は、`frmreopn` コマンド（会議室強制再開）を使用します。

`frmreopn` コマンド（会議室強制再開）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmreopn`（会議室強制再開）」を参照してください。

3.10 会議室のアーカイブ

ユーザによる会議室の削除や、`frmchstat` コマンド（会議室状態変更）の実行によって、会議室の状態はアーカイブ待ちに遷移します。アーカイブ待ちになった会議室をアーカイブファイル、およびアーカイブ情報ファイルに出力したい場合、`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）を使用します。

`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）は、Collaboration - Forum の利用頻度、許容できるデータベースサーバのディスク容量にも依存しますが、1日に1回実行してください。

Collaboration - Forum を負荷分散構成としている場合、`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）はシステムを構成しているどのマシンから実行してもかまいません。

ユーザデータの保護を目的として、`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）を実行して出力されたアーカイブファイル、およびアーカイブ情報ファイルをデータベースサーバとは別の媒体で保管してください。

なお、データ保護の観点で、データベースサーバ自体のバックアップを行う場合は、データベースサーバ付属のバックアップコマンドなどを使用してください。

`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmarch`（会議室アーカイブ）」を参照してください。

3.11 会議室の削除

ユーザによる会議室の削除や、`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）が実行されるごとに、削除待ちの会議室がデータベースに蓄積されます。削除待ちの会議室をデータベースから削除しないと、データベースサーバのディスク容量を占有し続けることになります。

データベースサーバのディスク容量を有効に利用するためには、削除待ちの会議室をデータベースから、削除する必要があります。削除待ちの会議室を削除するには、`frmdel` コマンド（会議室削除）を使用します。

`frmdel` コマンド（会議室削除）は、Collaboration - Forum の利用頻度、許容できるデータベースサーバのディスク容量にも依存しますが、1日に1回実行してください。

Collaboration - Forum を負荷分散構成としている場合、`frmdel` コマンド（会議室削除）はシステムを構成しているどのマシンから実行してもかまいません。

`frmdel` コマンド（会議室削除）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmdel`（会議室削除）」を参照してください。

3.12 関連づけられていない添付ファイルの削除

議題または発言を登録する場合、議題または発言の登録が完了してなくても、添付ファイルを指定した段階で、添付ファイルをデータベースサーバに格納します。

添付ファイルを指定したあとに、ユーザが強制終了などで議題または発言を登録する前に操作を中断した場合、添付ファイルは、議題または発言と関連づけられていない状態でデータベースに登録されたままとなり、データベースサーバのディスク容量を圧迫することになります。

このため、`frmapddel` コマンド（添付ファイル削除）を実行して、議題または発言に関連づけられていない添付ファイルをデータベースサーバから削除してください。

`frmapddel` コマンド（添付ファイル削除）は、Collaboration - Forum の利用頻度、許容できるデータベースサーバのディスク容量にも依存しますが、3日に1回実行してください。

Collaboration - Forum を負荷分散構成としている場合、`frmapddel` コマンド（添付ファイル削除）はシステムを構成しているどのマシンから実行してもかまいません。

`frmapddel` コマンド（添付ファイル削除）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmapddel`（添付ファイル削除）」を参照してください。

3.13 会議室のリストア

アーカイブファイルからデータベースに会議室を復元したい場合、**frmrest** コマンド（会議室リストア）を実行します。

会議室をデータベースに復元した場合、全文検索用の n-gram インデクスは、再度作成してください。全文検索用の n-gram インデクスの詳細は、「3.20 全文検索の準備」を参照してください。

この場合、**frmrest** コマンド（会議室リストア）を実行後、インデクス作成開始ユーティリティを実行してください。

frmrest コマンド（会議室リストア）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「**frmrest**（会議室リストア）」を参照してください。

3.14 会議室の復活

アーカイブ待ちの会議室を閉鎖中に復活したい場合は、`frmrev` コマンド（会議室復活）を使用します。

`frmrev` コマンド（会議室復活）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmrev`（会議室復活）」を参照してください。

3.15 会議室の検索

データベース内の会議室を検索したい場合は、`frmsrch` コマンド (会議室検索) を使用します。

`frmsrch` コマンド (会議室検索) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsrch` (会議室検索)」を参照してください。

3.16 会議室の期間延長

会議室の「開催期間 開始日」, 「開催期間 終了日」, および「参照期間 終了日」を延期したい場合は, `frmext` コマンド (会議室期間延長) を使用します。会議室の期間の詳細は, 「3.8.2 期間と会議室状態の遷移」を参照してください。

`frmext` コマンド (会議室期間延長) の詳細は, 「4.2 コマンドの詳細」の「`frmext` (会議室期間延長)」を参照してください。

3.17 会議室の所有者変更

コミュニティが途中で解散されてだれもアクセスできない個人（ユーザ自身）の会議室の会議室所有者を変更したい場合は、`frmchown` コマンド（会議室所有者変更）を使用します。

`frmchown` コマンド（会議室所有者変更）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmchown`（会議室所有者変更）」を参照してください。

3.18 発言のインポート・エクスポート

発言および添付ファイルを会議室に登録（インポート）する場合には、`frmimpopn` コマンド（発言のインポート）を使用します。

会議室に登録されている発言を出力（エクスポート）したい場合は、`frmexpopn` コマンド（発言のエクスポート）を使用します。

これらのコマンドを組み合わせることで、会議室に登録されている発言を出力し、内容を更新して会議室に議題または発言として新規登録できます。

`frmimpopn` コマンド（発言のインポート）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmimpopn`（発言のインポート）」を参照してください。`frmexpopn` コマンド（発言のエクスポート）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmexpopn`（発言のエクスポート）」を参照してください。

3.19 システムパラメタ変更

システムパラメタを変更したい場合は、`frmsys` コマンド (システムパラメタ変更) を使用します。

`frmsys` コマンド (システムパラメタ変更) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsys` (システムパラメタ変更)」を参照してください。

3.20 全文検索の準備

Collaboration - Forum では、議題または発言の主題、添付ファイルの内容、もしくは発言者の全文検索には、HiRDB Text Search Plug-in を使用します。

HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して n-gram インデクスを作成することで、データベースに保存された議題または発言の主題、添付ファイルの内容、もしくは発言者が検索できるようになります。

なお、テキスト抽出に使用している Document Filter for Text Search がサポートしている文書だけが検索対象になります。Document Filter for Text Search の詳細は、マニュアル「Document Filter for Text Search Version 3」を参照してください。

全文検索する場合には、HiRDB Text Search Plug-in を使用する前に、次の準備をしてください。

- 議題または発言の主題、本文、もしくは発言者に対する全文検索の準備
- 添付ファイルに対する全文検索の準備

なお、HiRDB Text Search Plug-in の設定は、「2.3.2(6) HiRDB Text Search Plug-in の設定」を参照してください。

3.20.1 議題または発言の主題、本文、もしくは発言者に対する全文検索の準備

(1) n-gram インデクスの作成

議題または発言の登録に応じて、HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して、n-gram インデクスを作成します。

インデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) の使用方法は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

インデクス作成開始ユーティリティのコマンド引数の指定方法を次に示します。

- **-d インデクス識別子**
インデクス登録対象となるインデクス識別子を指定します。idx_contents2 を指定してください。
- **-w 同時実行指定**
このユーティリティと検索処理を同時に実行するかどうか、またはこのユーティリティと遅延登録を同時に実行するかどうかを指定します。検索も同時に実行されるため、必ずnowait_with_update を指定してください。
- **-l ログ取得方式**
インデクス登録処理でのログ取得方式を指定します。登録・検索の同時実行モードで動作させるため、次のように指定してください。
 - バックアップ運用する場合
-l p
 - バックアップ運用しない場合
-l a

指定例

- バックアップ運用する場合
`phnstartidx -d idx_contents2 -l p -w nowait_with_update`
- バックアップ運用しない場合
`phnstartidx -d idx_contents2 -l a -w nowait_with_update`

3.20.2 添付ファイルに対する全文検索の準備

(1) 全文検索用のデータの登録

議題または発言に添付されたファイルを全文検索するためには、HiRDB Text Search Plug-in の全文検索用データ登録コマンド (TSPIndexer) を使用して、全文検索用のデータを登録します。

全文検索用データ登録コマンドの使用方法は、マニュアル「HiRDB Text Search Plug-in Index Generator」を参照してください。

(a) 注意事項

- 負荷分散構成として、データベースサーバを別マシンで構成した場合は、Collaboration - Forum が提供する制御情報ファイルを複製して使用してください。
- 制御情報ファイルは、次に示すファイルを使用してください。

Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_generator.txt

なお、Windows のメモ帳を使用してこのファイルを編集すると、ファイルを保存したときに、ファイルの先頭に「BOM」と呼ばれる制御コードが自動的に挿入されてしまいます。このため、Windows のメモ帳で編集したファイルを使用すると、エラーになる場合があります。ファイルを変更する場合は、必ず Windows のメモ帳以外のテキストエディタを使用してください。

また、次の項目はユーザ環境に合わせて変更してください。

- 認可識別子
- エラー情報出力先のパスとファイル
- HiRDB のバージョン
- Collaboration - Forum は、データベースを含めデータの文字コードとして UTF-8 を前提としているため、全文検索用データ登録コマンドのオプションとして、「-c utf-8」を指定してください。

(2) n-gram インデクスの作成

全文検索用のデータに対して、HiRDB Text Search Plug-in のインデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) を使用して、n-gram インデクスを作成します。

インデクス作成開始ユーティリティ (phnstartidx) の使用方法は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

インデクス作成開始ユーティリティのコマンド引数の指定方法を次に示します。

- -d インデクス識別子
 インデクス登録対象となるインデクス識別子を指定します。idx_apdfi le2 を指定してください。
- -w 同時実行指定

このユティリティと検索処理を同時に実行するかどうか、またはこのユティリティと遅延登録を同時に実行するかどうかを指定します。検索も同時に実行されるため、必ず `nowait_with_update` を指定してください。

- **-l ログ取得方式**

インデクス登録処理でのログ取得方式を指定します。登録・検索の同時実行モードで動作させるため、次のように指定してください。

- バックアップ運用する場合
 - l p
- バックアップ運用しない場合
 - l a

指定例

- バックアップ運用する場合


```
phnstartidx -d idx_apdfile2 -l p -w nowait_with_update
```
- バックアップ運用しない場合


```
phnstartidx -d idx_apdfile2 -l a -w nowait_with_update
```

注意事項

全文検索用データ登録コマンドとインデクス作成開始ユティリティは同時に実行しないでください。

3.20.3 システムの負荷軽減と実行頻度

n-gram インデクスの作成と全文検索用のデータ登録は、データ量に依存してその負荷が高くなります。このため、議題または発言の主題と本文に対する全文検索の準備 (n-gram インデクスの作成) と、添付ファイルに対する全文検索の準備 (全文検索用のデータの登録、および n-gram インデクスの作成) は、別々の時間帯に実行してください。

n-gram インデクスの作成と全文検索用のデータ登録のときに実行するユティリティおよびコマンドを次に示します。

- インデクス作成開始ユティリティ (phnstartidx)
- 全文検索用データ登録コマンド (TSPIndexer)

議題または発言の主題と本文に対する全文検索の準備と、添付ファイルに対する全文検索の準備実行頻度を次に示します。ただし、これらの準備は Collaboration - Forum の利用頻度に依存します。

- 議題または発言の主題と本文に対する全文検索の準備
 - メール配信の頻度と同程度に実行してください。
- 添付ファイルに対する全文検索の準備
 - 1日に1回を目安に実行してください。

3.21 個人（ユーザ自身）の会議室の利用の抑止

電子会議室には、次に示す 2 種類の会議室があります。

- コミュニティに属する会議室
- 個人（ユーザ自身）の会議室

コミュニティに属する会議室の利用機会が多く、コミュニティでの使用に限定したい場合、個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止できます。

3.21.1 個人（ユーザ自身）の会議室の利用可否の決定

個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止するかどうかは、システム管理者が決定してください。ユーザ単位に個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止するかどうかは設定できません。

- 個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止しない場合
個人（ユーザ自身）の会議室を利用できます。
- 個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止した場合
個人（ユーザ自身）のワークスペースで [電子会議室] ポートレットを表示すると、個人（ユーザ自身）の会議室の利用抑止を示す画面が表示され、一切の操作が実行できません。

なお、運用中のシステムで、途中から個人（ユーザ自身）の会議室の利用抑止の設定を変更する運用はお勧めしません。

3.21.2 個人（ユーザ自身）の会議室の利用抑止の設定方法

個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止する場合、または利用の抑止を解除する場合、システム管理者は、定義ファイル (`hptl_clb_cfr_command.properties`) の `def_denialpersonalroom` プロパティの値を変更し、`frmsys` コマンド（システムパラメタ変更）で設定情報を反映する必要があります。

`def_denialpersonalroom` プロパティの詳細は、「2.3.8(14)(s) 個人（ユーザ自身）の会議室の利用状態 (`def_denialpersonalroom`)」を参照してください。また、`frmsys` コマンド（システムパラメタ変更）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsys`（システムパラメタ変更）」を参照してください。

(1) 運用途中で利用を抑止する場合の注意事項

運用中のシステムで、途中から個人（ユーザ自身）の会議室の利用を抑止する場合の注意事項を次に示します。

- すでに作成されている個人（ユーザ自身）の会議室情報を参照できなくなります。このため、事前に利用者に連絡し、必要に応じて議事録を作成して保存するなど、必要な情報を退避しておく運用をお勧めします。
- 会議室の利用を抑止するように変更する場合、`hptl_clb_cfr_statechange_personalroom.sql` を実行する必要があります。`hptl_clb_cfr_statechange_personalroom.sql` を実行すると、すべての個人（ユーザ自身）の会議室がアーカイブ待ち、または削除待ちに変更されます。このため、`frmarch` コマンド（会議室アーカイブ）、および `frmdel` コマンド（会議室削除）を実行し、個人（ユーザ自身）の会議室の情報を削除することをお勧めします。なお、`frmrev` コマンド（会議室復活）および `frmreopn` コマンド（会議室強制再開）は実行しないでください。
- 利用を抑止する前に出力したアーカイブファイルを使用して、`frmrest` コマンド（会議室リストア）による個人（ユーザ自身）の会議室の復元をしないでください。

なお、各コマンドの詳細は、次の個所を参照してください。

- `frmarch` コマンド (会議室アーカイブ) の詳細
「4.2 コマンドの詳細」の「`frmarch` (会議室アーカイブ)」
- `frmdel` コマンド (会議室削除) の詳細
「4.2 コマンドの詳細」の「`frmdel` (会議室削除)」
- `frmrest` コマンド (会議室リストア) の詳細
「4.2 コマンドの詳細」の「`frmrest` (会議室リストア)」
- `frmreopn` コマンド (会議室強制再開) の詳細
「4.2 コマンドの詳細」の「`frmreopn` (会議室強制再開)」

3.21.3 コミュニティ解散時の注意事項

個人 (ユーザ自身) の会議室の利用を抑止しているシステムで、コミュニティを解散すると、該当するコミュニティで作成された会議室情報は、参照できなくなります。このため、事前に議事録を作成して保存するなど、必要な情報を退避しておく運用をお勧めします。

3.22 メッセージキューの参照

メッセージキューに格納されているメッセージを表示したい場合は、`frmqueview` コマンド (メッセージキューの参照) を使用します。

`frmqueview` コマンド (メッセージキューの参照) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmqueview` (メッセージキューの参照)」を参照してください。

3.23 メッセージキューの削除

メッセージキューに格納されているメッセージを削除したい場合は、`frmquedel` コマンド (メッセージキューの削除) を使用します。

`frmquedel` コマンド (メッセージキューの削除) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmquedel` (メッセージキューの削除)」を参照してください。

4

Collaboration - Forum のコマンド

この章では, Collaboration - Forum のコマンドについて説明します。

4.1 コマンド一覧

Collaboration - Forum のコマンドを次の表に示します。

表 4-1 Collaboration - Forum のコマンド一覧

項番	コマンド名	機能概要
1	frmappedel (添付ファイル削除)	議題または発言と関連づけられていない添付ファイルをデータベースから削除します。
2	frmarch (会議室アーカイブ)	会議室をアーカイブファイルおよびアーカイブ情報ファイルに出力します。
3	frmchown (会議室所有者変更)	個人 (ユーザ自身) の会議室の会議室所有者を変更します。
4	frmchstat (会議室状態変更)	会議室の準備期間, 開催期間, および参照期間の日付をチェックし, 会議室の状態を変更します。
5	frmcmdsetup (セットアップ)	各コマンドの起動バッチファイルを生成します。
6	frmdel (会議室削除)	会議室をデータベースから削除します。
7	frmexpopn (発言のエクスポート)	会議室の発言をエクスポートします。
8	frmext (会議室期間延長)	会議室の「開催期間 開始日」, 「開催期間 終了日」, および「参照期間 終了日」を延期します。
9	frmimpopn (発言のインポート)	会議室の発言をインポートします。
10	frminfomail (お知らせメール配信)	メッセージキューに登録されているメッセージを配信します。
11	frmopnmail (メール配信)	作成された議題または発言に対して, メール配信を希望したユーザに発言メールを送信します。 強制的にメールを配信する設定をしている場合は, 作成された議題または発言の内容を, 会議室に参加している参照権限のあるユーザ全員に送信します。
12	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)	メールによって投稿された議題または発言を会議室に登録します。
13	frmquedel (メッセージキューの削除)	メッセージキューからメッセージを削除します。
14	frmqueview (メッセージキューの参照)	メッセージキューに登録されているメッセージを表示します。
15	frmreopn (会議室強制再開)	開催期間が過ぎて閉鎖中になっている会議室について, 指定した日付まで「開催期間 終了日」を延期し, 会議室の状態を会議中に戻します。
16	frmrest (会議室リストア)	アーカイブファイルから会議室を復元します。
17	frmrev (会議室復活)	アーカイブ待ちの会議室を閉鎖中に復活します。
18	frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)	会議室の状態が変更されることを通知するための情報を, メッセージキューに登録します。会議室の開催期間終了日, および参照期間終了日を事前に通知します。

項番	コマンド名	機能概要
19	frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)	会議室の開催を通知するための情報を、メッセージキューに登録します。
20	frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)	回答期限を通知するための情報を、メッセージキューに登録します。
21	frmsrch (会議室検索)	データベース上にある会議室を検索します。
22	frmsys (システムパラメタ変更)	システムパラメタを変更します。

4.2 コマンドの詳細

frmapddel (添付ファイル削除)

形式

frmapddel

機能

不要な添付ファイルを削除します。

議題または発言にファイルを添付する場合、強制終了などで議題または発言を登録する前に操作を中断すると、添付ファイルだけがデータベースに登録されます（添付ファイルは議題または発言と関連づけられていない状態で、データベースに登録されたままになります）。このような添付ファイルをデータベースから削除します。

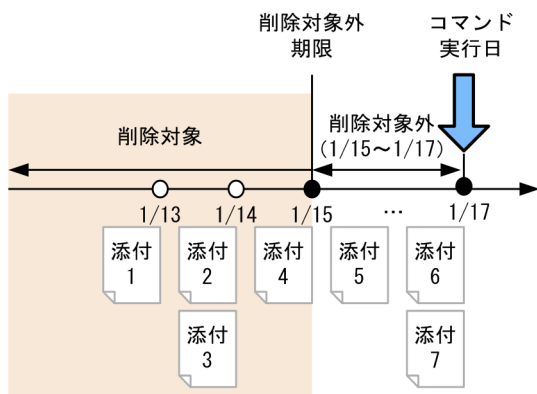
削除する添付ファイルを次に示します。

- 添付ファイルがデータベースに追加された日付が、frmapddel コマンド（添付ファイル削除）実行日より3日以前になっている。

添付ファイルの削除対象を次の図に示します。

図 4-1 添付ファイルの削除対象

- 1/17にfrmapddelを実行した場合の例



オプション

なし。

注意事項

- 削除する添付ファイルが複数ある場合、削除処理の結果は次のようになります。
エラーが発生しなかった添付ファイル：添付ファイルは削除されます。
エラーが発生した添付ファイル：添付ファイルは削除されません。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmapddel.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。

- コマンド実行中の障害
- コマンド実行中の強制終了
- コマンド実行中の OutOfMemory エラー
- コマンドの二重起動

戻り値

0	添付ファイルの削除に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべての添付ファイルの削除に失敗した。
2	削除する添付ファイルが複数あった場合に、一つ以上の添付ファイルの削除に失敗した。

使用例

議題または発言と関連づけられていない添付ファイルをデータベースから削除します。

```
> frmapddel
```

frmarch (会議室アーカイブ)

形式

```
frmarch [ -fid 会議室ID [ -f ] ] [ -d 出力ディレクトリ名 ]
```

機能

最上位会議室単位にその子会議室も含めてアーカイブファイル, およびアーカイブ情報ファイルに出力します。

オプションをすべて省略した場合, アーカイブ待ちのすべての会議室をカレントディレクトリ直下のファイルに出力します。

なお, ファイルに出力した会議室は, 削除待ちになります。

オプション

-fid 会議室 ID

ファイルに出力する最上位会議室の会議室 ID を指定します。

-f オプションを同時に指定するかどうかによって, ファイルに出力する会議室が異なります。

なお, **-f** オプションを指定する場合, このオプションも同時に指定してください。

このオプションを省略した場合, アーカイブ待ちのすべての会議室をファイルに出力します。

-f

-fid オプションで指定した会議室を, 会議室の状態に関係なく, 強制的にファイルに出力する場合に指定します。

-fid オプションを指定してこのオプションを省略した場合、指定したアーカイブ待ちの会議室をファイルに出力します。

このオプションを指定する場合、-fid オプションも同時に指定してください。

-d 出力ディレクトリ名

カレントディレクトリと異なるディレクトリの直下に会議室を出力する場合に、そのディレクトリの名称を、相対パスまたは絶対パスで指定します。

このオプションを省略した場合、カレントディレクトリ直下のファイルに会議室を出力します。

注意事項

- アーカイブファイルおよびアーカイブ情報ファイルに出力する会議室が複数ある場合、アーカイブ処理の結果は次のようになります。
エラーが発生しなかった会議室：アーカイブファイル、およびアーカイブ情報ファイルに出力されます。
エラーが発生した会議室：アーカイブファイル、およびアーカイブ情報ファイルに出力されません。
- 出力ディレクトリに出力アーカイブファイル名（または出力アーカイブ情報ファイル名）と同じ名前のアーカイブファイル（またはアーカイブ情報ファイル）がすでに存在している場合、エラーメッセージを表示しその会議室はファイルに出力されません。
- -f オプションを指定して強制的に会議室をアーカイブファイル、およびアーカイブ情報ファイルに出力した場合、どの状態の会議室でも削除待ちに遷移します。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmarch.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- 準備中および削除待ちの会議室は、-f オプションで指定してもアーカイブされません。

戻り値

0	会議室のファイルへの出力に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべての会議室のファイルへの出力に失敗した。
2	ファイルに出力する会議室が複数あった場合に、一つ以上の会議室のファイルへの出力に失敗した。

出力ファイル

コマンド実行時には、会議室情報を表すアーカイブファイルおよびアーカイブ情報を表すアーカイブ情報ファイルを出力します。

- アーカイブファイル

ファイル名は「メイン会議室 ID」+「-」+「年 (4桁)」+「月 (2桁)」+「日 (2桁)」+「.dat」形式となります。なお、年月日は実行マシンのコマンドを実行した時点の日付になります。アーカイブファイル名の形式を次の例に示します。

(例)

メイン会議室 ID が 1025, 年月日が 2006 年 5 月 11 日の場合 : 1025-20060511.dat

- アーカイブ情報ファイル

ファイル名は「メイン会議室 ID」+「-」+「年 (4桁)」+「月 (2桁)」+「日 (2桁)」+「.txt」形式となります。なお、年月日は実行マシンのコマンドを実行した時点の日付になります。アーカイブ情報ファイル名の形式を次の例に示します。

(例)

メイン会議室 ID が 1025, 年月日が 2006 年 5 月 11 日の場合 : 1025-20060511.txt

使用例

会議室 ID (1001) の会議室を出力先ディレクトリのアーカイブファイル, およびアーカイブ情報ファイルに出力します。

```
> frmarch -fid 1001 -d d:%forum%archive
```

frmchown (会議室所有者変更)

形式

```
frmchown -fid 会議室ID -uid ユーザID
```

機能

個人 (ユーザ自身) の会議室の会議室所有者を変更できます。

会議室所有者を変更できることによって, コミュニティが途中で解散されたり, 兼任設定を変更したりして, だれもアクセスできない個人 (ユーザ自身) の会議室が発生した場合でも, 会議室所有者を変更することによってアクセスできます。

オプション

-fid 会議室 ID

会議室所有者を変更する個人会議室 ID を指定します。

-uid ユーザ ID

変更する会議室所有者のユーザ ID を指定します。ユーザ ID は大文字と小文字を区別して指定してください。また, ユーザ ID には, 次に示す文字を指定しないでください。

- 「"」
- 「'」
- 「<」
- 「>」
- 「&」
- 「¥」

注意事項

- 指定したユーザが会議室に存在する場合、全権限を付与して会議室所有者とします。
- 指定したユーザが会議室に存在しない場合、指定したユーザを会議室に追加し、全権限を付与して会議室所有者とします。
- コミュニティに属する会議室の会議室所有者は変更できません。コミュニティに属する会議室の会議室所有者を変更する場合は、[会議室編集] 画面から実行します。[会議室編集] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。
- 兼任機能を使用している場合に、`-uid` オプションに兼任ユーザのユーザ ID を指定していると、エラーメッセージが出力されてこのコマンドは終了します。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ`¥clb_home¥bin` 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「`frmchown.lock`」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- ユーザ名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語」を参照してください。

戻り値

0	会議室所有者の変更に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	会議室所有者の変更に失敗した。

使用例

会議室 ID (1025) の個人 (ユーザ自身) の会議室の会議室所有者をユーザ ID (2025) のユーザに変更します。

```
> frmchown -fid 1025 -uid 2025
```

frmchstat (会議室状態変更)

形式

frmchstat

機能

会議室の準備期間、開催期間、および参照期間の日付をチェックし、会議室の状態を変更します。

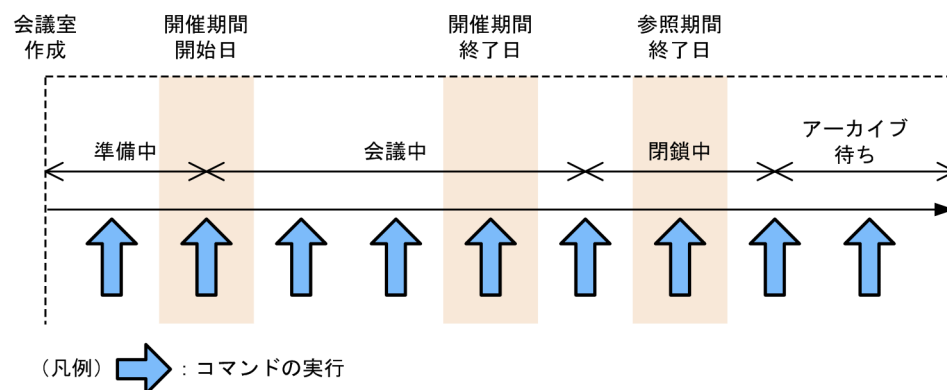
frmchstat コマンド (会議室状態変更) の実行によって遷移する状態を次の表に示します。

表 4-2 frmchstat コマンド (会議室状態変更) の実行によって遷移する状態

コマンド実行前の状態	コマンド実行後の状態
準備中	会議中
会議中	閉鎖中
閉鎖中	アーカイブ待ち
参照のみ	削除待ち

状態の遷移例を次の図に示します。

図 4-2 状態の遷移例



オプション

なし。

注意事項

- 複数の会議室の状態を変更する場合、状態変更処理の結果は次のようになります。
 - エラーが発生しなかった会議室：会議室の状態は変更されます。
 - エラーが発生した会議室：会議室の状態は変更されません。
- 親会議室が閉鎖中および子会議室が準備中の場合、子会議室が開催期間 開始日になったとき、子会議室の状態は閉鎖中 (準備中→会議中→閉鎖中) まで遷移します (親会議室が閉鎖中であるので、子会議室は会議中にできません)。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmchstat.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動

戻り値

0	会議室の状態変更成功した。
---	---------------

0	コマンドを二重起動した。
1	すべての会議室の状態変更失敗した。
2	状態を変更する会議室が複数あった場合に、一つ以上の会議室の状態変更失敗した。

使用例

会議室の準備期間、開催期間、および参照期間の日付をチェックし、会議室の状態を変更します。

```
> frmchstat
```

frmcmdsetup (セットアップ)

形式

frmcmdsetup

機能

Collaboration - Forum がインストールされた環境で、Collaboration - Forum が提供する各コマンドの起動ファイル (バッチファイル) を生成します。なお、各コマンドの起動ファイルはセットアップコマンド実行時のカレントディレクトリに生成されます。通常、このコマンドはインストール直後に一度だけ実行します。

前提プログラムを含め、インストールされた環境が不正な場合、起動ファイルは生成されません。

このコマンドの実行、およびこのコマンドで生成した起動ファイル (バッチファイル) の実行には、管理者権限が必要です。管理者権限のコマンドプロンプトから実行してください。

オプション

なし。

注意事項

- すでに起動ファイルが生成されている場合も、このコマンドによって上書きされます。
- 途中でエラーが発生しても、エラー発生までに作成されたファイルは削除されません。
- デジタル署名に関する注意事項は次のとおりです。
 - デジタル署名付与時の説明 (コントロール名) は、「Collaboration - Forum」です。この説明 (コントロール名) は、OS の [ユーザーアカウント制御] ダイアログで確認できます。
 - デジタル署名付与時の発行元は、「Hitachi, Ltd.」です。この発行元は、OS の [ユーザーアカウント制御] ダイアログで確認できます。
 - デジタル署名の付与に加え、マニフェストファイルを付与した場合でも、OS の仕様によって管理者権限へ昇格する際には、OS の [ユーザーアカウント制御] ダイアログが表示されます。

戻り値

なし。

使用例

Collaboration - Forum が提供する各コマンドの起動ファイル (バッチファイル) を生成します。

> frmcmdsetup

frmdel (会議室削除)

形式

```
frmdel [ -fid 会議室ID [ -f ] ]
```

機能

会議室をデータベースから削除します。

削除する会議室に下位会議室が存在する場合、下位会議室も含めてデータベースから削除します。

オプションを省略した場合、削除待ちのすべての会議室を削除します。

オプション

-fid 会議室 ID

削除する会議室の会議室 ID を指定します。

-f オプションを同時に指定するかどうかによって、削除できる会議室が異なります。

なお、**-f** オプションを指定する場合、このオプションも同時に指定してください。

-f

指定した会議室を、会議室の状態に関係なく、強制的にデータベースから削除する場合に指定します。

-fid オプションを指定してこのオプションを省略した場合、指定した削除待ちの会議室を削除します。

このオプションを指定する場合、**-fid** オプションも同時に指定してください。

注意事項

- 削除する会議室が複数ある場合、削除処理の結果は次のようになります。
 - エラーが発生しなかった会議室：会議室は削除されます。
 - エラーが発生した会議室：会議室は削除されません。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmdel.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動

戻り値

0	会議室の削除に成功した。
	コマンドを二重起動した。

1	すべての会議室の削除に失敗した。
2	削除する会議室が複数あった場合に、一つ以上の会議室の削除に失敗した。

使用例

削除待ちのすべての会議室をデータベースから削除します。

```
> frmdel
```

frmexpopn (発言のエクスポート)

形式

形式 1

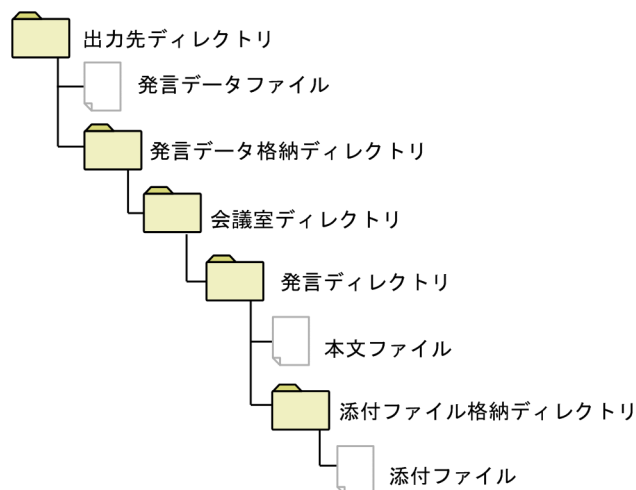
```
frmexpopn
[ -d 出力先ディレクトリパス ]
[ -fid 会議室ID [ -opnid 発言ID ] ]
[ -startdate 期間(開始日付) ]
[ -enddate 期間(終了日付) ]
[ -e url ]
[ -c { win-31j | utf-8 } ]
```

形式 2

```
frmexpopn
[ -d 出力先ディレクトリパス ]
{ -list forum | -list permission [ -fid 会議室ID ] | -list [ opinion | attribute | importance |
state ] -fid 会議室ID }
[ -c { win-31j | utf-8 } ]
```

機能

会議室に登録されている発言を次に示す構成で出力します。



オプション

-d 出力先ディレクトリパス

エクスポートしたファイルの出力先となるディレクトリを相対パスまたは絶対パスで指定します。このオプションを省略した場合は、コマンドを実行したディレクトリに出力されます。

出力先ディレクトリパスは 255 文字以内で指定します。オプションは大文字・小文字が区別されます。出力先ディレクトリパスは、階層構造の最下層に位置する添付ファイル名を含めて 255 文字以内となるよう指定してください。

次のどちらかの場合はエラーとなります。

- 出力先ディレクトリパスが指定されていない場合
- 出力先ディレクトリパスが 255 文字を超える場合

-fid 会議室 ID

出力する会議室の会議室 ID を指定します。このオプションを省略した場合は、すべての会議室が対象となります。会議室 ID は 1~2,147,483,647 の整数で指定します。オプションは大文字・小文字が区別されません。

次のどれかの場合はエラーとなります。

- 会議室 ID が指定されていない場合
- 会議室 ID が整数以外の場合
- 会議室 ID が指定できる範囲を超えている場合

-opnid 発言 ID

出力する発言 ID を 1~2,147,483,647 の整数で指定します。指定した発言 ID とその下にあるすべての発言が出力対象となります。このオプションを指定した場合は、**-fid** オプションを指定する必要があります。オプションは大文字・小文字が区別されます。

このオプションを省略した場合は、すべての発言が対象となります。

次のどれかの場合はエラーとなります。

- 発言 ID が指定されていない場合
- 発言 ID が整数以外の場合
- 発言 ID が指定できる範囲を超えている場合

-startdate 期間(開始日付)

発言の出力対象とする期間の開始日付を「yyyy/MM/ddTHH:mm:ss」形式で指定します。コマンド実行日時以前の日付を指定してください。指定できる日付の範囲は 1970/1/1T00:00:00~9999/12/31T23:59:59 です。オプションは大文字・小文字が区別されます。

日付の指定方法は次のとおりです。

項目	意味	指定値の範囲	備考
yyyy	年 (西暦)	1970~9999	—
MM	月	01~12	01~09 を指定する場合、十の位の「0」を省略できます。
dd	日	01~31	
T	[yyyy/MM/dd] と時刻 [HH:mm:ss] の区切り文字		—
HH	時	00~23	0~9 を指定する場合、十の位の「0」は省略できません。

項目	意味	指定値の範囲	備考
<i>mm</i>	分	00~59	0~9 を指定する場合、十の位の「0」は省略できません。
<i>ss</i>	秒	00~59	

(凡例)

— : 該当なし

「*THH:mm:ss*」は省略できます。省略すると「T00:00:00」が仮定されます。

エクスポートされる発言の対象範囲は、**-enddate** オプション (終了日付) との組み合わせによって、次の表のようになります。

-startdate オプションの指定 有無		-enddate オプション	
		指定あり	指定なし
-startdate オプション	指定あり	「-startdate オプションで指定した日時 ≤ 発言の更新日時 ≤ -enddate オプションで指定した日時」を満たす発言	「-startdate オプションで指定した日時 ≤ 発言テーブルの更新日時」を満たす発言
	指定なし	「発言の更新日時 ≤ -enddate オプションで指定した日時」を満たす発言	すべての発言

次のどれかの場合はエラーとなります。

- 期間 (開始日付) が指定されていない場合
- 期間 (開始日付) が不正な場合
- 期間 (開始日付) がコマンドの実行日時よりあとの日時になっている場合

-enddate 期間(終了日付)

発言の出力対象とする期間の終了日付を「*yyyy/MM/ddTHH:mm:ss*」形式で指定します。コマンド実行当日以前の日付を指定してください。指定できる日付の範囲は 1970/1/1T00:00:00~9999/12/31T23:59:59 です。

日付の指定方法は、**-startdate** オプションの日付の指定方法と同じです。オプションは大文字・小文字が区別されます。

エクスポートされる発言の対象は**-startdate** オプションの指定有無によって異なります。**-startdate** オプションの組み合わせ表を参照してください。

-e url

[議題参照] 画面, または [発言参照] 画面を表示する URL を出力する場合に指定します。出力した URL は uCosminexus Enterprise Search と連携した議題および発言の全文検索時に使用されます。

オプションは大文字・小文字が区別されます。

このオプションを省略した場合は、[議題参照] 画面, または [発言参照] 画面を表示する URL は出力されません。

次のどちらかの場合はエラーとなります。

- 「url」が指定されていない場合

- 「url」以外の値が指定された場合

`-c { win-31j | utf-8 }`

ファイル書き込み時の文字コードセットを次のどちらかで指定します。

- win-31j
文字コードセットを「Windows-31J」としてファイルを書き込む場合に指定します。
- utf-8
文字コードセットを「UTF-8」としてファイルを書き込む場合に指定します。

指定した文字コードセットで書き込むファイルは次のとおりです。

- 発言データファイル
- 本文ファイル
- 会議室一覧ファイル
- アクセス権一覧ファイル
- 発言一覧ファイル
- 属性一覧ファイル
- 重要度一覧ファイル
- 議論状態一覧ファイル

オプションと文字コードセットの大文字・小文字は区別されます。`-c` オプションを省略した場合は「win-31j」が仮定されます。

次のどちらかの場合はエラーとなります。

- 文字コードセットが指定されていない場合
- 文字コードセットとして win-31j・utf-8 以外の値が指定された場合

`-list forum | -list permission [-fid 会議室 ID] | -list [opinion | attribute | importance | state] -fid 会議室 ID`

一覧情報（会議室一覧ファイル、アクセス権一覧ファイル、発言一覧ファイル、属性一覧ファイル、重要度一覧ファイル、議論状態一覧ファイル）を出力する場合に指定します。

オプションの指定値と出力ファイルの関係を次の表に示します。

出力ファイル	-list オプション							指定なし
	指定あり							
	値なし	forum	permission	opinion	attribute	importance	state	
会議室一覧ファイル	—	○	—	—	—	—	—	—
アクセス権一覧ファイル	—	—	○	—	—	—	—	—

出力ファイル	-list オプション							
	指定あり							指定なし
	値なし	forum	permission	opinion	attribute	importance	state	
発言一覧ファイル	○	-	-	○	-	-	-	-
属性一覧ファイル	○	-	-	-	○	-	-	-
重要度一覧ファイル	○	-	-	-	-	○	-	-
議論状態一覧ファイル	○	-	-	-	-	-	○	-
発言データファイル	-	-	-	-	-	-	-	○
本文ファイル	-	-	-	-	-	-	-	○
添付ファイル	-	-	-	-	-	-	-	○

(凡例)

- ：出力する
- ：出力しない

オプションは大文字・小文字が区別されます。オプションの値に forum, permission, opinion, attribute, importance, state 以外を指定した場合はエラーとなります。-list オプションとほかのオプションの指定の関係を次の表に示します。

-list オプション以外のオプション	-list オプション							
	指定あり							指定なし
	値なし	forum	permission	opinion	attribute	importance	state	
-fid オプション	○	×	△	○	○	○	○	△
-opnid オプション	×	×	×	×	×	×	×	△
-startdate オプション	×	×	×	×	×	×	×	△
-enddate オプション	×	×	×	×	×	×	×	△
-c オプション	△	△	△	△	△	△	△	△

(凡例)

- ：必ず指定する
- △：任意で指定する

×：指定できない

-fid オプションについては、「-fid 会議室 ID」を参照してください。

出力ファイルの形式

次に示すファイルをエクスポートすると、ファイルの 1 行目にヘッダが出力されます。各ファイルのヘッダの内容については、「付録」 frmimpopn コマンド（発言のインポート）・frmexpopn コマンド（発言のエクスポート）で使用するファイル」を参照してください。

- 発言データファイル
- 会議室一覧ファイル
- アクセス権一覧ファイル
- 発言一覧ファイル
- 属性一覧ファイル
- 重要度一覧ファイル
- 議論状態一覧ファイル

-e オプションを指定した場合の発言データファイルの例を次に示します。#で始まる行がヘッダです。

```
#"会議室 ID","会議室名","発言 ID","登録発言 ID","主題","ユーザ ID","ユーザ名","ユーザ名(英語)","属性 ID","属性名","重要度 ID","重要度名","議論状態 ID","議論状態名","階層レベル","上位発言","下位開始発言 ID","下位終了発言 ID","前発言 ID","後発言 ID","最上位発言 ID","回答責任者のユーザ ID","回答責任者のユーザ名","回答責任者のユーザ名(英語)","添付ファイル有無","有効期限","回答期限","発言日時","発言参照 URL"
"556","業務改善プロジェクト会議室","2","1","業務改善案","123456789","日立太郎","TaroHitachi","190","情報","10","普通","10","未決","0","0","0","0","0","0","2","987654321","日立三郎","Saburo Hitachi","0","","2010/03/31","2010/03/27T17:55:00","http://collabo/Portal/portal/action/Plain/portlet/hptlclbcbfr/url/RnJDb21tZW50UmVmZXJlbnNlVXJsU2VydmdxldA==?hptl_clb_frm_fid=556&hptl_clb_frm_opnid=2&hptl_clb_frm_comid=COM000000001&hptl_clb_frm_workid=WPL00001&hptl_clb_frm_checkid=e2ce136c4ea0b745133890f62ebd85e3"
```

注意事項

- このコマンドは処理の成功・失敗に関係なく、システムパラメタの hptl_clb_cfr_opinion_message_count に設定されている件数分の発言を処理するたびに、メッセージ KDCN12009-I を標準出力に出力します。メッセージ出力後もコマンドの処理は続行されます。
- 次に示す場合は「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー

戻り値

0	発言のエクスポートに成功した。
1	発言のエクスポートに失敗した。

使用例

会議室 ID 「101」 の発言をディレクトリ 「C:¥Temp」 へエクスポートします。

```
> frmexpopn -d C:¥Temp -fid 101
```

frmext (会議室期間延長)

形式

```
frmext -fid 会議室ID -date 日付
```

機能

会議室の「開催期間 開始日」、「開催期間 終了日」、および「参照期間 終了日」を延期します。なお、期間の短縮は画面から操作してください。

frmext コマンド (会議室期間延長) の実行日の会議室状態によって、延期対象となる日が異なります。frmext コマンド (会議室期間延長) の実行日の会議室状態と、延期対象日の関係を次の表に示します。

表 4-3 会議室状態と延期対象日

コマンド実行日の会議室状態	延期対象日
準備中	開催期間 開始日が延期される (準備期間が延長される)。
会議中	開催期間 終了日が延期される (開催期間が延長される)。
閉鎖中または参照のみ	参照期間 終了日が延期される (参照期間が延長される)。

子会議室の「開催期間 終了日」と「参照期間 終了日」を延期する場合、親会議室の対応する日付よりも未来の日付に変更できません。ただし、「開催期間 開始日」は、親会議室の開催期間内で延期できます。

日付が延期された日数分、変更された日付以降の日付も延期されます。例えば、「開催期間 開始日」を3日分延期した場合には、「開催期間 終了日」と「参照期間 終了日」も3日分延期されます。ただし、この場合準備期間は3日延長されますが、開催期間と参照期間の長さは変わりません。

「開催期間 開始日」、「開催期間 終了日」、「参照期間 終了日」を、3日分延期した場合の例を次の図に示します。また、延期した日付と連鎖して延期される日付を次の表に示します。

図 4-3 「開催期間 開始日」を3日分延期した場合の例

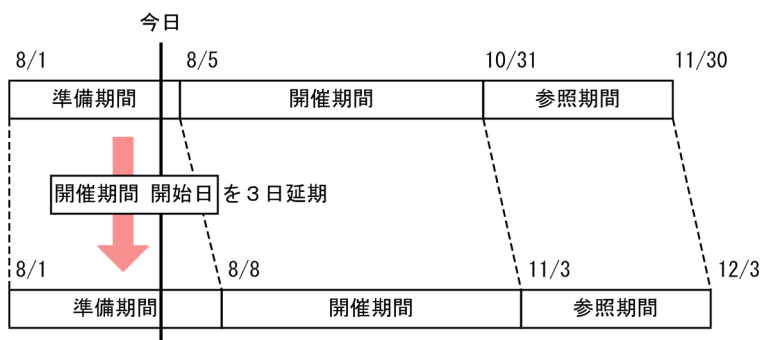


図 4-4 「開催期間 終了日」を 3 日分延期した場合の例

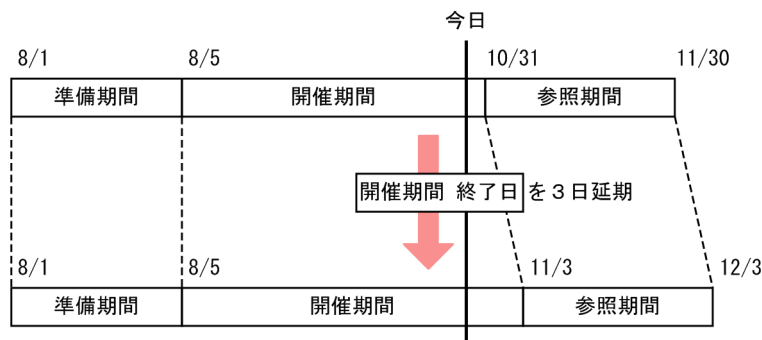


図 4-5 「参照期間 終了日」を 3 日分延期した場合の例

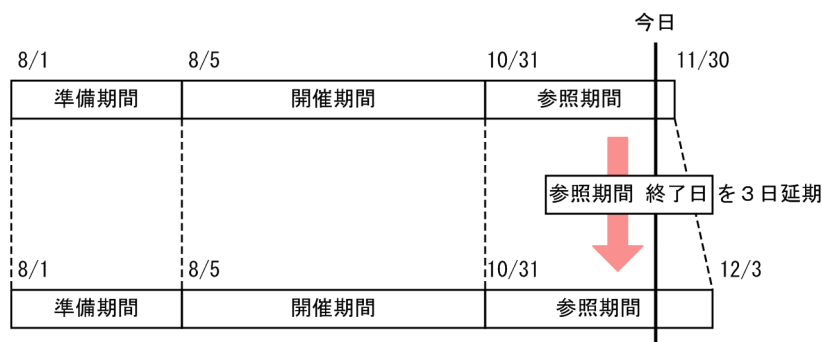
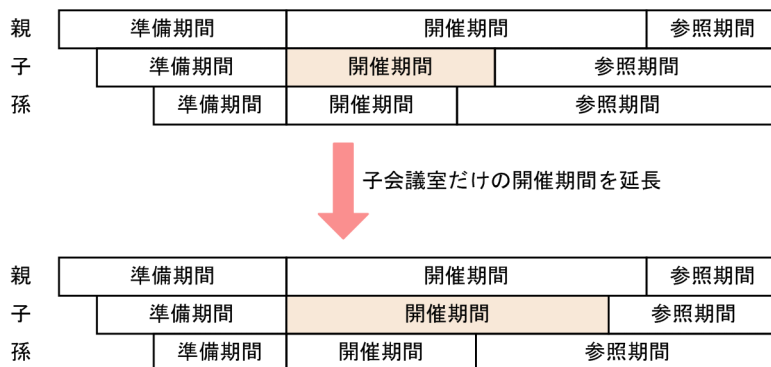


表 4-4 延期した日付と連鎖して延期される日付

延期した日付	連鎖して延期される日付
開催期間 開始日	開催期間 終了日, 参照期間 終了日
開催期間 終了日	参照期間 終了日
参照期間 終了日	なし

指定した会議室だけ日付を延期します。子会議室だけの開催期間を延長した場合の例を次の図に示します。

図 4-6 子会議室だけの開催期間を延長した場合の例

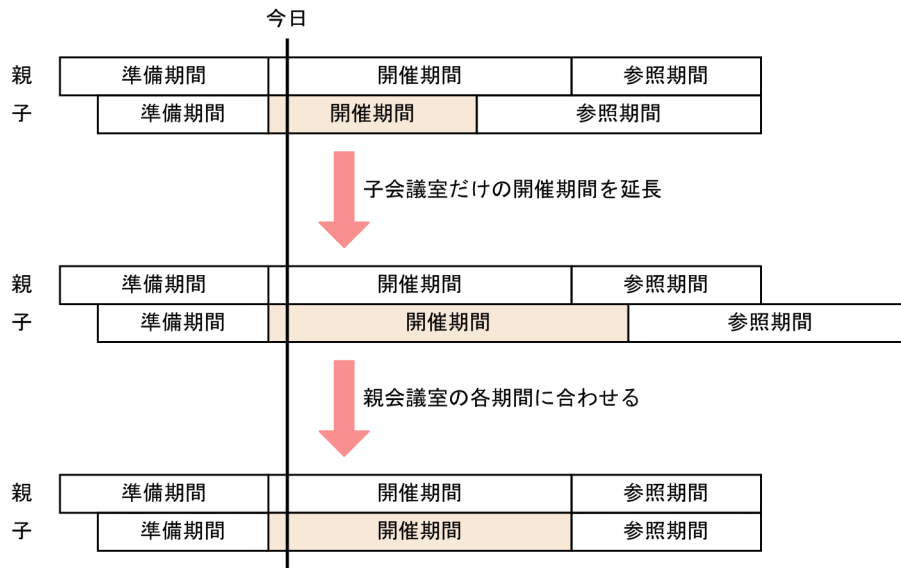


最上位会議室でなければ、延期させたい会議室の対象日付が一つ上位の会議室の対象日付を超えないような範囲で日付を設定します。一つ上位の会議室の対象日付よりも未来の日付が指定された場合には、ワーニン

グメッセージを表示して、一つ上位の会議室の対象日付が設定されます。ただし、準備中である場合には、親会議室の開催期間 終了日まで延期できます。

次の図は親会議室の開催期間を超えてしまうような指定をした場合の例です。図の状況では、子会議室の開催期間を延長したことによって、子会議室の参照期間が親会議室の参照期間を超えるような状況が起きている。このとき、日付は、開催期間と参照期間の両方も親会議室の日付とあわせるように設定されます。

図 4-7 親会議室の期間を超えてしまうような指定をした場合



オプション

`-fid` 会議室 ID

期間を延長する会議室の会議室 ID を指定します。

`-date` 日付

期間を延長する場合、新たに設定する日付を指定します。

日付は、yyyyMMdd の形式で指定します。yyyy は西暦、MM は月、dd は日を示します。

延期対象日より未来の日付を指定してください。

注意事項

- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmext.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動

戻り値

0	会議室の期間延長に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	会議室の期間延長に失敗した。

使用例

会議室 ID (0025) の会議室の日付を延期します。

```
> frmext -fid 25 -date 20061001
```

frmimpopn (発言のインポート)

形式

```
frmimpopn -i 入力元ファイルパス [ -c { win-31j | utf-8 } ]
```

機能

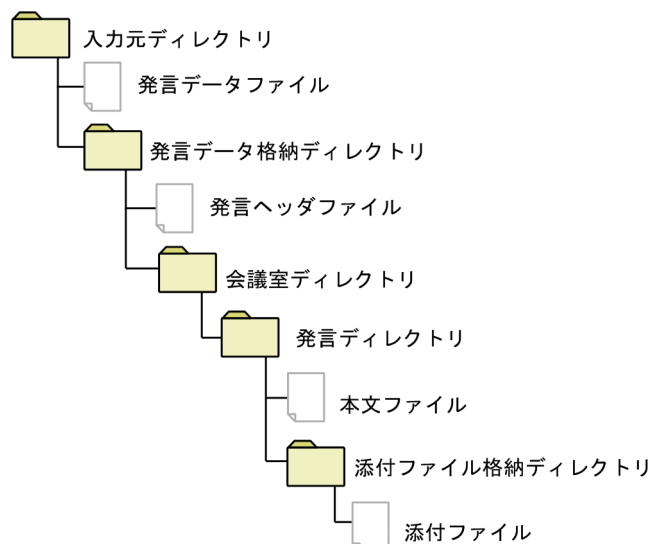
会議室に、発言および添付ファイルを登録します。

オプション

-i 入力元ファイルパス

登録する発言の情報を記述した発言データファイルを相対パスまたは絶対パスで指定します。発言データファイル名は2文字以上とし、拡張子（種類は任意）が必要です。オプションは大文字・小文字が区別されます。

入力元ファイルパスの構成は次のようにしてください。



各ファイルの意味は次のとおりです。インポートされるファイルの内容については、「付録」 frmimpopn コマンド (発言のインポート)・frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で使用するファイル」を参照してください。

ファイルの種類	説明	インポート時のファイル名・ディレクトリ名
入力元ディレクトリ	発言データファイルと、発言データ格納ディレクトリを格納するためのディレクトリです。 -i オプションで指定した発言データファイルのあるディレクトリのパスです。	—
発言データファイル	登録する発言のデータを記述したファイルです。	拡張子を持つ任意のファイル名を指定できます。拡張子の種類は任意です。
発言データ格納ディレクトリ	発言ヘッダファイルと、会議室ディレクトリを格納するディレクトリです。	ディレクトリ名は、発言データファイル名から拡張子（ファイル名の末尾から先頭へ向かって最初に現れた「. (ピリオド)」まで）を除いた文字列としてください。
発言ヘッダファイル	発言データファイルの項目の並びを記述するファイルです。	ファイル名は「header.txt」固定です。
会議室ディレクトリ	発言ディレクトリを格納するためのディレクトリです。	ディレクトリ名は会議室 ID とし、会議室ごとに作成する必要があります。
発言ディレクトリ	本文ファイルと、添付ファイル格納ディレクトリを格納するためのディレクトリです。	ディレクトリ名は、発言データファイル内の登録発言 ID とし、発言ごとに作成する必要があります。
本文ファイル	登録する発言の本文を記述するファイルです。必ず記述してください。	任意のファイル名を指定できます。
添付ファイル格納ディレクトリ	発言の添付ファイルを格納するためのディレクトリです。添付ファイルがある場合だけ作成してください。	ディレクトリ名は「atdfile」固定です。
添付ファイル	登録する発言の添付ファイルです。	任意のファイル名を指定できます。

(凡例)

—：該当なし

次の場合はエラーとなります。

- オプションを省略した場合
- 入力元ファイルパスの指定がない場合
- 入力元ファイルパスが 255 文字を超える場合

-c { win-31j | utf-8 }

ファイル読み込み時の文字コードセットを次のどちらかで指定します。

- win-31j
文字コードセットを「Windows-31J」としてファイルを読み込む場合に指定します。
- utf-8

文字コードセットを「UTF-8」としてファイルを読み込む場合に指定します。

指定した文字コードセットで読み込むファイルは次のとおりです。

- 発言データファイル
- 本文ファイル

オプションと文字コードセットの大文字・小文字は区別されます。-c オプションを省略した場合は「win-31j」が仮定されます。

次のどちらかの場合はエラーとなります。

- 文字コードセットが指定されていない場合
- 文字コードセットとして win-31j・utf-8 以外の値が指定された場合

インポートするファイルの記述例

発言データファイルをインポートする場合の入力例を次に示します。#で始まる行はヘッダのため、入力しなくてもかまいません。

```
#"会議室 ID","会議室名","発言 ID","登録発言 ID","主題","ユーザ ID","ユーザ名","ユーザ名(英語)","属性 ID","属性名","重要度 ID","重要度名","議論状態 ID","議論状態名","階層レベル","上位発言","下位開始発言 ID","下位終了発言 ID","前発言 ID","後発言 ID","最上位発言 ID","回答責任者のユーザ ID","回答責任者のユーザ名","回答責任者のユーザ名(英語)","添付ファイル有無","有効期限","回答期限","発言日時"
"556","","","1","業務改善案
","123456789","","","190","","10","","10","","","","","","","987654321","","","1","","2010/03/31","
```

注意事項

- このコマンドは処理の成功・失敗に関係なく、システムパラメタの hptl_clb_cfr_opinion_message_count に設定されている件数分の発言を処理するたびに、メッセージ KDCN11909-I を標準出力に出力します。メッセージ出力後もコマンドの処理は続行されます。
- 登録する発言に対し、上位発言をあとに記述した場合はエラー (KDCN11905-E) とし、発言の登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- 発言データファイルのフォーマットが不正な場合はエラー (KDCN11904-E) となり、発言の登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- 発言データファイルの項目値に不正な情報が含まれていた場合はエラー (KDCN11911-E) となり、発言の登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- 本文ファイルのサイズがシステムパラメタの max_contentsfilesize の設定値を超える場合はエラー (KDCN11908-E) となり、発言の登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- 一つの添付ファイルのサイズがシステムパラメタ max_apdfilename の設定値を超えていた場合はエラー (KDCN11907-E) となり、発言とすべての添付ファイルの登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- 添付ファイルのサイズの合計がシステムパラメタ max_apdfilename の設定値を超えていた場合はエラー (KDCN11907-E) となり、発言とすべての添付ファイルの登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- 添付ファイルのサイズが 0 バイトの場合はエラー (KDCN11907-E) となり、発言とすべての添付ファイルの登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。

- 一つの会議室に対する登録発言数がシステムパラメタ max_opinion の設定値を超えた場合、エラー (KDCN11906-E) となり、発言の登録を中止します。その後、次の発言の登録処理を続行します。
- このコマンドを実行すると、一時的に *Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に「frmimpopn」+「発言データファイル名」+「.lock」ファイルが作成されますが、コマンド終了時に削除されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー

戻り値

0	発言のインポートに成功した。
1	発言のインポートに失敗した。

使用例

発言データファイル「C:¥TEMP¥impdata.csv」をインポートします。

```
> frmimpopn -i C:¥TEMP¥impdata.csv
```

frminfomail (お知らせメール配信)

形式

frminfomail

機能

メッセージキューに登録されているお知らせメールのメッセージをメールで配信します。

メッセージキューには次に示すメッセージが登録されています。

- frmopnregist コマンド (メールによる議題または発言の投稿) 失敗時のメッセージ
- frmsetchstatinfo コマンド (会議室の状態変更通知登録) 実行時のメッセージ
- frmsetopninfo コマンド (会議室の開催通知登録) 実行時のメッセージ
- frmsetresperiodinfo コマンド (回答期限通知登録) 実行時のメッセージ
- 個人 (ユーザ自身) の会議室のメンバ追加時のメッセージ
- コミュニティメンバ追加時のメッセージ

オプション

なし。

注意事項

- お知らせメールの配信に失敗した場合は、出力されたエラーメッセージおよびトレースファイルを参照して障害を取り除いてから、このコマンドを再実行してください。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。

- コマンド実行中の障害
- コマンド実行中の強制終了
- コマンド実行中の OutOfMemory エラー
- コマンドの二重起動
- 発言者名、ユーザ名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語」を参照してください。
- メールを配信する場合、文字コードを指定する必要があります。文字コードの指定の詳細は、「付録 G メール配信時の文字コードの指定」を参照してください。
- コマンド実行時に使用される回答責任者名などの情報については、「付録 I コマンドの実行時に使用されるユーザ情報」を参照してください。

戻り値

0	メールの配信に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべてのメールの配信に失敗した。
2	配信するメールが複数あった場合に、一つ以上のメールの配信に失敗した。

使用例

メッセージキューに登録されているお知らせメールのメッセージを、メールで配信します。

```
> frminfomail
```

frmopnmail (メール配信)

形式

```
frmopnmail
```

機能

作成された議題または発言の内容を、メール配信を希望したユーザに送信します。

強制的にメールを配信する設定をしている場合は、作成された議題または発言の内容を、会議室に参加している参照権限のあるユーザ全員に送信します。

システムパラメタに設定された発言メール最大送信回数、`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数、`frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数を参照して、発言メールを配信します。

発言メール最大送信回数の詳細は、「2.3.8(14)(k) 発言メール最大送信回数 (max_commentmailnum)」を参照してください。`frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数の詳細は、「2.3.8(14)(l) `frmopnmail` コマンド (メール配信) で送信する発言件数 (mail_sendnum)」を参照してください。`frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数の詳細は、「2.3.8(14)(m) `frmopnmail` コマンド (メール配信) の同時実行スレッド数 (mail_threadnum)」を参照してください。

オプション

なし。

注意事項

- `frmopnmail` コマンド（メール配信）が配信失敗を表す戻り値を返した場合は、出力されたエラーメッセージおよびログファイルを参照し、その障害を取り除いてから再度 `frmopnmail` コマンド（メール配信）を実行してください。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ`¥clb_home¥bin` 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「`frmopnmail.lock`」ファイルが作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- 発言者名、ユーザ名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語」を参照してください。
- メールを配信する場合、文字コードを指定する必要があります。文字コードの指定の詳細は、「付録 G メール配信時の文字コードの指定」を参照してください。
- コマンド実行時に使用される発言者名などの情報については、「付録 I コマンドの実行時に使用されるユーザ情報」を参照してください。

戻り値

0	メールの配信に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべてのメールの配信に失敗した。
2	配信するメールが複数あった場合に、一つ以上のメールの配信に失敗した。

使用例

議題または発言に対してメール配信を希望したユーザに発言メールを送信します。

```
> frmopnmail
```

frmopnregist（メールによる議題または発言の投稿）

形式

`frmopnregist`

機能

ユーザから送付されたメールの内容を基に、議題または発言を会議室に登録します。

会議室に参加しているユーザのメールアドレスがメールの送信元になっている場合に、メールによって議題または発言を投稿できます。

なお、`frmopnmail` コマンド（メール配信）を使用して、議題または発言をメールで配信することによって、メールでの議題または発言の投稿に成功したことが通知されます。このため、`frmopnmail` コマンド（メール配信）も運用することをお勧めします。`frmopnmail` コマンド（メール配信）の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmopnmail`（メール配信）」を参照してください。

オプション

なし。

注意事項

- 投稿失敗を表す戻り値が返された場合は、出力されたエラーメッセージおよびログファイルを参照し、その障害を取り除いてから再度 `frmopnregist` コマンド（メールによる議題または発言の投稿）を実行してください。
- メール配信されたメールを返信することによってメールを投稿できます。ただし、会議室略号に長い文字列を指定している会議室からメール配信されたメールの場合、メールサーバが、メールの主題に含まれるメール投稿用の情報を削除するため、メールを返信しても投稿できないことがあります。
- アーカイブ前にメール配信したメールを返信しても、復元した会議室には投稿できないため、復元した場合は会議室メンバに連絡してください。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ`¥clb_home¥bin` 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「`frmopnregist.lock`」ファイルが作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- ユーザ名、発言者名などの情報は、*Collaboration - Directory Access* または *Collaboration - Online Community Management* から取得します。*Collaboration - Directory Access* または *Collaboration - Online Community Management* から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F *Collaboration - Directory Access* または *Collaboration - Online Community Management* との連携で指定する言語」を参照してください。
- このコマンドを実行すると、サイズの大きいログファイルが出力されることがあります。出力されるログファイルのサイズを見積もって、`hptl_clb_cfr_frmopnregist_log_file_size` に指定してください。ログレベル (`hptl_clb_cfr_log_level`) を 20 にした場合の見積もりを次に示します。
メールサーバに接続するごとに、`hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail` が 1 のときは 25KB、`hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail` が 10 のときは 65KB のログが出力されます。また、投稿されたメール 1 通ごとに 7KB のログが出力されます。
1 日当たりのログファイルのサイズを算出する式を次に示します。
1日のログファイルのサイズ (KB/日) = 1日のコマンドの実行回数 (実行回数/日) × コマンド実行ごとのメールサーバへの平均接続回数 (接続回数/1回の実行) × 25 (KB/1回の接続) + 1日に投稿されるメールの件数 × 7 (KB/件)
算出した 1 日のログファイルのサイズを基に、`hptl_clb_cfr_frmopnregist_log_file_size` を指定してください。指定方法の詳細は、「2.3.8(3)(c) ログファイルのサイズ (`hptl_clb_cfr_log_file_size`)」を参照してください。

戻り値

0	メールの投稿に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべてのメールの投稿に失敗した。
2	配信するメールが複数あった場合に、一つ以上のメールの投稿に失敗した。

使用例

```
> frmopnregist
```

frmquedel (メッセージキューの削除)

形式

```
frmquedel -i メッセージID
```

機能

指定したメッセージ ID のメッセージをメッセージキューから削除します。

オプション

```
-i メッセージID
```

削除するメッセージ ID を指定します。

このオプションを省略した場合、エラーメッセージが出力されます。

注意事項

次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。

- コマンド実行中の障害
- コマンド実行中の強制終了
- コマンド実行中の OutOfMemory エラー
- コマンドの二重起動

戻り値

0	メッセージの削除に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	指定したメッセージの削除に失敗した。

使用例

指定したメッセージ ID (hptl_clb_cfr_0000000000001127192576142_00001) のメッセージをメッセージキューから削除します。

```
> frmquedel -i hptl_clb_cfr_0000000000001127192576142_00001
```

frmqueview (メッセージキューの参照)

形式

frmqueview [-i *メッセージID* | -l *一覧表示件数*]

機能

メッセージキューに登録されているメッセージを表示します。

オプションを省略した場合、メッセージ件数およびテーブル使用率を表示します。

- メッセージ件数

メッセージキューに登録されているメッセージ総数、およびお知らせメールごとのメッセージ件数を表示します。お知らせメールごとのメッセージ件数から、どのお知らせメールの利用頻度が高いかを確認できます。

- テーブル使用率

メッセージが、メッセージキューテーブルにどれだけ登録されているかの使用率を、お知らせメールごとに表示します。テーブル使用率には、次に示す計算式で求めた3桁の値(小数点以下は切り捨てられます)が表示されます。

テーブル使用率 = コマンド実行時のメッセージ件数 ÷ メッセージキューの一時保存数

なお、テーブル使用率が高い場合は、システムパラメタのメッセージキューの一時保存数 (def_mqmaxnumber) を増やすか、または **frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) の実行回数を増やしてください。メッセージキューの一時保存数の詳細は、「2.3.8(14)(v) メッセージキューの一時保存数 (def_mqmaxnumber)」を参照してください。**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frminfomail (お知らせメール配信)」を参照してください。

オプション

-i *メッセージID*

指定されたメッセージIDに対応するメッセージの詳細情報を表示します。

メッセージの詳細情報として、次の項目が表示されます。

- メッセージID
- メッセージ種別
- リトライ回数
- メッセージの状態
- 挿入日時
- 会議室IDまたはコミュニティID※

注※

会議室IDまたはコミュニティIDは、どちらか一方だけが表示されます。

会議室IDは、次に示すメッセージを参照した場合に表示されます。

- 個人 (ユーザ自身) の会議室にメンバを追加した場合のメッセージ
- **frmsetchstatinfo** コマンド (会議室の状態変更通知登録) を実行して登録したメッセージ
- **frmsetopninfo** コマンド (会議室の開催通知登録) を実行して登録したメッセージを参照した場合だけ表示されます。

`frmsetchstatinfo` コマンド (会議室の状態変更通知登録) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsetchstatinfo` (会議室の状態変更通知登録)」を、`frmsetopninfo` コマンド (会議室の開催通知登録) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「`frmsetopninfo` (会議室の開催通知登録)」を参照してください。

また、コミュニティ ID は、コミュニティメンバを追加した場合のメッセージを参照した場合に表示されます。

-l 一覧表示件数

指定された件数分のメッセージ一覧を表示します。メッセージは、メッセージ ID の古いものから昇順に表示されます。件数は 1 から 1000 までの数値で指定してください。

メッセージ一覧には、次の項目が表示されます。

- メッセージ ID
- メッセージ種別
- リトライ回数
- メッセージの状態
- 挿入日時

この引数を省略した場合、エラーメッセージが出力されます。

なお、複数のアプリケーションサーバからメッセージキューにメッセージを登録している環境で、各アプリケーションサーバの日時の設定が合っていない場合には、格納日時に不整合が発生することがあります。

注意事項

次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。

- コマンド実行中の障害
- コマンド実行中の強制終了
- コマンド実行中の OutOfMemory エラー
- コマンドの二重起動

戻り値

0	メッセージキューの参照に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべてのメッセージキューの参照に失敗した。
2	参照するメッセージキューが複数あった場合に、一つ以上のメッセージキューの参照に失敗した。

参照結果の出力形式

参照結果の出力形式を次に示します。

- オプションを省略した場合

```
C:\> frmqueview
Total number of messages : メッセージの総数
Frmopnregist : メールによる議題 (発言) コマンドのエラー通知のメッセージの件数
Frmsetaddcommem : コミュニティメンバ追加のメッセージの件数
```

Frmsetaddroommem : 個人会議室メンバ追加のメッセージの件数
 Frmsetopninfo : 会議室開催通知登録コマンドのメッセージの件数
 Frmsetchstatinfo : 状態変更通知登録コマンドのメッセージの件数

Table usage rate : メッセージキューテーブルのテーブル使用率の値%

• -i オプションを指定した場合

```

C:¥> frmqueview -i メッセージID
message id : メッセージID
message type : メッセージ種別
retry count : リトライ回数
status code : メッセージの状態
create date : 挿入日時
fid : 会議室ID※1
comid : コミュニティID※2
opnid : 発言ID※3
  
```

注※1

次に示すメッセージを参照した場合に表示されます。

- 個人（ユーザ自身）の会議室にメンバを追加した場合のメッセージ
- frmsetchstatinfo コマンド（会議室の状態変更通知登録）を実行して登録したメッセージ
- frmsetopninfo コマンド（会議室の開催通知登録）を実行して登録したメッセージ
- frmsetresperiodinfo コマンド（回答期限通知登録）を実行して登録したメッセージ

注※2

コミュニティメンバを追加した場合のメッセージを参照した場合に表示されます。

注※3

frmsetresperiodinfo コマンド（回答期限通知登録）を実行して登録したメッセージを参照した場合に表示されます。

• -l オプションを指定した場合

```

C:¥> frmqueview -l 一覧表示件数
message id, message type, retry count, status code, create date
メッセージID, メッセージ種別, リトライ回数, メッセージの状態, 挿入日時
メッセージID, メッセージ種別, リトライ回数, メッセージの状態, 挿入日時
メッセージID, メッセージ種別, リトライ回数, メッセージの状態, 挿入日時
:
  
```

使用例

指定された件数のメッセージ一覧を表示します。

```

C:¥> frmqueview -l 3
message id, message type, retry count, status code, create date
hptl_clb_cfr_00000000000001127192576142_00001, Frmsetchstatinfo, 0, 0, 2006/05/08 15:10:35
hptl_clb_cfr_00000000000001127192576142_00002, Frmsetopninfo, 1, 100, 2006/05/08 15:10:35
hptl_clb_cfr_00000000000001127192576142_00003, Frmopnregist, 3, 100, 2006/05/08 15:10:35
  
```

frmreopn (会議室強制再開)

形式

```
frmreopn -fid 会議室ID -date 日付
```

機能

開催期間が過ぎているために閉鎖中になった会議室について、指定した日付まで「開催期間 終了日」を延期し、会議室を会議中に変更します。「開催期間 終了日」を延期した場合、「参照期間 終了日」は、「開催期間 終了日」に指定した日付にシステムで設定されている会議室参照期間最大値を加算した日付になります。なお、開催期間内の閉鎖中から会議中への変更は、画面から操作してください。

frmreopn コマンド（会議室強制再開）を使用することで、開催期間が事実上無期限の会議室を運営できます。frmreopn コマンド（会議室強制再開）を、親会議室のある会議室、および子会議室の会議室に実行した場合について次に示します。

- 親会議室のある会議室に実行した場合

「開催期間 終了日」に親会議室の「開催期間 終了日」より未来の日付を指定した場合、「開催期間 終了日」には親の「開催期間 終了日」が設定されます（システムによって補正された日付が設定されます）。

「開催期間 終了日」に会議室参照期間最大値を加算した日付が、親会議室の「参照期間 終了日」より未来の日付になる場合は、「参照期間 終了日」に親会議室の「参照期間 終了日」と同じ日付が設定されます。なお、「開催期間 終了日」にシステムによって補正された日付が設定されている場合には、補正された「開催期間 終了日」に会議室参照期間最大値を加算します。

親会議室の「開催期間 終了日」を超えない日付を指定した場合と、親会議室の「開催期間 終了日」を超える日付を指定した場合の例を次の図に示します。

図 4-8 親会議室の「開催期間 終了日」を超えない日付を指定した場合

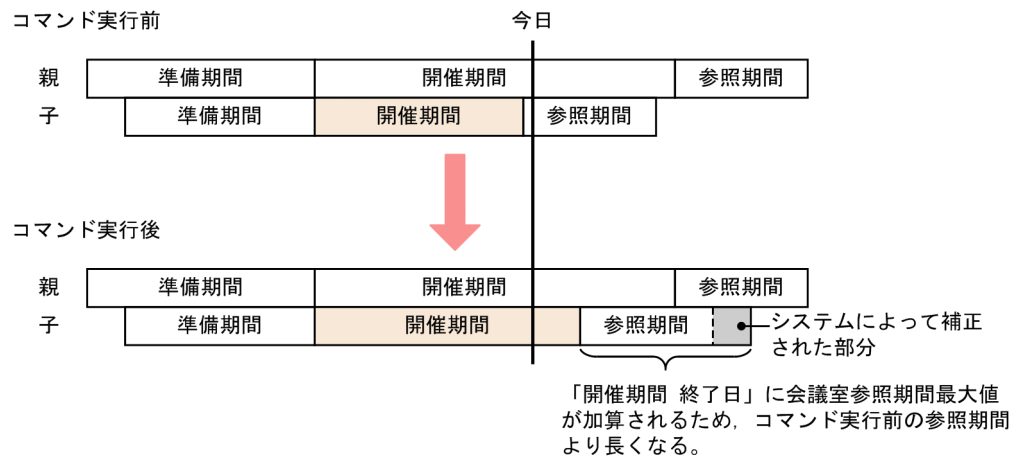
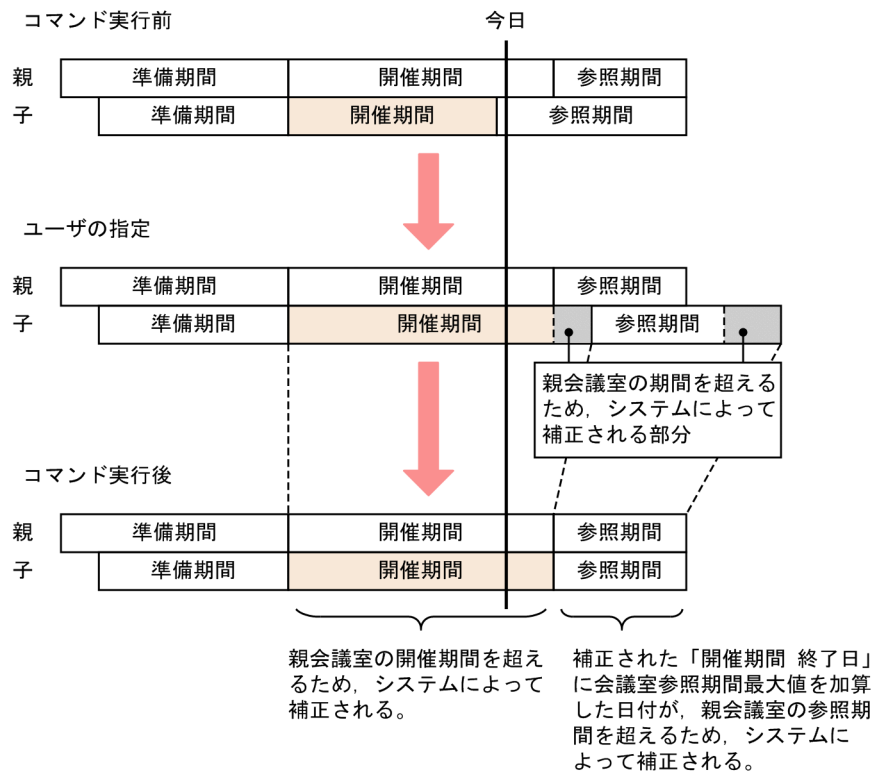


図 4-9 親会議室の「開催期間 終了日」を超える日付を指定した場合



- 子会議室のある会議室に実行した場合

指定した会議室だけが処理の対象となり、子会議室の会議室状態、「開催期間 終了日」、「参照期間 終了日」は変更されません。

オプション

`-fid` 会議室 ID

強制再開する会議室の会議室 ID を指定します。

`-date` 日付

強制再開する場合に、新たに設定する「開催期間 終了日」の日付を指定します。

日付は、yyyyMMdd の形式で指定します。yyyy は西暦、MM は月、dd は日を示します。コマンド実行日を含む未来の日付を指定してください。

注意事項

- 閉鎖中の会議室で未読の議題または発言を参照し、その後、`frmreopn` コマンド（会議室強制再開）を実行して、会議室が会議中になった場合、参照した議題または発言は、既読となります。
- 議題の議論状態（既決、未決など）の管理はしません。
- `frmreopn` コマンド（会議室強制再開）を実行すると、開催期間の長い会議室が作成できるため、DB のリソースを圧迫する場合があります。
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥`clb_home¥bin` 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「`frmreopn.lock`」ファイルが一時的に作成されます。

- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動

戻り値

0	会議室の強制再開に成功した。 コマンドを二重起動した。
1	会議室の強制再開に失敗した。

使用例

会議室 ID (1025) の会議室の「開催期間 終了日」を延期し、会議室を閉鎖中から会議中に変更します。

```
> frmreopn -fid 1025 -date 20061015
```

frmrest (会議室リストア)

形式

```
frmrest [ -i ファイル名 ]
```

機能

アーカイブファイルに格納されている会議室情報からデータベース上に会議室を復元します。

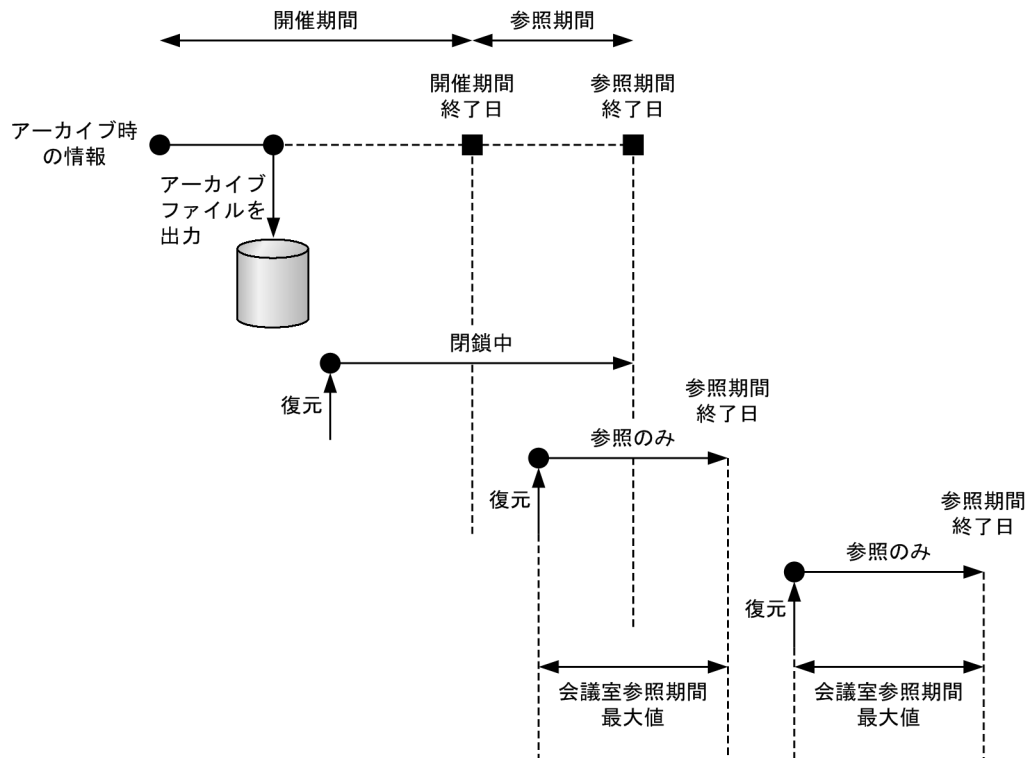
オプションを省略した場合、カレントディレクトリ直下のファイル名の形式が「.dat」であるファイルが対象となります。

復元された会議室は、コマンド実行日が開催期間内の場合は閉鎖中に、開催期間外の場合は、参照のみになります。

復元時の状態と参照期間 終了日について次に示します。

- 復元実行日が開催期間内（開催期間 終了日を含む）の場合
 - 状態
閉鎖中で登録する。
 - 参照期間 終了日
参照期間 終了日は変更しない。
- 復元実行日が開催期間外の場合
 - 状態
参照のみで登録する。
 - 参照期間 終了日
"復元実行日"+"会議室参照期間最大値"で登録する。

図 4-10 復元時の状態と日付の登録内容



オプション

-i ファイル名

復元する会議室情報が格納されているアーカイブファイルの名称を、相対パスまたは絶対パスで指定します。

注意事項

- 復元する会議室が複数ある場合、復元処理の結果は次のようになります。
エラーが発生しなかった会議室：会議室は復元されます。
エラーが発生した会議室：会議室は復元されません。
- アーカイブファイルからデータベース上に会議室を復元できない場合を次に示します。
 - アーカイブファイルの読み込みに失敗した場合
 - アーカイブファイルからアーカイブオブジェクトの生成に失敗した場合
 - ファイル内のメイン会議室 ID がすでにデータベースに存在する場合
- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmrest.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- *Collaboration - Forum* 01-20 以前のバージョンのアーカイブファイルを復元する場合、タイムゾーンには、システムパラメタのタイムゾーンの値が設定されます。タイムゾーンの値が不正な場合は、メッセージが出力されて、会議室は復元されません。
タイムゾーンの詳細は、「2.3.8(7)(a) タイムゾーン (hptl_clb_cfr_timezone)」を参照してください。
- 次に示す場合については、「5. *Collaboration - Forum* の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害

- コマンド実行中の強制終了
- コマンド実行中の OutOfMemory エラー
- コマンドの二重起動

戻り値

0	会議室の復元に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	すべての会議室の復元に失敗した。
2	復元する会議室が複数あった場合に、一つ以上の会議室の復元に失敗した。

使用例

アーカイブファイル（1001-20060512.dat）に格納されている会議室情報からデータベース上に会議室を復元します。

```
> frmrest -i d:¥forum¥archive¥1001-20060512.dat
```

frmrev (会議室復活)

形式

```
frmrev -fid 会議室ID
```

機能

アーカイブ待ちの会議室を閉鎖中に復活します。

最上位会議室および子会議室を指定できます。子会議室を指定した場合、親会議室がアーカイブ待ちであれば親会議室も復活されます。また、指定した会議室の子会議室もアーカイブ待ちであれば復活されます。

親子構成の会議室と連動して復活できる会議室を次に示します。なお、図中の会議室はすべてアーカイブ待ちとします。

図 4-11 親子構成の会議室

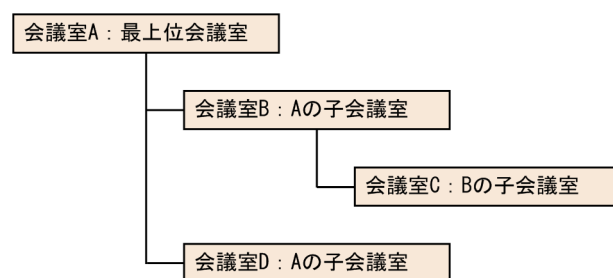


表 4-5 連動して復活できる会議室

復活する会議室	連動して復活できる会議室			
	会議室 A	会議室 B	会議室 C	会議室 D
会議室 A	—	○	○	○

復活する会議室	連動して復活できる会議室			
	会議室 A	会議室 B	会議室 C	会議室 D
会議室 B	○	—	○	×※
会議室 C	○	○	—	×※
会議室 D	○	×※	×※	—

(凡例)

- ：復活できます。
- ×：復活できません。
- ：該当しません。

注※

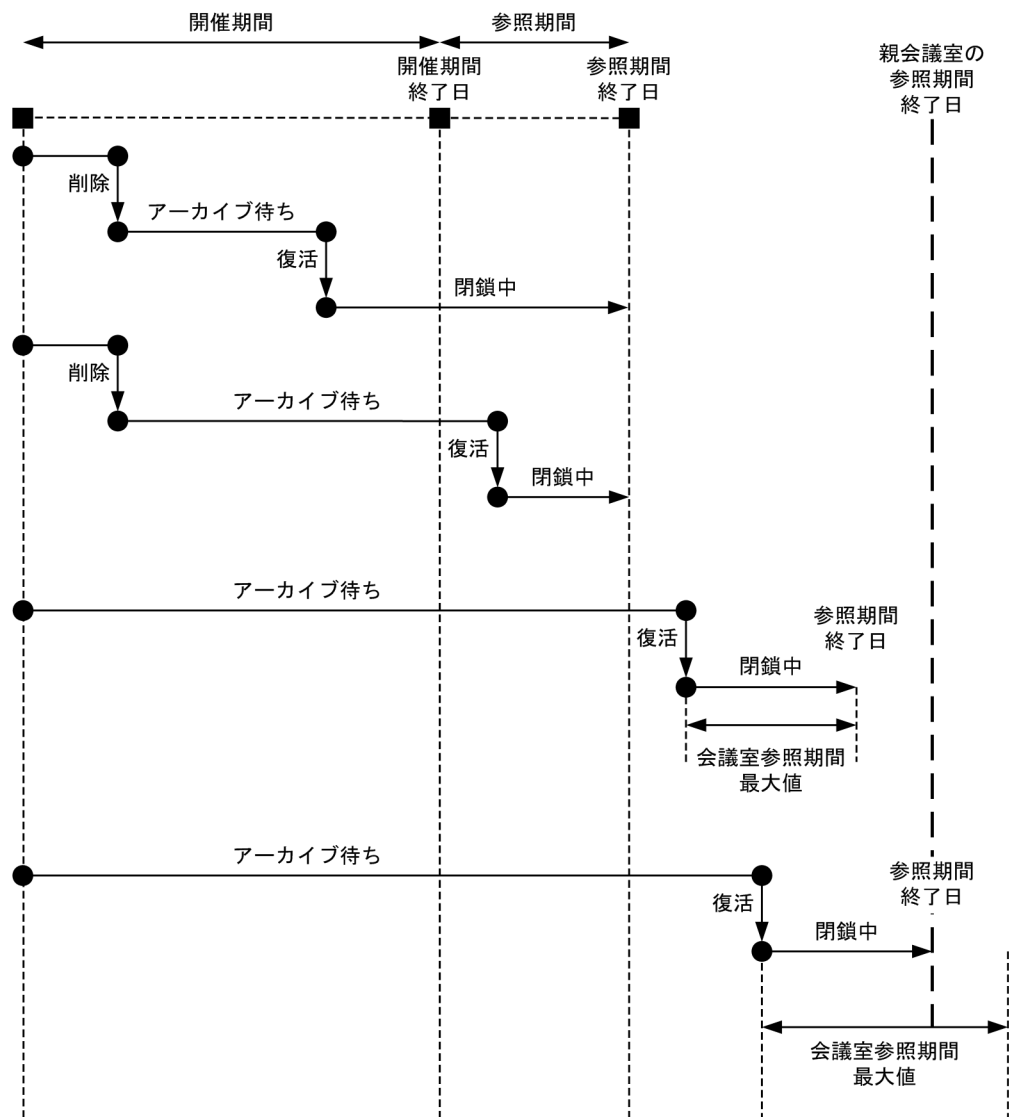
復活できませんが、上位会議室がアーカイブ待ちになるまでは、アーカイブされることはありません。

frmrev コマンド（会議室復活）を実行するとデータベースの会議室の状態、および参照期間 終了日を更新します。

参照期間 終了日について次に示します。

- 復活実行日が開催期間内（開催期間 終了日を含む）の場合、または復活実行日が参照期間内（参照期間 終了日を含む）の場合
日付の変更はなし。
- 復活実行日が参照期間外の場合
 - "復活実行日"+"会議室参照期間最大値" ≤ 親会議室の参照期間 終了日の場合
"復活実行日"+"会議室参照期間最大値"で登録する。
 - "復活実行日"+"会議室参照期間最大値" > 親会議室の参照期間 終了日の場合
親会議室の参照期間 終了日で登録する。

図 4-12 復活時の状態と日付の更新内容



オプション

`-fid` 会議室 ID

復活する会議室の会議室 ID を指定します。

注意事項

- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ`¥clb_home¥bin` 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「`frmrev.lock`」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の `OutOfMemory` エラー
 - コマンドの二重起動

戻り値

0	会議室の復活に成功した。 コマンドを二重起動した。
1	会議室の復活に失敗した。

使用例

会議室 ID (1025) の会議室をアーカイブ待ちから閉鎖中に復活します。

```
> frmrev -fid 1025
```

frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)

形式

frmsetchstatinfo

機能

会議室の開催期間 終了日または参照期間 終了日が近づいていることを、事前にお知らせメールで配信できます。このコマンドは、お知らせメールに必要な情報をメッセージキューに登録します。お知らせメールは、**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) を実行すると配信されます。**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「**frminfomail** (お知らせメール配信)」を参照してください。

なお、リストア、強制再開、または復活を実行した会議室は、状態変更通知の対象になる場合があります。

お知らせメールに必要な情報は、次に示す条件がすべて満たされている場合に、メッセージキューに登録されます。

ただし、それぞれの場合の条件をすべて満たしていても、システムの状態によってはお知らせメールに必要な情報が登録されないことがあります。

- 開催期間 終了日が近づいている場合の条件
 - 開催期間 終了日が近づいていることを配信していない
 - 開催期間 終了日 \geq コマンド実行日^{※1} である
 - 会議室が会議中または閉鎖中である
 - コマンド実行日^{※1} \geq 開催期間 終了日 - 開催期間 終了日の通知期間^{※2} である

注※1

コマンド実行日の時間は、コマンドを実行するサーバのタイムゾーンで 23 時 59 分 59 秒となります。また、日付の比較は、グリニッジ標準時で実施します。

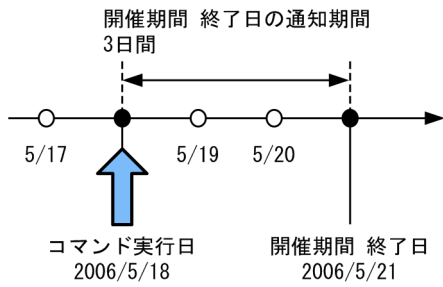
注※2

システムパラメタに設定された開催期間 終了日の通知期間を示します。開催期間 終了日の通知期間の詳細は、「2.3.8(10)(b) 開催期間 終了日の通知期間 (hptl_clb_cfr_notice_period_effectiveend)」を参照してください。

開催期間 終了日が近づいていることをメール配信していない会議室について、お知らせメールに必要な情報をメッセージキューに登録する場合と、登録しない場合の例を次に示します。

図 4-13 開催期間 終了日が近づいていることを登録する場合

●例1



●例2

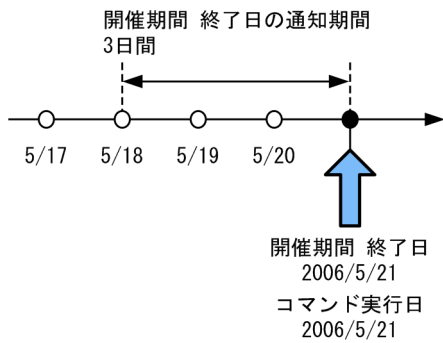
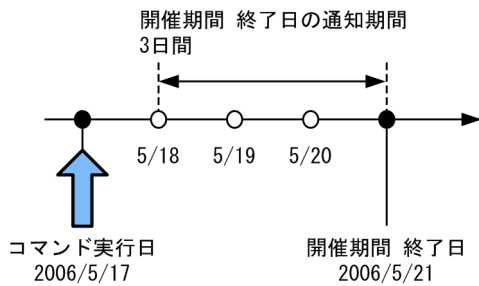
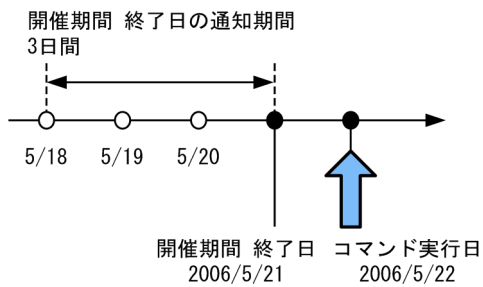


図 4-14 開催期間 終了日が近づいていることを登録しない場合

●例1



●例2



- 参照期間 終了日が近づいている場合の条件
 - 参照期間 終了日が近づいていることを配信していない
 - 参照期間 終了日 ≥ コマンド実行日^{※1} である
 - 会議室が閉鎖中または参照のみである

- コマンド実行日^{※1} ≥ 参照期間 終了日 - 参照期間 終了日の通知期間^{※2} である

注※1

コマンド実行日の時間は、コマンドを実行するサーバのタイムゾーンで 23 時 59 分 59 秒となります。また、日付の比較は、グリニッジ標準時で実施します。

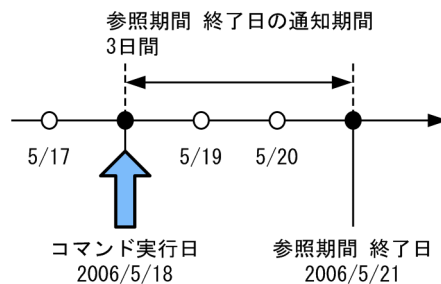
注※2

システムパラメタに設定された開催期間 終了日の通知期間を示します。開催期間 終了日の通知期間の詳細は、「2.3.8(10)(c) 参照期間 終了日の通知期間 (hptl_clb_cfr_notice_period_referenceend)」を参照してください。

参照期間 終了日が近づいていることをメール配信していない会議室について、お知らせメールに必要な情報をメッセージキューに登録する場合と、登録しない場合の例を次に示します。

図 4-15 参照期間 終了日が近づいていることを登録する場合

●例1



●例2

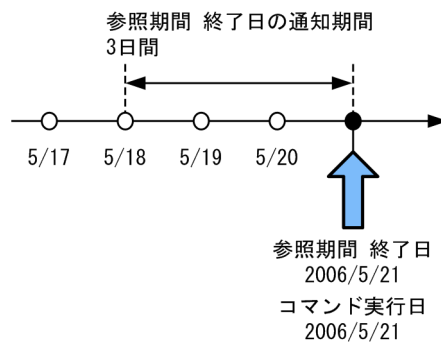
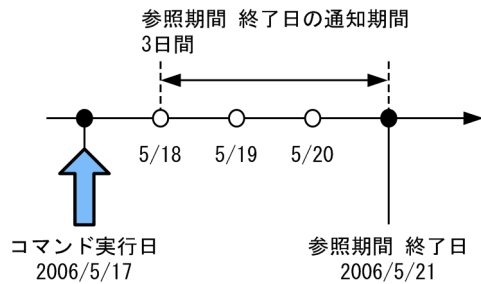
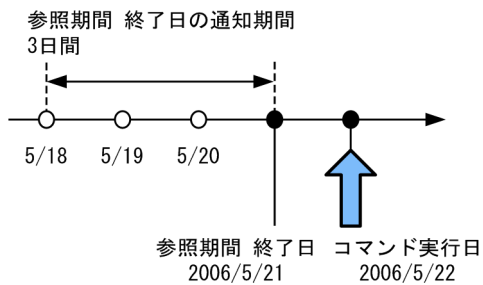


図 4-16 参照期間 終了日が近づいていることを登録しない場合

●例1



●例2



オプション

なし。

注意事項

- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- ユーザ名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語」を参照してください。

戻り値

0	メッセージキューの登録に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	メッセージキューの登録に失敗した。
2	登録するメッセージキューが複数あった場合に、一つ以上のメッセージキューの登録に失敗した。

使用例

会議室の開催期間終了日または参照期間終了日が近づいていることを、事前にメールで通知するために必要な情報を、キューテーブルとバッファテーブルに登録します。

> frmsetchstatinfo

frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)

形式

frmsetopninfo

機能

会議室の開催をユーザにお知らせメールで配信できます。このコマンドは、お知らせメールに必要な情報をメッセージキューに登録します。お知らせメールは、**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) を実行すると配信されます。**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frminfomail (お知らせメール配信)」を参照してください。

リストア、強制再開、または復活を実行した会議室は、状態変更通知の対象になる場合があります。

なお、お知らせメールは、主に次に示す場合に配信されます。

- 準備中の会議室が、画面操作によって会議中になった場合
- 準備中の会議室が、状態変更コマンドによって会議中になった場合
- コミュニティ作成によって、自動的に会議室が作成された場合
- 会議中の会議室を作成した場合

オプション

なし。

注意事項

- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- ユーザ名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語」を参照してください。

戻り値

0	メッセージキューの登録に成功した。
	コマンドを二重起動した。

1	メッセージキューの登録に失敗した。
2	登録するメッセージキューが複数あった場合に、一つ以上のメッセージキューの登録に失敗した。

使用例

会議室の開催をユーザに通知するために必要な情報を、キューテーブルとバッファテーブルに登録します。

> frmsetopninfo

frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)

形式

frmsetresperiodinfo

機能

回答期限を次に示すユーザにお知らせメールで配信できます。

- 議題または発言の回答責任者
- 議題または発言の発言者

このコマンドは、回答期限を通知するためのお知らせメールに必要な情報を、メッセージキューに登録します。お知らせメールは、**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) を実行すると配信されます。**frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) の詳細は、「4.2 コマンドの詳細」の「frminfomail (お知らせメール配信)」を参照してください。

なお、お知らせメールは、次に示す条件がすべて満たされている場合に配信されます。

- 回答期限を通知する設定^{※1}の会議室の議題または発言である
- 回答期限が設定されている
- 回答責任者が設定されている
- 会議中の会議室である
- 議題または発言に対して未回答である
- 議題に有効期限が設定されていない
- 以前に通知メールを送信していない議題または発言である
- $\text{回答期限} - \text{回答期限の事前通知期間}^{\text{※2}} \leq \text{コマンド実行日}^{\text{※3}}, \text{かつ} \text{コマンド実行日}^{\text{※3}} \leq \text{回答期限} + \text{回答期限の事後通知期間}^{\text{※4}}$
- 議題、または発言の最上位発言 (議題) の議論状態が未決である

注※1

回答期限を通知するかどうかは、[メール設定編集] 画面で設定します。[メール設定編集] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

注※2

回答期限に対して何日前からメールで通知するかの設定値です。

なお、回答期限の事前通知期間は、[メール設定編集] 画面で設定します。[メール設定編集] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

注※3

コマンド実行日の時間は、コマンドを実行するサーバのタイムゾーンで 23 時 59 分 59 秒となります。また、日付の比較は、グリニッジ標準時で実施します。

注※4

回答期限が過ぎてしまった議題または発言に対して、何日以内であれば回答期限を通知するかの設定値です。

なお、回答期限の事後通知期間は、`hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period` プロパティで指定します。`hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period` の詳細は、「2.3.8(10)(e) 回答期限の事後通知期間 (`hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period`)」を参照してください。

オプション

なし。

注意事項

- 次に示す場合にはメールは配信されません。
 - このコマンドの実行時には会議室がデータベースに存在したが、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の実行時には会議室がデータベースに存在しなかった場合
 - このコマンドの実行時には、議題または発言がデータベースに存在したが、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の実行時には議題または発言がデータベースに存在しなかった場合
- 次に示す場合には通知対象者にメールは配信されません。
 - 通知対象者に発言参照権限がない場合
 - 通知対象者がディレクトリサーバに登録されていない場合
 - 通知対象者がディレクトリサーバに登録されているが、E-mail アドレスが登録されていない場合
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動
- ユーザ名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。詳細は、「付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語」を参照してください。

戻り値

0	メッセージキューの登録に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	メッセージキューの登録に失敗した。
	回答期限を通知しない設定である。
2	登録するメッセージキューが複数あった場合に、一つ以上のメッセージキューの登録に失敗した。

使用例

回答期限の通知するために必要な情報を，キューテーブルとバッファテーブルに登録します。

```
> frmsetresperiodinfo
```

frmsrch (会議室検索)

形式

```
frmsrch { -fstate 会議室状態フラグ | -fid 会議室ID | -fname 会議室名 | -fenname 会議室名  
(英語) | -fcount }
```

機能

データベース内の会議室を検索します。検索対象を次に示します。

- 会議室状態
会議室状態から該当する会議室を検索します。
- 会議室 ID
会議室 ID から該当する会議室を検索します。
- 会議室名
会議室名または会議室名（英語）から該当する会議室を検索します。
- 会議室数
全会議室数を表示します。

オプション

-fstate 会議室状態フラグ

検索する会議室状態を指定します。引数には会議室状態フラグを指定します。会議室状態フラグを次の表に示します。

表 4-6 会議室状態フラグ

項番	会議室状態フラグ	説明
1	10	準備中の会議室を検索します。
2	20	会議中の会議室を検索します。
3	30	閉鎖中の会議室を検索します。
4	40	アーカイブ待ちの会議室を検索します。
5	50	参照のみの会議室を検索します。
6	60	削除待ちの会議室を検索します。

-fid 会議室 ID

検索する会議室の会議室 ID を指定します。

-fname 会議室名

検索する会議室の会議室名を指定します。

会議室名にスペース、リダイレクション、またはワイルドカードなどの制御文字が含まれる場合は、「`"`」で囲んでください。

(例)

- 会議室名 (A B) を検索する場合
> frmsrch -fname "A B"
- 会議室名 (A*) を検索する場合
> frmsrch -fname "A*"
- 会議室名 (A?B) を検索する場合
> frmsrch -fname "A?B"
- 会議室名 (A<B) を検索する場合
> frmsrch -fname "A<B"
- 会議室名 (A>B) を検索する場合
> frmsrch -fname "A>B"
- 会議室名 (A\B) を検索する場合
> frmsrch -fname "A|B"

会議室名に「`\`」や「`"`」などのエスケープ対象文字が含まれる場合は、次の例のように指定してください。

(例)

- 会議室名 ("A") を検索する場合
> frmsrch -fname ¥"A¥"
- 会議室名 (¥A B¥) を検索する場合
> frmsrch -fname "¥A B¥"
- 会議室名 (¥"A) を検索する場合
> frmsrch -fname ¥¥¥"A

-fename 会議室名 (英語)

検索する会議室の英語の会議室名を指定します。

会議室名 (英語) にスペース、リダイレクション、またはワイルドカードなどの制御文字が含まれる場合は、「`"`」で囲んでください。指定方法は、`-fname` オプションと同様です。`-fname` オプションの例を参照してください。

-fcount

全会議室数を表示する場合に指定します。

注意事項

- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmsrch.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了
 - コマンド実行中の OutOfMemory エラー
 - コマンドの二重起動

- コマンド実行時に使用されるユーザ名などの情報については、「付録 I コマンドの実行時に使用されるユーザ情報」を参照してください。

戻り値

0	会議室の検索に成功した。
	コマンドを二重起動した。
1	会議室の検索に失敗した。

検索結果の出力形式

検索結果の出力形式を次に示します。

なお、開催期間 開始日、開催期間 終了日、および参照期間 終了日は、システムパラメタに設定された管理者指定用の言語コードに対応する日付形式で表示されます。管理者指定用の言語コードの詳細は、「2.3.8(6)(b) 管理者指定用の言語コード (hptl_clb_cfr_adm_lang)」を参照してください。

- `-fstate` オプション、`-fname`、または`-fenname` オプションを指定した場合

```

Conference room number      : 会議室数※
Conference room ID         : 会議室ID
Conference room name       : 会議室名
Conference room name(en)  : 会議室名(英語)
Conference room code      : 会議室略号
Conference room status     : 会議室状態
Owner ID                   : ユーザID
Owner name                 : ユーザ名
Owner name(en)            : ユーザ名(英名)
Executive name             : 役職
Executive name(en)        : 役職(英名)
Affiliated organization name : 組織
Affiliated organization name(en) : 組織(英名)
Open period - Start date  : 開催期間 開始日
Open period - End date    : 開催期間 終了日
Reference period - End date : 参照期間 終了日
Class level                : 階層レベル
Upper level conference room ID : 上位会議室ID
Top level conference room ID : 最上位会議室ID

Conference room ID         : 会議室ID
Conference room name       : 会議室名
                          :
                          :

```

注※

指定したオプションによって表示する値が異なります。

- fstate : 指定した会議室状態の会議室数
- fname : 指定した会議室名の会議室数
- fenname : 指定した会議室名 (英語) の会議室数

- `-fid` オプションを指定した場合

```

Conference room ID         : 会議室ID
Conference room name       : 会議室名
Conference room name(en)  : 会議室名(英語)
Conference room code      : 会議室略号
Conference room status     : 会議室状態
Owner ID                   : ユーザID
Owner name                 : ユーザ名
Owner name(en)            : ユーザ名(英名)
Executive name             : 役職
Executive name(en)        : 役職(英名)

```

Affiliated organization name : 組織
 Affiliated organization name(en) : 組織(英名)
 Open period - Start date : 開催期間 開始日
 Open period - End date : 開催期間 終了日
 Reference period - End date : 参照期間 終了日
 Class level : 階層レベル
 Upper level conference room ID : 上位会議室ID
 Top level conference room ID : 最上位会議室ID

- -fcount オプションを指定した場合

Conference room number : 全会議室数

会議室状態に表示される文字列を次の表に示します。

表 4-7 会議室状態に表示される文字列

文字列	説明
Now preparing	準備中
Conference in progress	会議中
Now closing	閉鎖中
Waiting for archival	アーカイブ待ち
View only	参照のみ
Waiting for deletion	削除待ち

使用例

会議中の会議室を検索します。

```

> frmsrch -fstate 20
Conference room number          : 2

Conference room ID             : 10
Conference room name           : 運用コマンド会議室
Conference room name(en)      : utility room
Conference room code           : room1
Conference room status         : Conference in progress
Owner ID                       : 00001038
Owner name                     : 日立 太郎
Owner name(en)                 : Taro Hitachi
Executive name                 : 部長
Executive name(en)            : Chief
Affiliated organization name   : AB
Affiliated organization name(en) : AB
Open period - Start date      : 2006/05/06
Open period - End date        : 2006/08/31
Reference period - End date    : 2006/10/31
Class level                    : 0
Upper level conference room ID : 3
Top level conference room ID   : 1

Conference room ID             : 11
Conference room name           : 仕様会議室
Conference room name(en)      : Facility room
Conference room code           : room2
Conference room status         : Conference in progress
Owner ID                       : 00001038
Owner name                     : 日立 太郎
Owner name(en)                 : Taro Hitachi
Executive name                 : 部長
Executive name(en)            : Chief
Affiliated organization name   : AB
Affiliated organization name(en) : AB
Open period - Start date      : 2006/05/10
  
```

```

Open period - End date      : 2006/06/15
Reference period - End date : 2006/10/31
Class level                 : 1
Upper level conference room ID : 10
Top level conference room ID  : 1

```

frmsys (システムパラメタ変更)

形式

frmsys [-f]

機能

定義ファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) を読み込み、システムパラメタを表示または変更します。

オプションを省略した場合、システムパラメタの内容を表示します。

オプション

-f

システムパラメタを変更する場合に指定します。

注意事項

- コマンド実行後は、変更したシステムパラメタを有効にするために、必ずアプリケーションサーバを再起動してください。
- パラメタの指定可能範囲外の値を指定した場合は、エラーとなりメッセージが表示されます。
- 添付ファイルの合計最大サイズ (max_apdfiletotalsize) と添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズ (max_apdfilesize) の間に矛盾が発生する指定がされた場合には、エラーとなりメッセージが表示されます。
- メール配信設定のデフォルト値 (def_distributemail) とメール設定欄表示状態 (def_displaymailsetting) の間に不正な組み合わせが指定された場合には、エラーとなりメッセージが出力されます。メール配信設定のデフォルト値とメール設定欄表示状態の関係を次の表に示します。

表 4-8 メール配信設定のデフォルト値とメール設定欄表示状態の関係

項番	メール配信設定のデフォルト値 (def_distributemail)	メール設定欄表示状態 (def_displaymailsetting)	登録
1	0 (無効)	0 (表示させない)	登録できる
2	0 (無効)	1 (表示させる)	登録できる
3	1 (有効)	0 (表示させない)	登録できない
4	1 (有効)	1 (表示させる)	登録できる

- このコマンドを実行すると、*Collaboration* インストールディレクトリ¥clb_home¥bin 直下に、コマンドの二重起動を防止するために使用する「frmsys.lock」ファイルが一時的に作成されます。
- 次に示す場合については、「5. Collaboration - Forum の障害対策」を参照してください。
 - コマンド実行中の障害
 - コマンド実行中の強制終了

- コマンド実行中の OutOfMemory エラー
- コマンドの二重起動
- 定義ファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) の詳細は、「2.3.8 ユティリティコマンドの設定」を参照してください。

戻り値

0	システムパラメタの変更に成功した。 コマンドを二重起動した。
1	システムパラメタの変更に失敗した。

使用例

内容を変更した定義ファイルで、システムパラメタを変更します。

```
> frmsys -f
```


5

Collaboration - Forum の障害対策

この章では、Collaboration - Forum の障害対策について説明します。

5.1 コマンド実行中の障害について

コマンド実行中に、データベースアクセスエラーまたはファイルアクセスエラーの障害が発生した場合の対処方法について説明します。

(1) データベース処理

データベースの更新処理中に障害が発生した場合は、データベースのロールバックを行います。

(2) ファイル処理

ファイルの出力中に障害が発生した場合は、出力中のファイルを削除します。

5.2 コマンド実行中の強制終了について

コマンド実行中に、ユーザによって強制終了された場合の対処方法を説明します。

(1) データベース処理

データベースの更新処理中に障害が発生した場合は、データベースのロールバックを行います。

(2) ファイル処理

ファイルの出力中に障害が発生した場合は、出力中のファイルを削除します。

5.3 コマンド実行中の OutOfMemory エラーについて

ユーティリティコマンドを実行すると、OutOfMemory エラーが発生することがあります。この場合は、`frmcmdsetup` コマンド(セットアップ)で生成したBATファイル中の起動オプションに(-Xms<size>, -Xmx<size>)を指定し、Java 仮想マシンが利用できるメモリ領域を拡張してから再実行してください。BATファイルの記述例を次の図に示します。

図 5-1 BAT ファイルの記述例

```
@echo off
rem # @(#)FrmReOpn.bat 01-32
rem # All Rights Reserved. Copyright (C) 2005, 2007, Hitachi, Ltd.
rem Javaのパス
set JDK=%COSMINEXUS_HOME%\jdk\bin\java
rem コマンドクラス名
set CMDNAME=jp.co.Hitachi.soft.collaboration.forum.command.frmreopn.FrmReOpn
rem 実行環境のパス
set LIBPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%\clb_home\lib
set CONFPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%\clb_home\conf
set MESPATH=%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%\clb_home\message
rem 全コマンド共通のパス
set CLASSPATH=%MESPATH%
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%CONFPATH%
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;
    C:\Program Files\Hitachi\HNTRLib2\classes\hnrtrlib2j.jar ※
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%COSMINEXUS_HOME%\DABJ\JdbcDbsv.jar
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%LIBPATH%\jxpcand.jar
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%LIBPATH%\jaws.jar
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%LIBPATH%\hptl_clb_ccu.jar
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%LIBPATH%\hptl_clb_cfr_common.jar
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%LIBPATH%\hptl_clb_cfr_database.jar
rem コマンドのjarファイル
set CLASSPATH=%CLASSPATH%;%LIBPATH%\hptl_clb_cfr_command.jar
rem コマンドの実行。
"%JDK%" -Xms512m -Xmx1024m -Dpropfile=hptl_clb_cfr_command
    -DCOSMINEXUS_COLLABORATION_HOME="%COSMINEXUS_COLLABORATION_HOME%"
    -classpath "%CLASSPATH%" %CMDNAME% %* ※
```

注※

この例では、改行を挿入して複数行で記述していますが、必ず1行で記述してください。

5.4 コマンドの二重起動について

コマンド起動時に、ほかのプロセスで同じコマンドが動作している場合（二重起動時）は、KDCN10009-Iメッセージを出力して終了します。その場合、コマンドの戻り値は「0」になります。ただし、次に示すコマンドは二重起動してもエラーになりません。

- frmcmdsetup コマンド（セットアップ）
- frmexpopn コマンド（発言のエクスポート）
- frmimpopn コマンド（発言のインポート）

5.5 uCosminexus Enterprise Search との連携時の障害について

uCosminexus Enterprise Search と連携した議題および発言の全文検索機能を使用した場合、共通インターフェースログファイルが出力されます。障害が発生したときはこのファイルを解析して障害の原因を調べることができます。

なお、共通インターフェースログファイルに関する次の項目は、共通インターフェースプロパティファイルで設定できます。

- 共通インターフェースログファイルの出力先ディレクトリ
- ログレベル
- ログファイルの面数
- ログファイルのサイズ

共通インターフェースプロパティファイルの設定の詳細は、「2.3.5(4)(d) 共通インターフェースプロパティファイル (hptl_clb_common_api.properties) の設定」を参照してください。

付録

付録 A インストールディレクトリ構成

Collaboration - Forum のインストールディレクトリの構成を次に示します。

Collaboration - Forumのインストールディレクトリ

- portlets
 - hptl_clb_cfr_core.par
- conf
 - hptl_clb_cfr_command.properties
 - hptl_clb_cfr_engine.properties
 - hptl_clb_cfr_ras.conf
 - hptl_clb_cfr_sysrange.properties
 - hptl_clb_cfr_view.properties
 - hptl_clb_common_api.properties
 - hptl_clb_ws.properties
- lib
 - hptl_clb_cfr_command.jar
 - hptl_clb_cfr_common.jar
 - hptl_clb_cfr_ws.jar
 - hptl_clb_fmb_mqf.jar
- bin
 - FrmCmdSetup.exe
 - FrmCmdSetup.exe.manifest
- sys
 - hptl_clb_cfr_area.sql
 - hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql
 - hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql
 - hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat
 - hptl_clb_cfr_delete_master.sql
 - hptl_clb_cfr_generator.txt
 - hptl_clb_cfr_grant.sql
 - hptl_clb_cfr_master.sql
 - hptl_clb_cfr_master_sequence.sql
 - hptl_clb_cfr_master_sequence_shift_0130.sql
 - hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0130.txt
 - hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt
 - hptl_clb_cfr_shift_0120.sql
 - hptl_clb_cfr_shift_0130.sql
 - hptl_clb_cfr_shift_0132.sql
 - hptl_clb_cfr_soap.wsdl
 - hptl_clb_cfr_statechange_personalroom.sql
 - hptl_clb_cfr_table.sql
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql
 - hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql
- sample
 - header.txt
- Readme.txt

付録 B モデルケースごとのデータベース容量

Collaboration - Forum では次に示す条件ごとのモデルケースを提供しています。

表 B-1 モデルケースの一覧

モデルケース	RRN	CMN	1 発言（または議題）当たりの 参照ユーザ数
モデルケース 1	165	250	10
モデルケース 2	165	250	50
モデルケース 3	165	500	10
モデルケース 4	165	500	50
モデルケース 5	825	250	10
モデルケース 6	825	250	50
モデルケース 7	825	500	10
モデルケース 8	825	500	50
モデルケース 9	1,650	250	10
モデルケース 10	1,650	250	50
モデルケース 11	1,650	500	10
モデルケース 12	1,650	500	50

(凡例)

RRN：システム内で作成する会議室の最大数

CMN：会議室に登録する議題と発言の最大数（平均値）

ここで示した値と想定値が異なる場合は、想定値より大きい値のモデルケースを使用してください。例えば、RRN の想定値が 200 の場合は、RRN の値が 825 のモデルケースを使用してデータベースを構築してください。

なお、RD エリア、テーブル、およびインデクスの容量は、次の表に示す仮定値を使用して算出しています。

表 B-2 容量見積もりの仮定値

項番	記号	項目	仮定値	単位
1	CHC	ひな形の内容の長さ（平均値） （ひな形が設定されているひな形の文字列の長さの平均値）	300	バイト
2	CHR	会議室ごとのひな形を設定する属性の割合（範囲：0.0~1.0 例：12.3%の場合は0.123）	0.3	—
3	CMI	メールによって投稿された議題または発言のメッセージ ID の長さ（平均値）	255	バイト

項番	記号	項目	仮定値	単位
4	CRR	システム全体で登録される議題と発言のうち、回答責任者が設定される議題と発言の割合（範囲：0.0～1.0 例：12.3%の場合は0.123）	0.1	－
5	CSB	主題の長さ（平均値）	255	バイト
6	CTX	本文の長さ（平均値）	3,000	バイト
7	ILN	メンバー一人当たり参照可能な個人（ユーザ自身）の会議室の数の平均	100	－
8	IMN	個人（ユーザ自身）の会議室に参加しているメンバー数（重複除く）※1	5,000	－
9	IRN	個人（ユーザ自身）の会議室の数	IRN※1	－
10	MCN	コミュニティごとのコミュニティ役割の数（平均値）	8	－
11	MMN	会議室ごとにユーザ自身がメール受信を設定するメンバー数（平均値）	MMN※2	－
12	MRM	会議室ごとのメンバー数（個人（ユーザ自身）の会議室だけ）（平均値）	MRM※2	－
13	MRN	会議室ごとのメンバー数（全会議室）（平均値）	MRN※2	－
14	OCC	コミュニティの数	OCC※1	－
15	OCN	コミュニティ管理から取得するコミュニティ名称（平均値）	120	バイト
16	ORN	コミュニティに属する会議室の数	ORN※1	－
17	PFN	議題または発言に添付するファイルの数（添付ファイルがある議題または発言に対する平均値）	1	－
18	PFP	会議室に投稿された議題と発言にファイルが添付される割合（範囲：0.0～1.0 例：12.3%の場合は0.123）	0.2	－
19	PFS	議題と発言に添付するファイルのサイズ（平均値）	512,000	バイト
20	PPT	議題と発言に添付するファイル名の長さ（平均値）	255	バイト
21	PTS	添付ファイルのサイズに含まれるテキストデータのサイズ（平均値）	409,600	バイト
22	QMA	メッセージキューを使用して配信するメールアドレスの長さ（平均値）	64	バイト
23	QMX	コマンド用の定義ファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) の def_mqmaxnumber (メッセージキューの一時保存数) の値	1,000	－
24	RAN	会議室ごとに使用する属性の数（平均値）	10	－
25	RCD	会議室略号の長さ（平均値）	80	バイト
26	RMN	メール配信をする会議室の数	RMN※1	－

項番	記号	項目	仮定値	単位
27	RNE	会議室名（英語）の長さ（平均値）	120	バイト
28	RNM	会議室名の長さ（平均値）	120	バイト
29	RXP	会議室の説明の長さ（平均値）	150	バイト
30	SMR	システム全体で登録される議題と発言のうち、メールでの投稿によって登録される議題と発言の割合（範囲：0.0～1.0 例：12.3%の場合は0.123）	0.25	－
31	UCE	ユーザの役職名（英語）の長さ（平均値）	64	バイト
32	UCJ	ユーザの役職名（日本語）の長さ（平均値）	64	バイト
33	UID	ユーザIDの長さ（平均値）	64	バイト
34	UNE	ユーザ名（英語）の長さ（平均値）	64	バイト
35	UNJ	ユーザ名（日本語）の長さ（平均値）	64	バイト
36	URE	ユーザの所属する組織名（英語）の長さ（平均値）	64	バイト
37	URJ	ユーザの所属する組織名（日本語）の長さ（平均値）	64	バイト

（凡例）

－：ありません。

注※1

システム内で作成する会議室の最大数（RRN）の値によって異なります。各変数とRRNの値の対応を次の表に示します。

項番	変数	RRNの値		
		165	825	1,650
1	IRN	15	75	150
2	OCC	100	500	1,000
3	ORN	150	750	1,500
4	RMN	165	825	1,650

注※2

1発言（または議題）当たりの参照ユーザ数によって異なります。各変数と1発言（または議題）当たりの参照ユーザ数の対応を次の表に示します。

項番	変数	1発言（または議題）当たりの参照ユーザ数	
		10	50
1	MMN	10	50
2	MRM	10	50
3	MRN	10	50

ここに示した仮定値より大きい値を想定している場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に「付録C データベース容量の見積もりで使用する値」に示す値を代入して、データベース容量を見積もってください。

付録B.1 モデルケースごとのRDエリアの容量

モデルケースごとのRDエリアの容量を次の表に示します。

モデルケース1, 3, 5, 7, 9, および11を使用する場合は表B-3, モデルケース2, 4, 6, 8, 10, および12を使用する場合は表B-4をそれぞれ参照してください。

表B-3 モデルケースごとのRDエリアの容量 (1発言 (または議題) 当たりの参照ユーザ数が10人の場合)

RRN (システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
165	CFRRDDATA10	994	159,256	1,987	318,200
	CFRRDDATA20	2,980	477,144	5,959	953,968
	CFRRDDATA30	86	6,980	171	13,784
	CFRRDDATA40	5,959	477,192	11,917	954,212
	CFRRDDATA50	1	176	1	176
	CFRRDDATA60	1	176	1	176
	CFRRDDATA70	70	5,700	70	5,700
	CFRRDDATA80	203	16,348	203	16,348
	CFRRDINDEX10	435	34,920	824	66,068
	CFRRDINDEX20	40	3,296	79	6,420
	CFRRDINDEX30	23	1,936	44	3,616
	CFRRDINDEX40	3,239	259,420	6,476	518,584
	CFRRDINDEX50	133	10,744	133	10,744
	CFRRDINDEX60	17	1,456	17	1,456
	CFRRDINDEX70	2	256	2	256
	CFRRDINDEX80	34	2,816	34	2,816
	CFRRDINDEX90	2	256	2	256
	CFRRDLOBB10	519,750	4,164,968	1,039,500	8,329,112
	CFRRDLOBD10	165,484	1,326,232	330,484	2,648,536
	CFRRDLOBD20	1,048,234	8,398,984	2,095,984	16,793,272

RRN (システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
165	CFRRDLOBI10	74,647	598,768	126,175	1,010,992
	CFRRDLOBI20	1,260,694	10,100,968	2,498,266	20,016,904
825	CFRRDDATA10	4,966	795,032	9,931	1,589,744
	CFRRDDATA20	14,896	2,384,456	29,792	4,768,752
	CFRRDDATA30	426	34,200	852	68,308
	CFRRDDATA40	29,792	2,385,344	59,584	4,770,600
	CFRRDDATA50	1	176	1	176
	CFRRDDATA60	1	176	1	176
	CFRRDDATA70	307	24,672	307	24,672
	CFRRDDATA80	203	16,348	203	16,348
	CFRRDINDX10	2,120	169,828	4,065	325,552
	CFRRDINDX20	195	15,708	390	31,320
	CFRRDINDX30	102	8,260	200	16,108
	CFRRDINDX40	16,186	1,296,000	32,371	2,591,832
	CFRRDINDX50	184	14,824	184	14,824
	CFRRDINDX60	17	1,456	17	1,456
	CFRRDINDX70	2	256	2	256
	CFRRDINDX80	166	13,384	166	13,384
	CFRRDINDX90	2	256	2	256
	CFRRDLOBB10	2,598,750	20,821,544	5,197,500	41,643,032
	CFRRDLOBD10	825,484	6,613,912	1,650,484	13,223,896
	CFRRDLOBD20	5,239,234	41,976,904	10,477,984	83,949,880
	CFRRDLOBI10	280,758	2,249,960	538,394	4,314,120
	CFRRDLOBI20	6,210,982	49,763,176	12,398,845	99,339,808
	1,650	CFRRDDATA10	9,931	1,589,744	19,862
CFRRDDATA20		29,792	4,768,752	59,584	9,537,352
CFRRDDATA30		852	68,308	1,703	136,444
CFRRDDATA40		59,584	4,770,600	119,167	9,541,032
CFRRDDATA50		2	256	2	256

RRN(システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
1,650	CFRRDDATA60	2	256	2	256
	CFRRDDATA70	606	48,612	606	48,612
	CFRRDDATA80	203	16,348	203	16,348
	CFRRDINDX10	4,232	338,924	8,114	649,728
	CFRRDINDX20	390	31,320	779	62,464
	CFRRDINDX30	200	16,108	398	31,960
	CFRRDINDX40	32,371	2,591,832	64,740	5,183,412
	CFRRDINDX50	251	20,188	251	20,188
	CFRRDINDX60	17	1,456	17	1,456
	CFRRDINDX70	3	336	3	336
	CFRRDINDX80	332	26,676	332	26,676
	CFRRDINDX90	4	416	4	416
	CFRRDLOBB10	5,197,500	41,643,032	10,395,000	83,285,240
	CFRRDLOBD10	1,650,484	13,223,896	3,300,484	26,443,864
	CFRRDLOBD20	10,477,984	83,949,880	20,955,484	167,895,832
	CFRRDLOBI10	538,394	4,314,120	1,053,665	8,442,432
	CFRRDLOBI20	12,398,845	99,339,808	24,774,571	198,494,608

表 B-4 モデルケースごとの RD エリアの容量 (1 発言 (または議題) 当たりの参照ユーザ数が 50 人の場合)

RRN(システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
165	CFRRDDATA10	994	159,256	1,987	318,200
	CFRRDDATA20	2,980	477,144	5,959	953,968
	CFRRDDATA30	86	6,980	171	13,784
	CFRRDDATA40	29,792	2,385,344	59,584	4,770,600
	CFRRDDATA50	1	176	1	176
	CFRRDDATA60	1	176	1	176

RRN (システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
165	CFRRDDATA70	90	7,300	90	7,300
	CFRRDDATA80	355	28,516	355	28,516
	CFRRDINDEX10	460	36,924	847	67,908
	CFRRDINDEX20	40	3,296	79	6,420
	CFRRDINDEX30	23	1,936	44	3,616
	CFRRDINDEX40	16,186	1,296,000	32,371	2,591,832
	CFRRDINDEX50	158	12,744	158	12,744
	CFRRDINDEX60	23	1,936	23	1,936
	CFRRDINDEX70	2	256	2	256
	CFRRDINDEX80	34	2,816	34	2,816
	CFRRDINDEX90	2	256	2	256
	CFRRDLOBB10	519,750	4,164,968	1,039,500	8,329,112
	CFRRDLOBD10	165,484	1,326,232	330,484	2,648,536
	CFRRDLOBD20	1,048,234	8,398,984	2,095,984	16,793,272
	CFRRDLOBI10	74,647	598,768	126,175	1,010,992
	CFRRDLOBI20	1,260,694	10,100,968	2,498,266	20,016,904
825	CFRRDDATA10	4,966	795,032	9,931	1,589,744
	CFRRDDATA20	14,896	2,384,456	29,792	4,768,752
	CFRRDDATA30	426	34,200	852	68,308
	CFRRDDATA40	148,959	11,926,288	297,917	23,852,404
	CFRRDDATA50	1	176	1	176
	CFRRDDATA60	1	176	1	176
	CFRRDDATA70	407	32,680	407	32,680
	CFRRDDATA80	355	28,516	355	28,516
	CFRRDINDEX10	2,244	179,756	4,184	335,080
	CFRRDINDEX20	195	15,708	390	31,320
	CFRRDINDEX30	102	8,260	200	16,108
	CFRRDINDEX40	80,926	6,479,320	161,848	12,958,232
	CFRRDINDEX50	309	24,832	309	24,832

RRN (システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
825	CFRRDINDX60	23	1,936	23	1,936
	CFRRDINDX70	2	256	2	256
	CFRRDINDX80	166	13,384	166	13,384
	CFRRDINDX90	2	256	2	256
	CFRRDLOBB10	2,598,750	20,821,544	5,197,500	41,643,032
	CFRRDLOBD10	825,484	6,613,912	1,650,484	13,223,896
	CFRRDLOBD20	5,239,234	41,976,904	10,477,984	83,949,880
	CFRRDLOBI10	280,758	2,249,960	538,394	4,314,120
	CFRRDLOBI20	6,210,982	49,763,176	12,398,845	99,339,808
1,650	CFRRDDATA10	9,931	1,589,744	19,862	3,179,328
	CFRRDDATA20	29,792	4,768,752	59,584	9,537,352
	CFRRDDATA30	852	68,308	1,703	136,444
	CFRRDDATA40	297,917	23,852,404	595,834	47,704,716
	CFRRDDATA50	2	256	2	256
	CFRRDDATA60	2	256	2	256
	CFRRDDATA70	806	64,624	806	64,624
	CFRRDDATA80	355	28,516	355	28,516
	CFRRDINDX10	4,480	358,780	8,351	668,704
	CFRRDINDX20	390	31,320	779	62,464
	CFRRDINDX30	200	16,108	398	31,960
	CFRRDINDX40	161,848	12,958,232	323,696	25,916,368
	CFRRDINDX50	500	40,124	500	40,124
	CFRRDINDX60	23	1,936	23	1,936
	CFRRDINDX70	3	336	3	336
	CFRRDINDX80	332	26,676	332	26,676
	CFRRDINDX90	4	416	4	416
	CFRRDLOBB10	5,197,500	41,643,032	10,395,000	83,285,240
	CFRRDLOBD10	1,650,484	13,223,896	3,300,484	26,443,864
	CFRRDLOBD20	10,477,984	83,949,880	20,955,484	167,895,832

RRN (システム内で作成する会議室の最大数)	RD エリア名	CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 250		CMN (会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)) : 500	
		セグメント数	RD エリアの容量 (KB)	セグメント数	RD エリアの容量 (KB)
1,650	CFRRDLOBI10	538,394	4,314,120	1,053,665	8,442,432
	CFRRDLOBI20	12,398,845	99,339,808	24,774,571	198,494,608

付録 B.2 モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数

モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数を次に示します。

(1) モデルケース 1 の場合

モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-5 モデルケース 1 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	994
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	2,980
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	86
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	5,959
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	12
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_attribute	40
10		tbl_importance	1
11		tbl_state	1
12		tbl_mailuser	5
13		tbl_uaccess	1
14		tbl_caccess	3
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
19	CFRRDDATA70	tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	39
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	40
29		idx_opinion1	13
30		idx_opinion2	8
31		idx_opinion3	8
32		idx_opinion4	8
33		idx_opinion5	7
34		idx_opinion6	8
35		idx_opinion7	34
36		idx_opinion8	34
37		idx_opinion9	32
38		idx_opinion10	58
39		idx_opinion11	64
40		idx_opinion12	58
41		idx_opinion13	5
42		idx_opinion14	40
43		idx_opinion15	9
44	idx_opinion16	9	
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	40
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	7
47		idx_apdfile1	2
48		idx_apdfile3	12

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
49	CFRRDINDEX30	idx_apdfile4	2
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」 および 「userid」 に定義されているインデクス	1,527
51		idx_aldyread1	1,712
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」 に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」 に定義されているインデクス	1
55		idx_mainforum1	1
56		tbl_attribute のカラム「fid」 および 「attrid」 に定義されているインデクス	2
57		tbl_importance のカラム「fid」 および 「impid」 に定義されているインデクス	1
58		tbl_state のカラム「fid」 および 「stateid」 に定義されているインデクス	1
59		tbl_mailuser のカラム「fid」 および 「userid」 に定義されているインデクス	6
60		tbl_uaccess のカラム「fid」 および 「userid」 に定義されているインデクス	1
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス • fid • comid • workid • roleid	3
63		idx_caccess1	3
64		tbl_oaccess のカラム「fid」 および 「orgid」 に定義されているインデクス	1
65	idx_oaccess1	1	
66	tbl_mattribute のカラム「attrid」 および 「lang」 に定義されているインデクス	1	
67	tbl_mimportance のカラム「impid」 および 「lang」 に定義されているインデクス	1	
68	tbl_mstate のカラム「stateid」 および 「lang」 に定義されているインデクス	1	
69	tbl_param のカラム「pkey」 に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア名	テーブル／インデクス	セグメント数
70	CFRRDINDEX50	tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	5
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	34
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(2) モデルケース 2 の場合

モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-6 モデルケース 2 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル／インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	994
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	2,980
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	86
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	29,792
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	12
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_attribute	40
10		tbl_importance	1
11		tbl_state	1
12		tbl_mailuser	23

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数	
13	CFRRDDATA70	tbl_uaccess	3	
14		tbl_caccess	3	
15		tbl_oaccess	0	
16		tbl_mattribute	1	
17		tbl_mimportance	1	
18		tbl_mstate	1	
19		tbl_param	1	
20		tbl_mtcaccess	1	
21		tbl_mtattribute	1	
22		CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23			tbl_sequence_mq	1
24	tbl_info_defmsg_mqbuf		135	
25	tbl_info_defaddr_mqbuf		15	
26	tbl_info_idxmsg_mqbuf		9	
27	tbl_info_idxaddr_mqbuf		191	
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	40	
29		idx_opinion1	38	
30		idx_opinion2	8	
31		idx_opinion3	8	
32		idx_opinion4	8	
33		idx_opinion5	7	
34		idx_opinion6	8	
35		idx_opinion7	34	
36		idx_opinion8	34	
37		idx_opinion9	32	
38		idx_opinion10	58	
39		idx_opinion11	64	
40		idx_opinion12	58	
41		idx_opinion13	5	
42		idx_opinion14	40	
43		idx_opinion15	9	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
44	CFRRDINDEX10	idx_opinion16	9
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	40
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	7
47		idx_apdfile1	2
48		idx_apdfile3	12
49		idx_apdfile4	2
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	7,630
51		idx_aldyread1	8,556
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	1
55		idx_mainforum1	1
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	2
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	1
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	1
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	29
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	3
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	3
63	idx_caccess1	3	
64	tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1	
65	idx_oaccess1	1	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
66	CFRRDINDEX50	tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	11
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	34
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(3) モデルケース 3 の場合

モデルケース 3 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-7 モデルケース 3 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	1,987
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	5,959
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	171
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	11,917
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	12
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_attribute	40
10		tbl_importance	1
11		tbl_state	1
12		tbl_mailuser	5
13		tbl_uaccess	1
14		tbl_caccess	3
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	39
28	CFRRDINDX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	79
29		idx_opinion1	20
30		idx_opinion2	15
31		idx_opinion3	13
32		idx_opinion4	39
33		idx_opinion5	37
34		idx_opinion6	13
35		idx_opinion7	34
36		idx_opinion8	34

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
37	CFRRDINDEX10	idx_opinion9	64
38		idx_opinion10	115
39		idx_opinion11	127
40		idx_opinion12	115
41		idx_opinion13	9
42		idx_opinion14	78
43		idx_opinion15	16
44		idx_opinion16	16
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	79
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	14
47		idx_apdfile1	3
48		idx_apdfile3	24
49		idx_apdfile4	3
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	3,053
51		idx_aldyread1	3,423
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	1
55		idx_mainforum1	1
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	2
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	1
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	1
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	6
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	1
61		idx_uaccess1	104
62	tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス	3	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
62	CFRRDINDEX50	<ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	3
63		idx_caccess1	3
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72		CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス
73	tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス		3
74	idx_info_defaddr1		3
75	tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス		3
76	idx_info_idxaddr1		5
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	34
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(4) モデルケース 4 の場合

モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-8 モデルケース 4 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	1,987
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	5,959
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	171
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	59,584
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	12
8		tbl_mainforum	1
9		tbl_attribute	40
10		tbl_importance	1
11		tbl_state	1
12		tbl_mailuser	23
13		tbl_uaccess	3
14		tbl_caccess	3
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21	tbl_mtattribute	1	
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	191
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	79
29		idx_opinion1	43
30		idx_opinion2	15

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数	
31	CFRRDINDEX10	idx_opinion3	13	
32		idx_opinion4	39	
33		idx_opinion5	37	
34		idx_opinion6	13	
35		idx_opinion7	34	
36		idx_opinion8	34	
37		idx_opinion9	64	
38		idx_opinion10	115	
39		idx_opinion11	127	
40		idx_opinion12	115	
41		idx_opinion13	9	
42		idx_opinion14	78	
43		idx_opinion15	16	
44		idx_opinion16	16	
45		CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	79
46		CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	14
47	idx_apdfile1		3	
48	idx_apdfile3		24	
49	idx_apdfile4		3	
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」,「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	15,259	
51		idx_aldyread1	17,112	
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	1	
53		idx_forum1	1	
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	1	
55		idx_mainforum1	1	
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	2	
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
58	CFRRDINDEX50	tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	1
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	29
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	3
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	3
63		idx_caccess1	3
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	11
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	34
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(5) モデルケース 5 の場合

モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-9 モデルケース 5 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数	
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	4,966	
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	14,896	
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	426	
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	29,792	
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1	
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1	
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	60	
8		tbl_mainforum	2	
9		tbl_attribute	194	
10		tbl_importance	4	
11		tbl_state	3	
12		tbl_mailuser	23	
13		tbl_uaccess	3	
14		tbl_caccess	12	
15		tbl_oaccess	0	
16		tbl_mattribute	1	
17		tbl_mimportance	1	
18		tbl_mstate	1	
19		tbl_param	1	
20		tbl_mtcaccess	1	
21		tbl_mtattribute	1	
22		CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23			tbl_sequence_mq	1
24	tbl_info_defmsg_mqbuf		135	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
25	CFRRDDATA80	tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	39
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	195
29		idx_opinion1	62
30		idx_opinion2	38
31		idx_opinion3	36
32		idx_opinion4	36
33		idx_opinion5	34
34		idx_opinion6	36
35		idx_opinion7	167
36		idx_opinion8	167
37		idx_opinion9	159
38		idx_opinion10	286
39		idx_opinion11	317
40		idx_opinion12	286
41		idx_opinion13	22
42		idx_opinion14	194
43		idx_opinion15	43
44		idx_opinion16	42
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	195
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	34
47		idx_apdfile1	5
48		idx_apdfile3	58
49		idx_apdfile4	5
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	7,630
51		idx_aldyread1	8,556
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数	
54	CFRRDINDEX50	tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	2	
55		idx_mainforum1	1	
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	7	
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	3	
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	2	
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	29	
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	3	
61		idx_uaccess1	104	
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス • fid • comid • workid • roleid	13	
63		idx_caccess1	10	
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1	
65		idx_oaccess1	1	
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1	
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1	
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1	
72		CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
73	CFRRDINDEX60	tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	5
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	166
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(6) モデルケース 6 の場合

モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-10 モデルケース 6 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	4,966
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	14,896
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	426
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	148,959
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	60
8		tbl_mainforum	2
9		tbl_attribute	194
10		tbl_importance	4
11		tbl_state	3
12		tbl_mailuser	115
13		tbl_uaccess	11
14		tbl_caccess	12
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1

項番	RD エリア名	テーブル／インデクス	セグメント数
17	CFRRDDATA70	tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	191
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	195
29		idx_opinion1	186
30		idx_opinion2	38
31		idx_opinion3	36
32		idx_opinion4	36
33		idx_opinion5	34
34		idx_opinion6	36
35		idx_opinion7	167
36		idx_opinion8	167
37		idx_opinion9	159
38		idx_opinion10	286
39		idx_opinion11	317
40		idx_opinion12	286
41		idx_opinion13	22
42		idx_opinion14	194
43		idx_opinion15	43
44		idx_opinion16	42
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	195
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	34

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
47	CFRRDINDEX30	idx_apdfil1	5
48		idx_apdfil3	58
49		idx_apdfil4	5
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」 および 「userid」 に定義されているインデクス	38,147
51		idx_aldyread1	42,779
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」 に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」 に定義されているインデクス	2
55		idx_mainforum1	1
56		tbl_attribute のカラム「fid」 および 「attrid」 に定義されているインデクス	7
57		tbl_importance のカラム「fid」 および 「impid」 に定義されているインデクス	3
58		tbl_state のカラム「fid」 および 「stateid」 に定義されているインデクス	2
59		tbl_mailuser のカラム「fid」 および 「userid」 に定義されているインデクス	143
60		tbl_uaccess のカラム「fid」 および 「userid」 に定義されているインデクス	14
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	13
63		idx_caccess1	10
64		tbl_oaccess のカラム「fid」 および 「orgid」 に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66	tbl_mattribute のカラム「attrid」 および 「lang」 に定義されているインデクス	1	
67	tbl_mimportance のカラム「impid」 および 「lang」 に定義されているインデクス	1	
68	tbl_mstate のカラム「stateid」 および 「lang」 に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア名	テーブル／インデクス	セグメント数
69	CFRRDINDEX50	tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	11
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	166
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(7) モデルケース 7 の場合

モデルケース 7 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-11 モデルケース 7 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル／インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	9,931
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	29,792
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	852
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	59,584
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	60
8		tbl_mainforum	2
9		tbl_attribute	194
10		tbl_importance	4

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
11	CFRRDDATA70	tbl_state	3
12		tbl_mailuser	23
13		tbl_uaccess	3
14		tbl_caccess	12
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	39
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
29		idx_opinion1	95
30		idx_opinion2	70
31		idx_opinion3	63
32		idx_opinion4	190
33		idx_opinion5	180
34		idx_opinion6	63
35		idx_opinion7	167
36		idx_opinion8	167
37		idx_opinion9	317
38		idx_opinion10	572
39		idx_opinion11	633
40		idx_opinion12	572
41		idx_opinion13	44

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
42	CFRRDINDEX10	idx_opinion14	388
43		idx_opinion15	77
44		idx_opinion16	77
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	67
47		idx_apdfile1	9
48		idx_apdfile3	115
49		idx_apdfile4	9
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	15,259
51		idx_aldyread1	17,112
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	2
55		idx_mainforum1	1
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	7
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	3
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	2
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	29
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	3
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	13
63	idx_caccess1	10	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
64	CFRRDINDEX50	tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	5
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	166
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(8) モデルケース 8 の場合

モデルケース 8 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-12 モデルケース 8 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	9,931
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	29,792
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	852

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	297,917
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	1
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	1
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	60
8		tbl_mainforum	2
9		tbl_attribute	194
10		tbl_importance	4
11		tbl_state	3
12		tbl_mailuser	115
13		tbl_uaccess	11
14		tbl_caccess	12
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	191
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
29		idx_opinion1	214
30		idx_opinion2	70
31		idx_opinion3	63
32		idx_opinion4	190
33		idx_opinion5	180
34		idx_opinion6	63

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
35	CFRRDINDEX10	idx_opinion7	167
36		idx_opinion8	167
37		idx_opinion9	317
38		idx_opinion10	572
39		idx_opinion11	633
40		idx_opinion12	572
41		idx_opinion13	44
42		idx_opinion14	388
43		idx_opinion15	77
44		idx_opinion16	77
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	67
47		idx_apdfile1	9
48		idx_apdfile3	115
49		idx_apdfile4	9
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	76,292
51		idx_aldyread1	85,556
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	1
53		idx_forum1	1
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	2
55		idx_mainforum1	1
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	7
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	3
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	2
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	143
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	14

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
61	CFRRDINDEX50	idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス • fid • comid • workid • roleid	13
63		idx_caccess1	10
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	11
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	1
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	166
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	1
81		idx_sequence2	1

(9) モデルケース 9 の場合

モデルケース 9 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-13 モデルケース 9 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	9,931
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	29,792
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	852
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	59,584
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	2
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	2
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	120
8		tbl_mainforum	4
9		tbl_attribute	388
10		tbl_importance	8
11		tbl_state	5
12		tbl_mailuser	46
13		tbl_uaccess	5
14		tbl_caccess	24
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4
23		tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	39
28	CFRRDINDX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
29	CFRRDINDEX10	idx_opinion1	123
30		idx_opinion2	76
31		idx_opinion3	72
32		idx_opinion4	72
33		idx_opinion5	67
34		idx_opinion6	72
35		idx_opinion7	333
36		idx_opinion8	333
37		idx_opinion9	317
38		idx_opinion10	572
39		idx_opinion11	633
40		idx_opinion12	572
41		idx_opinion13	44
42		idx_opinion14	388
43		idx_opinion15	84
44		idx_opinion16	84
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	67
47		idx_apdfile1	9
48		idx_apdfile3	115
49		idx_apdfile4	9
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	15,259
51		idx_aldyread1	17,112
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	2
53		idx_forum1	2
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	4
55		idx_mainforum1	2
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	14

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
57	CFRRDINDEX50	tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	5
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	3
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	57
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	6
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	25
63		idx_caccess1	19
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	5

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	2
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	332
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	2
81		idx_sequence2	2

(10) モデルケース 10 の場合

モデルケース 10 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-14 モデルケース 10 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	9,931
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	29,792
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	852
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	297,917
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	2
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	2
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	120
8		tbl_mainforum	4
9		tbl_attribute	388
10		tbl_importance	8
11		tbl_state	5
12		tbl_mailuser	230
13		tbl_uaccess	21
14		tbl_caccess	24
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22	CFRRDDATA80	tbl_info_mq	4

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
23	CFRRDDATA80	tbl_sequence_mq	1
24		tbl_info_defmsg_mqbuf	135
25		tbl_info_defaddr_mqbuf	15
26		tbl_info_idxmsg_mqbuf	9
27		tbl_info_idxaddr_mqbuf	191
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
29		idx_opinion1	371
30		idx_opinion2	76
31		idx_opinion3	72
32		idx_opinion4	72
33		idx_opinion5	67
34		idx_opinion6	72
35		idx_opinion7	333
36		idx_opinion8	333
37		idx_opinion9	317
38		idx_opinion10	572
39		idx_opinion11	633
40		idx_opinion12	572
41		idx_opinion13	44
42		idx_opinion14	388
43		idx_opinion15	84
44	idx_opinion16	84	
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	390
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	67
47		idx_apdfile1	9
48		idx_apdfile3	115
49		idx_apdfile4	9
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」, 「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	76,292
51		idx_aldyread1	85,556

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	2
53		idx_forum1	2
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	4
55		idx_mainforum1	2
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	14
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	5
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	3
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	285
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	27
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス • fid • comid • workid • roleid	25
63		idx_caccess1	19
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67	tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
68	tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
69	tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1	
70	tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1	
71	tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	11
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	2
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	332
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	2
81		idx_sequence2	2

(11) モデルケース 11 の場合

モデルケース 11 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-15 モデルケース 11 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	19,862
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	59,584
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	1,703
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	119,167
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	2
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	2
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	120
8		tbl_mainforum	4
9		tbl_attribute	388
10		tbl_importance	8
11		tbl_state	5
12		tbl_mailuser	46
13		tbl_uaccess	5
14		tbl_caccess	24
15		tbl_oaccess	0

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
16	CFRRDDATA70	tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22		CFRRDDATA80	tbl_info_mq
23	tbl_sequence_mq		1
24	tbl_info_defmsg_mqbuf		135
25	tbl_info_defaddr_mqbuf		15
26	tbl_info_idxmsg_mqbuf		9
27	tbl_info_idxaddr_mqbuf		39
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	779
29		idx_opinion1	190
30		idx_opinion2	139
31		idx_opinion3	125
32		idx_opinion4	380
33		idx_opinion5	360
34		idx_opinion6	125
35		idx_opinion7	333
36		idx_opinion8	333
37		idx_opinion9	632
38		idx_opinion10	1,143
39		idx_opinion11	1,266
40		idx_opinion12	1,143
41		idx_opinion13	87
42		idx_opinion14	774
43		idx_opinion15	153
44		idx_opinion16	152
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	779

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	133
47		idx_apdfile1	18
48		idx_apdfile3	229
49		idx_apdfile4	18
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」,「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	30,517
51		idx_aldyread1	34,223
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	2
53		idx_forum1	2
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	4
55		idx_mainforum1	2
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	14
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	5
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	3
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	57
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	6
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	25
63		idx_caccess1	19
64		tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1
65		idx_oaccess1	1
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1
67	tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
68	CFRRDINDEX50	tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1
72	CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73		tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74		idx_info_defaddr1	3
75		tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
76		idx_info_idxaddr1	5
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1
78		idx_forum3	2
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	332
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	2
81		idx_sequence2	2

(12) モデルケース 12 の場合

モデルケース 12 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数を次の表に示します。

表 B-16 モデルケース 12 の場合のテーブルおよびインデクスのセグメント数

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
1	CFRRDDATA10	tbl_opinion	19,862
2	CFRRDDATA20	tbl_contents	59,584
3	CFRRDDATA30	tbl_apdfile	1,703
4	CFRRDDATA40	tbl_aldyread	595,834
5	CFRRDDATA50	tbl_sequence1	2
6	CFRRDDATA60	tbl_sequence2	2
7	CFRRDDATA70	tbl_forum	120
8		tbl_mainforum	4
9		tbl_attribute	388

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
10	CFRRDDATA70	tbl_importance	8
11		tbl_state	5
12		tbl_mailuser	230
13		tbl_uaccess	21
14		tbl_caccess	24
15		tbl_oaccess	0
16		tbl_mattribute	1
17		tbl_mimportance	1
18		tbl_mstate	1
19		tbl_param	1
20		tbl_mtcaccess	1
21		tbl_mtattribute	1
22		CFRRDDATA80	tbl_info_mq
23	tbl_sequence_mq		1
24	tbl_info_defmsg_mqbuf		135
25	tbl_info_defaddr_mqbuf		15
26	tbl_info_idxmsg_mqbuf		9
27	tbl_info_idxaddr_mqbuf		191
28	CFRRDINDEX10	tbl_opinion のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	779
29		idx_opinion1	427
30		idx_opinion2	139
31		idx_opinion3	125
32		idx_opinion4	380
33		idx_opinion5	360
34		idx_opinion6	125
35		idx_opinion7	333
36		idx_opinion8	333
37		idx_opinion9	632
38		idx_opinion10	1,143
39		idx_opinion11	1,266
40		idx_opinion12	1,143

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数
41	CFRRDINDEX10	idx_opinion13	87
42		idx_opinion14	774
43		idx_opinion15	153
44		idx_opinion16	152
45	CFRRDINDEX20	tbl_contents のカラム「fid」および「opnid」に定義されているインデクス	779
46	CFRRDINDEX30	tbl_apdfile のカラム「fid」および「apdfileid」に定義されているインデクス	133
47		idx_apdfile1	18
48		idx_apdfile3	229
49		idx_apdfile4	18
50	CFRRDINDEX40	tbl_aldyread のカラム「fid」,「opnid」および「userid」に定義されているインデクス	152,584
51		idx_aldyread1	171,112
52	CFRRDINDEX50	tbl_forum のカラム「fid」に定義されているインデクス	2
53		idx_forum1	2
54		tbl_mainforum のカラム「fmainid」に定義されているインデクス	4
55		idx_mainforum1	2
56		tbl_attribute のカラム「fid」および「attrid」に定義されているインデクス	14
57		tbl_importance のカラム「fid」および「impid」に定義されているインデクス	5
58		tbl_state のカラム「fid」および「stateid」に定義されているインデクス	3
59		tbl_mailuser のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	285
60		tbl_uaccess のカラム「fid」および「userid」に定義されているインデクス	27
61		idx_uaccess1	104
62		tbl_caccess の次のカラムに定義されているインデクス <ul style="list-style-type: none"> • fid • comid • workid • roleid 	25
63	idx_caccess1	19	

項番	RD エリア名	テーブル/インデクス	セグメント数	
64	CFRRDINDEX50	tbl_oaccess のカラム「fid」および「orgid」に定義されているインデクス	1	
65		idx_oaccess1	1	
66		tbl_mattribute のカラム「attrid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
67		tbl_mimportance のカラム「impid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
68		tbl_mstate のカラム「stateid」および「lang」に定義されているインデクス	1	
69		tbl_param のカラム「pkey」に定義されているインデクス	1	
70		tbl_mtcaccess のカラム「ftype」および「roleid」に定義されているインデクス	1	
71		tbl_mtattribute のカラム「ftype」および「attrid」に定義されているインデクス	1	
72		CFRRDINDEX60	tbl_info_mq のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
73			tbl_info_defmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス	3
74	idx_info_defaddr1		3	
75	tbl_info_idxmsg_mqbuf のカラム「messageid」に定義されているインデクス		3	
76	idx_info_idxaddr1		11	
77	CFRRDINDEX70	idx_forum2	1	
78		idx_forum3	2	
79	CFRRDINDEX80	idx_opinion17	332	
80	CFRRDINDEX90	idx_sequence1	2	
81		idx_sequence2	2	

付録 C データベース容量の見積もりで使用する値

ここではデータベース容量を見積もる際に使用する値について説明します。データベース容量を見積もる場合は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に、ここで説明している値を代入してください。

付録 C.1 容量見積もりの前提条件

データベース容量を見積もる際の前提条件を次に示します。

- Collaboration - Forum のデータベースでは、ノースプリットオプションを使用しません。データ長を算出する場合は、ノースプリットオプションを使用しない場合の値を参照してください。
- Collaboration - Forum のデータベースでは、リバランス機能を使用しません。
- Collaboration - Forum のテーブルには、繰り返し列は存在しません。

マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照する際は、これらの条件を考慮してください。

付録 C.2 値の説明で使用する記号

値の説明で使用する記号を次の表に示します。

表 C-1 値の説明で使用する記号

項番	記号	項目	備考
1	CHC	ひな形の内容の長さ (平均値) (ひな形が設定されているひな形の文字列の長さの平均値)	単位: バイト
2	CHR	会議室ごとのひな形を設定する属性の割合 (範囲: 0.0~1.0 例: 12.3% の場合は 0.123)	—
3	CMI	メールによって投稿された議題または発言のメッセージ ID の長さ (平均値)	単位: バイト
4	CMN	会議室に登録する議題と発言の最大数 (平均値)	—
5	CRR	システム全体で登録される議題と発言のうち、回答責任者が設定される議題と発言の割合 (範囲: 0.0~1.0 例: 12.3% の場合は 0.123)	—
6	CSB	主題の長さ (平均値)	単位: バイト
7	CTX	本文の長さ (平均値)	単位: バイト
8	ILN	メンバー一人当たり参照可能な個人 (ユーザ自身) の会議室の数の平均	—
9	IMN	個人 (ユーザ自身) の会議室に参加しているメンバ数 (重複除く) ※1	—
10	IRN	個人 (ユーザ自身) の会議室の数	—
11	MCN	コミュニティごとのコミュニティ役割の数 (平均値)	—
12	MMN	会議室ごとにユーザ自身がメール受信を設定するメンバ数 (平均値)	—
13	MRM	会議室ごとのメンバ数 (個人 (ユーザ自身) の会議室だけ) (平均値)	—
14	MRN	会議室ごとのメンバ数 (全会議室) (平均値)	—

項番	記号	項目	備考
15	OCC	コミュニティの数	—
16	OCN	コミュニティ管理から取得するコミュニティ名称 (平均値)	単位：バイト
17	ORN	コミュニティに属する会議室の数	—
18	PFN	議題または発言に添付するファイルの数 (添付ファイルがある議題または発言に対する平均値)	—
19	PPF	会議室に投稿された議題と発言にファイルが添付される割合 (範囲：0.0～1.0 例：12.3%の場合は0.123)	—
20	PFS	議題と発言に添付するファイルのサイズ (平均値)	単位：バイト
21	PPT	議題と発言に添付するファイル名の長さ (平均値)	単位：バイト
22	PTS	添付ファイルのサイズに含まれるテキストデータのサイズ (平均値)	単位：バイト
23	QMA	メッセージキューを使用して配信するメールアドレスの長さ (平均値)	単位：バイト
24	QMX	コマンド用の定義ファイル (hpt_clb_cfr_command.properties) の def_mqmaxnumber (メッセージキューの一時保存数) の値	—
25	RAN	会議室ごとに使用する属性の数 (平均値)	—
26	RCD	会議室略号の長さ (平均値)	単位：バイト
27	RMN	メール配信をする会議室の数	—
28	RNE	会議室名 (英語) の長さ (平均値)	単位：バイト
29	RNM	会議室名の長さ (平均値)	単位：バイト
30	RRN	システム内で作成する会議室の最大数 RRN の値は、次の計算式を使用して算出してください。 IRN+ORN	—
31	RXP	会議室の説明の長さ (平均値)	単位：バイト
32	SMR ^{*2}	システム全体で登録される議題と発言のうち、メールでの投稿によって登録される議題と発言の割合 (範囲：0.0～1.0 例：12.3%の場合は0.123)	—
33	UCE	ユーザの役職名 (英語) の長さ (平均値)	単位：バイト
34	UCJ	ユーザの役職名 (日本語) の長さ (平均値)	単位：バイト
35	UID	ユーザ ID の長さ (平均値)	単位：バイト
36	UNE	ユーザ名 (英語) の長さ (平均値)	単位：バイト
37	UNJ	ユーザ名 (日本語) の長さ (平均値)	単位：バイト
38	URE	ユーザの所属する組織名 (英語) の長さ (平均値)	単位：バイト
39	URJ	ユーザの所属する組織名 (日本語) の長さ (平均値)	単位：バイト

(凡例)

—：ありません。

注

日本語の文字列の長さは、1文字当たり3バイトとして計算してください。

注※1

個人（ユーザ自身）の会議室ごとに登録されているメンバの数をすべて合計し、重複しているユーザの数を引いた値です。

例えば、次の場合、個人（ユーザ自身）の会議室にユーザ A、ユーザ B、ユーザ C、ユーザ D、およびユーザ E が登録されているため、IMN の値は 5 になります。

- ・システムに個人（ユーザ自身）の会議室 1 と個人（ユーザ自身）の会議室 2 が存在している。
- ・個人（ユーザ自身）の会議室 1 にユーザ A、ユーザ B、およびユーザ C が登録されている。
- ・個人（ユーザ自身）の会議室 2 にユーザ A、ユーザ D、およびユーザ E が登録されている。

注※2

frmopnregist コマンド（メールによる議題または発言の投稿）を使用していない場合は 0 になります。

付録 C.3 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値

ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-2 ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	RD エリア名	容量見積もりで使用する変数と代入値									
		n※1	P	e	k	S	d _i	α _i	β _i	γ _i	
1	CFRRDDATA10	1	8,192	1	0	20	別途算出※2	別途算出※3	別途算出※3	別途算出※4	
2	CFRRDDATA20	1	8,192	1	0	20					
3	CFRRDDATA30	1	4,096	1	0	20					
4	CFRRDDATA40	1	4,096	1	0	20					
5	CFRRDDATA50	1	4,096	1	0	20					
6	CFRRDDATA60	1	4,096	1	0	20					
7	CFRRDDATA70	1	4,096	15	0	20					
8	CFRRDDATA80	1	4,096	6	0	20					
9	CFRRDINDX10	1	4,096	0	17	20					
10	CFRRDINDX20	1	4,096	0	1	20					
11	CFRRDINDX30	1	4,096	0	4	20					
12	CFRRDINDX40	1	4,096	0	2	20					
13	CFRRDINDX50	1	4,096	0	20	20					
14	CFRRDINDX60	1	4,096	0	5	20					
15	CFRRDINDX70	1	4,096	0	2	20					
16	CFRRDINDX80	1	4,096	0	1	20					
17	CFRRDINDX90	1	4,096	0	2	20					

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。実際のユーザ環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド（Windows(R)用）」を参照してください。

注※2

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。 α_i , β_i , γ_i の値を基にして算出してください。

注※3

表ごとの格納ページ数です。表の格納ページ数の算出方法については、「付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値」を参照してください。

注※4

インデクスごとの格納ページ数です。インデクスの格納ページ数の算出方法については、「付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値」を参照してください。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

付録 C.4 表の格納ページ数の見積もりで使用する値

表の格納ページ数の見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) 会議室テーブル (tbl_forum)

会議室テーブル (tbl_forum) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-3 会議室テーブル (tbl_forum) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_forum	RRN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	38	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

会議室テーブル (tbl_forum) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-4 d_j および e_j の値の算出で使用する値 (会議室テーブル (tbl_forum) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
1	fid	INTEGER	—	—	
2	fname	MVARCHAR	120	RNM	
3	fename	VARCHAR	120	RNE	
4	shortid	MVARCHAR	80	RCD	
5	fstate	SMALLINT	—	—	
6	userid	MVARCHAR	255	UID	
7	username	MVARCHAR	255	UNJ	
8	enusername	MVARCHAR	255	UNE	
9	post	MVARCHAR	255	UCJ	
10	enpost	MVARCHAR	255	UCE	
11	orgname	MVARCHAR	255	URJ	
12	enorgname	MVARCHAR	255	URE	
13	description	MVARCHAR	4,800	RXP	
14	ftype	SMALLINT	—	—	
15	opendate	TIMESTAMP	—	—	
16	closedate	TIMESTAMP	—	—	
17	enddate	TIMESTAMP	—	—	
18	classlevel	SMALLINT	—	—	
19	upperid	INTEGER	—	—	
20	topid	INTEGER	—	—	
21	mailhead	MVARCHAR	1,500	81	
22	mailfoot	MVARCHAR	1,500	122	
23	opnmail	SMALLINT	—	—	
24	permitchgopnmail	SMALLINT	—	—	
25	infomail	SMALLINT	—	—	
26	mailtype	SMALLINT	—	—	
27	maildate	TIMESTAMP	—	—	
28	lang	VARCHAR	255	2	
29	timezone	VARCHAR	10	9	
30	opnregist	SMALLINT	—	—	

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
31	url	VARCHAR	4,096	200	ドメイン名が 51 バイト以上の場合、d の値は、次の計算式を使用して算出してください。 150+ドメイン名 (バイト)
32	infomailtype	SMALLINT	—	—	
33	reprdntctrm	INTEGER	—	—	
34	reserve1	MVARCHAR	255	0	
35	reserve2	MVARCHAR	255	0	
36	reserve3	MVARCHAR	255	0	
37	creatdate	TIMESTAMP	—	—	
38	updatdate	TIMESTAMP	—	—	

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(2) メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum)

メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-5 メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mainforum	RRN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	4	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-6 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	fmainid	VARCHAR	40	39
3	creatdate	TIMESTAMP	—	—
4	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

— : 該当しません。

(3) 発言テーブル (tbl_opinion)

発言テーブル (tbl_opinion) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-7 発言テーブル (tbl_opinion) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_opinion	RRN×CMN	8,192	30	別途算出*1	別途算出*2	64	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

発言テーブル (tbl_opinion) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無 : なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-8 d_i および e_i の値の算出で使用する値（発言テーブル (tbl_opinion) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
1	opnid	INTEGER	–	–	
2	fid	INTEGER	–	–	
3	userid	MVARCHAR	255	UID	
4	username	MVARCHAR	255	UNJ	
5	enusername	MVARCHAR	255	UNE	
6	usernickname	MVARCHAR	32	0	
7	post	MVARCHAR	255	UCJ	
8	enpost	MVARCHAR	255	UCE	
9	orgname	MVARCHAR	255	URJ	
10	enorgname	MVARCHAR	255	URE	
11	renewdate	TIMESTAMP	–	–	
12	updateflg	SMALLINT	–	–	
13	opncount	SMALLINT	–	–	
14	opinionclassification	SMALLINT	–	–	
15	subject	MVARCHAR	255	CSB	
16	attrid	SMALLINT	–	–	
17	attrname	MVARCHAR	60	8	
18	enattrname	MVARCHAR	60	5	
19	impid	SMALLINT	–	–	
20	impname	MVARCHAR	60	7	
21	enimpname	MVARCHAR	60	9	
22	priority	SMALLINT	–	–	
23	sensitivity	SMALLINT	–	–	
24	stateid	SMALLINT	–	–	
25	statename	MVARCHAR	60	6	
26	enstatename	MVARCHAR	60	9	
27	replydemand	SMALLINT	–	–	

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
28	yetaldyread	SMALLINT	—	—	
29	apdfilename	SMALLINT	—	—	
30	termdate	TIMESTAMP	—	—	
31	restermdate	TIMESTAMP	—	—	
32	contentstop	MVARCHAR	255	255	CTX < 255 の場合、d の値には CTX を使用してください。
33	mailflg	SMALLINT	—	—	
34	sendnum	SMALLINT	—	—	
35	senddate	TIMESTAMP	—	—	
36	mailerrcd	VARCHAR	10	0	
37	mailerrmsg	MVARCHAR	255	0	
38	transrecepdate	TIMESTAMP	—	—	
39	distdatetime	TIMESTAMP	—	—	
40	messageid	MVARCHAR	255	↑ CMI × SMR ↑	
41	classlevel	SMALLINT	—	—	
42	upperid	INTEGER	—	—	
43	lowerid	INTEGER	—	—	
44	lowestid	INTEGER	—	—	
45	previd	INTEGER	—	—	
46	followid	INTEGER	—	—	
47	topid	INTEGER	—	—	
48	sortid	VARCHAR	255	6	
49	url	VARCHAR	4,096	220	ドメイン名が 51 バイト以上の場合、d の値は、次の計算式を使用して算出してください。 170 + ドメイン名 (バイト)
50	retuserid	MVARCHAR	255	↑ UID × CRR ↑	
51	retusername	MVARCHAR	255	↑ UNJ × CRR ↑	
52	retusername	MVARCHAR	255	↑ UNE × CRR ↑	
53	retusernickname	MVARCHAR	32	0	

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
54	retpost	MVARCHAR	255	↑ UCJ×CRR ↑	
55	retenpost	MVARCHAR	255	↑ UCE×CRR ↑	
56	retorgname	MVARCHAR	255	↑ URJ×CRR ↑	
57	retenorgname	MVARCHAR	255	↑ URE×CRR ↑	
58	retstate	SMALLINT	—	—	
59	infomail	SMALLINT	—	—	
60	reserve1	MVARCHAR	255	0	
61	reserve2	MVARCHAR	255	0	
62	reserve3	MVARCHAR	255	0	
63	creatdate	TIMESTAMP	—	—	
64	updatdate	TIMESTAMP	—	—	

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(4) 本文テーブル (tbl_contents)

本文テーブル (tbl_contents) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-9 本文テーブル (tbl_contents) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_contents	RRN×CMN	8,192	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	13	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

本文テーブル (tbl_contents) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-10 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (本文テーブル (tbl_contents) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
1	opnid	INTEGER	—	—	
2	fid	INTEGER	—	—	
3	gmaxinfo	SMALLINT	—	—	
4	inreplytoid	MVARCHAR	255	0	
5	referenceid	MVARCHAR	4,096	0	
6	contenttype	MVARCHAR	255	0	
7	rcv	BINARY	110,336	0	
8	rcp	MVARCHAR	421	0	
9	rep	MVARCHAR	421	0	
10	contents	BINARY	2,147,483,647	CTX	
11	tsdata	SGMLTEXT	—	—	d_i の値は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ用 RD エリア容量 (文書検索プラグイン) に記載されている値を使用してください。
12	creatdate	TIMESTAMP	—	—	
13	updatdate	TIMESTAMP	—	—	

(凡例)

- d : データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)
- : 該当しません。

(5) 属性テーブル (tbl_attribute)

属性テーブル (tbl_attribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-11 属性テーブル (tbl_attribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_attribute	RRN×RAN	4,096	30	別途算出 ^{*1}	別途算出 ^{*2}	9	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

属性テーブル (tbl_attribute) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-12 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (属性テーブル (tbl_attribute) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	attrid	SMALLINT	—	—
3	attname	MVARCHAR	60	8
4	enattname	MVARCHAR	60	5
5	templatestatus	SMALLINT	—	—
6	templatename	MVARCHAR	128	8×CHR
7	templatecontents	MVARCHAR	2,048	CHC×CHR
8	creatdate	TIMESTAMP	—	—
9	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(6) 重要度テーブル (tbl_importance)

重要度テーブル (tbl_importance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-13 重要度テーブル (tbl_importance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_importance	RRN×3	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

重要度テーブル (tbl_importance) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-14 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (重要度テーブル (tbl_importance) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	impid	SMALLINT	—	—
3	impname	MVARCHAR	60	7
4	enimpname	MVARCHAR	60	9
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(7) 議論状態テーブル (tbl_state)

議論状態テーブル (tbl_state) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-15 議論状態テーブル (tbl_state) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_state	RRN×2	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

議論状態テーブル (tbl_state) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-16 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (議論状態テーブル (tbl_state) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	stateid	SMALLINT	—	—
3	statename	MVARCHAR	60	6
4	enstatename	MVARCHAR	60	9
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(8) 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile)

添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-17 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d_i	e_i	f	g	h
1	tbl_apdfile	↑RRN×CMN×PFP× PFN↑	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	13	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、 e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-18 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値	備考
1	apdfileid	SMALLINT	—	—	
2	fid	INTEGER	—	—	
3	filename	MVARCHAR	512	PPT	
4	cnttype	VARCHAR	255	24	
5	filesize	INTEGER	—	—	
6	apdfile	BLOB	—	—	
7	tsdata	SGMLTEXT	—	—	d_i の値は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ用 RD エリア容量 (文書検索プラグイン) に記載されている値を使用してください。
8	tsidxflg	INTEGER	—	—	
9	tsidxstate	INTEGER	—	—	
10	tsidxinfo	VARCHAR	8	0	
11	opnid	INTEGER	—	—	
12	creatdate	TIMESTAMP	—	—	
13	updatdate	TIMESTAMP	—	—	

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(9) 既読テーブル (tbl_aldyread)

既読テーブル (tbl_aldyread) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-19 既読テーブル (tbl_aldyread) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_aldyread	RRN×CMN×M RN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	12	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

既読テーブル (tbl_aldyread) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-20 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (既読テーブル (tbl_aldyread) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	opnid	INTEGER	—	—
2	fid	INTEGER	—	—
3	userid	MVARCHAR	255	UID
4	username	MVARCHAR	255	UNJ
5	enusername	MVARCHAR	255	UNE
6	post	MVARCHAR	255	UCJ
7	enpost	MVARCHAR	255	UCE
8	orgname	MVARCHAR	255	URJ
9	enorgname	MVARCHAR	255	URE
10	creatdate	TIMESTAMP	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
11	updatdate	TIMESTAMP	—	—
12	personalstatus	SMALLINT	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(10) メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser)

メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-21 メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mailuser	RMN×MMN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-22 d_i および e_i の値の算出で使用する値（メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	userid	MVARCHAR	255	UID
3	opnmailtomyslf	SMALLINT	—	—
4	chgaldyread	SMALLINT	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(11) ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess)

ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-23 ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_uaccess	IRN×MRM	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-24 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	userid	MVARCHAR	255	UID
3	authlevel	BINARY	4	4
4	creatdate	TIMESTAMP	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(12) コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess)

コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-25 コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_caccess	ORN×MCN	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	7	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-26 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	comid	VARCHAR	40	10
3	workid	VARCHAR	16	10
4	roleid	VARCHAR	16	6

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	authlevel	BINARY	4	4
6	creatdate	TIMESTAMP	—	—
7	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(13) 組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess)

組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-27 組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_oaccess	0	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-28 d_i および e_i の値の算出で使用する値（組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	fid	INTEGER	—	—
2	orgid	MVARCHAR	255	0
3	authlevel	BINARY	4	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
4	creatdate	TIMESTAMP	—	—
5	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(14) 属性マスタテーブル (tbl_mattribute)

属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-29 属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mattribute	54	4,096	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-30 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (属性マスタテーブル (tbl_mattribute) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	attrid	SMALLINT	—	—
2	lang	VARCHAR	255	2
3	attrname	MVARCHAR	60	7
4	url	VARCHAR	255	0

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(15) 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance)

重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-31 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mimportance	6	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-32 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	impid	SMALLINT	—	—
2	lang	VARCHAR	255	2
3	impname	MVARCHAR	60	9
4	url	VARCHAR	255	15

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(16) 議論状態マスタテーブル (tbl_mstate)

議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-33 議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mstate	4	4,096	30	別途算出 ^{※1}	別途算出 ^{※2}	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-34 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	stateid	SMALLINT	—	—
2	lang	VARCHAR	255	2
3	statename	MVARCHAR	60	8
4	url	VARCHAR	255	20

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(17) パラメタ管理テーブル (tbl_param)

パラメタ管理テーブル (tbl_param) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-35 パラメタ管理テーブル (tbl_param) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_param	91	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

パラメタ管理テーブル (tbl_param) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-36 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (パラメタ管理テーブル (tbl_param) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	pkey	VARCHAR	30	17
2	name	MVARCHAR	60	40
3	pvalue	MVARCHAR	512	3
4	creatdate	TIMESTAMP	—	—
5	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

－：該当しません。

(18) 採番 1 テーブル (tbl_sequence1)

採番 1 テーブル (tbl_sequence1) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-37 採番 1 テーブル (tbl_sequence1) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_sequence1	RRN + 1	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	－	20	10

(凡例)

－：該当しません。

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

採番 1 テーブル (tbl_sequence1) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：あり

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-38 d_i および e_i の値の算出で使用する値（採番 1 テーブル (tbl_sequence1) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	category	INTEGER	－	－
2	pvalue	INTEGER	－	－
3	creatdate	TIMESTAMP	－	－
4	updatdate	TIMESTAMP	－	－

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

－：該当しません。

(19) 採番 2 テーブル (tbl_sequence2)

採番 2 テーブル (tbl_sequence2) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-39 採番 2 テーブル (tbl_sequence2) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_sequence2	RRN	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	—	20	10

(凡例)

—：該当しません。

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

採番 2 テーブル (tbl_sequence2) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：あり

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-40 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (採番 2 テーブル (tbl_sequence2) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	category	INTEGER	—	—
2	pvalue	SMALLINT	—	—
3	creatdate	TIMESTAMP	—	—
4	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(20) 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess)

会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-41 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mtcaccess	15	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-42 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ftype	SMALLINT	—	—
2	roleid	VARCHAR	16	5
3	authlevel	BINARY	4	4
4	creatdate	TIMESTAMP	—	—
5	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(21) 会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute)

会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-43 会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_mtattribute	31	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	4	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-44 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	ftype	SMALLINT	—	—
2	attrid	SMALLINT	—	—
3	creatdate	TIMESTAMP	—	—
4	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(22) メッセージキューテーブル (tbl_info_mq)

メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-45 メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_info_mq	QMX	4,096	30	別途算出*1	別途算出*2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-46 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	messageid	VARCHAR	60	44
2	classname	VARCHAR	255	58
3	runcount	SMALLINT	—	—
4	statusid	SMALLINT	—	—
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(23) メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq)

メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-47 メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_sequence_mq	1	4,096	30	別途算出※1	別途算出※2	—	20	10

(凡例)

—：該当しません。

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：あり

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-48 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	category	INTEGER	—	—
2	prefix	CHAR	25	—
3	pvalue	INTEGER	—	—
4	creatdate	TIMESTAMP	—	—
5	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(24) お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf)

お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-49 お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_info_defmsg_mqbuf	QMX	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	6	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-50 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	messageid	VARCHAR	60	44
2	subject	MVARCHAR	255	66
3	contents	BINARY	2,147,483,647	CSB + CTX + CMI + 1100
4	lang	VARCHAR	255	2
5	creatdate	TIMESTAMP	—	—
6	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

(25) お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf)

お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-51 お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_info_defaddr_mqbuf	QMX×2	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	7	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧（抽象データ型および繰り返し列を除く場合）に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-52 d_i および e_i の値の算出で使用する値（お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) の場合）

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	messageid	VARCHAR	60	44
2	adresstypes	INTEGER	—	—
3	mailaddress	VARCHAR	255	QMA
4	username	MVARCHAR	255	UNJ
5	enusername	VARCHAR	255	UNE
6	creatdate	TIMESTAMP	—	—
7	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数（実際のデータ長）

—：該当しません。

(26) お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf)

お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-53 お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_info_idxmsg_mqbuf	QMX	4,096	30	別途算出 ※1	別途算出 ※2	9	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無：なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-54 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	messageid	VARCHAR	60	44
2	fid	INTEGER	—	—
3	opnid	INTEGER	—	—
4	comid	VARCHAR	40	10
5	comname	MVARCHAR	255	OCN
6	from	VARCHAR	255	QMA
7	lang	VARCHAR	255	2
8	creatdate	TIMESTAMP	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
9	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d: データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—: 該当しません。

(27) お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf)

お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

表 C-55 お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) の格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	テーブル名	表の格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d _i	e _i	f	g	h
1	tbl_info_idxaddr_mqbuf	QMX× MRN	4,096	30	別途算 出※1	別途算 出※2	5	20	10

注※1

表の各列のデータ長です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

注※2

列のデータ長の平均値です。詳細は「(a) d_i および e_i の値の算出方法」を参照してください。

お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) の FIX 指定の有無を次に示します。

FIX 指定の有無: なし

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(a) d_i および e_i の値の算出方法

d_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」のデータ長一覧に記載されている見積もり式に代入します。

また、e_i の値を算出するには、次の表に示す値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」の可変長文字列型データ長一覧 (抽象データ型および繰り返し列を除く場合) に記載されている見積もり式に代入します。

表 C-56 d_i および e_i の値の算出で使用する値 (お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) の場合)

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
1	messageid	VARCHAR	60	44
2	userid	MVARCHAR	255	UID
3	addresstypes	INTEGER	—	—

項番	カラム名	データ型	定義長 (バイト)	d の値
4	creatdate	TIMESTAMP	—	—
5	updatdate	TIMESTAMP	—	—

(凡例)

d：データ長の算出で使用する変数 (実際のデータ長)

—：該当しません。

付録 C.5 インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値

インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) 会議室テーブル (tbl_forum)

会議室テーブル (tbl_forum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-57 会議室テーブル (tbl_forum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>カラム [fid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN	1	—
2	idx_forum1	4,096	30	↑RRN÷3↑	3	RRN ≤ 300 の場合
		4,096	30	↑RRN÷3↑	1	RRN > 300 の場合
3	idx_forum2	4,096	30	48	↑RRN÷48↑	RRN ≤ 250 の場合
		4,096	30	47	↑RRN÷235↑	RRN > 250 の場合
4	idx_forum3	4,096	30	↑RRN×2÷3↑	2	—

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-58 会議室テーブル (tbl_forum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>カラム [fid] に定義されているインデクス</u>	0	0	4	RRN	—
2	idx_forum1	0	0	8	0	RRN ≤ 300 の場合
		1	↑RRN×2÷3↑	8	0	RRN > 300 の場合
3	idx_forum2	0	0	12	0	RRN ≤ 250 の場合
		1	↑RRN×4÷5↑	12	0	RRN > 250 の場合
4	idx_forum3	0	0	4	0	—

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(2) メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum)

メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-59 メイン会議室 ID テーブル (tbl_mainforum) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [fmainid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN	1	0	0	40	RRN
2	idx_mainforum1	4,096	30	RRN	1	0	0	4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(3) 発言テーブル (tbl_opinion)

発言テーブル (tbl_opinion) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-60 発言テーブル (tbl_opinion) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	カラム [fid] および [opnid] に定義されているインデクス	4,096	30	RRN×CMN	1	—
2	idx_opinion1	4,096	30	RRN×MRN	↑CMN÷MRN↑	CMN÷MRN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN÷MRN > 200 の場合
3	idx_opinion2	4,096	30	RRN×RAN	↑CMN÷RAN↑	CMN÷RAN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN÷RAN > 200 の場合
4	idx_opinion3	4,096	30	RRN×3	↑CMN÷3↑	CMN ≤ 600 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 600 の場合
5	idx_opinion4	4,096	30	RRN×3	↑CMN÷3↑	CMN ≤ 300 の場合
		4,096	30	RRN×2	↑CMN÷6↑	300 < CMN ≤ 800 の場合
		4,096	30	RRN	↑CMN÷12↑	800 < CMN ≤ 2400 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 2400 の場合
6	idx_opinion5	4,096	30	RRN×2	↑CMN÷2↑	CMN×PFP ≤ 200 かつ CMN×(1-PFP) ≤ 200 の場合
		4,096	30	RRN	CMN×PFP	CMN×PFP ≤ 200 かつ CMN×(1-PFP) > 200 の場合
		4,096	30	RRN	CMN×(1-PFP)	CMN×PFP > 200 かつ CMN×(1-PFP) ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN×PFP > 200 かつ CMN×(1-PFP) > 200 の場合
7	idx_opinion6	4,096	30	RRN×3	↑CMN÷3↑	CMN ≤ 600 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 600 の場合
8	idx_opinion7	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
9	idx_opinion8	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合
10	idx_opinion9	4,096	30	$\uparrow \text{RRN} \times \text{CMN} \div 2 \uparrow$	2	CMN ≤ 800 の場合
		4,096	30	$\uparrow \text{RRN} \times \text{CMN} \div 2 \uparrow$	1	CMN > 800 の場合
11	idx_opinion10	4,096	30	RRN × CMN	1	—
12	idx_opinion11	4,096	30	RRN × CMN	1	—
13	idx_opinion12	4,096	30	RRN × CMN	1	—
14	idx_opinion13	4,096	30	1	RRN × CMN	RRN × CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	RRN × CMN > 200 の場合
15	idx_opinion14	4,096	30	1	RRN × CMN	SMR = 0 かつ RRN × CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	SMR = 0 かつ RRN × CMN > 200 の場合
		4,096	30	$\uparrow \text{RRN} \times \text{CMN} \times \text{SMR} \uparrow$	$\uparrow 1 \div \text{SMR} \uparrow$	SMR ≠ 0 かつ RRN × CMN × (1 - SMR) ≤ 200 の場合
		4,096	30	$\uparrow \text{RRN} \times \text{CMN} \times \text{SMR} \uparrow$	1	SMR ≠ 0 かつ RRN × CMN × (1 - SMR) > 200 の場合
16	idx_opinion15	4,096	30	RRN × RAN	$\uparrow \text{CMN} \div \text{RAN} \uparrow$	CMN ÷ RAN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN ÷ RAN > 200 の場合
17	idx_opinion16	4,096	30	RRN × RAN	$\uparrow \text{CMN} \div \text{RAN} \uparrow$	CMN ÷ RAN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN ÷ RAN > 200 の場合
18	idx_opinion17	4,096	30	RRN	CMN	CMN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	CMN > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-61 発言テーブル (tbl_opinion) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	カラム [fid] および [opnid] に定義されているインデクス	0	0	12	RRN×CMN	—
2	idx_opinion1	0	0	$\uparrow (UID + 9) \div 4 \uparrow \times 4$	0	CMN÷MRN ≤ 200 の場合
		RRN×MRN	$\uparrow CMN \div MRN \uparrow$	$\uparrow (UID + 9) \div 4 \uparrow \times 4$	0	CMN÷MRN > 200 の場合
3	idx_opinion2	0	0	8	0	CMN÷RAN ≤ 200 の場合
		RRN×RAN	$\uparrow CMN \div RAN \uparrow$	8	0	CMN÷RAN > 200 の場合
4	idx_opinion3	0	0	8	0	CMN ≤ 600 の場合
		RRN×3	$\uparrow CMN \div 3 \uparrow$	8	0	CMN > 600 の場合
5	idx_opinion4	0	0	8	0	CMN ≤ 300 の場合
		RRN	$\uparrow CMN \times 2 \div 3 \uparrow$	8	0	300 < CMN ≤ 800 の場合
		RRN×2	$\uparrow CMN \times 11 \div 24 \uparrow$	8	0	800 < CMN ≤ 2400 の場合
		RRN×3	$\uparrow CMN \div 3 \uparrow$	8	0	CMN > 2400 の場合
6	idx_opinion5	0	0	8	0	CMN×PFP ≤ 200 かつ CMN×(1-PFP) ≤ 200 の場合
		RRN	CMN×(1-PFP)	8	0	CMN×PFP ≤ 200 かつ CMN×(1-PFP) > 200 の場合
		RRN	CMN	8	0	CMN×PFP > 200 かつ CMN×(1-PFP) ≤ 200 の場合
		RRN×2	$\uparrow CMN \div 2 \uparrow$	8	0	CMN×PFP > 200 かつ CMN×(1-PFP) > 200 の場合
7	idx_opinion6	0	0	8	0	CMN ≤ 600 の場合
		RRN×3	$\uparrow CMN \div 3 \uparrow$	8	0	CMN > 600 の場合
8	idx_opinion7	0	0	16	0	CMN ≤ 200 の場合

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
8	idx_opinion7	RRN	CMN	16	0	CMN > 200 の場合
9	idx_opinion8	0	0	16	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	16	0	CMN > 200 の場合
10	idx_opinion9	0	0	16	0	CMN ≤ 800 の場合
		RRN × 2	↑ CMN ÷ 4 ↑	16	0	CMN > 800 の場合
11	idx_opinion10	0	0	16	0	—
12	idx_opinion11	0	0	20	0	—
13	idx_opinion12	0	0	16	0	—
14	idx_opinion13	0	0	↑ (UID × CRR + 1) ÷ 4 ↑ × 4	0	RRN × CMN ≤ 200 の場合
		1	RRN × CMN	↑ (UID × CRR + 1) ÷ 4 ↑ × 4	0	RRN × CMN > 200 の場合
15	idx_opinion14	0	0	4	0	SMR = 0 かつ RRN × CMN ≤ 200 の場合
		1	RRN × CMN	4	0	SMR = 0 かつ RRN × CMN > 200 の場合
		0	0	↑ (CMI × SMR + 1) ÷ 4 ↑ × 4	0	SMR ≠ 0 かつ RRN × CMN × (1 - SMR) ≤ 200 の場合
		1	↑ RRN × CMN × (1 - SMR) ↑	↑ (CMI × SMR + 1) ÷ 4 ↑ × 4	0	SMR ≠ 0 かつ RRN × CMN × (1 - SMR) > 200 の場合
16	idx_opinion15	0	0	20	0	CMN ÷ RAN ≤ 200 の場合
		RRN × RAN	↑ CMN ÷ RAN ↑	20	0	CMN ÷ RAN > 200 の場合
17	idx_opinion16	0	0	16	0	CMN ÷ RAN ≤ 200 の場合
		RRN × RAN	↑ CMN ÷ RAN ↑	16	0	CMN ÷ RAN > 200 の場合
18	idx_opinion17	0	0	8	0	CMN ≤ 200 の場合
		RRN	CMN	8	0	CMN > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(4) 本文テーブル (tbl_contents)

本文テーブル (tbl_contents) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、本文テーブル (tbl_contents) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-62 本文テーブル (tbl_contents) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [fid] および [opnid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×CMN	1	0	0	12	RRN×CMN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(5) 属性テーブル (tbl_attribute)

属性テーブル (tbl_attribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、属性テーブル (tbl_attribute) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-63 属性テーブル (tbl_attribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [fid] および [attrid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×RAN	1	0	0	8	RRN×RAN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(6) 重要度テーブル (tbl_importance)

重要度テーブル (tbl_importance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、重要度テーブル (tbl_importance) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-64 重要度テーブル (tbl_importance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [fid] および [impid] に定義されているインデクス	4,096	30	RRN×3	1	0	0	8	RRN×3

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(7) 議論状態テーブル (tbl_state)

議論状態テーブル (tbl_state) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、議論状態テーブル (tbl_state) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-65 議論状態テーブル (tbl_state) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [fid] および [stateid] に定義されているインデクス	4,096	30	RRN×2	1	0	0	8	RRN×2

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(8) 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile)

添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-66 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (1/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	カラム [fid] および [apdfileid] に	4,096	30	↑RRN×CMN ×PPF×PFN↑	1	—

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		a	b	c	d	
1	<u>定義されているインデクス</u>	4,096	30	↑RRN×CMN ×PFP×PFN↑	1	—
2	idx_apdfile1	4,096	30	1	↑RRN×CMN×P FP×PFN↑	RRN×CMN×PFP×PFN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	RRN×CMN×PFP×PFN > 200 の場合
3	idx_apdfile3	4,096	30	↑RRN×CMN ×PFP×PFN↑	1	—
4	idx_apdfile4	4,096	30	1	↑RRN×CMN×P FP×PFN↑	RRN×CMN×PFP×PFN ≤ 200 の場合
		4,096	30	0	0	RRN×CMN×PFP×PFN > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

表 C-67 添付ファイルテーブル (tbl_apdfile) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応 (2/2)

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数				条件
		e	f	g	h	
1	<u>カラム [fid] および [apdfileid] に定義されているインデクス</u>	0	0	8	↑RRN×CMN×PF P×PFN↑	—
2	idx_apdfile1	0	0	4	0	RRN×CMN×PFP×PFN ≤ 200 の場合
		1	↑RRN×CMN× PFP×PFN↑	4	0	RRN×CMN×PFP×PFN > 200 の場合
3	idx_apdfile3	0	0	16	0	—
4	idx_apdfile4	0	0	4	0	RRN×CMN×PFP×PFN ≤ 200 の場合
		1	↑RRN×CMN× PFP×PFN↑	4	0	RRN×CMN×PFP×PFN > 200 の場合

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

—：該当しません。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(9) 既読テーブル (tbl_aldyread)

既読テーブル (tbl_aldyread) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-68 既読テーブル (tbl_aldyread) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [fid], [opnid] および [userid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RRN×CMN×MRN	1	0	0	↑ (UID + 15) ÷ 4 ↑ × 4	RRN×CMN×MRN
2	idx_aldyread1	4,096	30	RRN×CMN×MRN	1	0	0	↑ (UID + 19) ÷ 4 ↑ × 4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(10) メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser)

メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-69 メール送信ユーザテーブル (tbl_mailuser) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [fid] および [userid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	RMN×MMN	1	0	0	↑ (UID + 9) ÷ 4 ↑ × 4	RMN×MMN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(11) ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess)

ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-70 ユーザアクセス権テーブル (tbl_uaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [fid] および [userid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	IRN×MRM	1	0	0	↑ (UID + 9) ÷4↑×4	IRN×MRM
2	idx_uaccess1	4,096	30	IMN	ILN	0	0	↑ (UID + 1) ÷4↑×4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(12) コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess)

コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-71 コミュニティアクセス権テーブル (tbl_caccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数								
		a	b	c	d	e	f	g	h	
1	<u>カラム [fid], [comid], [workid] および [roleid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	ORN×MCN		1	0	0	40	ORN×MCN
2	idx_caccess1	4,096	30	OCC×MCN	↑ORN÷ OCC↑		0	0	36	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(13) 組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess)

組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、項番 1 のインデクスはユニークインデクスです。それ以外のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-72 組織アクセス権テーブル (tbl_oaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [fid] および [orgid] に定義されているインデクス	4,096	30	0	0	0	0	12	0
2	idx_oaccess1	4,096	30	0	0	0	0	4	0

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(14) 属性マスタテーブル (tbl_mattribute)

属性マスタテーブル (tbl_mattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、属性マスタテーブル (tbl_mattribute) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-73 属性マスタテーブル (tbl_mattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [attrid] および [lang] に定義されているインデクス	4,096	30	54	1	0	0	12	54

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(15) 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance)

重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-74 重要度マスタテーブル (tbl_mimportance) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム「 <u>impid</u> 」および「 <u>lang</u> 」に定義されているインデクス	4,096	30	6	1	0	0	12	6

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(16) 議論状態マスタテーブル (tbl_mstate)

議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-75 議論状態マスタテーブル (tbl_mstate) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム「 <u>stateid</u> 」および「 <u>lang</u> 」に定義されているインデクス	4,096	30	4	1	0	0	12	4

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(17) パラメタ管理テーブル (tbl_param)

パラメタ管理テーブル (tbl_param) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、パラメタ管理テーブル (tbl_param) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-76 パラメタ管理テーブル (tbl_param) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [pkey] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	91	1	0	0	20	91

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(18) 採番 1 テーブル (tbl_sequence1)

採番 1 テーブル (tbl_sequence1) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、採番 1 テーブル (tbl_sequence1) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-77 採番 1 テーブル (tbl_sequence1) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>idx_sequence1</u>	4,096	30	RRN + 1	1	0	0	4	RRN + 1

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(19) 採番 2 テーブル (tbl_sequence2)

採番 2 テーブル (tbl_sequence2) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、採番 2 テーブル (tbl_sequence2) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-78 採番 2 テーブル (tbl_sequence2) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>idx_sequence2</u>	4,096	30	RRN	1	0	0	4	RRN

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(20) 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess)

会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-79 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル (tbl_mtcaccess) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [ftype] および [roleid] に定義されているインデクス	4,096	30	15	1	0	0	12	15

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(21) 会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute)

会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-80 会議室タイプの属性マスタテーブル (tbl_mtattribute) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	カラム [ftype] および [attrid] に定義されているインデクス	4,096	30	31	1	0	0	8	31

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(22) メッセージキューテーブル (tbl_info_mq)

メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-81 メッセージキューテーブル (tbl_info_mq) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [messageid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	QMX	1	0	0	48	QMX

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(23) メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq)

インデクスはありません。

(24) お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf)

お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-82 お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [messageid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	QMX	1	0	0	48	QMX

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(25) お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf)

お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-83 お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	idx_info_defaddr1	4,096	30	QMX	2	0	0	48	0

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(26) お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf)

お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) のインデクスはユニークインデクスです。

表 C-84 お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	<u>カラム [messageid] に定義されているインデクス</u>	4,096	30	QMX	1	0	0	48	QMX

(凡例)

下線：ユニークインデクスです。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(27) お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf)

お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応を次の表に示します。

なお、お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) のインデクスはユニークインデクスではありません。

表 C-85 お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf) のインデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数と代入値の対応

項番	インデクス名	インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する変数							
		a	b	c	d	e	f	g	h
1	idx_info_idxaddr1	4,096	30	QMX	MRN	0	0	48	0

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

付録 C.6 ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値

ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値について説明します。

なお、計算式中の「↑」は、「↑」で挟まれている数値の小数点以下を切り上げることを示します。

(1) CFRRDLOBB10 の容量見積もりで使用する値

CFRRDLOBB10 の容量見積もりで使用する値を次に示します。

表 C-86 CFRRDLOBB10 の容量見積もりで使用する値

項番	見積もりで使用する変数			
	a ^{*1}	b	C _j	S _i
1	1	RRN×CMN×PFN×PFP	PFS	別途算出 ^{*2}

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。ご使用の環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。b と C_j の値を基に算出してください。

これらの値をマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」に記載されている見積もり式に代入してください。

(2) CFRRDLOBD10 および CFRRDLOBD20 の容量見積もりで使用する値

CFRRDLOBD10 および CFRRDLOBD20 の容量見積もりで使用する値を次に示します。なお、CFRRDLOBD10 および CFRRDLOBD20 は SGMLTEXT データ格納用 RD エリアです。

表 C-87 CFRRDLOBD10 および CFRRDLOBD20 の容量見積もりで使用する値

項番	RD エリア名	見積もりで使用する変数				
		a ^{*1}	b	C _j	docsize	S _i
1	CFRRDLOBD10	1	RRN×CMN + 2	別途算出 ^{*2}	CSB + CTX + UNJ + UNE + 4	別途算出 ^{*3}
2	CFRRDLOBD20	1	↑RRN×CMN ×PFN×PFP ↑ + 2		PTS	

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。ご使用の環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

C₁ および C₂ の値には、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ LOB 用 RD エリア容量に記載されている値を使用してください。

また、C₃ 以降の値はマニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ LOB 用 RD エリア容量に記載されている計算式 (一般の場合) を使用して算出してください。

注※3

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。b と C_j の値を基に算出してください。

(3) CFRRDLOBI10 および CFRRDLOBI20 の容量見積もりで使用する値

CFRRDLOBI10 および CFRRDLOBI20 の容量見積もりで使用する値を次に示します。なお、CFRRDLOBI10 および CFRRDLOBI20 は n-gram インデクス情報格納用 RD エリアです。

また、次の条件を前提としています。

- 分割遅延登録を使用します。
- 統合情報は反映しません。
- 概念検索は使用しません。
- 通常インデクスまたは英文検索用インデクス (ENGLISH) が格納されています。

表 C-88 CFRRDLOBI10 および CFRRDLOBI20 の容量見積もりで使用する値

項番	RD エリア名	見積もりで使用する変数					
		a※1	b	C _j	docsize	doccnt	S _i
1	CFRRDLOBI10	1	8	別途算出※2	CSB + CTX + UNJ + UNE + 4	RRN×CMN	別途算出※3
2	CFRRDLOBI20	1	8		PTS	↑RRN×CMN ×PFN×PPF↑	

注※1

ユーザ用 RD エリアを構成する HiRDB ファイルの数です。ご使用の環境に合わせて変更してください。詳細はマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

注※2

マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」のユーザ LOB 用 RD エリア容量に記載されている計算式を使用して算出してください。ただし C₇ の値には「0」を使用してください。また、データベースを新規構築する場合は、C₈ の値は「UCS4 インデクスの場合 (初期作成)」の計算式を使用して算出してください。すでに UCS2 インデクスで構築されているデータベースを UCS4 インデクスに変更する場合は、C₈ の値は「UCS4 インデクスの場合」の計算式を使用して算出してください。

注※3

HiRDB ファイルごとのセグメント数です。b と C_j の値を基に算出してください。

付録 D 旧バージョンからの移行について

ここでは、旧バージョンの Collaboration - Forum から移行する場合の作業について説明します。

移行を実行する前に、データベースの認可識別子を Collaboration - Forum で使用している認可識別子に変更してください。

移行は次に示す手順で実行してください。

手順

1. データベースのバックアップ
2. プロパティファイルのバックアップ
3. Collaboration - Forum のインストールと運用ディレクトリの設定
4. RD エリアの作成^{※1}
5. グローバルバッファの割り当て^{※1}
6. カラムの追加とレコードの更新, 設定^{※2}
7. テーブル, インデクスの作成^{※1}
8. インデクス情報の変更^{※3}
9. レコードの更新と設定^{※4}
10. マスタデータの削除
11. マスタデータの登録
12. コネクション共有時の設定^{※4}
13. プロパティファイルの更新
14. バッファサイズの見直し
15. シーケンスマスタレコードの登録^{※4}
16. ユティリティの設定

注^{※1}

Collaboration - Forum 01-36 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

注^{※2}

Collaboration - Forum 01-30 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

注^{※3}

Collaboration - Forum 01-32 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

注^{※4}

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

各手順について説明します。

付録 D.1 Collaboration - Forum 01-90 に移行する場合の注意事項

ここでは、旧バージョンの Collaboration - Forum から移行する場合の注意事項について説明します。

(1) テーブル容量およびインデクス容量の見積もりについて

運用状況によっては、旧バージョンの構築時に見積もったデータベース容量のままでは容量が不足する場合があります。旧バージョンから移行する場合は、必ず現在使用しているデータベース容量を確認して、必要に応じてデータベース容量を拡張してください。データベース容量の見積もり方法の詳細は、「2.3.2(1) データベース容量の見積もり」を参照してください。

また、RD エリアの最小セグメント数を「2.3.2(5)(c) RD エリアの作成」の表 2-5 に示しています。容量を見積もり直した結果が、最小セグメント数よりも小さい場合は、RD エリアを拡張してください。RD エリアの拡張方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用)」を参照してください。

(2) 個人会議室利用抑止機能を使用する場合

個人会議室利用抑止機能を使用する場合は、次に示す操作を実施します。

操作

1. `hptl_clb_cfr_statechange_personalroom.sql` を実行して、既存の個人用会議室の会議室状態を変更します。
2. `hptl_clb_cfr_command.properties` の `def_denialpersonalroom` を修正して、システムパラメタ変更コマンドを実行します。
`def_denialpersonalroom` の修正方法の詳細は、「2.3.8(14)(s) 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用状態 (`def_denialpersonalroom`)」を参照してください。

(3) マスタレコードの再登録

マスタレコードの再登録についての注意事項を説明します。

(a) Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンを使用している場合

次に示す SQL ファイルは、絶対に実行しないでください。

- `hptl_clb_cfr_master_sequence.sql`

また、次に示す SQL ファイルの実行は、必ず 1 回だけにしてください。絶対に 2 回以上実行しないでください。

- `hptl_clb_cfr_master_sequence_shift_0130.sql`

(b) Collaboration - Forum 01-30 以降のバージョンを使用している場合

次に示す SQL ファイルは、絶対に実行しないでください。

- `hptl_clb_cfr_master_sequence.sql`
- `hptl_clb_cfr_master_sequence_shift_0130.sql`

(4) バージョンアップ時に不要になるファイルおよびディレクトリ

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンで出力していた次に示すログファイルは、Collaboration - Forum 01-30 以降のバージョンでは使用しない (出力しない) ため削除してください。

- `hptl_clb_cum_cfrm.log` (n : 1~16 の数値を示します)

なお、このファイルの出力先は、Collaboration - Directory Access のプロパティ（ログファイル出力ディレクトリ名（hptl_clb_cum_logPath））に指定されています。Collaboration - Directory Access のプロパティの詳細は、マニュアル「Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド」を参照してください。

また、Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンで使用していた次に示すファイルは、Collaboration - Forum 01-30 以降のバージョンでは使用しないため削除します。

なお、ファイルを削除する際に、ディレクトリに削除対象ファイルだけが存在する場合は、対象ディレクトリを削除します。

表 D-1 01-20 以前のバージョンから 01-30 以降のバージョンへ移行する際に削除するファイル

項番	対象ディレクトリ	ファイル名	備考
1	Collaboration - Forum インストールディレクトリ %message	ja_clb_cfr_msg_engine.csv	エンジンメッセージ（日本語）
2		en_clb_cfr_msg_engine.csv	エンジンメッセージ（英語）
3		ja_clb_cfr_cmsg_engine.csv	エンジンリソース（日本語）
4		en_clb_cfr_cmsg_engine.csv	エンジンリソース（英語）
5		en_clb_cfr_msg_command.csv	コマンドメッセージ（英語）
6		ja_clb_cfr_cmsg_command.csv	コマンドリソース（日本語）
7		en_clb_cfr_cmsg_command.csv	コマンドリソース（英語）

(5) 不要な SQL 文の削除

Collaboration - Forum 01-30 以前のバージョンまで使用していた次のファイルは、今バージョンの Collaboration - Forum では使用しないため削除してください。

表 D-2 01-30 以前のバージョンから移行する際に削除するファイル

項番	対象ディレクトリ	ファイル名	備考
1	Collaboration - Forum インストールディレクトリ %sys	delete_master_0110.sql	Collaboration - Forum 01-10 のマスターデータを削除するための SQL 文
2		delete_master_0120.sql	Collaboration - Forum 01-20 のマスターデータを削除するための SQL 文

付録 D.2 データベースのバックアップ

現在 Collaboration - Forum で使用しているデータベースのバックアップを取得します。バックアップの取得方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用)」, およびマニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス (Windows(R)用)」を参照してください。

バックアップは、HiRDB システム全体だけでなく、RD エリア単位でも取得できます。バックアップ取得方法の一つの例を次の表に示します。

表 D-3 バックアップ取得方法の例

項番	バックアップ取得方法	RD エリア単位でバックアップを取得する方法
1	データベース複写ユーティリティ (pdcopy) コマンド	-r オプションを指定
2	HiRDB Control Manager の使用	「RD エリア」または「表/インデクス」を選択

移行によって更新されるテーブルが格納されている RD エリアだけのバックアップを取得するための情報として、更新されるテーブルとテーブルの処理対象 RD エリアを次の表に示します。

表 D-4 更新されるテーブルと処理対象 RD エリア

項番	現在使用しているバージョン	更新されるテーブル	処理対象 RD エリア	関連するインデクス RD エリア
1	01-10	会議室テーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
		発言テーブル	CFRRDDATA10	CFRRDINDX10
		属性テーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
		既読テーブル	CFRRDDATA40	CFRRDINDX40
		メール送信ユーザテーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
2	01-20	会議室テーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
		発言テーブル	CFRRDDATA10	CFRRDINDX10
		既読テーブル	CFRRDDATA40	CFRRDINDX40
		メール送信ユーザテーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
3	01-30	会議室テーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
		発言テーブル	CFRRDDATA10	CFRRDINDX10
		メール送信ユーザテーブル	CFRRDDATA70	CFRRDINDX50
4	01-32	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> • CFRRDINDX50*¹ • CFRRDINDX70*² • CFRRDINDX80*² • CFRRDINDX90*²
5	01-35	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> • CFRRDINDX70*² • CFRRDINDX80*² • CFRRDINDX90*²
6	01-36	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> • CFRRDINDX70*² • CFRRDINDX80*² • CFRRDINDX90*²

注※1

テーブルに変更はありませんが、Collaboration - Forum 01-35 で会議室テーブルにインデクスを追加しています。

注※2

テーブルに変更はありませんが、Collaboration - Forum 01-50 で会議室テーブル、発言テーブル、採番 1 テーブル、および採番 2 テーブルにインデクスを追加しています。

なお、バックアップを取得する RD エリアは処理対象の RD エリアだけでなく、処理によって更新される RD エリア（データディクショナリ用 RD エリアなど）のバックアップを取得する必要があります。同時にバックアップを取得する必要がある RD エリアについては、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

付録 D.3 プロパティファイルのバックアップ

運用ディレクトリに格納されているプロパティファイルのバックアップを取得します。次のプロパティファイルをバックアップしてください。

- hptl_clb_cfr_engine.properties
- hptl_clb_cfr_command.properties

付録 D.4 Collaboration - Forum のインストールと運用ディレクトリ の設定

Collaboration - Forum 01-90 をインストールします。

インストールが完了したら、運用ディレクトリを設定します。

インストール手順および運用ディレクトリの設定方法の詳細は、マニュアル「Collaboration 移行ガイド」を参照してください。

付録 D.5 RD エリアの拡張

運用状況によっては、旧バージョンで構築した RD エリアのままでは容量が不足する場合があります。必ず現在使用している RD エリアの容量を確認して、不足している場合は RD エリアを拡張してください。

RD エリアの再見積もりと拡張の手順を次に示します。

手順

1. 各 RD エリアに必要なセグメント数を計算します。

計算方法の詳細は、「2.3.2(1) データベース容量の見積もり」を参照してください。

なお、次に示す RD エリアは、RD エリアのセグメント数だけでなく Available Work Area の容量も確認する必要があります。

- CFRRDLOBI10
- CFRRDLOBI20

Available Work Area の容量が不足している場合は拡張してください。

Available Work Area の容量の確認方法、および拡張方法については、「(1) 全文検索用テキストデータの容量計算」を参照してください。

2. セグメント数を計算した RD エリアに対して、現在の RD エリア内のセグメント情報を、pddbls コマンドなどを使用して出力します。

pddbls コマンドを使用した場合の例を次に示します。

```
>pddbls -r CFRRDDATA10 -a
```

3. 必要となるセグメント数が RD エリア内に十分に用意されていない場合は、pdmod コマンドを実行して RD エリアを拡張します。

pdmod コマンドの実行例を次に示します。

```
>pdmod -a D:¥work¥expand.txt
```

D:¥work¥expand.txt の内容を次に示します。

```
expand rdarea CFRRDDATA10
      file name "D:¥Hitachi¥hirdb_s¥area¥cfr¥CFRRDDATA10-2"
      initial 500 segments ;
```

(1) 全文検索用テキストデータの容量計算

次の見積もり式を使用して、本文テーブル（全文検索用テキストデータ）(tbl_contents) のインデクス (idx_contents2)、および添付ファイル（全文検索用テキストデータ）(tbl_apdfile) のインデクス (idx_apdfile2) の Available Work Area の容量を算出します。なお、Available Work Area の容量の単位はバイトです。

本文テーブル（全文検索用テキストデータ）(tbl_contents) のインデクス (idx_contents2) の Available Work Area の見積もり式

$$200 \times 1024 \times 1024 + \text{CMN} \times \text{RRN} \times (\text{CSB} + \text{CTX} + \text{UNJ} + \text{UNE} + 4) \times \text{PUU} \times 7$$

添付ファイル（全文検索用テキストデータ）(tbl_apdfile) のインデクス (idx_apdfile2) の Available Work Area の見積もり式

$$200 \times 1024 \times 1024 + \text{PFN} \times \text{PFP} \times \text{CMN} \times \text{RRN} \times \text{PTS} \times \text{PUU} \times 7$$

見積もり式で使用している記号の意味

PUU：本文、主題、人の名前、および添付ファイルの内容に含まれる Windows Vista で拡張された文字 (JIS X0213) の割合 (範囲：0.0~1.0 例：12.3%の場合は 0.123)

これ以外の記号の詳細は、「付録 C.2 値の説明で使用する記号」を参照してください。

算出した値より現在使用している Available Work Area の容量の方が少ない場合は、pdmod コマンドを実行して、次に示す RD エリアを不足している分だけ拡張してください。

- CFRRDLOBI10
- CFRRDLOBI20

pdmod コマンドの実行例を次に示します。

```
>pdmod -a D:¥work¥expandlob.txt
```

D:¥work¥expandlob.txt の内容を次に示します。

```
expand rdarea CFRRDLOBI10
      file name "D:¥Hitachi¥hirdb_s¥area¥cfrlob¥CFRRDLOBI10-2"
      initial 500 segments ;
expand rdarea CFRRDLOBI20
      file name "D:¥Hitachi¥hirdb_s¥area¥cfrlob¥CFRRDLOBI20-2"
      initial 500 segments ;
```

拡張した値は、すべて Available Work Area に割り当てられます。

なお、現在使用している Available Work Area の容量を確認するには、インデクス情報の取得ユーティリティ (phnidxls) を使用します。

phnidxls のオプションは、次のように指定します。

-d オプション

Available Work Area の容量を確認したいインデクスのインデクス識別子を指定します。
idx_contents2, または idx_apdfile2 を指定してください。

-r オプション

-d オプションに指定したインデクスが存在する RD エリア名を指定します。CFRRDLOBI10, または CFRRDLOBI20 を指定してください。

指定例

- 本文テーブル (全文検索用テキストデータ) (tbl_contents) のインデクス (idx_contents2) の場合
phnidxls -d idx_contents2 -r CFRRDLOBI10
- 添付ファイル (全文検索用テキストデータ) (tbl_apdfile) のインデクス (idx_apdfile2) の場合
phnidxls -d idx_apdfile2 -r CFRRDLOBI20

インデクス情報の取得ユーティリティ (phnidxls) の詳細は、マニュアル「HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9」を参照してください。

付録 D.6 RD エリアの作成

データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を実行して、RD エリアを作成します。

(1) SQL ファイルの修正

Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql および *Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を任意のディレクトリにコピーして、認可識別子および RD エリアを構成する HiRDB ファイル名を修正します。なお、*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql は *Collaboration - Forum* 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ使用します。

また、システムの規模に応じてページ長、セグメントサイズ、およびセグメント数を変更します。

(2) SQL の実行

データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) を実行して、RD エリアを作成します。なお、既存のファイルシステムに RD エリアを追加する場合は、ユーティリティを実行する前にファイルシステムに空き容量があるかどうかを確認してください。

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pdmod -a 任意のディレクトリ¥hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql※
>pdmod -a 任意のディレクトリ¥hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql
```

注※

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ実行します。

データベース構成変更ユーティリティ (pdmod) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

作成される RD エリアを次の表に示します。

表 D-5 hptl_clb_cfr_area_shift_0130.sql を実行すると追加される RD エリア

項番	RD エリア名
1	CFRRDDATA80
2	CFRRDINDEX60

表 D-6 hptl_clb_cfr_area_shift_0150.sql を実行すると追加される RD エリア

項番	RD エリア名
1	CFRRDINDEX70
2	CFRRDINDEX80
3	CFRRDINDEX90

RD エリアの作成方法の詳細は、「2.3.2(5) RD エリアの作成」を参照してください。

付録 D.7 グローバルバッファの割り当て

Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0130.txt、および *Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt を編集して、HiRDB のシステム定義ファイルに、グローバルバッファを割り当てるための記述を追加します。ただし、*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0130.txt は、*Collaboration - Forum* 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ使用してください。

グローバルバッファの詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用)」を参照してください。

なお、*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0130.txt、および *Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_pdsys_shift_0150.txt は、グローバルバッファと RD エリアを一对一で割り当てる場合を想定して記述されています。

付録 D.8 カラムの追加およびレコードの更新・設定

次に示す SQL ファイルを使用して、カラムの追加、およびレコードの更新・設定を実行します。SQL ファイルは *Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥に格納されています。カラムの追加、およびレコードの更新・設定に伴い、必要に応じて RD エリアを拡張してください。この作業は、*Collaboration - Forum* 01-30 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

Collaboration - Forum 01-10 から移行する場合

- hptl_clb_cfr_shift_0120.sql
- hptl_clb_cfr_shift_0130.sql
- hptl_clb_cfr_shift_0132.sql

Collaboration - Forum 01-20 から移行する場合

- hptl_clb_cfr_shift_0130.sql
- hptl_clb_cfr_shift_0132.sql

Collaboration - Forum 01-30 から移行する場合

hptl_clb_cfr_shift_0132.sql

なお、hptl_clb_cfr_shift_0130.sql はタイムゾーンを GMT+9:00 として記述されています。ほかのタイムゾーンを使用している場合は、タイムゾーンの記述を修正してから実行してください。

タイムゾーンの記述方法の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 SQL リファレンス」を参照してください。

追加されるカラム、および更新・設定されるレコードを次の表に示します。

表 D-7 hptl_clb_cfr_shift_0120.sql を実行すると追加されるカラム

項番	テーブル名	項目 ID	項目名
1	会議室テーブル	opnregist	メールによる投稿
2	会議室テーブル	url	URL
3	属性テーブル	templatestatus	ひな形有効状況
4	属性テーブル	templatename	ひな形名
5	属性テーブル	templatecontents	ひな形内容

表 D-8 hptl_clb_cfr_shift_0130.sql を実行すると追加されるカラム

項番	テーブル名	項目 ID	項目名
1	会議室テーブル	fenname	会議室名（英名）
2	会議室テーブル	permitchgopnmail	メール配信設定変更許可
3	会議室テーブル	timezone	タイムゾーン
4	既読テーブル	personalstatus	個人用既読状態

表 D-9 hptl_clb_cfr_shift_0130.sql を実行すると更新・設定されるレコード

項番	テーブル名	項目 ID	項目名	内容
1	会議室テーブル	fenname	会議室名（英名）	会議室略号の内容が設定されます。
2	会議室テーブル	infomail	お知らせメール配信	お知らせメールの配信状況が設定されます。
3	会議室テーブル	lang	ロケール情報	サイズが 255 バイトに拡張されます。
4	会議室テーブル	timezone	タイムゾーン	"GMT+09:00"が設定されます。
5	属性マスタ	lang	ロケール情報	サイズが 255 バイトに拡張されます。
6	重要度マスタ	lang	ロケール情報	サイズが 255 バイトに拡張されます。
7	議論状態マスタ	lang	ロケール情報	サイズが 255 バイトに拡張されます。

表 D-10 hptl_clb_cfr_shift_0132.sql を実行すると追加されるカラム

項番	テーブル名	項目 ID	項目名
1	会議室テーブル	infomailtype	お知らせメール機能制御
2	会議室テーブル	reprdntctrm	回答期限事前通知期間
3	発言テーブル	infomail	お知らせメール配信
4	メール送信ユーザテーブル	opnmailtomyslf	自分への発言メール配信
5	メール送信ユーザテーブル	chgaldyread	メール配信時既読

付録 D.9 テーブルおよびインデクスの作成

データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行してテーブルおよびインデクスを作成します。

データベース定義ユーティリティ (pddef) の実行時に指定する SQL ファイルは *Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥に格納されています。

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql
- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql
- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql

Collaboration - Forum 01-30 および Collaboration - Forum 01-32 から移行する場合

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql
- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql

Collaboration - Forum 01-35 および Collaboration - Forum 01-36 から移行する場合

- hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pddef <Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥
hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql
```

データベース定義ユーティリティ (pddef) の詳細は、マニュアル「ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用)」を参照してください。

追加または再作成されるテーブル、および追加されるインデクスを次に示します。

表 D-11 hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql を実行すると追加されるテーブル

項番	テーブル名
1	メッセージキューテーブル (tbl_info_mq)
2	メッセージキュー採番テーブル (tbl_sequence_mq)
3	お知らせメールメッセージ用バッファテーブル (tbl_info_defmsg_mqbuf)
4	お知らせメール宛先用バッファテーブル (tbl_info_defaddr_mqbuf)
5	お知らせメールメッセージインデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxmsg_mqbuf)

項番	テーブル名
6	お知らせメール宛先インデクス用バッファテーブル (tbl_info_idxaddr_mqbuf)

表 D-12 hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql を実行すると再作成されるテーブル

項番	テーブル名
1	会議室タイプの属性マスタテーブル(tbl_mtattribute)

表 D-13 hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0130.sql を実行すると追加されるインデクス

項番	インデクス ID
1	idx_opinion14
2	idx_opinion15
3	idx_opinion16
4	idx_info_defaddr1
5	idx_info_idxaddr1

表 D-14 hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0135.sql を実行すると追加されるインデクス

項番	インデクス ID
1	idx_forum1

表 D-15 hptl_clb_cfr_tbl_idx_shift_0150.sql を実行すると追加されるインデクス

項番	インデクス ID
1	idx_forum2
2	idx_forum3
3	idx_opinion17
4	idx_sequence1
5	idx_sequence2

付録 D.10 インデクス情報の変更

phnmodidx コマンドを使用して全文検索用テキストデータのインデクス情報を UCS2 から UCS4 に変更します。この作業は、全文検索用テキストデータのインデクス情報が UCS4 以外の場合だけ実施します。

インデクス情報を変更するインデクスは、次の 2 種類です。

- 本文テーブル (全文検索用テキストデータ) (tbl_contents) のインデクス (idx_contents2)
- 添付ファイルテーブル (全文検索用テキストデータ) (tbl_apdfile) のインデクス (idx_apdfile2)

phnmodidx コマンドを使用した例を次に示します。

```
>phnmodidx -d idx_contents2 -v "INDEX_TYPE=UCS4"
>phnmodidx -d idx_apdfile2 -v "INDEX_TYPE=UCS4"
```

付録 D.11 レコードの更新と設定

移行用コマンドを実行して、レコードの更新と設定をします。この作業は、Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

レコードの更新と設定を実行する手順を次に示します。

手順

1. `hptl_clb_cfr_command.properties` を編集して、データベースへの接続を設定します。
`hptl_clb_cfr_command.properties` の編集方法の詳細は、「2.3.8 ユティリティコマンドの設定」を参照してください。
2. *Collaboration 運用ディレクトリ*¥bin に、*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys ¥`hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` をコピーします。
3. `hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` を実行します。
次のことを確認してから、`hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` を実行してください。

移行だけを実行する場合

オプションに「-m」を指定します。

移行と、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシへの対応を同時に実行する場合

オプションは指定しません。

`hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` の詳細は、「付録 E.1 `hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` (移行用コマンド)」を参照してください。

付録 D.12 マスタデータの削除

HiRDB の会話型 SQL 実行ユティリティ (`pdsql`) を使用して、マスタデータを削除します。

なお、マスタデータを削除すると、パラメタ管理テーブルに登録されているシステムパラメタも削除されます。パラメタの値を変更している場合は、必ず `hptl_clb_cfr_command.properties` のバックアップを取得してください。

`hptl_clb_cfr_command.properties` のバックアップを取得する方法の詳細は、「付録 D.3 プロパティファイルのバックアップ」を参照してください。

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pdsql < %Collaboration - Forum インストールディレクトリ%¥sys¥ hptl_clb_cfr_delete_master.sql
```

削除されるレコードを次に示します。

表 D-16 `hptl_clb_cfr_delete_master.sql` を実行すると削除されるレコード

項番	テーブル名	削除されるレコード
1	属性マスタテーブル	すべてのレコード
2	重要度マスタテーブル	すべてのレコード
3	議論状態マスタテーブル	すべてのレコード
4	パラメタ管理テーブル	すべてのレコード
5	会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル	すべてのレコード

項番	テーブル名	削除されるレコード
6	会議室タイプの属性マスタテーブル	すべてのレコード

付録 D.13 マスタデータの登録

HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、マスタデータを登録します。

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pdsql < Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥ hptl_clb_cfr_master.sql
```

コマンドを実行すると、次に示すテーブルにレコードが追加されます。

- 属性マスタテーブル
- 重要度マスタテーブル
- 議論状態マスタテーブル
- パラメタ管理テーブル
- 会議室タイプのコミュニティアクセス権マスタテーブル
- 会議室タイプの属性マスタテーブル

付録 D.14 コネクション共有時の設定

Collaboration - Bulletin board, および Collaboration - Mail とコネクションを共有している場合は、HiRDB の会話型 SQL 実行ユーティリティ (pdsql) を使用して、Collaboration - Forum のテーブルのアクセス権限を CONNECT ユーザに付与します。

この作業は、Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。

コマンドの入力例を次に示します。

```
>pdsql < Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥hptl_clb_cfr_grant.sql
```

なお、hptl_clb_cfr_grant.sql 中の「認可識別子」、「パスワード」、および「スキーマ名」は、環境に応じて修正してください。

付録 D.15 プロパティファイルの更新

バックアップしたプロパティファイルの内容を *Collaboration 運用ディレクトリ¥conf* に格納されている hptl_clb_cfr_engine.properties および hptl_clb_cfr_command.properties に反映します。

反映したら、システムパラメタ変更コマンドを実行します。

hptl_clb_cfr_engine.properties および hptl_clb_cfr_command.properties の更新方法を次に示します。

(1) hptl_clb_cfr_engine.properties の更新方法

hptl_clb_cfr_engine.properties の変更箇所および更新方法を次に示します。

hptl_clb_cfr_engine.properties の各プロパティの詳細は、「2.3.6 プロパティファイルの編集」を参照してください。

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合は、hptl_clb_cfr_engine.properties を更新してください。これ以外の場合は、hptl_clb_cfr_engine.properties を更新する必要はありません。

表 D-17 hptl_clb_cfr_engine.properties の変更箇所および更新方法

項番	プロパティ名	更新方法
1	hptl_clb_cfr_application_name	値を「hptlclbfrm」から「hptlclbcfr」に変更する。
2	hptl_clb_cfr_frmopnregist_display	新規で追加して値を設定する。
3	hptl_clb_cfr_remark	新規で追加して値を設定する。
4	hptl_clb_cfr_remark_ja	新規で追加して値を設定する。

(2) hptl_clb_cfr_command.properties の更新方法

hptl_clb_cfr_command.properties の変更箇所および更新方法を次に示します。

hptl_clb_cfr_command.properties の各プロパティの詳細は、「2.3.8 ユティリティコマンドの設定」を参照してください。

なお、表に無いバージョンから移行する場合は、hptl_clb_cfr_command.properties に変更はありません。

表 D-18 Collaboration - Forum 01-10 から Collaboration - Forum 01-20 に移行する場合の変更箇所および更新方法

項番	プロパティ名	更新方法
1	dab_buffsize	値を「2097152」から「130048」に変更する。
2	def_denialpersonalroom	新規で追加して値を設定する。
3	def_templatecontentssize	新規で追加して値を設定する。

表 D-19 Collaboration - Forum 01-20 から Collaboration - Forum 01-30 に移行する場合の変更箇所および更新方法

項番	プロパティ名	更新方法
1	hptl_clb_cfr_db_character_encoding	新規で追加して値を設定する。
2	hptl_clb_cfr_i18n_supports	新規で追加して値を設定する。
3	hptl_clb_cfr_adm_lang	新規で追加して値を設定する。
4	hptl_clb_cfr_timezone	新規で追加して値を設定する。
5	hptl_clb_cfr_mail_charset_ja	新規で追加して値を設定する。
6	hptl_clb_cfr_mail_charset_en	新規で追加して値を設定する。
7	hptl_clb_cfr_mail_to	新規で追加して値を設定する。
8	hptl_clb_cfr_notice_period_effectiveend	新規で追加して値を設定する。
9	hptl_clb_cfr_notice_period_referenceend	新規で追加して値を設定する。
10	hptl_clb_cfr_mail_from_address	新規で追加して値を設定する。
11	hptl_clb_cfr_mail_frmopnregist_set	新規で追加して値を設定する。

項番	プロパティ名	更新方法
12	hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_001 : hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_010	新規で追加して値を設定する。
13	hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_address	新規で追加して値を設定する。
14	hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_port	新規で追加して値を設定する。
15	hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number	新規で追加して値を設定する。
16	hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number	新規で追加して値を設定する。
17	hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_001 : hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_010	新規で追加して値を設定する。
18	hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_001 : hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_010	新規で追加して値を設定する。
19	hptl_clb_cfr_opnregist_trace_mail_header	新規で追加して値を設定する。
20	hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail	新規で追加して値を設定する。
21	hptl_clb_cfr_opnregist_send_error_mail	新規で追加して値を設定する。
22	hptl_clb_cfr_opnregist_check_messageid_maxlen	新規で追加して値を設定する。
23	hptl_clb_cfr_shift0130_before_convert_string	新規で追加して値を設定する。
24	hptl_clb_cfr_shift0130_after_convert_string	新規で追加して値を設定する。
25	def_mailaddmembers	新規で追加して値を設定する。
26	def_mqretrygetnumber	新規で追加して値を設定する。
27	def_mqretrygetinterval	新規で追加して値を設定する。
28	def_infomailretrynumber	新規で追加して値を設定する。
29	def_infomailretryinterval	新規で追加して値を設定する。
30	def_distributemail	新規で追加して値を設定する。
31	def_displaymailsetting	新規で追加して値を設定する。
32	def_charactercount	新規で追加して値を設定する。

表 D-20 Collaboration - Forum 01-30 から Collaboration - Forum 01-32 に移行する場合の変更箇所および更新方法

項番	プロパティ名	更新方法
1	hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period	新規で追加して値を設定する。
2	def_executenotification	新規で追加して値を設定する。
3	def_printreturnright	新規で追加して値を設定する。

項番	プロパティ名	更新方法
4	def_printreturnrighttab	新規で追加して値を設定する。
5	def_printreturnnum	新規で追加して値を設定する。
6	hptl_clb_cfr_opnregist_send_mail_messaging_exception	新規で追加して値を設定する。
7	hptl_clb_cfr_opnregist_measure_nested_mimepart_number	新規で追加して値を設定する。
8	hptl_clb_cfr_opnregist_send_nested_mimepart_number	新規で追加して値を設定する。
9	def_nestedmimepartnum	新規で追加して値を設定する。
10	max_errormailbodysize	新規で追加して値を設定する。

表 D-21 Collaboration - Forum 01-36 から Collaboration - Forum 01-50 に移行する場合の変更箇所および更新方法

項番	プロパティ名	更新方法
1	hptl_clb_cfr_all_del_aldyread_max_num	新規で追加して値を設定する。
2	hptl_clb_cfr_use_exclusive_mode	新規で追加して値を設定する。
3	def_yetterminfoview	新規で追加して値を設定する。

表 D-22 Collaboration - Forum 01-50 から Collaboration - Forum 01-81 に移行する場合の変更箇所および更新方法

項番	プロパティ名	更新方法
1	hptl_clb_cfr_opinion_message_count	新規で追加して値を設定する。
2	hptl_clb_cfr_opinion_identifier_max_num	新規で追加して値を設定する。
3	hptl_clb_cfr_opinion_max_num	新規で追加して値を設定する。

付録 D.16 バッファサイズの見直し

次に示すバッファサイズを見直します。

Cosminexus DABroker Library の設定

BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分を見直します。詳細は、「2.3.4 Cosminexus DABroker Library の設定」を参照してください。

なお、この設定は、設定するシステム全体に影響するため、

ほかのコンポーネントが、Collaboration - Forum の BLOB/LONG/CLOB 型データ受信バッファサイズグループの HiRDB 部分の値を参照している場合は、ほかのコンポーネントの環境も考慮して、値を見直してください。

DB Connector の設定

Configurations タブの「bufSize」を見直します。詳細は、「2.3.5(2)(a) DB Connector の設定」を参照してください。

なお、Collaboration - Bulletin board、および Collaboration - Mail とコネクションを共有している場合は、これらのシステムと設定値を調整してください。

アクセスするデータベースの URL の指定

BUF_SIZE を見直します。詳細は、「2.3.8(4)(c) URL (hptl_clb_cfr_db_url)」を参照してください。

付録 D.17 シーケンスマスタレコードの登録

次に示すコマンドを実行して、シーケンスマスタレコードを登録します。この作業は、Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンから移行する場合だけ実施します。Collaboration - Forum 01-30 以降のバージョンから移行する場合絶対に実施しないでください。

```
>pdsql < Collaboration - Forum インストールディレクトリ¥sys¥  
hptl_clb_cfr_master_sequence_shift_0130.sql
```

! 注意事項

このコマンドは、必ず 1 回だけ実行してください。絶対に 2 回以上実行しないでください。

付録 D.18 ユティリティの設定

次に示す手順を実施します。

手順

1. 運用ディレクトリ内の frmcmdsetup コマンド (セットアップ) を実行して、BAT ファイル (各コマンドの起動ファイル) を更新します。なお、各コマンドの起動ファイルはセットアップコマンド実行時のカレントディレクトリに生成されます。
2. 次に示すコマンドを実行して、定義ファイルのシステムパラメタを更新します。
> frmsys -f
3. J2EE サーバを再起動します。

付録 E SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の設定

SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合の手順を次に示します。

手順

1. `hptl_clb_cfr_command.properties` を編集して、変更前および変更後の URL を設定します。
`hptl_clb_cfr_command.properties` の編集方法の詳細は、「2.3.8 ユティリティコマンドの設定」を参照してください。
2. *Collaboration 運用*ディレクトリ¥bin に、*Collaboration - Forum* インストールディレクトリ¥sys¥`hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` をコピーします。
3. 次のコマンドを実行します。
`hptl_clb_cfr_db_shift_0130 -c`
`hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` の詳細は、「付録 E.1 `hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` (移行用コマンド)」を参照してください。

付録 E.1 `hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` (移行用コマンド)

`hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat` の詳細を次に示します。

(a) 形式

```
hptl_clb_cfr_db_shift_0130 [-m] [-c]
```

(b) 機能

Collaboration - Forum 01-20 以前のバージョンを使用しているユーザが、Collaboration - Forum 01-30 に移行する場合の会議室テーブルの URL のデータを移行します。

また、SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合に、URL を変換します。

オプションをすべて省略した場合、または二つのオプションを指定した場合には、URL の移行処理と変換処理の両方の処理を実行します。

なお、接続するデータベースの設定については、「2.3.8(4) プロパティの詳細 (データベースの接続情報)」を参照してください。

(c) オプション

`-m`

会議室の URL を設定するために、URL の移行処理を実行します。

`-c`

SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応するために、URL の変換処理を実行します。

(d) 注意事項

このコマンドの実行時に、会議室テーブルの URL カラムにデータがなく、かつ発言がない会議室は、URL の移行はできません。

(e) 戻り値

0	移行処理, 変換処理に成功した。
1	移行処理, 変換処理に失敗した。

(f) 出力結果

出力結果を次に示します。

- -m オプションを指定した場合

```
C:¥> hptl_clb_cfr_db_shift_0130 -m
fid = 会議室ID
fid = 会議室ID
Processing of the command has finished. (Move URL)
```

出力結果には、URL を移行した会議室の ID が表示されます。処理が終了した場合、「Processing of the command has finished. (Move URL)」が表示されます。

- -c オプションを指定した場合

```
C:¥> hptl_clb_cfr_db_shift_0130 -c
The String before conversion : http://collabo:8081 ← 変換前文字列
The String after conversion : https://collabo:8085 ← 変更後文字列
Processing of the command has finished. (Convert URL)
```

出力結果には、変換前文字列と変更後文字列が表示されます。処理が終了した場合、「Processing of the command has finished. (Convert URL)」が表示されます。

- オプションを省略した場合

```
C:¥> hptl_clb_cfr_db_shift_0130
fid = 会議室ID
fid = 会議室ID
Processing of the command has finished. (Move URL)
The String before conversion : http://collabo:8081
The String after conversion : https://hoge hoge:8085
Processing of the command has finished. (Convert URL)
```

出力結果には、初めに-m オプションを指定した場合の処理結果が表示され、次に-c を指定した場合の処理結果が表示されます。また、二つのオプションを指定した場合も、オプションの指定順序に関係なく、初めに-m オプションを指定した場合の処理結果が表示され、次に-c を指定した場合の処理結果が表示されます。

(g) メッセージ

コマンドの処理が成功した場合、次に示すメッセージが表示されます。

- 移行処理 : Processing of the command has finished.(Move URL)
- 変換処理 : Processing of the command has finished. (Convert URL)

なお、コマンドの処理が失敗した場合には、メッセージ ID のあるメッセージが表示されます。

付録 F Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語

コマンド実行時のユーザ名、発言者名などの情報は、Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から取得します。Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management から情報を取得する場合、どの言語の情報を取得するかを指定する必要があります。次に示す表に従って、言語を指定してください。なお、値が指定されていない場合は、日本語の情報を取得します。

表 F-1 コマンドごとの取得する言語の指定方法

項番	コマンド名	指定方法*
1	<ul style="list-style-type: none">• frmopnmail コマンド (メール配信)• frmopnregist コマンド (メールによる議題または発言の投稿)• frminfomail コマンド (お知らせメール配信)• frmsetresperiodinfo コマンド (回答期限通知登録)	[メール設定編集] 画面の [メッセージ言語] で選択します。 [メール設定編集] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。
2	frmchown コマンド (会議室所有者変更)	システムパラメタの管理者指定用の言語コード (hptl_clb_cfr_adm_lang) で指定します。 管理者指定用の言語コードの詳細は、「2.3.8(6)(b) 管理者指定用の言語コード (hptl_clb_cfr_adm_lang)」を参照してください。

注※

日本語または英語以外が設定されている場合に取得する情報は、Collaboration - Directory Access に依存します。

付録 G メール配信時の文字コードの指定

メールを配信する場合、文字コードを指定します。

文字コードは、[メール設定編集]画面の[メッセージ言語]で選択できる言語の数だけ定義する必要があり、システムパラメタのメール配信時の文字コード(hptl_clb_cfr_mail_charset_XX)で指定します。[メール設定編集]画面の[メッセージ言語]で日本語と英語が選択できる場合の定義例を次に示します。

```
hptl_clb_cfr_mail_charset_ja=Windows-31J  
hptl_clb_cfr_mail_charset_en=Windows-31J
```

[メール設定編集]画面の[メッセージ言語]で選択した言語に対して、文字コードが指定されていない場合、文字コードには UTF-8 が設定されます。

また、コンテンツの表示言語に日本語と英語以外の言語を追加した場合、文字コードが Windows-31J のままであると、主題または本文の文字が文字化けすることがあるため、文字コードを UTF-8 に変更してください。

[メール設定編集]画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。また、メール配信時の文字コード(hptl_clb_cfr_mail_charset_XX)の詳細は、「2.3.8(8)(d) メール配信時の文字コード(hptl_clb_cfr_mail_charset_XX)」を参照してください。

付録 H 使用できない文字

付録 H.1 ユーザ ID に使用できない文字

ユーザ ID には、次に示す文字は使用できません。

- 「"」
- 「'」
- 「<」
- 「>」
- 「&」
- 「¥」

付録 H.2 ファイル名に使用できない文字

ファイル名には、次に示す文字は使用できません。

- 「"」
- 「%」
- 「*」
- 「,」
- 「/」
- 「;」
- 「:」
- 「<」
- 「>」
- 「?」
- 「¥」
- 「|」
- タブコード (¥t)

付録I コマンドの実行時に使用されるユーザ情報

コマンドの実行時に使用されるユーザ情報を次の表に示します。

表I-1 コマンド実行時に使用されるユーザ情報

項番	コマンド名	項目名	使用される値
1	frminfomail (お知らせメール配信)	回答責任者 ^{※1}	データベースの登録値
		回答責任者 (英名) ^{※1}	
		会議室所有者 ^{※2}	
		会議室所有者 (英名) ^{※2}	
		メンバ名 ^{※3}	ディレクトリサーバの登録値
		メンバ名 (英名) ^{※3}	
2	frmopnmail (メール配信)	発言者	データベースの登録値
		発言者 (英名)	
		会議室所有者	
		会議室所有者 (英名)	
		回答責任者	
		回答責任者 (英名)	
3	frmsrch (会議室検索)	ユーザ名	データベースの登録値
		ユーザ名 (英名)	
		役職	
		役職 (英名)	
		組織	
		組織 (英名)	

(凡例)

- データベースの登録値
データベースに登録されている値が使用されます。
兼任ユーザが指定されている場合は、兼任ユーザの情報が表示されます。
- ディレクトリサーバの登録値
ディレクトリサーバに登録されている値が使用されます。
兼任ユーザが指定されている場合は、兼任ユーザに対応する主体ユーザの情報が表示されます。

注※1

frmsetresperiodinfo コマンド (回答期限通知登録) で設定されたお知らせメールの場合に使用します。

注※2

frmsetopninfo コマンド (会議室の開催通知登録) で設定されたお知らせメールの場合に使用します。

注※3

個人（ユーザ自身）の会議室のメンバ追加，またはコミュニティメンバ追加で設定されたお知らせメールの場合に使用します。

付録 J frmimpopn コマンド (発言のインポート)・frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で使用するファイル

ここでは、frmimpopn コマンド (発言のインポート)、および frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で使用するファイルについて説明します。

付録 J.1 発言データファイル

インポートする発言、またはエクスポートする発言の情報を記述したファイルです。

(1) インポート時に使用する発言データファイルの条件

インポート時に使用する発言データファイルの条件を次に示します。

- ファイルフォーマットどおりの記述であること。
- ユティリティコマンドを実行するユーザに、ファイルに対する読み取り権限があること。
- BOM は付けないこと。
- ファイル内の発言に対して発言を追加する場合は、上位発言よりあとに記述すること。

(2) ファイル名

- frmimpopn コマンド (発言のインポート) で指定するファイル
拡張子を持つ任意のファイル名を指定できます。拡張子の種類は任意です。拡張子は、ファイル末尾からファイル先頭に向かって最初に現れたピリオドまでとなります。ピリオドが一つもないファイルは、拡張子がないものとしします。
- frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力するファイル
ファイル名は次の形式となります。
「cfrexpopn」 + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」
年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。
「年 (4桁)」 + 「月 (2桁)」 + 「日 (2桁)」 + 「時 (2桁<24h表示>)」 + 「分 (2桁)」 + 「秒 (2桁)」
なお、次の場合には、二つ目以降のファイル名に「2」以降の通番が与えられます。
 - プロパティファイル hptl_clb_cfr_command.properties の hptl_clb_cfr_opinion_max_num キーによって出力する発言データファイルを分割する場合
「.csv」の前に「[n]」(n は「2」以上の整数) の通番が与えられます。
 - 同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合
「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数) の通番が与えられます。

(3) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 発言につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を 1 行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。

- 行の先頭が「#」の場合はコメント行として扱う。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「""」（半角ダブルクォーテーション二つ）で表記する。
- frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) 実行時に -e オプションを指定した場合、1 行は 4,686 バイトまで指定できる。それ以外の場合は、3,886 バイトまで指定できる。

(4) 項目

発言データファイルの項目を次の表に示します。なお、エクスポート時に値がない項目には、「"」が出力されます。

表 J-1 発言データファイルの項目

項番	項目	説明	項目値と値の意味	インポート時	
				指定可否	省略時仮定値
1	会議室 ID	発言を登録する会議室の ID	1~2,147,483,647 の整数 (frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力した会議室一覧ファイルに存在し、会議室状態が会議中の会議室 ID を記述する)	●	なし
2	会議室名	発言を登録する会議室の名称	なし	—	なし
3	発言 ID	発言の登録番号	なし	—	なし
4	登録発言 ID	発言データファイル内で発言を一意に識別するための値	1~2,147,483,647 の整数 (本文ファイル、添付ファイルとの関連づけをするため、重複不可) なお、エクスポート時の登録発言 ID は、複数のファイルをまたいても通番で採番される。	●	なし
5	主題	発言の主題	255 バイト以内の文字列	●	なし
6	ユーザ ID	発言者のユーザ ID	255 バイト以内の半角文字列	●	なし
7	ユーザ名	発言者のユーザ名	なし	—	なし
8	ユーザ名 (英名)	発言者のユーザ名 (英名)	なし	—	なし
9	属性 ID	発言の属性を示す ID	0~99,999 の整数 (frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力した属性一覧ファイルに存在する属性 ID を記述する)	●	なし
10	属性名	発言の属性を示す名称	なし	—	なし
11	重要度 ID	発言の重要度を示す ID	0~99,999 の整数 (frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力した重要度一覧ファイルに存在する重要度 ID を記述する)	○	重要度「普通」を示す ID
12	重要度名	発言の重要度を示す名称	なし	—	なし

項番	項目	説明	項目値と値の意味	インポート時	
				指定可否	省略時仮定値
13	議論状態 ID	発言の議論状態を示す ID	0~99,999 の整数 (frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力した議論状態一覧ファイルに存在する議論状態 ID を記述する)	△	議論状態「未決」を示す ID
14	議論状態名	発言の議論状態を示す名称	なし	—	なし
15	階層レベル	発言の階層を示す値 <ul style="list-style-type: none"> 0: 最上位発言 1~85: 発言の階層 	なし	—	なし
16	上位発言	上位発言の発言 ID または登録発言 ID <ul style="list-style-type: none"> 0: 該当なし その他: 発言 ID または登録発言 ID 	<ul style="list-style-type: none"> 議題の場合 0 発言 ID の場合 1~2,147,483,647 の整数 登録発言 ID の場合 1~2,147,483,647 の整数 <p>有効期限を設定している議題は上位発言に指定できません。なお、上位発言に指定する値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 議題の場合は、0 を記述する。 既存の発言に返信する場合は、frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力した発言一覧ファイルに存在する発言 ID を記述する。 発言データファイル内の発言への返信の場合は、「R」+発言データファイルに存在する登録発言 ID を記述する。 エクスポート時、出力した発言データファイルに上位発言が存在する場合は、上位発言の発言 ID ではなく、「R」+上位発言の「登録発言 ID」である。 	●	なし
17	下位開始発言 ID	下位発言中の最初の発言 ID <ul style="list-style-type: none"> 0: 該当なし その他: 発言 ID 	なし	—	なし
18	下位終了発言 ID	下位発言中の最後の発言 ID <ul style="list-style-type: none"> 0: 該当なし その他: 発言 ID 	なし	—	なし
19	前発言 ID	前発言の発言 ID <ul style="list-style-type: none"> 0: 該当なし その他: 発言 ID 	なし	—	なし
20	後発言 ID	後発言の発言 ID	なし	—	なし

項番	項目	説明	項目値と値の意味	インポート時	
				指定可否	省略時仮定値
20	後発言 ID	<ul style="list-style-type: none"> • 0: 該当なし • その他: 発言 ID 	なし	—	なし
21	最上位発言 ID	議題の発言 ID (レコードが最上位発言の場合は自身の発言 ID を設定している)	なし	—	なし
22	回答責任者のユーザ ID	回答責任者のユーザ ID	255 バイト以内の半角文字	○	なし
23	回答責任者のユーザ名	回答責任者のユーザ名	なし	—	なし
24	回答責任者のユーザ名(英名)	回答責任者のユーザ名(英名)	なし	—	なし
25	添付ファイル有無	発言に添付されている添付ファイルの有無 <ul style="list-style-type: none"> • 0: 添付ファイルなし • 1: 添付ファイルあり 	0 または 1	○	0
26	有効期限	議題の有効期限	yyyy/MM/dd 形式の日付 *1 (発言日時以降の日付を指定)	△	なし
27	回答期限	発言の回答期限	yyyy/MM/dd 形式の日付 *1 (発言日時以降, かつ有効期限以前の日付を指定)	○	なし
28	発言日時	発言日時	yyyy/MM/ddTHH:mm:ss 形式の日時 *1*2 (有効期限以前, かつ回答期限以前の日時を指定)	○	発言を登録した日付 (コマンド実行開始日時)
29	発言参照 URL	[議題参照] 画面または [発言参照] 画面を表示する URL	なし	—	なし

(凡例)

- : 指定が必須の項目
- : 指定が任意の項目
- : 指定不要。指定した場合は無視される
- △: 最上位発言の場合は「○」、最上位発言以外の場合は「—」として扱う

注※1

「yyyy/MM/dd」に設定できる日付の範囲は 1970/1/1～9999/12/31。

「MM」 「dd」 に指定する値は次のとおり。01～09 は 1～9 と指定できる。

・MM (月) : 01～12

・dd (日) : 01～31

値に指定する日付のタイムゾーンは、コマンドを実行する OS のデフォルトロケールのタイムゾーンとすること。

注※2

「T」 は区切り文字。「HH:mm:ss」に設定できる範囲は 00:00:00～23:59:59。

「HH」 「mm」 「ss」 に指定する値は次のとおり。0～9 は 00～09 と指定すること。

・HH (時) : 00～23

・mm (分) : 00～59

・ss (秒) : 00～59

(5) ヘッダに出力する項目

エクスポートした発言データファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは行の先頭に「#」を付加し、コメント行として出力されます。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-2 発言データファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室 ID	"会議室 ID"
2	会議室名	"会議室名"
3	発言 ID	"発言 ID"
4	登録発言 ID	"登録発言 ID"
5	主題	"主題"
6	ユーザ ID	"ユーザ ID"
7	ユーザ名	"ユーザ名"
8	ユーザ名(英名)	"ユーザ名(英語)"
9	属性 ID	"属性 ID"
10	属性名	"属性名"
11	重要度 ID	"重要度 ID"
12	重要度名	"重要度名"
13	議論状態 ID	"議論状態 ID"
14	議論状態名	"議論状態名"
15	階層レベル	"階層レベル"
16	上位発言	"上位発言"
17	下位開始発言 ID	"下位開始発言 ID"
18	下位終了発言 ID	"下位終了発言 ID"
19	前発言 ID	"前発言 ID"

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
20	後発言 ID	"後発言 ID"
21	最上位発言 ID	"最上位発言 ID"
22	回答責任者のユーザ ID	"回答責任者のユーザ ID"
23	回答責任者のユーザ名	"回答責任者のユーザ名"
24	回答責任者のユーザ名(英名)	"回答責任者のユーザ名(英語)"
25	添付ファイル有無	"添付ファイル有無"
26	有効期限	"有効期限"
27	回答期限	"回答期限"
28	発言日時	"発言日時"
29	発言参照 URL	"発言参照 URL"※

注※ -e オプションを指定した場合だけ出力されます。

付録 J.2 本文ファイル

発言の本文を記述したファイルです。記述する本文はテキスト形式です。

(1) インポート時に使用する本文ファイルの条件

インポート時に使用する本文ファイルは、次の条件を満たす必要があります。

- frmimpopn コマンド (発言のインポート) を実行するユーザに、ファイルに対する読み取り権限があること。
- テキスト形式であること。
- BOM は付けないこと。
- 本文ファイルは、一つだけ指定すること。
- 本文ファイルのサイズは、システムパラメタ max_contentsfilesize の設定値を超えないこと。

(2) ファイル名

ファイル名の規則は次のとおりです。

- frmimpopn コマンド (発言のインポート) で指定するファイル
任意のファイル名を指定できます。
- frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力するファイル
「body.txt」固定です。

(3) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットはテキスト形式にする必要があります。

付録 J.3 添付ファイル

発言に添付するファイルの実体です。規定のファイルフォーマットはありません。

(1) インポート時に使用する添付ファイルの条件

インポート時に使用する添付ファイルの条件は次のとおりです。

- ファイルのサイズがシステムパラメタ max_apdfilesize の設定値を超えないこと。
- 複数のファイルを添付する場合、ファイルのサイズの合計がシステムパラメタ max_apdfiletotalsize の設定値を超えないこと。

(2) ファイル名

ファイル名の規則は次のとおりです。

- frmimpopn コマンド (発言のインポート) で指定するファイル
任意のファイル名を指定できます。拡張子は、末尾から先頭に向かって最初に現れたピリオドまでとなります。ピリオドが一つもないファイルは、拡張子がないものとしします。
- frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で出力するファイル
発言に添付されているファイルの実体名となります。
同一ディレクトリでファイル名が重複する場合、二つ目以降のファイル名に対し、拡張子の前に「(n)」(n は「2」以上の整数)の通番が「2」から順に与えられます。

付録 J.4 発言ヘッダファイル

発言データファイルの項目の並びを記述するファイルです。発言ヘッダファイルに記述されている順に項目が登録されます。発言ヘッダファイルがない場合、発言データファイルの項目は、「付録 J.1(4) 項目」の表 J-1 に示す並びで登録されます。

(1) インポート時に使用する発言ヘッダファイルの条件

インポート時に使用する発言ヘッダファイルの条件は次のとおりです。

- ファイルフォーマットどおりの記述であること。
- frmimpopn コマンド (発言のインポート) を実行するユーザに、ファイルに対する読み取り権限があること。
- テキスト形式であること。
- BOM は付けないこと。
- 登録する項目数が 28 個または 29 個であること。

項目数が 28 個の場合

記述する項目が、「付録 J.1(5) ヘッダに出力する項目」の表 J-2 の項番 1 から項番 28 までに示す「ヘッダに出力する項目」であること。

項目は 1 行目から 28 行目までに記述すること。29 行目以降は無視される。

項目数が 29 個の場合

記述する項目が、「付録 J.1(5) ヘッダに出力する項目」の表 J-2 の項番 1 から項番 29 までに示す「ヘッダに出力する項目」であること。

項目は 1 行目から 29 行目までに記述すること。30 行目以降は無視される。

(2) ファイル名

ファイル名は「header.txt」固定です。

(3) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1項目につき1行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。

ファイルフォーマットが不正な場合は、frmimpopn コマンド (発言のインポート) の実行時にエラーとなります。エラーが発生した発言は会議室に登録されないで、コマンドが終了します。

記述例を次に示します。

```
"会議室ID"  
"会議室名"  
"発言ID"  
"登録発言ID"  
"主題"  
"ユーザID"  
"ユーザ名"  
"ユーザ名(英語)"  
"属性ID"  
"属性名"  
"重要度ID"  
"重要度名"  
"議論状態ID"  
"議論状態名"  
"階層レベル"  
"上位発言"  
"下位開始発言ID"  
"下位終了発言ID"  
"前発言ID"  
"後発言ID"  
"最上位発言ID"  
"回答責任者のユーザID"  
"回答責任者のユーザ名"  
"回答責任者のユーザ名(英語)"  
"添付ファイル有無"  
"有効期限"  
"回答期限"  
"発言日時"  
"発言参照URL"
```

付録 J.5 会議室一覧ファイル

会議室一覧を記述したファイルです。

(1) ファイル名

ファイル名は次の形式となります。

「cfrforumList」 + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」

年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。

「年 (4桁)」 + 「月 (2桁)」 + 「日 (2桁)」 + 「時 (2桁<24h表示>)」 + 「分 (2桁)」 + 「秒 (2桁)」

同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合は、二つ目以降のファイル名に対し、「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数)の通番が「2」から順に与えられます。

(2) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 会議室につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「""」（半角ダブルクォーテーション二つ）で表記する。

出力例を次に示します。

```
#"会議室ID","会議室名","会議室名(英語)","会議室略号","会議室状態","ユーザID","ユーザ名","ユーザ名(英語)","役職","役職(英語)","組織","組織(英語)","開催期間開始日","開催期間終了日","参照期間終了日","階層レベル","上位会議室ID","最上位会議室ID"
"10","業務改善プロジェクト会議室","utility room","utility","20","10380000","日立 太郎","Taro Hitachi","部長","Chief","第一企画部","Planning Section 1","2004/04/01","2004/11/15","2005/10/15","0","3","1"
```

(3) 項目

会議室一覧ファイルの項目を次の表に示します。

表 J-3 会議室一覧ファイルの項目

項番	項目名	説明
1	会議室 ID	会議室の ID
2	会議室名	会議室の名称
3	会議室名(英名)	会議室の名称(英名)
4	会議室略号	会議室の略号
5	会議室状態	会議室の状態を示すフラグ <ul style="list-style-type: none"> • 10：準備中 • 20：会議中 • 30：閉鎖中 • 40：アーカイブ待ち • 50：参照のみ • 60：削除待ち
6	ユーザ ID	会議室所有者のユーザ ID
7	ユーザ名	会議室所有者のユーザ名
8	ユーザ名(英名)	会議室所有者のユーザ名(英名)
9	役職	会議室所有者の役職
10	役職(英名)	会議室所有者の役職(英名)
11	組織	会議室所有者の組織
12	組織(英名)	会議室所有者の組織(英名)
13	開催期間開始日	会議室の開催期間開始日

項番	項目名	説明
14	開催期間終了日	会議室の開催期間終了日
15	参照期間終了日	会議室の参照期間終了日
16	階層レベル	会議室の階層を示す値 <ul style="list-style-type: none"> • 0: 最上位会議室 • 1~10: 会議室の階層
17	上位会議室 ID	上位会議室の会議室 ID <ul style="list-style-type: none"> • 0: 該当なし • その他: 会議室 ID
18	最上位会議室 ID	最上位の会議室 ID (レコードが最上位会議室の場合は自身の会議室 ID を設定する)

(4) ヘッダに出力する項目

会議室一覧ファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは先頭に「#」を付加し、コメント行として出力します。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-4 会議室一覧ファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室 ID	"会議室 ID"
2	会議室名	"会議室名"
3	会議室名(英名)	"会議室名(英語)"
4	会議室略号	"会議室略号"
5	会議室状態	"会議室状態"
6	ユーザ ID	"ユーザ ID"
7	ユーザ名	"ユーザ名"
8	ユーザ名(英名)	"ユーザ名(英語)"
9	役職	"役職"
10	役職(英名)	"役職(英語)"
11	組織	"組織"
12	組織(英名)	"組織(英語)"
13	開催期間開始日	"開催期間開始日"
14	開催期間終了日	"開催期間終了日"
15	参照期間終了日	"参照期間終了日"
16	階層レベル	"階層レベル"
17	上位会議室 ID	"上位会議室 ID"
18	最上位会議室 ID	"最上位会議室 ID"

付録 J.6 アクセス権一覧ファイル

会議室のアクセス権一覧を記述したファイルです。

(1) ファイル名

ファイル名は次の形式となります。

「cfrpermissionlist」 + 「_」 + 会議室ID + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」

会議室 ID は、-fid オプションを指定した場合だけ、出力されます。年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。

「年 (4桁)」 + 「月 (2桁)」 + 「日 (2桁)」 + 「時 (2桁<24h表示>)」 + 「分 (2桁)」 + 「秒 (2桁)」

同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合は、二つ目以降のファイル名に対し、「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数) の通番が「2」から順に与えられます。

(2) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 属性につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「"""」(半角ダブルクォーテーション二つ) で表記する。

出力例を次に示します。

```
#"会議室ID","コミュニティID","ワークスペースID","ロールID","ユーザID","権限"
"123","COM000010","WPL00001","ROL11","","06"
"123","COM000010","WPL00001","ROL12","","64"
"130","","","user01","72"
```

(3) 項目

アクセス権一覧ファイルの項目を次の表に示します。

表 J-5 アクセス権一覧ファイルの項目

項番	項目名	説明
1	会議室 ID	会議室の ID
2	コミュニティ ID	会議室が属するコミュニティの ID。コミュニティ会議室の場合だけ出力される。
3	ワークスペース ID	会議室が属するワークスペースの ID。コミュニティ会議室の場合だけ出力される。
4	ロール ID	会議室が属するコミュニティで権限を設定しているロールの ID。コミュニティ会議室の場合だけ出力される。
5	ユーザ ID	会議室で権限を設定しているユーザの ID。個人会議室の場合だけ出力される。
6	権限	会議室のアクセス権に対応する数値 [*] が出力される。複数のアクセス権を保持している場合は、それぞれの数値の論理和が出力される。

注※

会議室のアクセス権と、各アクセス権に対応する数値を次の表に示します。

表 J-6 アクセス権に対応する数値

項番	アクセス権	値
1	会議室作成	1
2	会議室削除	2
3	会議室開催	4
4	会議室閉鎖	8
5	会議室編集	16
6	議題作成	32
7	発言作成	64
8	発言参照	128
9	発言削除	256
10	議題完了	512

(4) ヘッダに出力する項目

アクセス権一覧ファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは先頭に「#」を付加し、コメント行として出力します。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-7 アクセス権一覧ファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室 ID	"会議室 ID"
2	コミュニティ ID	"コミュニティ ID"
3	ワークスペース ID	"ワークスペース ID"
4	ロール ID	"ロール ID"
5	ユーザ ID	"ユーザ ID"
6	権限	"権限"

付録 J.7 発言一覧ファイル

会議室の発言一覧を記述したファイルです。

(1) ファイル名

ファイル名は次の形式となります。

「cfropinionlist」 + 「_」 + 会議室ID + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」

年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。

「年 (4桁)」+「月 (2桁)」+「日 (2桁)」+「時 (2桁<24h表示>)」+「分 (2桁)」+「秒 (2桁)」

同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合は、二つ目以降のファイル名に対し、「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数) の通番が「2」から順に与えられます。

(2) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 発言につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「""」(半角ダブルクォーテーション二つ) で表記する。

出力例を次に示します。

```
#"会議室と発言のパス","会議室ID","発言ID"
"業務改善プロジェクト会議室/業務改善案A/業務改善案Aの回答","123","1"
```

(3) 項目

発言一覧ファイルの項目を次の表に示します。

表 J-8 発言一覧ファイルの項目

項番	項目名	説明
1	会議室と発言のパス	会議室名と主題を「/」で連結した文字列。会議室名からの絶対パスとし、「会議室名/主題/主題」のように表示する。
2	会議室 ID	発言を登録した会議室の ID
3	発言 ID	発言の登録番号

(4) ヘッダに出力する項目

発言一覧ファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは先頭に「#」を付加し、コメント行として出力します。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-9 発言一覧ファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室と発言のパス	"会議室と発言のパス"
2	会議室 ID	"会議室 ID"
3	発言 ID	"発言 ID"

付録 J.8 属性一覧ファイル

会議室の属性一覧を記述したファイルです。

(1) ファイル名

ファイル名は次の形式となります。

「cfrattributelist」 + 「_」 + 会議室ID + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」

年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。

「年 (4桁)」 + 「月 (2桁)」 + 「日 (2桁)」 + 「時 (2桁<24h表示>)」 + 「分 (2桁)」 + 「秒 (2桁)」

同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合は、二つ目以降のファイル名に対し、「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数)の通番が「2」から順に与えられます。

(2) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 属性につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「"""」(半角ダブルクォーテーション二つ)で表記する。

出力例を次に示します。

```
#"会議室ID","属性ID","属性名","属性名(英語)"
"123","40","質問","Ques."
"123","50","回答","Ans."
"123","190","情報","Info."
```

(3) 項目

属性一覧ファイルの項目を次の表に示します。

表 J-10 属性一覧ファイルの項目

項番	項目名	説明
1	会議室 ID	会議室の ID
2	属性 ID	会議室で使用できる属性の ID
3	属性名	会議室で使用できる属性の名称
4	属性名(英名)	会議室で使用できる属性の名称(英名)

(4) ヘッダに出力する項目

属性一覧ファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは先頭に「#」を付加し、コメント行として出力します。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-11 属性一覧ファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室 ID	"会議室 ID"

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
2	属性 ID	"属性 ID"
3	属性名	"属性名"
4	属性名(英名)	"属性名(英語)"

付録 J.9 重要度一覧ファイル

会議室の重要度一覧を記述したファイルです。

(1) ファイル名

ファイル名は次の形式となります。

「cfrimportancelist」 + 「_」 + 会議室ID + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」

年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。

「年 (4桁)」 + 「月 (2桁)」 + 「日 (2桁)」 + 「時 (2桁<24h表示>)」 + 「分 (2桁)」 + 「秒 (2桁)」

同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合は、二つ目以降のファイル名に対し、「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数) の通番が「2」から順に与えられます。

(2) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 重要度につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「"""」(半角ダブルクォーテーション二つ) で表記する。

出力例を次に示します。

```
#"会議室ID","重要度ID","重要度名","重要度名(英語)"
"123","10","普通","Normal"
"123","20","重要","Important"
"123","30","最重要","Very Important"
```

(3) 項目

重要度一覧ファイルの項目を次の表に示します。

表 J-12 重要度一覧ファイルの項目

項番	項目名	説明
1	会議室 ID	会議室の ID
2	重要度 ID	会議室で使用できる重要度の ID
3	重要度名	会議室で使用できる重要度の名称

項番	項目名	説明
4	重要度名(英名)	会議室で利用できる重要度の名称(英名)

(4) ヘッダに出力する項目

属性一覧ファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは先頭に「#」を付加し、コメント行として出力します。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-13 重要度一覧ファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室 ID	"会議室 ID"
2	重要度 ID	"重要度 ID"
3	重要度名	"重要度名"
4	重要度名(英名)	"重要度名(英語)"

付録 J.10 議論状態一覧ファイル

会議室の議論状態一覧を記述したファイルです。

(1) ファイル名

ファイル名は次の形式となります。

「cfrstatalist」 + 「_」 + 会議室ID + 「_」 + 年月日時分秒 + 「.csv」

年月日時分秒には、コマンドの実行日時が次の形式で出力されます。

「年 (4桁)」 + 「月 (2桁)」 + 「日 (2桁)」 + 「時 (2桁<24h表示>)」 + 「分 (2桁)」 + 「秒 (2桁)」

同じ日時に同時に frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) が実行された場合は、二つ目以降のファイル名に対し、「.csv」の前に「(n)」(n は「2」以上の整数) の通番が「2」から順に与えられます。

(2) ファイルフォーマット

ファイルフォーマットを次に示します。

- 1 行目は項目名のヘッダとする。
- 1 議論状態につき 1 行とし、改行またはファイルの終端を行の終端とする。
- 各項目は半角コンマ「,」で区切る。
- 各項目は半角ダブルクォーテーション「"」で囲む。
- 半角ダブルクォーテーション「"」は、「"""」(半角ダブルクォーテーション二つ) で表記する。

出力例を次に示します。

```
#"会議室ID", "議論状態ID", "議論状態名", "議論状態名(英語)"
"123", "10", "未決", "Unfinished"
"123", "20", "既決", "Finished"
```

(3) 項目

議論状態一覧ファイルの項目を次の表に示します。

表 J-14 議論状態一覧ファイルの項目

項番	項目名	説明
1	会議室 ID	会議室の ID
2	議論状態 ID	会議室で使用できる議論状態の ID
3	議論状態名	会議室で使用できる議論状態の名称
4	議論状態名(英名)	会議室で使用できる議論状態の名称(英名)

(4) ヘッダに出力する項目

議論状態一覧ファイルの 1 行目にはヘッダを出力します。ヘッダは先頭に「#」を付加し、コメント行として出力します。ヘッダに出力する項目を次の表に示します。

表 J-15 重要度一覧ファイルのヘッダに出力する項目

項番	プロパティ	ヘッダに出力する項目
1	会議室 ID	"会議室 ID"
2	議論状態 ID	"議論状態 ID"
3	議論状態名	"議論状態名"
4	議論状態名(英名)	"議論状態名(英語)"

付録 K Collaboration - Forum の監査ログ

ここでは、Collaboration - Forum が対象としている監査事象、および監査ログが出力される操作について説明します。Collaboration - Forum の監査ログに出力されるメッセージの詳細は、「付録 M 監査ログのメッセージ」を参照してください。

次の項目の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

- 監査ログの出力先
- 監査ログの出力形式
- 監査ログの各項目の意味

Collaboration - Forum で監査ログの取得対象となるのは、次の監査事象に関する操作です。

表 K-1 Collaboration - Forum の監査ログの取得対象となる監査事象

項番	監査事象	説明
1	StartStop	コマンドの開始と終了を示します。
2	Authentication	HiRDB またはメールサーバとの接続の確立処理で認証が成功または失敗したことを示します。
3	AccessControl	アクセス制御されているリソースに対する操作が実行されたことを示します。 次に示すリソースに対する操作が対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> • 会議室、および発言の状態 • アクセス権
4	ConfigurationAccess	アクセス制御に関する設定を参照、または変更したことを示します。 次に示す操作が対象となります。 <ul style="list-style-type: none"> • 会議室の作成 • 会議室情報の変更（アクセス権の変更） • パラメタ管理テーブル (tbl_param) の参照、および更新
5	ExternalService	通知メールの送信や、メールによる議題または発言の投稿など、メールサーバとの接続が発生したことを示します。
6	Failure	次の事象が発生したことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • プロパティファイルの読み込みに失敗した • キーの取得に失敗した • プロパティファイルのキーに指定されている値の読み込みに失敗した 対象のプロパティファイルを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> • hptl_clb_cfr_engine.properties • hptl_clb_cfr_view.properties • hptl_clb_cfr_command.properties • hptl_clb_cfr_sysrange.properties
7	ContentAccess	操作の成功または失敗を示します。
8	AnomalyEvent	異常な値が入力された、またはコマンド実行時に不正なオプションを指定したことを示します。

項番	監査事象	説明
8	AnomalyEvent	すべてのリクエストが対象となります。

付録 K.1 監査ログが出力される操作

監査ログが出力される操作およびコマンドと、監査事象の対応を次の表に示します。

表 K-2 監査ログが出力される操作と監査事象の対応

監査事象	操作
AccessControl	[会議室作成] 画面の表示
	会議室の作成
	[会議室編集] 画面の表示
	会議室情報の編集
	会議室情報の参照
	会議室の削除
	[メール設定編集] 画面の表示
	メール設定の編集
	メール設定の参照
	議題または発言のメール配信の設定
	メールの再送
	[議題作成] 画面の表示
	[議題確認] 画面の表示
	議題の作成
	議論状態の変更
	[発言一覧] 画面の表示
	議題または発言の参照
	[発言作成] 画面の表示
	[発言確認] 画面の表示
	発言の作成
	議題または発言の削除
	議題または発言の印刷
	ファイルの添付
	添付ファイルのダウンロード
	添付ファイルの削除

監査事象	操作
AccessControl	ひな形の挿入
	ひな形の参照
	議題および発言の一括表示
	議題または発言の検索
	議事録の作成
	会議室をリンク集に追加
	参照状況の確認
	個人会議室のメンバの参照
	議題または発言をメールで転送
	議題または発言を未読状態に戻す
ConfigurationAccess	会議室の作成
	[会議室編集] 画面の表示
	会議室情報の編集 (アクセス権の変更)
	[会議室参照] 画面の表示
	コミュニティの作成*
	コミュニティの削除*
ContentAccess	会議室の作成
	[会議室編集] 画面の表示
	会議室情報の編集
	会議室情報の参照
	会議室の削除
	[メール設定編集] 画面の表示
	メール設定の編集
	メール設定の参照
	議題の作成
	議論状態の変更
	[発言一覧] 画面の表示
	議題または発言の参照
	[発言作成] 画面の表示
	発言の作成
	議題または発言の削除

監査事象	操作
ContentAccess	議題または発言の印刷
	ファイルの添付
	添付ファイルのダウンロード
	添付ファイルの削除
	議題および発言の一括表示
	議事録の作成
	議題または発言をメールで転送
	コミュニティの作成※
	コミュニティの削除※

注

Failure および AnomalyEvent は操作に関係なく、エラーが発生した時に出力されます。

注※

[コミュニティ管理] ポートレットから実行する操作です。

表 K-3 監査ログが出力されるコマンドと監査事象の対応

監査事象	コマンド
StartStop	frmapddel (添付ファイル削除)
	frmarch (会議室アーカイブ)
	frmchown (会議室所有者変更)
	frmchstat (会議室状態変更)
	frmdel (会議室削除)
	frmexpopn (発言のエクスポート)
	frmext (会議室期間延長)
	frmimpopn (発言のインポート)
	frminfomail (お知らせメール配信)
	frmopnmail (メール配信)
	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)
	frmquedel (メッセージキューの削除)
	frmqueview (メッセージキューの参照)
	frmreopn (会議室強制再開)
	frmrest (会議室リストア)
	frmrev (会議室復活)
frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)	

監査事象	コマンド
StartStop	frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)
	frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)
	frmsrch (会議室検索)
	frmsys (システムパラメタ変更)
Authentication	frmappeddel (添付ファイル削除)
	frmarch (会議室アーカイブ)
	frmchown (会議室所有者変更)
	frmchstat (会議室状態変更)
	frmdel (会議室削除)
	frmexpopn (発言のエクスポート)
	frmext (会議室期間延長)
	frmimpopn (発言のインポート)
	frminfomail (お知らせメール配信)
	frmopnmail (メール配信)
	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)
	frmquedel (メッセージキューの削除)
	frmqueview (メッセージキューの参照)
	frmreopn (会議室強制再開)
	frmrest (会議室リストア)
	frmrev (会議室復活)
	frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)
	frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)
	frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)
	frmsrch (会議室検索)
frmsys (システムパラメタ変更)	
AccessControl	frmimpopn (発言のインポート)
ConfigurationAccess	frmchown (会議室所有者変更)
	frmexpopn (発言のエクスポート)
	frmrest (会議室リストア)
	frmsys (システムパラメタ変更)
ExternalService	frminfomail (お知らせメール配信)

監査事象	コマンド
ExternalService	frmopnmail (メール配信)
	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)
ContentAccess	frmarch (会議室アーカイブ)
	frmchown (会議室所有者変更)
	frmchstat (会議室状態変更)
	frmdel (会議室削除)
	frmexpopn (発言のエクスポート)
	frmext (会議室期間延長)
	frmimpopn (発言のインポート)
	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)
	frmreopn (会議室強制再開)
	frmrest (会議室リストア)
	frmrev (会議室復活)
	frmsrch (会議室検索)
	Failure
frmarch (会議室アーカイブ)	
frmchown (会議室所有者変更)	
frmchstat (会議室状態変更)	
frmdel (会議室削除)	
frmexpopn (発言のエクスポート)	
frmext (会議室期間延長)	
frmimpopn (発言のインポート)	
frminfomail (お知らせメール配信)	
frmopnmail (メール配信)	
frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)	
frmquedel (メッセージキューの削除)	
frmqueview (メッセージキューの参照)	
frmreopn (会議室強制再開)	
frmrest (会議室リストア)	
frmrev (会議室復活)	
frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)	

監査事象	コマンド
Failure	frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)
	frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)
	frmsrch (会議室検索)
	frmsys (システムパラメタ変更)
AnomalyEvent	frmapddel (添付ファイル削除)
	frmarch (会議室アーカイブ)
	frmchown (会議室所有者変更)
	frmchstat (会議室状態変更)
	frmdel (会議室削除)
	frmexpopn (発言のエクスポート)
	frmext (会議室期間延長)
	frmimpopn (発言のインポート)
	frminformail (お知らせメール配信)
	frmopnmail (メール配信)
	frmopnregist (メールによる議題または発言の投稿)
	frmquedel (メッセージキューの削除)
	frmqueview (メッセージキューの参照)
	frmreopn (会議室強制再開)
	frmrest (会議室リストア)
	frmrev (会議室復活)
	frmsetchstatinfo (会議室の状態変更通知登録)
	frmsetopninfo (会議室の開催通知登録)
	frmsetresperiodinfo (回答期限通知登録)
	frmsrch (会議室検索)
frmsys (システムパラメタ変更)	

付録 K.2 監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報の意味

監査ログに出力されるオブジェクト情報と動作情報を次に示します。

(1) 監査ログに出力されるオブジェクト情報

監査ログに出力されるオブジェクト情報を次の表に示します。

表 K-4 監査ログに出力されるオブジェクト情報 (ポートレット)

項番	オブジェクト情報	意味
1	Attach	添付ファイル
2	Forum	会議室
3	Remark	発言
4	Role	役割
5	User	ユーザ
6	Workplace	ワークスペース

表 K-5 監査ログに出力されるオブジェクト情報 (コマンド)

項番	オブジェクト情報	意味
1	DB	HiRDB
2	Forum	会議室
3	Mail	メールサーバ
4	Message	議題または発言
5	Remark	発言
6	Role	役割
7	User	ユーザ
8	コマンド名	コマンド
9	プロパティキー名	プロパティキー
10	メッセージ種別	お知らせメール

(2) 監査ログに出力される動作情報

監査ログに出力される動作情報を次の表に示します。

表 K-6 監査ログに出力される動作情報 (ポートレット)

項番	動作情報	意味
1	Add	<ul style="list-style-type: none"> 作成 追加 ファイルの添付
2	Delete	削除
3	Enforce	接続またはアクセス制御の実施
4	Occur	エラーの発生
5	Refer	参照
6	Update	<ul style="list-style-type: none"> 変更

項番	動作情報	意味
6	Update	• 更新

表 K-7 監査ログに出力される動作情報（コマンド）

項番	動作情報	意味
1	Add	• 作成 • 追加
2	Delete	削除
3	Enforce	接続またはアクセス制御の実施
4	Occur	エラーの発生
5	Refer	参照または検索
6	Receive	受信
7	Send	送信
8	Start	開始
9	Stop	終了
10	Update	• 変更 • 更新

付録 L Collaboration - Forum のコマンド実行時に出力されるメッセージ

Collaboration - Forum で出力されるメッセージの形式、マニュアルでの記載形式、およびメッセージ一覧について説明します。

付録 L.1 コマンド実行時に出力されるメッセージの形式

Collaboration - Forum で出力されるメッセージの形式を説明します。メッセージは、メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

KDCNnnnnn-x メッセージテキスト

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

KDCN

Collaboration - Forum のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの通し番号を示します。

x

メッセージの種類を示します。

E：エラー

処理を中断します。

W：警告

メッセージ出力後、処理は続けられます。

I：情報

処理を終了します。

付録 L.2 コマンド実行時に出力されるメッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。

メッセージ ID

メッセージテキスト

メッセージの内容を説明します。

(S)

メッセージを出力したあとにシステムがする主な処理を説明します。

(O)

メッセージを確認したあとにユーザが対処する処置を説明します。この説明に従って対処してください。

付録 L.3 コマンド実行時に出力されるメッセージの一覧

KDCN10000-I

Processing of the setup command has finished.

frmcmdsetup コマンド (セットアップ) の処理が終了しました。

KDCN10001-E

The specified option is invalid. (詳細エラーメッセージ)

コマンドのオプションの指定が不正です。

詳細エラーメッセージ: JavaAPI の例外情報 (クラス名とエラーメッセージを出力する), または内部エラー情報 (内部エラーの内容がわかるメッセージを出力する)

(S)

コマンドを終了します。

(O)

指定したコマンドが正しいかどうかを確認してください。

KDCN10002-E

Execution of a command has failed. (詳細エラーメッセージ)

データベースアクセスエラーなどの予期しないエラーが発生しました。

詳細エラーメッセージ: JavaAPI の例外情報 (クラス名とエラーメッセージを出力する), または内部エラー情報 (内部エラーの内容がわかるメッセージを出力する)

(S)

コマンドを終了します。

(O)

詳細エラーメッセージを参照して, 原因を取り除いてください。

KDCN10003-E

The conference room "*fid/fname/fenname*" does not exist.

指定した会議室 ID, または会議室名の会議室はデータベースに存在しません。

fid: 会議室 ID

fname: 会議室名

fenname: 会議室名 (英語)

(S)

コマンドを終了します。

(O)

データベースに存在する会議室 ID, 会議室名, または会議室名 (英語) を指定してください。

KDCN10004-E

An error occurred in the LDAP linkage. (詳細エラーメッセージ)

ディレクトリサーバとの連携でエラーが発生しました。

詳細エラーメッセージ：ディレクトリサーバのエラー情報（クラス名とエラーメッセージを出力する）

(S)

コマンドを終了します。

(O)

詳細エラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

KDCN10005-I

An item satisfying the specified conditions was not found.

指定した条件でデータベースを検索しましたが、その条件の対象がデータベースに存在しません。

(O)

検索条件を修正してください。

KDCN10006-E

The user "*uid*" does not exist.

指定したユーザがディレクトリサーバに存在しません。

uid : ユーザ ID

(O)

ディレクトリサーバに存在するユーザを指定してください。

KDCN10007-W

The warning occurred during the execution of a command. (詳細警告メッセージ)

コマンド実行中に警告が発生しました。

詳細警告メッセージ：警告情報（警告の内容がわかるメッセージを出力する）

(O)

詳細警告メッセージを参照して、問題がある場合は原因を取り除いてください。

KDCN10008-E

An error occurred in the Community Manager linkage. (詳細エラーメッセージ)

コミュニティ管理連携でエラーが発生しました。

詳細エラーメッセージ：コミュニティ管理のエラー情報（クラス名とエラーメッセージを出力する）

(O)

詳細エラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

KDCN10009-I

An attempt to execute a command has finished because it was already running.

コマンドがすでに起動されているため終了しました。

KDCN10010-I

Processing of the command for queuing the message has finished. (コマンド名)

メッセージキューへの登録コマンドの処理が終了しました。

コマンド名：コマンド名

KDCN10011-E

An attempt to register information to be reported to users into the message queue has failed. (コマンド名)

ユーザへ通知する情報のメッセージキューへの登録に失敗しました。

コマンド名：コマンド名

(O)

しばらく時間を空けてから、コマンドを再実行してください。なお、同様のエラーが再度発生する場合は、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）の実行状況を確認してください。

KDCN10012-E

The remark "発言 ID" does not exist.

`frmsetresperiodinfo` コマンド（回答期限通知登録）で登録された発言が DB から削除されているため、`frminfomail` コマンド（お知らせメール配信）でメール配信できません。

発言 ID：発言 ID

(O)

- ユーザによって発言が削除された場合は対応不要です。
- 発言がある場合はデータベースの状態を確認してください。

KDCN10013-E

The command cannot be executed. (詳細エラーメッセージ)

システムで機能の利用が制限されているため、コマンドが実行できません。

詳細エラーメッセージ：JavaAPI の例外情報（クラス名とエラーメッセージを出力する）、または内部エラー情報（内部エラーの内容がわかるメッセージを出力する）

(O)

詳細エラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

KDCN10014-E

A specified user ID "*uid*" is for an additional-post user. Please specify a user ID for a main-post user.

兼任ユーザのユーザ ID を指定しています。主体ユーザのユーザ ID を指定してください。

(O)

ディレクトリサーバに登録されている主体ユーザのユーザ ID を指定してください。

KDCN10101-I

The conference room "*fid*" was output to the file.

指定した会議室 ID の会議室をファイルへ出力しました。

fid：会議室 ID

KDCN10102-I

Processing of the archive command has finished.

`frmarch` コマンド (会議室アーカイブ) の処理が終了しました。

KDCN10103-E

The conference room "*fid*" cannot be archived because it is not a top level conference room.

指定した会議室 ID の会議室は子会議室のため、アーカイブファイルに出力できません。

fid : 会議室 ID

(S)

コマンドを終了します。

(O)

最上位会議室の会議室 ID を指定してください。

KDCN10104-E

The conference room "*fid*" cannot be archived because the status is "*status*".

- `-fid` オプションを指定した場合

指定した会議室 ID の会議室はアーカイブ待ちでないため、アーカイブファイルに出力できません。

- `-f` オプションおよび `-fid` オプションを指定した場合

指定した会議室 ID の会議室は準備中、または削除待ちのため、アーカイブファイルに出力できません。

fid : 会議室 ID

status : 会議室の状態

(S)

コマンドを終了します。

(O)

- `-fid` オプションを指定した場合

アーカイブ待ちの会議室 ID を指定してください。

- `-f` オプションおよび `-fid` オプションを指定した場合

準備中および削除待ち以外の会議室 ID を指定してください。

KDCN10105-E

The specified directory "*dir*" does not exist.

指定したディレクトリが存在しません。

dir : ディレクトリ名

(S)

コマンドを終了します。

(O)

存在するディレクトリを指定してください。

KDCN10106-E

The file "*file*" already exists.

指定したファイル名のファイルはすでにディレクトリに存在します。

file : ファイル名

(S)

コマンドを終了します。

(O)

ファイルの出力先ディレクトリを変更するか、またはすでに出力先ディレクトリに存在するファイルをほかのディレクトリに移動してください。

KDCN10201-I

The file "*file*" was restored.

指定したファイル名のファイルを復元しました。

file : ファイル名

KDCN10202-I

Processing of the restore command has finished.

frmrest コマンド (会議室リストア) の処理が終了しました。

KDCN10203-E

The specified archive file "*file*" does not exist.

指定したファイル名のアーカイブファイルが存在しません。

file : ファイル名

(S)

コマンドを終了します。

(O)

存在するアーカイブファイルを指定してください。

KDCN10204-E

The archive file does not exist.

指定したディレクトリにアーカイブファイルがありません。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

アーカイブファイルをカレントディレクトリ直下に格納してください。

KDCN10205-E

The specified archive file "*file*" is invalid.

アーカイブファイルとして指定したファイルには、異なる形式のデータが格納されています。

file : ファイル名

(S)

コマンドを終了します。

(O)

`frmarch` コマンド (会議室アーカイブ) で出力したアーカイブファイルを指定してください。

KDCN10206-E

The conference room "*mainfid*" in the specified archive file already exists.

指定したアーカイブファイルに格納されている会議室は、すでにデータベースに存在するため、復元できません。

mainfid : メイン会議室 ID

(S)

コマンドを終了します。

(O)

指定したアーカイブファイルに格納されている会議室は、すでにデータベースに登録されているため、データベースを確認してください。

KDCN10301-I

The conference room "*fid*" was restored.

指定した会議室 ID の会議室を復活しました。

fid : 会議室 ID

KDCN10302-I

Processing of the restore command has finished.

`frmrev` コマンド (会議室復活) の処理が終了しました。

KDCN10303-E

The conference room "*fid*" cannot be restored because the status is "*status*".

指定した会議室 ID の会議室はアーカイブ待ちではないため、復活できません。

fid : 会議室 ID

status : 会議室の状態

(S)

コマンドを終了します。

(O)

アーカイブ待ちの会議室 ID を指定してください。

KDCN10401-I

The conference room "*fid*" was deleted from the database.

指定した会議室 ID の会議室をデータベースから削除しました。

fid : 会議室 ID

KDCN10402-I

Processing of the delete command has finished.

frmdel コマンド（会議室削除）の処理が終了しました。

KDCN10403-E

The conference room "*fid*" cannot be deleted because the status is "*status*".

指定した会議室 ID の会議室は削除待ちではないため、削除できません。

fid : 会議室 ID

status : 会議室の状態

(S)

コマンドを終了します。

(O)

削除待ちの会議室 ID を指定してください。

KDCN10501-I

The conference room "*fid*" status was changed to "*status*".

指定した会議室 ID の会議室の状態が *status* に遷移しました。

fid : 会議室 ID

status : 会議室の状態

KDCN10502-I

Processing of the command for changing the status has finished.

frmchstat コマンド（会議室状態変更）の処理が終了しました。

KDCN10601-I

Processing of the command for searching conference rooms has finished.

frmsrch コマンド（会議室検索）の処理が終了しました。

KDCN10701-I

Processing of the command for extending a period has finished.

frmext コマンド（会議室期間延長）の処理が終了しました。

KDCN10702-W

The date for the specified conference room was changed to the date for the upper level conference room.

会議室の日付（開催期間 開始日, 開催期間 終了日, または参照期間 終了日）を上位会議室の日付に補正しました。

(S)

コマンドを終了します。

KDCN10703-E

The conference room "*fid*" is not in the state of a target for period extension.

指定した会議室 ID の会議室は、アーカイブ待ちまたは削除待ちです。

fid : 会議室 ID

(S)

コマンドを終了します。

(O)

`frmrev` コマンド (会議室復活) または `frmrest` コマンド (会議室リストア) を使用して、会議室の状態を変更してください。

KDCN10704-E

The specified date "*date*" is not later than the extension date "*date2*".

指定した日付は延期対象日付を超えていません。

date : 指定日付

date2 : 延期対象日付

(S)

コマンドを終了します。

(O)

指定日付には、延期対象日付よりも未来の日付を指定してください。

KDCN10801-I

Processing of the command for deleting attached files has finished.

`frmappdel` コマンド (添付ファイル削除) の処理が終了しました。

KDCN10901-I

Processing of the command for changing system parameters has finished.

`frmsys` コマンド (システムパラメタ変更) の処理が終了しました。

KDCN10902-E

An invalid value "*value*" was specified for the key "*key*".

値域を超える値が指定されました。

value : 入力した値

key : `hptl_clb_cfr_command.properties` ファイルのキー値

(S)

コマンドを終了します。

(O)

`hptl_clb_cfr_command.properties` ファイルの内容を修正してください。

KDCN10903-E

No system parameters were changed. Revise the `hptl_clb_cfr_command.properties` file.

frmsys コマンド (システムパラメタ変更) を実行したが、システムパラメタが変更されませんでした。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

frmsys コマンド (システムパラメタ変更) コマンドでデータベースのパラメタの設定内容を確認し、hptl_clb_cfr_command.properties ファイルを見直してください。

KDCN10904-E

Specification for which "max_apdfilesize" exceeds "max_apdfiletotalsize" cannot be performed.

添付ファイルの合計最大サイズ (max_apdfilesize) よりも添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズ (max_apdfiletotalsize) が大きくなるような指定をしています。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

hptl_clb_cfr_command.properties の添付ファイルの合計最大サイズ、または添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズの値を変更してください。

KDCN10905-E

Execution is not possible when both "def_distributemail" and "def_displaymailsetting" are specified.

メール配信設定のデフォルト値 (def_distributemail) に「1」(有効) を設定し、メール設定欄表示状態 (def_displaymailsetting) に「0」(表示させない) を指定しています。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

メール配信設定のデフォルト値 (def_distributemail) とメール設定欄表示状態 (def_displaymailsetting) の関係を見直してください。

KDCN11001-I

Processing of the command for distributing remark mail has finished.

frmpopmail コマンド (メール配信) の処理が終了しました。

KDCN11002-E

An attempt to distribute mail has failed. (詳細エラーメッセージ)

メールの送信に失敗しました。

詳細エラーメッセージ: メールサーバのエラー情報 (クラス名とエラーメッセージを出力する)

(S)

コマンドを終了します。

(O)

詳細エラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

KDCN11101-I

The conference room "*fid*" owner was changed to "*uid*".

指定した会議室 ID の会議室の会議室所有者を *uid* に変更しました。

fid : 会議室 ID

uid : ユーザ ID

KDCN11102-I

Processing of the command for changing the conference room owner has finished.

`frmchown` コマンド (会議室所有者変更) の処理が終了しました。

KDCN11103-E

The conference room "*fid*" owner cannot be changed because it is a community conference room.

指定した会議室 ID の会議室は、コミュニティに属する会議室であるため、会議室所有者を変更できません。

fid : 会議室 ID

(S)

コマンドを終了します。

(O)

画面から会議室所有者を変更してください。

KDCN11201-I

Processing of the command that reopens the conference room has finished.

`frmreopen` コマンド (会議室強制再開) の処理が終了しました。

KDCN11202-W

The date for the specified conference room was changed to the date for the upper level conference room.

会議室の日付 (開催期間 終了日または参照期間 終了日) を上位会議室の日付に補正しました。

(S)

コマンドを終了します。

KDCN11203-E

The state of the specified conference room is not "Now closing".

会議室は閉鎖中ではありません。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

会議室の状態が閉鎖中の会議室でコマンドを実行してください。

KDCN11205-E

The specified date "*date1*" is earlier than the command execution date "*date2*".

指定した日付がコマンド実行日よりも過去の日付です。

date1 : 指定日付

date2 : コマンド実行日

(S)

コマンドを終了します。

(O)

指定日付には、コマンド実行日以降の日付を指定してください。

KDCN11206-E

The status of the upper level conference room is not "Conference in progress".

指定した会議室の上位会議室は、会議中ではありません。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

上位会議室の状態を会議中に変更してください。

KDCN11207-E

The command execution date is earlier than "*date*" of the specified conference room.

コマンド実行日が会議室の開催期間 終了日よりも過去の日付です。

このメッセージは、会議室の開催期間中に画面上で会議室を閉鎖した場合に表示されます。

date : 開催期間 終了日

(S)

コマンドを終了します。

(O)

[会議室編集] 画面の [会議室を開催] チェックボックスをチェックし、会議室の状態を会議中にして、更新してください。[会議室編集] 画面の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

KDCN11301-I

Processing of the command that contributes the discussion (remarks) by mail has finished.

frmopnregist コマンド (メールによる議題または発言の投稿) の処理が終了しました。

KDCN11302-E

An attempt to post by email has failed.

メールの登録に失敗しました。

(O)

このメッセージの前に出力されているメッセージを参照してください。

KDCN11304-E

A connection to the mail server cannot be established.

メールサーバに接続できません。

(O)

接続できない原因を取り除いて、コマンドを再実行してください

KDCN11305-E

Either the conference room ID "*fid*" is not specified or an invalid value is specified.

会議室 ID を指定していません。または、無効な値を指定しています。

fid : 会議室 ID

(O)

主題の形式を確実に指定したい場合は、配信されたメールに返信してください。

KDCN11306-E

Posting by email is not permitted for the specified conference room "*fid*".

メールからの投稿が許可されていない会議室を指定しています。

fid : 会議室 ID

(O)

メールからの投稿についての設定の変更を会議室所有者に依頼してください。

KDCN11307-E

The user is not a member of the conference room "*fid*".

会議室のメンバに登録されていない会議室を指定しています。

fid : 会議室 ID

(O)

メンバの追加を会議室所有者に依頼してください。

KDCN11308-E

The "*議題/発言*" cannot be posted because the conference room "*fid*" status is "*status*".

会議室状態が会議中以外の会議室を指定しています。

議題/発言 : 議題または発言

fid : 会議室 ID

status : 会議室状態

(O)

会議室状態の変更を会議室所有者に依頼してください。

KDCN11309-E

You do not have permission to post "*議題/発言*" to the conference room "*fid*".

投稿者に発言参照権限、議題作成権限、または発言作成権限がない会議室を指定しています。

議題/発言：議題または発言

fid：会議室 ID

(O)

発言参照権限、議題作成権限、または発言作成権限の変更を、会議室所有者に依頼してください。

KDCN11310-E

Posting by email is not permitted because the specified conference room "*fid*" does not have the email posting attribute.

メール投稿属性が設定されていない会議室を指定しています。

fid：会議室 ID

status：会議室状態

(O)

メール投稿属性の設定を会議室所有者に依頼してください。

KDCN11311-E

An upper-level remark "*上位発言 ID*" does not exist for the conference room "*fid*".

指定している上位発言が会議室で見つかりません。

上位発言 ID：上位発言 ID

fid：会議室 ID

(O)

再投稿する場合は、同じ会議室からメール配信されたほかのメールに返信してください。

KDCN11312-E

The start of a discussion, set in the upper-level remark "*上位発言 ID*", does not exist in the conference room "*fid*".

議題が会議室で見つからない上位発言を指定しています。

上位発言 ID：上位発言 ID

fid：会議室 ID

(O)

再投稿する場合は、同じ会議室からメール配信されたほかのメールに返信してください。

KDCN11313-E

Increasing the number of remark levels for "*発言 ID*" is not possible because the number of levels will exceed the upper limit.

下位発言の階層の上限数を超過してしまう上位発言を指定しています。

発言 ID：発言 ID

(O)

再投稿する場合は、同じ会議室からメール配信されたほかのメールに返信してください。

KDCN11314-E

Making remarks for this discussion "*上位発言 ID*" is not possible because a view-only period is specified.

有効期限が設定されている議題を指定しています。

上位発言 ID：上位発言 ID

(O)

再投稿する場合は、同じ会議室からメール配信されたほかのメールに返信してください。

KDCN11315-E

You cannot post the "議題/発言" because the maximum number "上限数" for discussions or remarks has been exceeded.

議題または発言の数が上限数を超える会議室を指定しています。

議題/発言：議題または発言

上限数：上限数

(O)

会議室の作成を会議室所有者に依頼してください。

KDCN11316-E

An invalid parameter is set for the subject.

投稿したメールの主題が不正です。

(O)

投稿する場合は、メール配信されたメールに返信してください。

KDCN11317-W

Some attempts to post a remark or the start of a discussion have failed.

議題または発言の投稿に失敗した幾つかのメールがあります。

(O)

ログファイルを参照して、問題がある場合は、投稿に失敗したメールの詳細原因を取り除いてください。

KDCN11321-E

Two or more sender addresses are set in the From header.

メールの送信者 (From) に複数のアドレスを指定しています。

(O)

メールの送信者に投稿者を一人だけ指定してから、再投稿してください。

KDCN11322-E

A character string in an unsupported encoding was posted.

サポートされていないエンコード文字列を指定しています。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KDCN11323-E

The mail text is invalid.

投稿されたメールの本文が取得できません。

(O)

本文の内容を確認してから再投稿してください。再度エラーになる場合は、システム管理者に連絡してください。

KDCN11325-E

The specified conference room "*fid*" does not exist.

データベースに存在しない会議室を指定しています。

(O)

メール配信されたメールの主題を変更してメール投稿をしている場合は、指定した会議室 ID が正しいかどうかを確認してください。指定した会議室 ID が正しい場合は、会議室が存在しないことを会議室所有者に連絡してください。

KDCN11326-E

The user "*uid*" does not exist.

投稿者がディレクトリサーバに存在していません。

uid : ユーザ ID

(O)

ディレクトリサーバにユーザを登録してから、再投稿してください。

KDCN11327-E

The mail format is invalid.

処理できない形式または不正な形式のメールを受信しました。送信側の処理が不正な場合や、システムの異常な動作を誘発することを目的としたメールであるおそれがあります。

(O)

- 詳細エラーメッセージが「The nested number of MIME part exceeded」の場合
hptl_clb_cfr_opnregist_search_nested_mimepart_number プロパティの値を確認してください。
- 詳細エラーメッセージが「The nested number of MIME part exceeded」以外の場合
同時に出力される MessageID に対応するメールサーバのログを参照して、メールの送信者を特定してください。メールの運用ルールやセキュリティポリシーに従って対応してください。

KDCN11501-I

Processing of the message queue view command has finished.

frmqueueview コマンド (メッセージキューの参照) の処理が終了しました。

KDCN11502-E

Message "*messageid*" in the message queue cannot be referenced.

指定したメッセージを参照できません。

messageid : メッセージキューのメッセージ ID

KDCN11503-E

Message "*messageid*" in the message queue does not exist.

指定したメッセージがありません。

messageid : メッセージキューのメッセージ ID

KDCN11601-I

Message "*messageid*" in the message queue was deleted from the database.

指定したメッセージキューのメッセージをデータベースから削除しました。

messageid : メッセージキューのメッセージ ID

KDCN11602-I

Processing of the message queue deletion command has finished.

frmquedel コマンド (メッセージキューの削除) の処理が終了しました。

KDCN11603-E

Message "*messageid*" in the message queue cannot be deleted.

指定したメッセージを削除できません。

messageid : メッセージキューのメッセージ ID

KDCN11604-E

Message "*messageid*" in the message queue does not exist.

指定したメッセージがありません。

messageid : メッセージキューのメッセージ ID

KDCN11701-I

Processing of the command that distributes notification mail has finished.

frminfomail コマンド (お知らせメール配信) の処理が終了しました。

KDCN11702-E

An attempt to distribute mail has failed. (お知らせメールイベント:詳細エラーメッセージ)

メールの配信に失敗しました。

お知らせメールイベント : frminfomail コマンド (お知らせメール配信) を利用してメール配信するイベント

詳細エラーメッセージ : メールサーバから返されたエラー情報 (クラス名とエラーメッセージを出力する)

(O)

お知らせメールイベントの詳細エラーメッセージを参照して、原因を取り除いてください。

KDCN11703-E

A connection to the mail server cannot be established.

メールサーバに接続できません。

(O)

接続できない原因を取り除いて再実行してください。

KDCN11704-I

An attempt to distribute mail is discontinued. (お知らせメールイベント: 詳細エラーメッセージ)

frmsetresperiodinfo コマンド (回答期限通知登録) で登録された発言が, **frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) 実行時に, 発言の状態が変更 (議題の状態が既決に変更など) されたため, お知らせメールを配信しません。状態の変更内容が詳細メッセージに表示されます。

お知らせメールイベント: **frminfomail** コマンド (お知らせメール配信) を利用してメール配信するイベント

詳細エラーメッセージ: 状態の内容

(O)

詳細エラーメッセージを参照して, 原因を取り除いてください。

KDCN11901-I

A file (*file*) was imported.

発言データファイルのデータを正常にインポートしました。

file: 発言データファイル名

(S)

コマンドを終了します。

KDCN11902-I

Processing to import the remarks has finished. (number of successfully imported remarks = *successCount*, number of remarks that failed to be imported = *failedCount*)

発言インポート処理が終了しました。

successCount: 成功発言件数

failedCount: 失敗発言件数

(S)

コマンドを終了します。

KDCN11903-E

The specified file path (*filepath*) does not exist.

指定したファイルパスが存在しないため, 発言インポート処理を実行できませんでした。

filepath: ファイルパス

(S)

発言を登録しないでコマンドを終了します。

(O)

次のように対処してください。

- 存在しないファイルパスを指定していた場合
指定したファイルパスが正しいことを確認してください。正しくない場合は正しい場所を指定し直してください。
- ユティリティコマンドを実行するユーザに、読み取り権限のないファイルを指定していた場合
ユティリティコマンドを実行するユーザに対して、ファイルへの読み取り権限を確認してください。
- 指定したファイルパスがファイルではなかった場合
ファイルパスにはファイルを指定してください。

KDCN11904-E

The file format is invalid. (data file = *file*, line = *lineNumber*, column = *columnNumber*)

発言データファイルのフォーマットが不正なため、発言を登録できませんでした。

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

columnNumber : 発言データファイルの処理中のカラム番号

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

次のように対処してください。

- 発言データファイルに BOM が付与されている場合
発言データファイルに BOM を付けずに保存してください (BOM を付けずにテキストエディタを使用してください)。
- 正しいフォーマットで指定していない場合
発言データファイルのフォーマットを見直してください。
- 指定したファイルパスがファイルではなかった場合
ファイルパスにはファイルを指定してください。

KDCN11905-E

The remark could not be registered because an upper-level remark does not exist. (data file = *file*, line = *lineNumber*, upper-level remark = *upperRemark*)

上位発言が存在しないため、発言を登録できませんでした。

file : データファイル名

lineNumber : データファイルの処理中の行番号

upperRemark : データファイルの上位発言

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

次のように対処してください。

- 上位発言が削除されていないか確認してください。

- 発言データファイルの上位発言の項目を見直してください。
- 発言データファイルの上位発言を登録した際のメッセージを確認してください。

KDCN11906-E

The number of conference room remark IDs has reached the limit. (conference room = *fid*, data file = *file*, line = *lineNumber*)

会議室の発言 ID が上限値に達したため、発言を登録できませんでした。採番 1 テーブル (tbl_sequence1) の発言 ID の値が制限値 (max_opinion) を超えています。

fid : 会議室の発言 ID

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

次のように対処してください。

- プロパティの設定上限値を確認してください。
- 別の会議室へ登録してください。

KDCN11907-E

An attached file failed to be registered. (data file = *file*, line = *lineNumber*)

添付ファイルの登録に失敗したため、発言を登録できませんでした。

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

その行の発言と添付ファイルは登録しないで、次の行を処理します。

(O)

次のように対処してください。

- 発言データファイルの添付ファイル有無が 1 で、添付ファイルが存在しない場合
発言データファイルの *lineNumber* 行目の発言の添付ファイルが、添付ファイル格納ディレクトリ内に存在することを確認してください。
- 添付ファイルのサイズが制限値 (max_apdfilesize) を超えていた場合
制限値を超えないファイルを添付してください。
- 一つの発言に添付されているファイルのサイズの合計値が制限値 (max_apdfiletotalsize) を超えていた場合
発言データファイルの *lineNumber* 行目の発言に添付されているファイルのサイズの合計が制限値を超えないよう、幾つかのファイルを排除してください。
- ユティリティコマンドを実行するユーザに添付ファイルへの読み取り権限がない場合
ユティリティコマンドを実行するユーザに対して添付ファイルへの読み取り権限を確認してください。
- 添付ファイル格納ディレクトリ内に、ファイルでないものが存在した場合
添付ファイル格納ディレクトリ内にはファイル以外 (ディレクトリなど) は配置しないでください。

- 添付ファイルのサイズが 0 バイトの場合
1 バイト以上のサイズのファイルを指定してください。

KDCN11908-E

A body file failed to be registered. (data file = *file*, line = *lineNumber*)

本文ファイルの登録に失敗したため、発言を登録できませんでした。

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

その行の発言と添付ファイルは登録しないで、次の行を処理します。

(O)

次のように対処してください。

- 本文ファイルが存在しない場合
本文ファイルを正しく格納していることを確認してください。本文ファイルの格納先については、「4.2 コマンドの詳細」の「frmimpopn (発言のインポート)」を参照してください。
- ユティリティコマンドを実行するユーザに、本文ファイルの読み取り権限がない場合
ユティリティコマンドを実行するユーザに対して、本文ファイルへの読み取り権限を確認してください。
- 本文ファイルのサイズが制限値 (max_contentsfilesize) を超えていた場合
本文ファイルのサイズが制限値を超えないようにしてください。

KDCN11909-I

processedCount remarks were processed.

processedCount 件の発言を処理しました。成功・失敗に関係なく、プロパティファイル (hptl_clb_cfr_command.properties) の hptl_clb_cfr_opinion_message_count キーに設定された数の発言を処理するたびに、このメッセージを出力します。

processedCount : 処理が完了した発言の件数

KDCN11910-E

The conference room is not currently available. (data file = *file*, line = *lineNumber*)

会議室状態が会議中でないため、発言を登録できませんでした。会議室状態が「10:準備中」「30:閉鎖中」「40:アーカイブ待ち」「50:参照のみ」「60:削除待ち」である会議室 ID を指定している場合に、このメッセージを出力します。

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

会議室の会議室状態を確認し、会議室状態を会議中にするか、指定する会議室を変更してください。

KDCN11911-E

The specified value for the data file item is invalid. (data file = *file*, line = *lineNumber*, column = *columnNumber*)

発言データファイルの項目の指定値が不正なため、発言を登録できませんでした。

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

columnNumber : 発言データファイルの処理中のカラム番号

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

次のように対処してください。

- 必須項目を指定していない場合
必須項目を指定してください。
- 指定できない値を指定している場合
型、桁数、ID (使用できる ID か) の指定が正しいか見直してください。
- 回答期限に有効期限よりあとの日付を記述している場合
回答期限に有効期限以前の日付を指定してください。
- 発言日時に有効期限よりあとの日付を記述している場合
発言日時に有効期限以前の日付を指定してください。
- 発言日時に回答期限よりあとの日付を記述している場合
発言日時に回答期限以前の日付を指定してください。

KDCN11912-E

Remarks cannot be registered for the discussion "*上位発言 ID*" because a valid period is set for the discussion. (data file = *file*, line = *lineNumber*)

議題に有効期限が設定されているため、発言を登録できませんでした。

上位発言 ID : 登録に失敗した上位発言 ID

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

上位発言の有効期限を確認してください。

KDCN11913-E

The specified file path (*filepath*) is too long.

指定した発言データファイルのパスの長さが、255 文字を超えています。

filepath : ファイルパス

(S)

発言を登録しないでコマンドを終了します。

(O)

発言データファイルのパスを 255 文字以内で指定してください。

KDCN11914-E

There are multiple files in the remark directory. (data file = *file*, line = *lineNumber*)

発言ディレクトリ内に複数のファイルが存在します。

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

その行の発言は登録しないで、次の行を処理します。

(O)

発言ディレクトリに格納するファイルは一つにしてください。

KDCN11915-E

The remark could not be registered because the maximum processing number of remarks (*maxNumber*) was exceeded. (data file = *file*, line = *lineNumber*)

発言の最大処理件数を超えたため、発言を登録できませんでした。発言データファイル内の発言の件数が、制限値 (`hptl_clb_cfr_opinion_identifier_max_num` の指定値) を超えています。

maxNumber : 発言の最大処理件数

file : 発言データファイル名

lineNumber : 発言データファイルの処理中の行番号

(S)

コマンドを終了します。

(O)

発言データファイル内の発言の件数は、制限値を超えないようにしてください。

KDCN11916-E

The file format is invalid. (header file = header.txt, line = *lineNumber*)

発言ヘッダファイルのフォーマットが不正なため、発言の登録ができませんでした。このメッセージは次の場合に出力されます。

- 発言ヘッダファイルに BOM が付与されている場合。
- 正しいフォーマットを指定していない場合。

lineNumber : 発言ヘッダファイルの処理中の行番号

(S)

コマンドを終了します。

(O)

次のどちらかの方法で対処してください。

- 発言ヘッダファイルは BOM を付けずに保存してください。テキストエディタで発言ヘッダファイルを編集する場合は、BOM を付けずにテキストエディタを使用してください。
- 発言ヘッダファイルのフォーマットを見直してください。

KDCN12001-I

exportInformation were output to a file. (conference room = *fid*)

発言またはアクセス権をファイルへ出力しました。このメッセージは次の場合に出力されます。

- 発言データファイル、本文ファイル、添付ファイルを正常に出力した場合。
- 発言一覧ファイルまたはアクセス権一覧ファイルを正常に出力した場合。

exportInformation :

発言データファイル、本文ファイル、添付ファイルまたは発言一覧ファイルの場合：Remarks

アクセス権一覧ファイルの場合：Access permissions

fid：出力した会議室の会議室 ID

(S)

コマンドに *-fid* オプションを指定した場合は、コマンドを終了します。

コマンドに *-fid* オプションを指定しなかった場合は、次の会議室 ID を処理します。

KDCN12002-I

Processing to export has finished. (number of successfully exported *objectType* = *successCount*, number of *objectType* that failed to be exported = *failedCount*)

frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) の処理が終了しました。成功・失敗件数は、出力ファイルが発言データファイルまたはアクセス権一覧ファイルの場合だけ出力します。

objectType :

発言データファイルの場合：remarks

アクセス権一覧ファイルの場合：access permissions

successCount：成功出力件数

failedCount：失敗出力件数

(S)

コマンドを終了します。

KDCN12004-E

A directory with the same name already exists. (directory = *dir*)

発言データ格納ディレクトリはすでに存在するため、エクスポートできませんでした。

dir：発言データ格納ディレクトリ名

(S)

発言を出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

次のどちらかの方法で対処してください。

- 発言データ格納ディレクトリを変更するか、既存のディレクトリをほかのディレクトリへ移動してください。
- 時間をおいて再実行してください。

KDCN12005-E

An attached file failed to be output. (conference room = *fid*, remark = *opnid*)

発言の添付ファイルを出力先ディレクトリへ出力できなかったため、発言を出力できませんでした。
 要因として、ディスクの容量不足や、ディスクへの書き込みができない状態になっていることなどが考えられます。

fid : 会議室 ID

opnid : 発言 ID

(S)

発言を出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

次のどちらかの方法で対処してください。

- 出力先ディレクトリパスを変更してください。
- ディスクへの書き込みができるかどうかを確認してください。

KDCN12006-E

The output directory cannot be accessed.

出力先ディレクトリパスにアクセスできないため、エクスポートできませんでした。

(S)

発言を出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

次の方法で対処してください。

- 出力先ディレクトリパスが存在しない場合
 存在するディレクトリパスを指定してください。
- ユティリティコマンドを実行するユーザに、出力先ディレクトリパスへの書き込み権限がない場合
 出力先ディレクトリパスを変更するか、ユティリティコマンドを実行するユーザに対してディレクトリへの書き込み権限を設定してください。
- 指定した出力先ディレクトリパスがディレクトリ以外であった場合
 出力先ディレクトリパスにディレクトリを指定してください。

KDCN12007-E

The file (*filetype*) failed to be output.

ファイルを出力先ディレクトリ（発言データ格納ディレクトリ、会議室ディレクトリ、発言ディレクトリ、添付ファイル格納ディレクトリ）へ出力できなかったため、エクスポートできませんでした。

要因として、ディスクの容量不足や、ディスクへの書き込みができない状態になっていることなどが考えられます。

filetype : ファイルの種別。出力される内容と意味は次のとおりです。

- remarks data file : 発言データファイル
- conference room list file : 会議室一覧ファイル
- permission list file : アクセス権一覧ファイル
- remarks list file : 発言一覧ファイル
- attributes list file : 属性一覧ファイル
- importance list file : 重要度一覧ファイル

- discussion statuses list file：議論状態一覧ファイル

(S)

発言を出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

次のどちらかの方法で対処してください。

- 出力先ディレクトリパスを変更してください。
- ディスクへの書き込みができるかどうかを確認してください。

KDCN12008-E

The body file failed to be output. (conference room = *fid*, remark = *opnid*)

本文ファイルを出力先ディレクトリ（発言データ格納ディレクトリ、会議室ディレクトリ、発言ディレクトリ、添付ファイル格納ディレクトリ）へ出力できなかったため、発言が出力できませんでした。

要因として、ディスクの容量不足や、ディスクへの書き込みができない状態になっていることなどが考えられます。

fid：会議室 ID

opnid：発言 ID

(S)

ファイルを出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

次のどちらかの方法で対処してください。

- 出力先ディレクトリパスを変更してください。
- ディスクへの書き込みができるかどうかを確認してください。

KDCN12009-I

processedCount remarks or the list of remarks was processed.

processedCount 件の発言または一覧を処理しました。

このメッセージは、成功・失敗に関係なく、システムパラメタ *hptl_clb_cfr_opinion_message_count* に設定している件数分の発言または一覧を処理し終わるたびに出力されます。

processedCount：処理が完了した発言または一覧の件数

KDCN12010-E

An output directory failed to be created. (directory = *dir*)

次に示すディレクトリのパス長のどれかが 255 文字を超えていたため、出力先ディレクトリの作成に失敗しました。

- 出力先ディレクトリ
- 発言データ格納ディレクトリ
- 会議室ディレクトリ
- 発言ディレクトリ
- 添付ファイル格納ディレクトリ

dir：出力先ディレクトリ名

(S)

ディレクトリを出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

エラーとなった出力先ディレクトリのパス長を 255 文字以内になるよう変更してください。

KDCN12011-I

The conference room was output to a file.

会議室一覧ファイルを正常に出力しました。

KDCN12012-I

Attributes were output to a file. (conference room = *fid*)

属性一覧ファイルを正常に出力しました。

fid : 会議室 ID**KDCN12013-I**

Importance items were output to a file. (conference room = *fid*)

重要度一覧ファイルを正常に出力しました。

fid : 会議室 ID**KDCN12014-I**

Discussion statuses were output to a file. (conference room = *fid*)

議論状態一覧ファイルを正常に出力しました。

fid : 会議室 ID**KDCN12015-E**

The file path (*filepath*) is too long.

次に示すファイルのパス長のどれかが 255 文字を超えているため、ファイルを出力できませんでした。

- 発言データファイル
- 本文ファイル
- 添付ファイル
- 会議室一覧ファイル
- アクセス権一覧ファイル
- 発言一覧ファイル
- 属性一覧ファイル
- 重要度一覧ファイル
- 議論状態一覧ファイル

filepath : ファイルパス

(S)

ファイルを出力しないで、コマンドを終了します。

(O)

エラーとなった出力先ファイルパスの長さを 255 文字以内になるよう変更してください。

KDCN12018-E

The remark URL failed to be output.

発言参照 URL の出力に失敗しました。

次の要因が考えられます。

- [議題参照] 画面, または [発言参照] 画面を表示する URL を格納するレコードが存在しない。
- [議題参照] 画面, または [発言参照] 画面を表示する URL を格納するレコードに URL が設定されていない。

(S)

発言データファイルを出力しないで, コマンドを終了します。

(O)

次のどちらかの方法で対処してください。

1. 次の SQL ファイルを上から順番に実行し, [議題参照] 画面, または [発言参照] 画面を表示する URL を格納するレコードを追加してください。

• hptl_clb_cfr_delete_master.sql

• hptl_clb_cfr_master.sql

その後, 2.の対処方法を実行してください。

2. Collaboration の [電子会議室] ポートレットにアクセスしてから `frmexpopn` コマンド (発言のエクスポート) を再度実行してください。

付録 M 監査ログのメッセージ

監査ログに出力されるメッセージについて説明します。

付録 M.1 監査ログのメッセージの記載形式

このマニュアルでの監査ログのメッセージの記載形式について説明します。

KDCNnnnnn-Y

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
メッセージの出力項目名	メッセージの出力項目の意味	メッセージの出力内容

(凡例)

可変値に関する説明

コマンド

メッセージが出力される契機となるコマンド

出力ポイント

メッセージが出力されるタイミング

各項目の詳細を次に示します。

KDCNnnnnn-Y

メッセージ ID は、次の内容を示しています。

KDCN

Collaboration - Forum のメッセージであることを示します。

nnnnn

メッセージの番号を示します。

Y

メッセージの種類を示します。

E：エラーメッセージであることを表します。

W：警告メッセージであることを表します。

I：通知メッセージであることを表します。

メッセージの内容

メッセージに出力される項目の内容を表に示します。

ここでは、メッセージごとに固有の意味を持つ項目、または固有の値が出力される項目について説明します。すべてのメッセージで共通の意味を持つ項目、または共通の値が出力される項目については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

可変値に関する説明

文字列が斜体になっている項目は、可変の文字列を表します。

また、メッセージテキストの自由記述中の可変値に表示される情報を「AA...AA：表示される情報」（AA...AA は任意の英字）の形式で示します。可変値に関する説明の記述例を次に示します。

(例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：実行した操作

コマンド

メッセージが出力される契機となるコマンドを示します。

出力ポイント

メッセージが出力されるタイミングを示します。

付録 M.2 監査ログのメッセージの詳細

KDCN20000-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20000-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj*1	オブジェクト情報	Forum*2
op	動作情報	Enforce
auth*3	権限情報	アクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB ために会議室にアクセスしました (CC...CC, DD...DD)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：実行した操作

CC...CC：会議室名(会議室 ID)*4

DD...DD：監査ログの出力契機となる処理名

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID

注※2

コミュニティに属する会議室のうち、最上位会議室を作成した場合は出力されません。

注※3

権限情報が変更されたときに表示されます。議論状態（未決、既決など）が変更されたときには表示されません。

注※4

コミュニティに属する会議室のうち、最上位会議室を作成した場合は「なし」と表示されます。また、会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

- [会議室作成] 画面の表示
- 個人会議室の作成（子会議室の作成）
- コミュニティに属する会議室の作成
- [会議室編集] 画面の表示
- 会議室情報の編集
- 会議室情報の参照
- 会議室の削除
- [メール設定編集] 画面の表示
- メール設定の編集
- メール設定の参照
- 議題、または発言のメール配信の設定
- メールの再送
- [議題作成] 画面の表示
- [議題確認] 画面の表示
- 議題の作成
- 議論状態の変更
- [発言一覧] 画面の表示
- 議題または発言の参照
- [発言作成] 画面の表示
- [発言確認] 画面の表示
- 発言の作成
- 議題または発言の削除
- 議題または発言の印刷
- ファイルの添付
- 添付ファイルのダウンロード
- 添付ファイルの削除
- ひな形の挿入
- ひな形の参照
- 議題および発言の一括表示
- 議題または発言の検索
- 議事録の作成

- 会議室をリンク集に追加
- 参照状況の確認
- 個人会議室のメンバの参照
- 議題または発言をメールで転送
- 議題または発言を未読状態に戻す

KDCN20001-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20001-E
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj ^{※1}	オブジェクト情報	Forum ^{※2}
op	動作情報	Enforce
auth ^{※3}	権限情報	アクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB ために会議室にアクセスしました (CC...CC, DD...DD)。(失敗)

(凡例)

- AA...AA：ユーザ ID
- BB...BB：実行した操作
- CC...CC：会議室名(会議室 ID)^{※4}
- DD...DD：監査ログの出力契機となる処理名

注^{※1}

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID

注^{※2}

コミュニティに属する会議室のうち、最上位会議室の作成に失敗した場合は出力されません。

注^{※3}

権限情報が変更されたときに表示されます。議論状態（未決、既決など）が変更されたときには表示されません。

注※4

コミュニティに属する会議室のうち、最上位会議室の作成に失敗した場合は「なし」と表示されます。
また、会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

- [会議室作成] 画面の表示
- 個人会議室の作成（子会議室の作成）
- コミュニティに属する会議室の作成
- [会議室編集] 画面の表示
- 会議室情報の編集
- 会議室情報の参照
- 会議室の削除
- [メール設定編集] 画面の表示
- メール設定の編集
- メール設定の参照
- 議題，または発言のメール配信の設定
- メールの再送
- [議題作成] 画面の表示
- [議題確認] 画面の表示
- 議題の作成
- 議論状態の変更
- [発言一覧] 画面の表示
- 議題または発言の参照
- [発言作成] 画面の表示
- [発言確認] 画面の表示
- 発言の作成
- 議題または発言の削除
- 議題または発言の印刷
- ファイルの添付
- 添付ファイルのダウンロード
- 添付ファイルの削除
- ひな形の挿入
- ひな形の参照
- 議題および発言の一括表示
- 議題または発言の検索
- 議事録の作成
- 会議室をリンク集に追加
- 参照状況の確認
- 個人会議室のメンバの参照

- 議題または発言をメールで転送
- 議題または発言を未読状態に戻す

KDCN20100-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20100-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj*1	オブジェクト情報	Forum
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がセキュリティ情報を参照しました(BB...BB)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：会議室名(会議室 ID)*2

注*1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID

注*2

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

- [会議室編集] 画面の表示
- 会議室情報の参照

KDCN20101-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20101-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj※1	オブジェクト情報	User
op	動作情報	Add
objloc※2	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照し てください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がメンバ(BB...BB)を追加しまし た(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：会議室に追加したユーザのユーザ ID

CC...CC：会議室名(会議室 ID)※3

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
User	obj:id=ユーザ ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

- 個人会議室の作成
- 会議室情報の編集 (メンバの追加)

KDCN20102-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20102-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj* ¹	オブジェクト情報	User
op	動作情報	Update
objloc* ²	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がメンバ(BB...BB)の権限を変更しました(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：アクセス権が変更されたメンバのユーザ ID

CC...CC：会議室名(会議室 ID)*³

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
User	obj:id=ユーザ ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

会議室情報の編集 (メンバのアクセス権の変更)

KDCN20103-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20103-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj※1	オブジェクト情報	User
op	動作情報	Delete
objloc※2	オブジェクトロケーション情報	Forum
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がメンバ(BB...BB)を削除しました(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザID

BB...BB：削除されたメンバのユーザID

CC...CC：会議室名(会議室ID)※3

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
User	obj:id=ユーザID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室IDだけが表示されます。

出力ポイント

会議室情報の編集 (メンバの削除)

KDCN20104-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージID	KDCN20104-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj※1	オブジェクト情報	Role

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	Add
objloc ^{※2}	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照してください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が役割(BB...BB)を追加しました(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：会議室に追加された役割の役割 ID

CC...CC：会議室名(会議室 ID)^{※3}

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Role	obj:id=役割 ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

- コミュニティの作成 (コミュニティの作成に伴うコミュニティに属する会議室の作成)
- コミュニティに属する会議室の作成

KDCN20105-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20105-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj ^{*1}	オブジェクト情報	Role
op	動作情報	Update
objloc ^{*2}	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照し てください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が役割(BB...BB)の権限を変更し ました(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：アクセス権が変更された役割の役割 ID

CC...CC：会議室名(会議室 ID)^{*3}

注^{*1}

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Role	obj:id=役割 ID

注^{*2}

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注^{*3}

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

会議室情報の編集 (コミュニティの役割に対応するアクセス権の変更)

KDCN20106-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20106-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj ^{※1}	オブジェクト情報	Forum
op	動作情報	Update
after	変更後情報	変更後の会議室所有者のユーザ ID
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が会議室所有者を変更しました(BB...BB)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：会議室名(会議室 ID)^{※2}

注^{※1}

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID

注^{※2}

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

会議室情報の編集 (会議室所有者の変更)

KDCN20107-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20107-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj ^{※1}	オブジェクト情報	Workplace
op	動作情報	Delete
objloc ^{※2}	オブジェクトロケーション情報	Community
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がコミュニティマネージャでワークスペース(BB...BB)を削除したため、コミュニティアクセス権情報を削除しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：ワークスペース ID

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Workplace	obj:id=ワークスペース ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Community	objloc:id=コミュニティ ID

出力ポイント

コミュニティの削除（コミュニティの削除に伴うコミュニティ会議室のアクセス権の削除）

KDCN20108-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20108-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
obj※1	オブジェクト情報	User
op	動作情報	Add
objloc※2	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照して ください。
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がコミュニティマネージャで ワークスペースを削除したため、ユーザ(BB...BB) にユーザアクセス権情報を追加しました (CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：アクセス権が変更されたメンバのユーザ ID

CC...CC：会議室名(会議室 ID)※3

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
User	obj:id=ユーザID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

出力ポイント

コミュニティの削除（コミュニティの削除に伴うコミュニティ会議室から個人会議室への変更と、それに伴うユーザへのアクセス権の追加）

KDCN20200-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20200-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj*1	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • Attach 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ファイルの添付 ・添付ファイルのダウンロード ・添付ファイルの削除 • Forum 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・会議室の作成 ・[会議室編集] 画面の表示 ・会議室情報の編集 ・会議室情報の参照 ・会議室の削除 ・[メール設定編集] 画面の表示 ・メール設定の編集 ・メール設定の参照 ・議事録の作成 • Remark 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・議題の作成

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj※1	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議論状態の変更 ・ 議題または発言の参照 ・ [発言作成] 画面の表示 ・ 発言の作成 ・ 議題または発言の削除 ・ 議題または発言の印刷 ・ 議題および発言の一括表示 ・ 議題または発言をメールで転送
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室の作成 ・ 議題の作成 ・ 発言の作成 ・ ファイルの添付 • Delete 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室の削除 ・ 議題または発言の削除 ・ 添付ファイルの削除 • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ [会議室編集] 画面の表示 ・ 会議室情報の参照 ・ [メール設定編集] 画面の表示 ・ メール設定の参照 ・ 議題または発言の参照 ・ [発言作成] 画面の表示 ・ 議題または発言の印刷 ・ 添付ファイルのダウンロード ・ 議題および発言の一括表示 ・ 議事録の作成 ・ 議題または発言をメールで転送 • Update 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室情報の編集 ・ メール設定の編集 ・ 議論状態の変更
objloc※2	オブジェクトロケーション情報	<p>Forum</p> <p>次のどれかの操作を実行した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 議題の作成 ・ 議論状態の変更 ・ 議題または発言の参照 ・ [発言作成] 画面の表示 ・ 発言の作成

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
objloc ^{*2}	オブジェクトロケーション情報	<ul style="list-style-type: none"> • 議題または発言の削除 • 議題または発言の印刷 • ファイルの添付 • 添付ファイルのダウンロード • 添付ファイルの削除 • 議題および発言の一括表示 • 議題または発言をメールで転送
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：実行した操作

CC...CC：会議室名(会議室 ID)，主題(発言 ID)，添付ファイル名(ファイル ID)^{*3}

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Attach	obj:id=ファイル ID
Forum	obj:id=会議室 ID
Remark	obj:id=発言 ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

「主題(発言 ID)」，または「添付ファイル名(ファイル ID)」は表示されない場合があります。また，会議室名，主題，または添付ファイル名の取得に失敗した場合は，会議室 ID，発言 ID，またはファイル ID だけが表示されます。

出力ポイント

- 会議室の作成
- [会議室編集] 画面の表示
- 会議室情報の編集
- 会議室情報の参照
- 会議室の削除
- [メール設定編集] 画面の表示
- メール設定の編集
- メール設定の参照
- 議題の作成

- 議論状態の変更
- [発言一覧] 画面の表示
- 議題または発言の参照
- [発言作成] 画面の表示
- 発言の作成
- 議題または発言の削除
- 議題または発言の印刷
- ファイルの添付
- 添付ファイルのダウンロード
- 添付ファイルの削除
- 議題および発言の一括表示
- 議事録の作成
- 議題または発言をメールで転送

KDCN20201-E

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20201-E
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザID
obj ^{※1}	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • Attach 次のどちらかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・添付ファイルのダウンロード ・添付ファイルの削除 • Forum 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・[会議室編集] 画面の表示 ・会議室情報の編集 ・会議室情報の参照 ・会議室の削除 ・[メール設定編集] 画面の表示 ・メール設定の編集 ・メール設定の参照 ・議題の作成 ・発言の作成 ・ファイルの添付 ・議事録の作成

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj ^{*1}	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • Remark 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 議論状態の変更 ・ 議題または発言の参照 ・ [発言作成] 画面の表示 ・ 議題または発言の削除 ・ 議題または発言の印刷 ・ 議題および発言の一括表示 ・ 議題または発言をメールで転送
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室の作成 ・ 議題の作成 ・ 発言の作成 ・ ファイルの添付 • Delete 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室の削除 ・ 議題または発言の削除 ・ 添付ファイルの削除 • Refer 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ [会議室編集] 画面の表示 ・ 会議室情報の参照 ・ [メール設定編集] 画面の表示 ・ 議題または発言の参照 ・ [発言作成] 画面の表示 ・ 議題または発言の印刷 ・ 添付ファイルのダウンロード ・ 議題および発言の一括表示 ・ 議事録の作成 ・ 議題または発言をメールで転送 • Update 次のどれかの操作を実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議室情報の編集 ・ メール設定の編集 ・ 議論状態の変更
objloc ^{*2}	オブジェクトロケーション情報	<p>Forum</p> <p>次のどれかの操作を実行した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> • 議論状態の変更 • 議題または発言の参照 • [発言作成] 画面の表示 • 議題または発言の削除 • 議題または発言の印刷

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
objloc ^{※2}	オブジェクトロケーション情報	<ul style="list-style-type: none"> 添付ファイルのダウンロード 添付ファイルの削除 議題および発言の一括表示 議題または発言をメールで転送
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)が BB...BB(CC...CC)。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：実行した操作

CC...CC：会議室名(会議室 ID)，主題(発言 ID)，添付ファイル名(ファイル ID)^{※3}

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Attach	obj:id=ファイル ID
Forum	obj:id=会議室 ID
Remark	obj:id=発言 ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室の作成に失敗した場合は「なし」と表示されます。また、「主題(発言 ID)」，または「添付ファイル名(ファイル ID)」は表示されない場合があります。

会議室名，主題，または添付ファイル名の取得に失敗した場合は，会議室 ID，発言 ID，またはファイル ID だけが表示されます。

出力ポイント

- 会議室の作成
- [会議室編集] 画面の表示
- 会議室情報の編集
- 会議室情報の参照
- 会議室の削除
- [メール設定編集] 画面の表示
- メール設定の編集
- メール設定の参照
- 議題の作成
- 議論状態の変更
- [発言一覧] 画面の表示

- 議題または発言の参照
- [発言作成] 画面の表示
- 発言の作成
- 議題または発言の削除
- 議題または発言の印刷
- ファイルの添付
- 添付ファイルのダウンロード
- 添付ファイルの削除
- 議題および発言の一括表示
- 議事録の作成
- 議題または発言をメールで転送

KDCN20202-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20202-I
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add コミュニティを作成した場合 • Update コミュニティを削除した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がコミュニティマネージャで BB...BB ため、システムが CC...CC。(成功)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：[コミュニティ管理] ポートレットで実行した操作

CC...CC：システムの動作の詳細

出力ポイント

- コミュニティの作成（コミュニティの作成に伴うコミュニティに属する会議室の作成）
- コミュニティの削除（コミュニティの削除に伴う会議室情報の変更）

KDCN20203-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20203-E
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add コミュニティを作成した場合 • Update コミュニティを削除した場合
msg	自由記述	ユーザ(AA...AA)がコミュニティマネージャで BB...BB ため、システムが CC...CC。(失敗)

(凡例)

AA...AA：ユーザ ID

BB...BB：[コミュニティ管理] ポートレットで実行した操作

CC...CC：システムの動作の詳細

出力ポイント

- コミュニティの作成 (コミュニティの作成に伴うコミュニティに属する会議室の作成)
- コミュニティの削除 (コミュニティの削除に伴う会議室情報の変更)

KDCN20300-W

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20300-W
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AnomalyEvent
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:uid	サブジェクト識別情報	ユーザ ID
op	動作情報	Occur

出力ポイント

不正なパラメタの入力

KDCN20400-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20400-E
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj:file	オブジェクト情報	プロパティファイル名
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

KDCN20401-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN20401-E
compid	コンポーネント名	Forum_Portlet
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj:param	オブジェクト情報	プロパティキー名
op	動作情報	Occur
objloc:file	オブジェクトロケーション情報	プロパティファイル名
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)のキー(CC...CC)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

CC...CC：プロパティキー名

出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

KDCN30000-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30000-I
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	StartStop
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	コマンド名
op	動作情報	Start
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB をオプション CC...CC で開始しました。

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンド名

CC...CC：オプション名

コマンド

- frmappedel
- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmddel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frminfomail
- frmopnmail
- frmopnregist
- frmquedel
- frmqueview
- frmreopn
- frmrest
- frmrev

- frmsetchstatinfo
- frmsetopninfo
- frmsetresperiodinfo
- frmsrch
- frmsys

出力ポイント

コマンドの開始

KDCN30001-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30001-I
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種類	StartStop
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	コマンド名
op	動作情報	Stop
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB を戻り値 CC...CC で終了しました。

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンド名

CC...CC：コマンドの戻り値

コマンド

- frmappedel
- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmdel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frminfomail
- frmopnmail
- frmopnregist

- frmquedel
- frmqueview
- frmreopn
- frmrest
- frmrev
- frmsetchstatinfo
- frmsetopninfo
- frmsetresperiodinfo
- frmsrch
- frmsys

出力ポイント

コマンドの終了

KDCN30100-I

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30100-I
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	接続ユーザ名
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • DB 次のどれかのコマンドを実行した (HiRDB に接続した) 場合 <ul style="list-style-type: none"> • frmappeddel • frmarch • frmchown • frmchstat • frmdel • frmexpopn • frmext • frmimpopn • frminfomail • frmopnmail • frmopnregist • frmquedel • frmqueview • frmreopn • frmrest • frmrev • frmsetchstatinfo

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ frmsetopninfo ・ frmsetresperiodinfo ・ frmsrch ・ frmsys • Mail frmopnregist コマンドを実行した（メールサーバに接続した）場合
op	動作情報	Enforce
to:host*	リクエスト送信先ホスト	接続先ホスト名
to:port*	リクエスト送信先ポート番号	接続先ポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB サーバに接続しました (CC...CC)。 (成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：DB または Mail

CC...CC：接続先情報

注※

メールサーバに接続した（frmopnregist コマンドを実行した）場合だけ表示されます。

コマンド

- frmappedel
- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmddel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frminfomail
- frmopnmail
- frmopnregist
- frmquedel
- frmqueview
- frmreopn
- frmrest
- frmrev
- frmsetchstatinfo
- frmsetopninfo

- frmsetresperiodinfo
- frmsrch
- frmsys

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30101-E

メッセージの内容		
出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30101-E
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Authentication
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	接続ユーザ名
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • DB 次のどれかのコマンドを実行した (HiRDB に接続した) 場合 <ul style="list-style-type: none"> • frmappedel • frmarch • frmchown • frmchstat • frmdel • frmexpopn • frmext • frmimpopn • frminfomail • frmopnmail • frmopnregist • frmquedel • frmqueview • frmreopn • frmrest • frmrev • frmsetchstatinfo • frmsetopninfo • frmsetresperiodinfo • frmsrch • frmsys • Mail frmopnregist コマンドを実行した (メールサーバに接続した) 場合
op	動作情報	Enforce

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
to:host*	リクエスト送信先ホスト	接続先ホスト名
to:port*	リクエスト送信先ポート番号	接続先ポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB サーバに接続しました (CC...CC)。 (失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：DB または Mail

CC...CC：接続先情報

注※

メールサーバに接続した (frmopnregist コマンドを実行した) 場合だけ表示されます。

コマンド

- frmappedel
- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmdel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frminfomail
- frmopnmail
- frmopnregist
- frmquedel
- frmqueview
- frmreopn
- frmrest
- frmrev
- frmsetchstatinfo
- frmsetopninfo
- frmsetresperiodinfo
- frmsrch
- frmsys

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30200-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30200-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmsys
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が構成情報を参照しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

コマンド

frmsys (-f オプション指定なし)

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30201-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30201-E
compid	コンポーネント名	Forum_frmsys
ctgry	監査事象の種類	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
op	動作情報	Refer
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が構成情報を参照しました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

コマンド

frmsys (-f オプション指定なし)

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30202-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30202-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmsys
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	プロパティキー名
op	動作情報	Update
after	変更後情報	変更後のプロパティキーの設定値
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が構成情報(BB...BB)を更新しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティキー名

コマンド

frmsys (-f オプション指定あり)

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30203-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30203-E
compid	コンポーネント名	Forum_frmsys
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	プロパティキー名
op	動作情報	Update
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が構成情報(BB...BB)を更新しました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティキー名

コマンド

frmsys (-f オプション指定あり)

出力ポイント
コマンドの実行

KDCN30204-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30204-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmrest
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj ^{※1}	オブジェクト情報	User
op	動作情報	Add
objloc ^{※2}	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照し てください。
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がメンバ(BB...BB)を追加しま した(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：ユーザ ID

CC...CC：会議室名（会議室 ID）^{※3}

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
User	obj:id=ユーザ ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

コマンド

frmrest

出力ポイント

コマンドの実行（個人会議室にリストア）

KDCN30205-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30205-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmrest
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj*1	オブジェクト情報	Role
op	動作情報	Add
objloc*2	オブジェクトロケーション情報	Forum
after	変更後情報	変更後のアクセス権に対応する数値 アクセス権に対応する数値については、「付録 N Collaboration - Forum のアクセス権」を参照して ください。
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が役割(BB...BB)を追加しまし た(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：役割 ID

CC...CC：会議室名（会議室 ID）※3

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Role	obj:id=役割 ID

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

コマンド

frmrest

出力ポイント

コマンドの実行 (コミュニティ会議室にリストア)

KDCN30206-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30206-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmchown
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj※1	オブジェクト情報	Forum
op	動作情報	Update
after	変更後情報	変更後の所有者のユーザ ID
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が会議室所有者を変更しました(BB...BB)。 (成功)

(凡例)

AA...AA : プロセス ID

BB...BB : 会議室名 (会議室 ID) ※2

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID

注※2

会議室名の取得に失敗した場合は、会議室 ID だけが表示されます。

コマンド

frmchown

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30207-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30207-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmexpopn

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	Permission
op	動作情報	Refer
objloc*	オブジェクトロケーション情報	Forum
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が会議室のアクセス権を参照しました。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

注※

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

コマンド

frmexpopn

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30208-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30208-E
compid	コンポーネント名	Forum_frmexpopn
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	Permission
op	動作情報	Refer
objloc*	オブジェクトロケーション情報	Forum
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が会議室のアクセス権を参照しました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

注※

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

コマンド

frmexpopn

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30300-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30300-I
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種類	ExternalService
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj※1	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> Remark frmopnmail コマンドを実行した場合 メッセージ種別 frminfomail コマンドを実行した場合
op	動作情報	Send
objloc※2	オブジェクトロケーション情報	Forum
to:host	リクエスト送信先ホスト	接続先ホスト名
to:port	リクエスト送信先ポート番号	接続先ポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がメールを送信しました (BB...BB)。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：次のどちらかが表示されます。

- ・会議室名 (会議室 ID), 主題(発言 ID)※3
- ・メッセージ種別

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Remark	obj:id=発言 ID

注※2

オブジェクトロケーション情報は frmopnmail コマンドを実行した場合だけ出力されます。
 また、オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名、または主題の取得に失敗した場合は、会議室 ID、または発言 ID だけが表示されます。

コマンド

- frminfomail
- frmopnmail

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30301-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30301-E
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	ExternalService
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj*1	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • Remark frmopnmail コマンドを実行した場合 • メッセージ種別 frminfomail コマンドを実行した場合
op	動作情報	Send
objloc*2	オブジェクトロケーション情報	Forum
to:host	リクエスト送信先ホスト	接続先ホスト名
to:port	リクエスト送信先ポート番号	接続先ポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がメールを送信しました (BB...BB)。 (失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：次のどちらかが表示されます。

- ・会議室名（会議室 ID）、主題(発言 ID)^{※3}
- ・メッセージ種別

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Remark	obj:id=発言 ID

注※2

オブジェクトロケーション情報は frmopnmail コマンドを実行した場合だけ出力されます。

また、オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:id=会議室 ID

注※3

会議室名、または主題の取得に失敗した場合は、会議室 ID、または発言 ID だけが表示されます。

コマンド

- ・ frminfomail
- ・ frmopnmail

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30302-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30302-I
compid	コンポーネント名	Forum_frmopnregist
ctgry	監査事象の種別	ExternalService
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	接続ユーザ名
obj [※]	オブジェクト情報	Message
op	動作情報	Receive
to:host	リクエスト送信先ホスト	接続先ホスト名
to:port	リクエスト送信先ポート番号	接続先ポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がメールを受信しました(BB...BB)。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：メッセージ ID

注※

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Message	obj:id=メッセージ ID

コマンド

frmopnregist

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30303-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30303-E
compid	コンポーネント名	Forum_frmopnregist
ctgry	監査事象の種類	ExternalService
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	接続ユーザ名
op	動作情報	Receive
to:host	リクエスト送信先ホスト	接続先ホスト名
to:port	リクエスト送信先ポート番号	接続先ポート番号
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がメールを受信しました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

コマンド

frmopnregist

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30400-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30400-I

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj ^{※1}	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • Forum 次のどれかのコマンドを実行した場合 • frmarch • frmchown • frmchstat • frmdel • frmexpopn • frmext • frmimpopn • frmreopn • frmrest • frmrev • frmsrch • Remark 次のどれかのコマンドを実行した場合 • frmexpopn • frmimpopn • frmopnregist • Attach frmexpopn コマンド, または frmimpopn コマンドを実行した場合 • Permission frmexpopn コマンドを実行した場合 • Attribute frmexpopn コマンドを実行した場合 • Importance frmexpopn コマンドを実行した場合 • State frmexpopn コマンドを実行した場合
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどれかのコマンドを実行した場合 • frmimpopn • frmopnregist • frmrest • Delete frmdel コマンドを実行した場合 • Refer 次のどれかのコマンドを実行した場合

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ frmexpopn ・ frmimpopn ・ frmsrch • Update 次のどれかのコマンドを実行した場合 ・ frmarch ・ frmchown ・ frmchstat ・ frmext ・ frmreopn ・ frmrev
objloc ^{*2}	オブジェクトロケーション情報	Forum
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB(CC...CC)。(成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンドの実行結果の詳細

CC...CC：会議室名(会議室 ID)，主題(発言 ID)^{*3}，添付ファイル名(添付ファイル ID)^{*4}

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID
Remark	obj:id=発言 ID
Attach	obj:id=ファイル ID
Permission	なし
Attribute	なし
Importance	なし
State	なし

frmimpopn コマンドまたは frmexpopn コマンドの場合、指定するオプションによって、出力されるオブジェクト情報は次のように異なります。

コマンド	オプション	オブジェクト情報						
		Forum	Remark	Attach	Permission	Attribute	Importance	State
frmimpopn (発言のインポート)	条件なし	○	○	○	—	—	—	—
frmexpopn (発言のエクスポート)	-list 指定あり	○	—	—	—	—	—	—
	forum							
	permission	—	—	—	○	—	—	—

コマンド	オプション		オブジェクト情報						
			Forum	Remark	Attach	Permission	Attribute	Importance	State
frmexpopn (発言のエクスポート)	-list 指定あり	opinion	○	○	-	-	-	-	-
		attribute	-	-	-	-	○	-	-
		importance	-	-	-	-	-	○	-
		state	-	-	-	-	-	-	○
	-list 指定なし		○	○	○	-	-	-	-

(凡例)

- ：出力される
- ：出力されない

注※2

オブジェクトロケーション情報は frmexpopn コマンド、frmimpopn コマンドまたは frmopnregist コマンドを実行した場合だけ表示されます。

また、オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	<ul style="list-style-type: none"> • オブジェクト情報が Attach の場合 objloc:fid=会議室 ID, objloc:nid=発言 ID • オブジェクト情報が Attach 以外の場合 objloc:id=会議室 ID

注※3

「主題 (発言 ID)」は frmopnregist コマンドを実行した場合だけ表示されます。

注※4

会議室名、主題または添付ファイル名の取得に失敗した場合は、(会議室 ID)、(発言 ID)または(添付ファイル ID)の部分だけが表示されます。

コマンド

- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmdel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frmopnregist
- frmreopn
- frmrest

- frmrev
- frmsrch

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30401-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30401-E
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj*1	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> • Forum 次のどれかのコマンドを実行した場合 • frmarch • frmchown • frmchstat • frmdbl • frmexpopn • frmext • frmimpopn • frmreopn • frmrev • frmsrch (-fid オプションを指定) • Remark frmexpopn コマンド, または frmimpopn コマンドを実行した場合 • Attach frmexpopn コマンド, または frmimpopn コマンドを実行した場合 • Permission frmexpopn コマンドを実行した場合 • Attribute frmexpopn コマンドを実行した場合 • Importance frmexpopn コマンドを実行した場合 • State frmexpopn コマンドを実行した場合 • Message frmopnregist コマンドを実行した場合

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> • Add 次のどれかのコマンドを実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ frmimpopn ・ frmopnregist ・ frmrest • Delete frmdel コマンドを実行した場合 • Refer 次のどれかのコマンドを実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ frmexpopn ・ frmimpopn ・ frmsrch • Update 次のどれかのコマンドを実行した場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ frmarch ・ frmchown ・ frmchstat ・ frmext ・ frmreopn ・ frmrev
objloc ^{*2}	オブジェクトロケーション情報	Forum
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が BB...BB(CC...CC)。 (失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：コマンドの実行結果の詳細

CC...CC：会議室名(会議室 ID)、メッセージ ID、主題(発言 ID)、または添付ファイル名(添付ファイル ID)^{*3}

注※1

オブジェクト情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクト情報	詳細情報
Forum	obj:id=会議室 ID
Message	obj:id=メッセージ ID
Attach	obj:id=ファイル ID
上記以外	なし

注※2

オブジェクトロケーション情報には詳細情報が出力されます。出力される詳細情報を次に示します。

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	<ul style="list-style-type: none"> • オブジェクト情報が Attach の場合

オブジェクトロケーション情報	詳細情報
Forum	objloc:fid=会議室 ID, objloc:nid=発言 ID • オブジェクト情報が Attach 以外の場合 objloc:id=会議室 ID

注※3

次の場合は「なし」と表示されます。

- frmrest コマンドの実行に失敗した場合
 - -fname オプションを指定して frmsrch コマンドを実行した場合の検索結果が 0 件だった場合
 - -fenname オプションを指定して frmsrch コマンドを実行した場合の検索結果が 0 件だった場合
- また、会議室名、主題または添付ファイル名の取得に失敗した場合は、(会議室 ID)、(発言 ID)または(ファイル ID)の部分だけが表示されます。

コマンド

- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmdel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frmopnregist
- frmreopn
- frmrest
- frmrev
- frmsrch

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30500-W

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30500-W
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	AnomalyEvent
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
op	動作情報	Occur

コマンド

- frmappeddel
- frmarch
- frmchown
- frmchstat
- frmdel
- frmexpopn
- frmext
- frmimpopn
- frminfomail
- frmopnmail
- frmopnregist
- frmquedel
- frmqueview
- frmreopn
- frmrest
- frmrev
- frmsetchstatinfo
- frmsetopninfo
- frmsetresperiodinfo
- frmsrch
- frmsys

出力ポイント

不正なオプションの指定

KDCN30600-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30600-E
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj:file	オブジェクト情報	プロパティファイル名
op	動作情報	Occur

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

KDCN30601-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCN30601-E
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj:param	オブジェクト情報	プロパティキー名
op	動作情報	Occur
objloc:file	オブジェクトロケーション情報	プロパティファイル名
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)がプロパティファイル(BB...BB)のキー(CC...CC)を読み込みました。(失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：プロパティファイル名

CC...CC：プロパティキー名

出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

KDCN30700-I

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCB30700-I
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	AccessControl

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Success
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	Forum
op	動作情報	Enforce
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が会議室にアクセスしました((BB...BB))。 (成功)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：会議室名(会議室 ID)

コマンド

frmimpopn

出力ポイント

コマンドの実行

KDCN30701-E

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCB30701-E
compid	コンポーネント名	Forum_コマンド名
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Failure
subj:pid	サブジェクト識別情報	プロセス ID
obj	オブジェクト情報	Forum
op	動作情報	Enforce
msg	自由記述	プロセス(AA...AA)が会議室にアクセスしました((BB...BB))。 (失敗)

(凡例)

AA...AA：プロセス ID

BB...BB：会議室名(会議室 ID)

コマンド

frmimpopn

出力ポイント

コマンドの実行

付録 N Collaboration - Forum のアクセス権

Collaboration - Forum では、メンバのアクセス権を各アクセス権に対応する値の論理和で管理しています。Collaboration - Forum のアクセス権と、各アクセス権に対応する数値を次の表に示します。

表 N-1 アクセス権に対応する数値

項番	アクセス権	値
1	会議室作成	1
2	会議室削除	2
3	会議室開催	4
4	会議室閉鎖	8
5	会議室編集	16
6	議題作成	32
7	発言作成	64
8	発言参照	128
9	発言削除	256
10	議題完了	512

Collaboration - Forum のアクセス権の詳細は、マニュアル「Collaboration - Forum ユーザーズガイド」を参照してください。

付録 O このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 O.1 関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

- Collaboration がどのようなものか、イメージをつかみたいときに

Collaboration
ファーストステップガイド

- 機能概要や操作方法を知りたいときに

Collaboration
ユーザーズガイド

Collaboration -
Online Community Management
ユーザーズガイド

Collaboration -
Directory Access
ユーザーズガイド

Collaboration - Mail
ユーザーズガイド

Collaboration - Schedule
ユーザーズガイド

Collaboration - Forum
ユーザーズガイド

Collaboration -
File Sharing
ユーザーズガイド

Collaboration -
Bulletin board
ユーザーズガイド

- システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration
導入ガイド

- システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration
移行ガイド

Collaboration -
Online Community Management
システム管理者ガイド

Collaboration -
Directory Access
システム管理者ガイド

Collaboration - Mail
システム管理者ガイド

Collaboration - Schedule
システム管理者ガイド

Collaboration - Forum
システム管理者ガイド

Collaboration -
File Sharing
システム管理者ガイド

Collaboration -
File Sharing
メッセージ

Collaboration -
Bulletin board
システム管理者ガイド

(凡例)

■ : Collaboration 共通、または Collaboration 全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

□ : Collaboration のコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration のマニュアルおよびその他の関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- Collaboration ファーストステップガイド (3020-3-H02)
Collaboration 製品を初めてお使いいただく方のためのご紹介マニュアルです。Collaboration でできることや、ポートレットの基本的な使用方法について説明しています。
- Collaboration ユーザーズガイド (3020-3-H22)

Collaboration の概要、ログイン・ログアウトおよび画面のレイアウト変更の操作方法について説明しています。

また、トップメニュー、ナビゲーションビュー、[新着情報] ポートレット、[リンク集] ポートレットの機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)**

Collaboration 製品を導入するための、システム構築、環境設定、および運用方法について説明しています。

- **Collaboration 移行ガイド (3020-3-H44)**

Collaboration のシステムの移行方法について説明しています。

エンドユーザ向けマニュアル

- **Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド (3020-3-H04)**

コミュニティ管理の機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド (3020-3-H06)**

ユーザ検索の機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration - Mail ユーザーズガイド (3020-3-H08)**

メールの機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration - Schedule ユーザーズガイド (3020-3-H10)**

スケジュールの機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration - Forum ユーザーズガイド (3020-3-H12)**

電子会議室の機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド (3020-3-H15)**

ファイル共有の機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration - Bulletin board ユーザーズガイド (3020-3-H24)**

電子掲示板の機能および操作方法について説明しています。

システム管理者向けマニュアル

- **Collaboration - Online Community Management システム管理者ガイド (3020-3-H03)**

コミュニティ管理を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- **Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド (3020-3-H05)**

ユーザ検索を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- **Collaboration - Mail システム管理者ガイド (3020-3-H07)**

メールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- **Collaboration - Schedule システム管理者ガイド (3020-3-H09)**

スケジュールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- **Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)**

ファイル共有を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- **Collaboration - File Sharing メッセージ (3020-3-H14)**

ファイル共有のメッセージの形式、メッセージおよび対処方法について説明しています。

- **Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド (3020-3-H23)**

電子掲示板を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

その他のマニュアル

- **uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド (3020-3-H71)**
uCosminexus Portal Framework の機能およびポータルの構築方法について説明しています。
- **uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド (3020-3-H72)**
ポータルの運用方法について説明しています。
- **uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド (3020-3-H73)**
ポートレットの開発方法および開発時に使用する API について説明しています。
- **uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド (3020-3-H90)**
uCosminexus Enterprise Search の環境設定の方法について説明しています。
- **uCosminexus Enterprise Search 運用ガイド (3020-3-H91)**
uCosminexus Enterprise Search の運用方法について説明しています。
- **uCosminexus Enterprise Search ユーザーズガイド (3020-3-H92)**
uCosminexus Enterprise Search の使用方法について説明しています。
- **uCosminexus Enterprise Search メッセージ (3020-3-H93)**
uCosminexus Enterprise Search のメッセージについて説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド (3020-3-Y02)**
セットアップウィザードおよび Smart Composer 機能を使用して、システムを構築・運用する手順について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ アプリケーション設定操作ガイド (3020-3-Y13)**
サーバ管理コマンドまたは Server Plug-in を使用して Cosminexus のアプリケーションサーバを構築する際に必要な、サーバ管理コマンドの操作方法および Server Plug-in の画面の詳細について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義) (3020-3-Y16)**
Cosminexus のアプリケーションサーバの構築・運用、およびアプリケーション開発で使用するファイルの形式や定義方法について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引 (3020-3-Y25)**
Cosminexus が提供する機能を利用して、SOAP アプリケーションを開発、実行する方法について説明しています。
- **Cosminexus V9 アプリケーションサーバ Web サービス開発ガイド (3020-3-Y23)**
Cosminexus が提供する Web サービスセキュリティ機能について説明しています。
- **DABroker for Java™ Version 2 DABroker Driver for Java™ Technology (3020-6-056)**
DABroker Driver for Java™ Technology の使用方法について説明しています。
- **Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編 (3000-3-A80)**
Groupmax Address/Mail Version 7 システム管理者ガイド 基本操作編 (3020-3-D10)
Groupmax Address Server Version 7 および Groupmax Mail Server Version 7 の機能ならびに使用方法について説明しています。
- **ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム導入・設計ガイド (Windows(R)用) (3020-6-452)**
スケラブルデータベースサーバ HiRDB のシステムの構築方法、データベースの作成方法、およびシステムとデータベースの設計方法について説明しています。
- **ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用) (3020-6-453)**

スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のシステム定義について説明しています。

- ノンストップデータベース HiRDB Version 9 システム運用ガイド (Windows(R)用) (3020-6-454)
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のシステム運用方法について説明しています。
- ノンストップデータベース HiRDB Version 9 コマンドリファレンス(Windows(R)用) (3020-6-455)
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のコマンドについて説明しています。
- ノンストップデータベース HiRDB Version 9 UAP 開発ガイド (3020-6-456)
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のデータベース言語である SQL を使用して、ユーザアプリケーションプログラムを開発するための基礎技術, および HiRDB クライアントの環境設定について説明しています。
- ノンストップデータベース HiRDB Version 9 SQL リファレンス (3020-6-457)
スケーラブルデータベースサーバ HiRDB のデータベース操作に使用する, SQL の文法について説明しています。
- HiRDB 全文検索プラグイン HiRDB Text Search Plug-in Version 9 (3020-6-480)
HiRDB Text Search Plug-in のシステム構築, 環境設定および運用方法について説明しています。
- HiRDB Text Search Plug-in Index Generator (3000-6-289)
HiRDB Text Search Plug-in Index Generator の機能および利用方法について説明しています。
- Document Filter for Text Search Version 3 (3020-3-D59)
Document Filter for Text Search の機能, 環境設定方法および使用方法について説明しています。

付録 O.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
Collaboration - Forum 01-10	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-10 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-10
Collaboration - Forum 01-20	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-20 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-20
Collaboration - Forum 01-30	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-30 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-30
Collaboration - Forum 01-32	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-32 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-32

表記	製品名
Collaboration - Forum 01-35	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-35 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-35
Collaboration - Forum 01-36	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-36 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-36
Collaboration - Forum 01-50	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-50, 07-51, および 07-52 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-50 および 07-52
Collaboration - Forum 01-81	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-72 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-72
Collaboration - Forum 01-82	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-82 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-82
Collaboration - Forum 01-83	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-83 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-83
Collaboration - Forum 01-84	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-84 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-84
Collaboration - Forum 01-90	次の製品の電子会議室機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-91 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91
Collaboration - Bulletin board 01-84	次の製品の電子掲示板機能 <ul style="list-style-type: none"> • Groupmax Collaboration Portal 07-84 • Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-84 • Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-84
Collaboration - Bulletin board 01-90	次の製品の電子掲示板機能

表記	製品名
Collaboration - Bulletin board 01-90	<ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-91
Collaboration - Mail 01-82	<p>次の製品のメール機能および宛先台帳機能</p> <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82, 07-83, および 07-84 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-82, 07-83, および 07-84
Collaboration - Mail 01-91	<p>次の製品のメール機能および宛先台帳機能</p> <ul style="list-style-type: none"> Groupmax Collaboration Portal 07-82, 07-83, 07-84 および 07-91 Groupmax Collaboration Web Client - Mail/Schedule 07-82, 07-83, 07-84 および 07-91
J2EE	J2EE(TM)
JDBC	JDBC(TM)

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Collaboration - Forum 01-90 のことを Collaboration - Forum と表記しています。

付録 O.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Program Interface
BLOB	Binary Large Object
BOM	Byte Order Mark
CLOB	Character Large Object
EAR	Enterprise ARchive
HTML	Hypertext Markup Language
HTTP	Hypertext Transfer Protocol
JAAS	Java™ Authentication and Authorization Service
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LOB	Large Object
MIME	Multipurpose Internet Mail Extensions
OS	Operating System

英略語	英字での表記
PC	Personal Computer
RAS	Reliability, Availability, Serviceability
SGML	Standard Generalized Markup Language
SMTP	Simple Mail Transfer Protocol
SOAP	Simple Object Access Protocol
URL	Uniform Resource Locator
WOW64	Windows On Windows 64
WWW	World Wide Web

付録 O.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ $1,024$ バイト, $1,024^2$ バイト, $1,024^3$ バイト, $1,024^4$ バイトです。

付録 P 用語解説

(英字)

UTF-8 (8-bit UCS Transformation Format)

Unicode で定義される文字集合を用いて記述された文字列を、バイト列 (数値の列) に変換する方式の一つです。

(ア行)

アーカイブ

複数のデータを一つにまとめ、保管することです。

お知らせメール

情報や状況の変化およびエラーを通知するメールのことです。

お知らせメールは、Collaboration - Forum からユーザに配信されます。

(カ行)

会議室所有者

会議室の管理者のことです。

会議室作成時の会議室所有者は会議室作成者です。

監査ログ

監査ログとは、ユーザが [電子会議室] ポートレットに対して実行した操作、およびコマンドの実行履歴のことです。監査ログはファイルに出力されます。監査者が監査ログを調査することで、「いつ」「だれが」「何をしたか」を知ることができます。

兼任

一人のユーザが複数の組織に所属したり、役職に就いたりすることです。

本来所属している組織のユーザを「主体ユーザ」と呼びます。

それ以外の組織に所属しているユーザを「兼任ユーザ」と呼びます。

兼任機能

主体ユーザと兼任ユーザを関連づけて、一人のユーザと見なす機能です。

(ハ行)

パーソナライズ情報

Collaboration のポータル画面のレイアウトや設定内容など、ユーザがカスタマイズした情報です。

(ラ行)

リストア

バックアップしたデータを、元の場所に戻すことです。

索引

数字

1 度のトランザクション中に削除できる最大既読レコード数 39

A

API 取得処理リトライ実行回数 [メッセージキュー] 51

API 取得処理リトライ実行感覚 [メッセージキュー] 51

C

Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定する言語 278

Collaboration - Forum 01-90 に移行する場合の注意事項 259

Collaboration - Forum とは 2

Collaboration - Forum のアクセス権 384

Collaboration - Forum のインストール 7

Collaboration - Forum のインストールと運用ディレクトリの設定 263

Collaboration - Forum の運用 65

Collaboration - Forum の概要 1

Collaboration - Forum の環境設定 5

Collaboration - Forum の環境設定の流れ 6

Collaboration - Forum の監査ログ 300

Collaboration - Forum の言語コード情報 41

Collaboration - Forum のコマンド 99

Collaboration - Forum のコマンド実行時に出力されるメッセージ 309

Collaboration - Forum の障害対策 151

Collaboration - Forum のセットアップ 8

Collaboration - Forum を利用できる Web ブラウザ 4

Cosminexus DABroker Library の設定 18

Cosminexus DABroker Library の設定項目 18

D

dab_buffsize 50

DABroker のデータ受信バッファサイズ 50

db_retryintervaltime 50

db_retrynum 50

db_type 50

DB Connector の設定 [アプリケーションサーバの設定] 18

DB Connector の設定 [ほかのコンポーネントと接続を共有する場合の設定] 63

def_aldycol 57

def_aldycoldgt 59

def_apdcol 56

def_apdcoldgt 59

def_attrcol 56

def_attrcoldgt 60

def_autocrtfstate 49

def_charactercount 54

def_crecol 56

def_crecoldgt 60

def_datedisp 55

def_datedispdgt 58

def_denialpersonalroom 50

def_discussionnum 54

def_discussionnumdgt 57

def_displaymailsetting 52

def_distributemail 52

def_executenotification 53

def_filter 53

def_headerdisp 55

def_headerdispdgt 58

def_impcol 57

def_impcoldgt 60

def_infomailretryinterval 52

def_infomailretrynumber 52

def_mailaddmembers 51

def_mqapiinterval 51

def_mqapiretry 51

def_mqmaxnumber 51

def_mqmessagingnumber 51

def_mqretryborder 51

def_mqretrygetinterval 52

def_mqretrygetnumber 52

def_mqwarningborder 51

def_nestedmimepartnum 50

def_newperiod 53

def_newperiodinfoview 60

def_opiniondragdrop 53

def_opnidcol 57

def_opnidcoldgt 60

def_orgdisp 55

def_orgdispdgt 58

def_postdisp 55
 def_postdispdgt 58
 def_previewdisp 55
 def_previewdispdgt 58
 def_printreturnnum 54
 def_printreturnright 54
 def_printreturnrighttab 54
 def_replierinchargecol 56
 def_replierinchargecoldgt 59
 def_replycol 57
 def_replycoldgt 59
 def_returnright 53
 def_returnrighttab 53
 def_roomcol 56
 def_roomcoldgt 59
 def_roompreparation 48
 def_roomtreedispl 55
 def_roomtreedispdgt 58
 def_statecoldgt 60
 def_subjectcol 56
 def_subjectcoldgt 59
 def_subjectnum 54
 def_subjectnumdgt 57
 def_templatecontentssize 51
 def_treenum 54
 def_treenumdgt 58
 def_usercol 56
 def_usercoldgt 59
 def_validitycol 57
 def_validitycoldgt 60
 def_yetterminfoview 61

E

E-mail アドレス [From に設定] 44
 E-mail アドレス [投稿メールの受信] 45
 E-mail アドレスの設定 [メール送信者] 17

F

frmapddel 102
 frmapddel [運用] 83
 frmarch 103
 frmarch [運用] 81
 frmchown 105
 frmchown [運用] 88
 frmchstat 106
 frmchstat [運用] 75
 frmcmdsetup 108
 frmddel 109

frmddel [運用] 82
 frmexpopn 110
 frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で使用するファイル 283
 frmexpopn [運用] 89
 frmext 116
 frmext [運用] 87
 frmimpopn 119
 frmimpopn コマンド (発言のインポート) で使用するファイル 283
 frmimpopn コマンド (発言のインポート)・
 frmexpopn コマンド (発言のエクスポート) で使用するファイル 283
 frmimpopn [運用] 89
 frminfomail 122
 frminfomail [運用] 71
 frmopnmail 123
 frmopnmail コマンド (メール配信) で送信する発言
 件数 49
 frmopnmail コマンド (メール配信) の同時実行スレ
 ッド数 50
 frmopnmail [運用] 68
 frmopnregist 124
 frmopnregist [運用] 69
 frmquedel 126
 frmquedel [運用] 97
 frmqueview 127
 frmqueview [運用] 96
 frmreopn 129
 frmreopn [運用] 80
 frmrest 132
 frmrest [運用] 84
 frmrev 134
 frmrev [運用] 85
 frmsetchstatinfo 137
 frmsetchstatinfo [運用] 73
 frmsetopninfo 141
 frmsetopninfo [運用] 72
 frmsetresperiodinfo 142
 frmsetresperiodinfo [運用] 74
 frmsrch 144
 frmsrch [運用] 86
 frmsys 148
 frmsys [運用] 90
 From に設定する E-mail アドレス 44

G

Groupmax Mail Server 環境テンプレートファイル
 の設定 17

H

HiRDB Text Search Plug-in の設定 15
 HiRDB クライアント環境変数登録ツールを使用して登録する項目 9

hptl_clb_cfr_adm_lang 41
 hptl_clb_cfr_all_del_aldyread_max_num 39
 hptl_clb_cfr_console_encodelang1 43
 hptl_clb_cfr_console_encodelang2 43
 hptl_clb_cfr_db_character_encoding 39
 hptl_clb_cfr_db_driver 38
 hptl_clb_cfr_db_password 39
 hptl_clb_cfr_db_schema 38
 hptl_clb_cfr_db_shift_0130.bat 276
 hptl_clb_cfr_db_url 38
 hptl_clb_cfr_db_username 39
 hptl_clb_cfr_i18n_supports 41
 hptl_clb_cfr_log_encoding 38
 hptl_clb_cfr_log_file_num 37
 hptl_clb_cfr_log_file_path 36
 hptl_clb_cfr_log_file_size 37
 hptl_clb_cfr_log_level 37
 hptl_clb_cfr_mail_address 42
 hptl_clb_cfr_mail_charset_XX 42
 hptl_clb_cfr_mail_frmopnregist_set 44
 hptl_clb_cfr_mail_from_address 44
 hptl_clb_cfr_mail_maxuser 42
 hptl_clb_cfr_mail_opnregist_address_n 45
 hptl_clb_cfr_mail_port 42
 hptl_clb_cfr_mail_smtp_connectiontimeout 42
 hptl_clb_cfr_mail_smtp_timeout 43
 hptl_clb_cfr_mail_to 43
 hptl_clb_cfr_notice_period_after_response_period 44
 hptl_clb_cfr_notice_period_effectiveend 43
 hptl_clb_cfr_notice_period_referenceend 44
 hptl_clb_cfr_opinion_identifier_max_num 48
 hptl_clb_cfr_opinion_max_num 48
 hptl_clb_cfr_opinion_message_count 48
 hptl_clb_cfr_opnregist_check_messageid_maxlen 47
 hptl_clb_cfr_opnregist_max_thread_to_receive_mail 46
 hptl_clb_cfr_opnregist_measure_nested_mimepart_number 46
 hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_address 45
 hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_connection_number 45
 hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_password_n 45
 hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_port 45

hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_receive_number 45
 hptl_clb_cfr_opnregist_pop3_username_n 45
 hptl_clb_cfr_opnregist_send_error_mail 46
 hptl_clb_cfr_opnregist_send_mail_messaging_exception 46
 hptl_clb_cfr_opnregist_send_nested_mimepart_number 47
 hptl_clb_cfr_opnregist_trace_mail_header 46
 hptl_clb_cfr_shift0103_after_convert_string 47
 hptl_clb_cfr_shift0103_before_convert_string 47
 hptl_clb_cfr_timezone 42
 hptl_clb_cfr_use_exclusive_mode 41

J

J2EE Resources のデータソースへの指定 18

M

mail_sendnum 49
 mail_threadnum 50
 max_apdfilesize 49
 max_apdfiletotalsize 49
 max_commentmailnum 49
 max_contentsfilesize 49
 max_errormailbodysize 52
 max_forumnum 48
 max_opinion 49
 max_pagetotalopinion 49
 max_roumeffective 48
 max_roomreference 48
 MessagingException 発生時のエラーメール通知の有無 46
 MIME 構造情報の設定 17
 MIME パートのネスト解析数 50
 MIME パートのネスト解析数を越えた場合の後処理 46
 MIME パートのネスト解析数を越えた場合のエラーメール通知の有無 47

N

n-gram インデクスプラグインの定義項目 16

O

OutOfMemory エラー [コマンド実行中] 154

P

POP3 サーバのアドレス 45
 POP3 サーバのポート番号 45

POP3 プロトコルアクセスの設定 17

R

RAS 用 Conf ファイルの設定 61
RD エリアの拡張 263
RD エリアの作成 11
RD エリアの作成 [旧バージョンからの移行] 265
RD エリアの容量 [モデルケースごと] 162

S

SGML プラグインの定義項目 16
SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する
場合の設定 276

T

To 属性に設定するダミーの文字列 43

U

uCosminexus Enterprise Search との連携時の障害
について 156
URL 38
URL での指定項目 39
UTF-8 392

W

Web ブラウザ 4

あ

アーカイブ 392
アーカイブ [会議室] 81
アーカイブ待ち 75
アクセス権 384
アクセス権一覧ファイル 293
値の説明で使用する記号 206
後処理 [MIME パートのネスト解析数を越えた場合]
46
アドレス [POP3 サーバ] 45
アドレス [メールサーバ] 42
アプリケーションサーバの設定 18

い

移行 259
移行情報 47
移行する場合の注意事項 [Collaboration - Forum
01-90] 259
移行用コマンド 276

一時保存数 [メッセージキュー] 51
印刷画面の改行文字数デフォルト値 54
印刷画面の自動折り返しデフォルト値 54
印刷画面のタブ文字置き換えデフォルト値 54
インストール 7
インストール [旧バージョンからの移行] 263
インストールディレクトリ構成 158
インデクス一覧 13
インデクス情報の変更 [バージョンアップ] 269
インデクスの格納ページ数の見積もりで使用する値
240
インデクスの作成 16
インデクスの作成 [旧バージョンからの移行] 268
インデクスのセグメント数 [モデルケースごと] 167
インデクス容量の見積もり [旧バージョンからの移行]
260
インポート (発言) [コマンド] 119
インポート・エクスポート情報 [発言] 48
インポート・エクスポート [発言] 89

う

運用 65
運用ディレクトリの設定 [旧バージョンからの移行]
263

え

エクスポート (発言) [コマンド] 110
エラー通知の本文の最大サイズ [メール投稿] 52
エラーメール通知の有無 [MessagingException 発生
時] 46
エラーメール通知の有無 [MIME パートのネスト解析
数を越えた場合] 47
エラーメールの通知有無 46
延期した日付と連鎖して延期される日付 117
延期対象日 [会議室状態との関係] 116
エンコーディング値 [ログ情報] 38

お

お知らせメール 392
お知らせメール機能使用制御 53
お知らせメールの配信 71
お知らせメールの配信の頻度 71
お知らせメール配信 [コマンド] 122
オブジェクト情報 306

か

会議室アーカイブ [コマンド] 103
会議室一覧表示デフォルト値 [レイアウト] 58

- 会議室一覧表示デフォルト値 [ワークスペース] 55
 - 会議室一覧ファイル 290
 - 会議室開催期間最大値 48
 - 会議室期間延長 [コマンド] 116
 - 会議室強制再開 [コマンド] 129
 - 会議室検索 [コマンド] 144
 - 会議室削除 [コマンド] 109
 - 会議室参照期間最大値 48
 - 会議室自動生成時の会議室状態 49
 - 会議室準備期間最大値 48
 - 会議室状態 75
 - 会議室状態 [会議室自動生成時] 49
 - 会議室状態と延期対象日 116
 - 会議室状態の種類 75
 - 会議室状態の遷移 78
 - 会議室状態の遷移 [期間での会議室の操作] 76
 - 会議室状態フラグ 144
 - 会議室状態変更 [コマンド] 106
 - 会議室所有者変更 [コマンド] 105
 - 会議室所有者 [用語解説] 392
 - 会議室のアーカイブ 81
 - 会議室の開催通知登録 [コマンド] 141
 - 会議室の開催通知の登録 72
 - 会議室の期間延長 87
 - 会議室の強制再開 80
 - 会議室の検索 86
 - 会議室の最大作成数 48
 - 会議室の削除 82
 - 会議室の状態変更 75
 - 会議室の状態変更通知登録 [コマンド] 137
 - 会議室の状態変更通知の登録 73
 - 会議室の所有者変更 88
 - 会議室の復活 85
 - 会議室のリストア 84
 - 会議室の利用可否の決定 [個人 (ユーザー自身)] 94
 - 会議室の利用状態 [個人 (ユーザー自身)] 50
 - 会議室の利用の抑止 [個人 (ユーザー自身)] 94
 - 会議室の利用抑止の設定方法 [個人 (ユーザー自身)] 94
 - 会議室復活 [コマンド] 134
 - 会議室名表示位置 [レイアウト] 59
 - 会議室名表示位置 [ワークスペース] 56
 - 会議室リストア [コマンド] 132
 - 会議中 75
 - 改行文字数デフォルト値 [印刷画面] 54
 - 開催期間 76
 - 開催期間 終了日の通知期間 43
 - 開催通知登録 (会議室) [コマンド] 141
 - 開催通知の登録 [会議室] 72
 - 回答期限通知登録 [コマンド] 142
 - 回答期限通知の登録 74
 - 回答期限の事後通知期間 44
 - 回答期限表示位置 [レイアウト] 59
 - 回答期限表示位置 [ワークスペース] 57
 - 回答責任者表示位置 [レイアウト] 59
 - 回答責任者表示位置 [ワークスペース] 56
 - 概要 1
 - 拡張 [RD エリア] 263
 - 格納ページ数の見積もりで使用する値 [インデクス] 240
 - カラム一覧 12
 - カラムの追加およびレコードの更新・設定 266
 - 環境設定 5
 - 環境設定の流れ 6
 - 環境変数グループの登録 9
 - 監査ログ 300
 - 監査ログが出力される操作 301
 - 監査ログのメッセージ 337
 - 監査ログのメッセージの記載形式 337
 - 監査ログのメッセージの詳細 338
 - 監査ログ [用語解説] 392
 - 管理者指定用の言語コード 41
 - 関連づけられていない添付ファイルの削除 83
- ## き
-
- 期間延長 [会議室] 87
 - 期間での会議室の操作による会議室状態の遷移 76
 - 期間と会議室状態の関係 76
 - 期間と会議室状態の遷移 75
 - 記号 [値の説明で使用] 206
 - 議題および発言の総数が多く、未配信状態の議題および発言が滞留する場合 68
 - 議題数最大値 (発言一覧表示) [レイアウト] 58
 - 議題数最大値 (発言一覧表示) [ワークスペース] 54
 - 議題の投稿 (メールによる投稿) [コマンド] 124
 - 議題の投稿 [メールによる投稿] 69
 - 議題または発言の主題, 本文, もしくは発言者に対する全文検索の準備 91
 - 議題または発言の投稿の頻度 69
 - 既読レコード数 [1 度のトランザクション中に削除できる最大数] 39
 - キューテーブル境界値 51
 - 旧バージョンからの移行について 259
 - 強制再開 [会議室] 80
 - 強制終了 [コマンド実行中] 153
 - 共通な認可識別子 63
 - 共有イメージ [他のコンポーネントとコネクションを共有する場合] 62

共有できるコンポーネントと共有イメージ 62
 議論状態一覧ファイル 298
 議論状態表示位置 [レイアウト] 60
 議論状態表示位置 [ワークスペース] 56

く

クライアント環境変数グループ [ほかのコンポーネントと接続を共有する場合の設定] 63
 グローバルバッファの計算方法 10
 グローバルバッファの割り当て 266

け

計算方法 [グローバルバッファ] 10
 言語 [Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management との連携で指定] 278
 言語コード [管理者指定用] 41
 言語コード情報 41
 言語コードの一覧 [リソースとして指定可能] 41
 検索 [会議室] 86
 兼任機能 [用語解説] 392
 兼任ユーザ [用語解説] 392
 兼任 [用語解説] 392

こ

更新

プロパティファイル 271
 レコード [旧バージョンからの移行] 270

構築 [データベースサーバ] 8
 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用可否の決定 94
 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用状態 50
 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用の抑止 94
 個人 (ユーザ自身) の会議室の利用抑止の設定方法 94
 コネクション共有時の設定 271
 コネクションの共有イメージ 62
 コネクションを共有する場合に必要な設定項目 62
 コネクションを共有する場合の設定 62
 コネクションを共有する場合の設定 [クライアント環境変数グループ] 63
 コマンド 99
 コマンド [移行用] 276
 コマンド一覧 100
 コマンド実行時に出力されるメッセージ 309
 コマンド実行時に出力されるメッセージの一覧 310
 コマンド実行時に出力されるメッセージの記載形式 309
 コマンド実行時に出力されるメッセージの形式 309

コマンド実行中の OutOfMemory エラーについて 154
 コマンド実行中の強制終了について 153
 コマンド実行中の障害について 152
 コマンドの実行時に使用されるユーザ情報 281
 コマンドの二重起動について 155
 コンソールの文字コード 1 43
 コンソールの文字コード 2 43
 コンソールの文字コード情報 43
 コンポーネント [共有可能] 62

さ

最大行数 [発言データファイル] 48
 最大サイズ
 添付ファイル 1 ファイル 49
 添付ファイルの合計 49
 ひな形の内容 51
 本文 49
 メール投稿のエラー通知の本文 52
 最大作成数 [会議室] 48
 最大数 [ページめくり用発言] 49
 最大送信回数 [発言メール] 49
 最大送信ユーザ数 [メールサーバ] 42
 最大値
 会議室開催期間 48
 会議室参照期間 48
 会議室準備期間 48
 最大登録数 [発言] 49
 削除
 会議室 82
 関連付けられていない添付ファイル 83
 添付ファイル [コマンド] 102
 マスターデータ 270
 メッセージキュー 97
 メッセージキュー [コマンド] 126
 削除できる最大既読レコード数 [1 トランザクション当たり] 39
 削除待ち 75
 作成
 RD エリア 11
 RD エリア [旧バージョンからの移行] 265
 マスターレコード 16
 参照 (メッセージキュー) [コマンド] 127
 参照期間 76
 参照期間 終了日の通知期間 44
 参照のみ 75
 参照 [メッセージキュー] 96

し

シーケンスマスタレコードの登録 275
 事後通知期間 [回答期限] 44
 システム共通に関するシステムパラメタの設定情報 48
 システムグループに登録する項目 [HiRDB クライアント環境変数登録ツール使用] 9
 システム構成 3
 システムの負荷軽減と実行頻度 93
 システムパラメタの設定 61
 システムパラメタの設定情報 (システム共通) 48
 システムパラメタの設定情報 (新着情報) 60
 システムパラメタの設定情報 (全般) 53
 システムパラメタの設定情報 (レイアウト) 57
 システムパラメタの設定情報 (ワークスペース) 54
 システムパラメタ変更 90
 システムパラメタ変更 [コマンド] 148
 実行頻度 [システム] 93
 指定項目 [URL] 39
 指定値と占有する排他資源数の対応 39
 指定値とトランザクション回数、性能、および排他資源不足の制御可否の関係 40
 自動折り返しデフォルト値 [印刷画面] 54
 重要度一覧ファイル 297
 重要度表示位置 [レイアウト] 60
 重要度表示位置 [ワークスペース] 57
 受信サイズの設定 [メール] 17
 主題表示位置 [レイアウト] 59
 主題表示位置 [ワークスペース] 56
 主題表示文字数最大値 [レイアウト] 57
 主題表示文字数最大値 [ワークスペース] 54
 主体ユーザ [用語解説] 392
 取得件数 [メッセージキュー] 51
 取得処理リトライ実行回数 [メッセージキュー] 52
 取得処理リトライ実行間隔 [メッセージキュー] 52
 準備期間 75
 準備 [全文検索] 91
 準備中 75
 障害 [uCosminexus Enterprise Search との連携時] 156
 障害 [コマンド実行中] 152
 障害対策 151
 上限値 [登録発言 ID] 48
 状態変更 [会議室] 75
 状態変更通知登録 (会議室) [コマンド] 137
 状態変更通知の登録 [会議室] 73
 使用できない文字 280
 所有者変更 [会議室] 88
 新着期間デフォルト値 [新着情報] 60

新着期間デフォルト値 [全般] 53
 新着情報に関するシステムパラメタの設定情報 60
 新着として扱う期間 [未読の議題または発言] 61

す

スキーマ名 38
 スレッド最大数 [メールサーバへ接続] 46

せ

性能と指定値の対応 40
 接続回数 [メールサーバ] 45
 接続情報 [データベース] 38
 接続情報 [メールサーバ] 42
 設定
 Cosminexus DABroker Library 18
 DB Connector [アプリケーションサーバの設定] 18
 DB Connector [ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合の設定] 63
 Groupmax Mail Server 環境テンプレートファイル 17
 HiRDB Text Search Plug-in 15
 MIME 構造情報 17
 POP3 プロトコルアクセス 17
 RAS 用 Conf ファイル 61
 SSL アクセラレータまたはリバースプロキシに対応する場合 276
 アプリケーションサーバ 18
 コネクション共有時 271
 システムパラメタ 61
 定義ファイル 24
 投稿メールの受信 17
 パラメタ 9
 ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合 62
 メールサーバ 17
 メール送信者の E-mail アドレス 17
 メールの受信サイズ 17
 ユーザ権限 11
 ユティリティコマンド 24
 レコード [旧バージョンからの移行] 270
 設定有無 [メール投稿情報] 44
 設定項目 [Cosminexus DABroker Library] 18
 設定項目 [ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合] 62
 設定情報
 システムパラメタ [システム共通] 48
 システムパラメタ [新着情報] 60

システムパラメタ [全般] 53
 システムパラメタ [レイアウト] 57
 システムパラメタ [ワークスペース] 54
 メール投稿 44
 設定方法 [個人(ユーザ自身)の会議室の利用抑止] 94
 セットアップ 8
 セットアップ [コマンド] 108
 セットアップ [ユティリティ] 24
 遷移 [会議室状態] 78
 遷移 [期間と会議室状態] 75
 前提 OS 3
 前提条件 [容量見積もり] 206
 前提プログラム 3
 全般 [システムパラメタ] 53
 [全般] タブに関するシステムパラメタの設定情報 53
 全文検索の準備 91
 全文検索の準備 [議題または発言の主題, 本文, もしくは発言者] 91
 全文検索の準備 [添付ファイル] 92

そ

操作 [監査ログを出力] 301
 送信ユーザ数の最大 [メールサーバ] 42
 属性一覧ファイル 295
 属性表示位置 [レイアウト] 60
 属性表示位置 [ワークスペース] 56
 組織表示デフォルト値 [レイアウト] 58
 組織表示デフォルト値 [ワークスペース] 55

た

タイムゾーン 42
 タイムゾーン情報 42
 滞留 [未配信状態の議題および発言] 68
 タブ文字置き換えデフォルト値 53
 タブ文字置き換えデフォルト値 [印刷画面] 54
 ダミーの文字列 [To 属性に設定] 43

ち

注意事項 [Collaboration - Forum 01-90 に移行する場合] 259

つ

追加 [カラム] 266
 通信タイムアウト時間 [メールサーバとのコネクション確立] 42
 通信タイムアウト時間 [メールサーバ] 43
 通知有無 [エラーメール] 46
 通知期間 [開催期間 終了日] 43

通知期間 [参照期間 終了日] 44
 通知単位 [メッセージ] 48

て

定義項目 [n-gram インデクスプラグイン] 16
 定義項目 [SGML プラグイン] 16
 定義ファイルの設定 24
 ディレクトリ構成 [インストールディレクトリ] 158
 データ受信バッファサイズ [DABroker] 50
 データソースへの指定 [J2EE Resources] 18
 データベースサーバの構築 8
 データベースに登録する文字コード 39
 データベースの種類 50
 データベースの接続情報 38
 データベースのバックアップ 261
 データベース排他リトライ回数 50
 データベース排他リトライ間隔 50
 データベース容量の見積もりで使用する値 206
 データベース容量 [モデルケースごと] 159
 テーブル一覧 12
 テーブルおよびインデクスの作成 16
 テーブルおよびインデクスの作成 [旧バージョンからの移行] 268
 テーブル単位の排他ロック指定有無 41
 テーブルのセグメント数 [モデルケースごと] 167
 テーブル容量およびインデクス容量の見積もりについて [旧バージョンからの移行] 260
 デフォルト値
 印刷画面の改行文字数 54
 印刷画面の自動折り返し 54
 印刷画面のタブ文字置き換え 54
 会議室一覧表示 [レイアウト] 58
 会議室一覧表示 [ワークスペース] 55
 新着期間 [新着情報] 60
 新着期間 [全般] 53
 組織表示 [レイアウト] 58
 組織表示 [ワークスペース] 55
 タブ文字置き換え 53
 発言のドラッグ & ドロップ 53
 発言ヘッダ情報表示 [レイアウト] 58
 発言ヘッダ情報表示 [ワークスペース] 55
 日付表示形式 [レイアウト] 58
 日付表示形式 [ワークスペース] 55
 フィルタ条件 53
 プレビュー表示 [レイアウト] 58
 プレビュー表示 [ワークスペース] 55
 本文自動折り返し 53
 メール配信設定 52
 メンバ追加お知らせ機能 51

文字数カウント単位 54
 役職表示 [レイアウト] 58
 役職表示 [ワークスペース] 55
 添付ファイル 289
 添付ファイル有無表示位置 [レイアウト] 59
 添付ファイル有無表示位置 [ワークスペース] 56
 添付ファイル削除 [コマンド] 102
 添付ファイルに対する全文検索の準備 92
 添付ファイルの 1 ファイルの最大サイズ 49
 添付ファイルの合計最大サイズ 49
 添付ファイルの削除 [関連づけられていない添付ファイル] 83

と

投稿 (メールによる議題または発言の投稿) [コマンド] 124
 投稿されたメールを取得するためのパスワード 45
 投稿されたメールを取得するためのユーザ名 45
 投稿の頻度 [議題または発言] 69
 投稿 [メールによる議題または発言の投稿] 69
 投稿メールを受信するための E-mail アドレス 45
 投稿メールを受信するためのユーザの登録 17
 投稿メールを受信するためのユーザの登録と設定 17
 動作情報 307
 同時実行スレッド数 [frmopnmail コマンド (メール配信) 実行時] 50
 登録
 会議室状態変更通知 [コマンド] 137
 会議室の状態変更通知 73
 回答期限通知 74
 回答期限通知 [コマンド] 142
 環境変数グループ 9
 シーケンスマスタレコード 275
 マスタデータ 271
 登録発言 ID の上限値 48
 ドライバ名 38
 ドラッグ & ドロップのデフォルト値 [発言] 53
 トランザクション回数と指定値の対応 40
 トランザクション情報 39
 トランザクション中に削除できる最大既読レコード数 [1 トランザクション当たり] 39

に

二重起動 [コマンド] 155
 二重投稿 [メール] 69
 二重投稿抑止チェック対象のメールのメッセージ ID 長 47
 認可識別子 [共通] 63

ね

ネスト解析数 [MIME パート] 50
 ネスト解析数を越えた場合の後処理 [MIME パート] 46

は

パーソナライズ情報 392
 パーソナライズ情報の見積もり 8
 配信 (メール) [コマンド] 123
 配信 [お知らせメール] 71
 配信処理リトライ実行回数 [メッセージキュー] 52
 配信処理リトライ実行間隔 [メッセージキュー] 52
 配信の頻度 [お知らせメール] 71
 配信の頻度 [メール] 68
 配信 [メール] 68
 排他資源数と指定値の対応 39
 排他資源不足の制御可否と指定値の対応 40
 排他リトライ回数 [データベース] 50
 排他リトライ間隔 [データベース] 50
 排他ロック指定有無 [テーブル単位] 41
 パスワード 39
 パスワード [投稿されたメールの取得] 45
 バックアップ [データベース] 261
 バックアップ [プロパティファイル] 263
 発言一覧表示議題数最大値 [レイアウト] 58
 発言一覧表示議題数最大値 [ワークスペース] 54
 発言一覧表示発言数最大値 [レイアウト] 57
 発言一覧表示発言数最大値 [ワークスペース] 54
 発言一覧ファイル 294
 発言件数 [frmopnmail コマンド (メール配信) 実行時] 49
 発言者表示位置 [レイアウト] 59
 発言者表示位置 [ワークスペース] 56
 発言数最大値 (発言一覧表示) [レイアウト] 57
 発言数最大値 (発言一覧表示) [ワークスペース] 54
 発言データファイル 283
 発言データファイルの最大行数 48
 発言日時表示位置 [レイアウト] 60
 発言日時表示位置 [ワークスペース] 56
 発言のインポート・エクスポート 89
 発言のインポート・エクスポート情報 48
 発言のインポート [コマンド] 119
 発言のエクスポート [コマンド] 110
 発言の最大登録数 49
 発言の投稿 (メールによる投稿) [コマンド] 124
 発言の投稿 [メールによる投稿] 69
 発言のドラッグ & ドロップのデフォルト値 53
 発言番号表示位置 [レイアウト] 60

発言番号表示位置 [ワークスペース] 57
 発言ヘッダ情報表示デフォルト値 [レイアウト] 58
 発言ヘッダ情報表示デフォルト値 [ワークスペース]
 55
 発言ヘッダファイル 289
 発言メール最大送信回数 49
 バッファサイズ [DABroker のデータ受信] 50
 バッファサイズの見直し 274
 パラメタの設定 9

ひ

日付 [延期した日付と連鎖して延期される日付] 117
 日付の更新内容 [会議室復活時] 136
 日付表示形式デフォルト値 [レイアウト] 58
 日付表示形式デフォルト値 [ワークスペース] 55
 必要な設定項目 [ほかのコンポーネントとコネクショ
 ンを共有する場合の設定] 62
 ひな形の内容の最大サイズ 51
 表示位置
 会議室名 [レイアウト] 59
 会議室名 [ワークスペース] 56
 回答期限 [レイアウト] 59
 回答期限 [ワークスペース] 57
 回答責任者 [レイアウト] 59
 回答責任者 [ワークスペース] 56
 議論状態 [レイアウト] 60
 議論状態 [ワークスペース] 56
 重要度 [レイアウト] 60
 重要度 [ワークスペース] 57
 主題 [レイアウト] 59
 主題 [ワークスペース] 56
 属性 [レイアウト] 60
 属性 [ワークスペース] 56
 添付ファイル有無 [レイアウト] 59
 添付ファイル有無 [ワークスペース] 56
 発言者 [レイアウト] 59
 発言者 [ワークスペース] 56
 発言日時 [レイアウト] 60
 発言日時 [ワークスペース] 56
 発言番号 [レイアウト] 60
 発言番号 [ワークスペース] 57
 未読/既読 [レイアウト] 59
 未読/既読 [ワークスペース] 57
 有効期限 [レイアウト] 60
 有効期限 [ワークスペース] 57
 表示文字数最大値 (主題) [レイアウト] 57
 表示文字数最大値 (主題) [ワークスペース] 54
 表の格納ページ数の見積もりで使用する値 209
 頻度 [お知らせメールの配信] 71

頻度 [議題または発言の投稿] 69

ふ

ファイル名に使用できない文字 280
 フィルタ条件デフォルト値 53
 負荷軽減 [システム] 93
 復活 (会議室) [コマンド] 134
 復活 [会議室] 85
 復活時の状態と日付の更新内容 136
 フラグ [会議室状態] 144
 プレビュー表示デフォルト値 [レイアウト] 58
 プレビュー表示デフォルト値 [ワークスペース] 55
 プロパティ一覧 [変更可能] 23
 プロパティ項目一覧 25
 プロパティの詳細 [Collaboration - Forum の言語情
 報] 41
 プロパティの詳細 [移行情報] 47
 プロパティの詳細 [コンソールの文字コード情報] 43
 プロパティの詳細 [システムパラメタの設定情報 (シ
 ステム共通)] 48
 プロパティの詳細 [システムパラメタの設定情報 (新
 着情報)] 60
 プロパティの詳細 [システムパラメタの設定情報 (全
 般)] 53
 プロパティの詳細 [システムパラメタの設定情報 (レ
 イアウト)] 57
 プロパティの詳細 [システムパラメタの設定情報 (ワー
 クスペース)] 54
 プロパティの詳細 [タイムゾーン情報] 42
 プロパティの詳細 [データベースの接続情報] 38
 プロパティの詳細 [トランザクション情報] 39
 プロパティの詳細 [メールサーバの接続情報] 42
 プロパティの詳細 [メール通知情報] 43
 プロパティの詳細 [メール投稿設定情報] 44
 プロパティの詳細 [ログ情報] 36
 プロパティファイルの更新 271
 プロパティファイルのバックアップ 263
 プロパティファイルの編集 23

へ

閉鎖中 75
 ページめくり用発言の最大数 49
 変換後文字列 47
 変換前文字列 47
 変更
 インデクス情報 [旧バージョンからの移行] 269
 会議室の所有者 88
 システムパラメタ 90

システムパラメタ [コマンド] 148
 文字コード 11
 変更できるプロパティ一覧 23
 編集 [プロパティファイル] 23

ほ

ポート番号 [POP3 サーバ] 45
 ポート番号 [メールサーバ] 42
 ほかのコンポーネントとコネクションを共有する場合
 の設定 62
 本文自動折り返しデフォルト値 53
 本文の最大サイズ 49
 本文の最大サイズ [メール投稿のエラー通知] 52
 本文ファイル 288

ま

マスタデータの削除 270
 マスタデータの登録 271
 マスタレコードの作成 16

み

見積もりで使用する値
 インデクスの格納ページ数 240
 データベース容量 206
 表の格納ページ数 209
 ユーザ LOB 用 RD エリア 257
 ユーザ用 RD エリアの容量 208
 見積もり [パーソナライズ情報] 8
 未読/既読表示位置 [レイアウト] 59
 未読/既読表示位置 [ワークスペース] 57
 未読の議題または発言を新着として扱う期間 [新着情
 報] 61
 見直し [バッファサイズ] 274
 未配信状態の議題および発言が滞留する場合 68

め

メールが二重投稿される場合 69
 メール件数 [メールサーバから一度に受信する件数]
 45
 メールサーバから一度に受信するメール件数 45
 メールサーバとのコネクション確立までの通信タイム
 アウト時間 42
 メールサーバとの通信タイムアウト時間 43
 メールサーバに接続するスレッド最大数 46
 メールサーバのアドレス 42
 メールサーバの最大送信ユーザ数 42
 メールサーバの接続情報 42
 メールサーバの設定 17

メールサーバのポート番号 42
 メールサーバへの接続回数 45
 メール設定欄表示状態 52
 メール送信者の E-mail アドレスの設定 17
 メール通知情報 43
 メール投稿情報の設定有無 44
 メール投稿設定情報 44
 メール投稿のエラー通知の本文の最大サイズ 52
 メールによる議題または発言の投稿 69
 メールによる議題または発言の投稿 [コマンド] 124
 メールを受信サイズの設定 17
 メールの配信 68
 メールの配信の頻度 68
 メール配信コマンド実行時に送信する発言件数 49
 メール配信コマンド実行時の同時実行スレッド数 50
 メール配信時の文字コード 42
 メール配信時の文字コードの指定 279
 メール配信設定のデフォルト値 52
 メール配信 [コマンド] 123
 メールヘッダのログ出力制御 46
 メソッドキャンセル機能と業務アプリケーションの強
 制停止 20
 メッセージ ID 長 [二重投稿抑止チェック対象のメー
 ル] 47
 メッセージ [監査ログ] 337
 メッセージキューの API 取得処理リトライ実行回数
 51
 メッセージキューの API 取得処理リトライ実行間隔
 51
 メッセージキューの一時保存数 51
 メッセージキューの削除 97
 メッセージキューの削除 [コマンド] 126
 メッセージキューの参照 96
 メッセージキューの参照 [コマンド] 127
 メッセージキューの取得件数 51
 メッセージキューの取得処理リトライ実行回数 52
 メッセージキューの取得処理リトライ実行間隔 52
 メッセージキューの配信処理リトライ実行回数 52
 メッセージキューの配信処理リトライ実行間隔 52
 メッセージ [コマンド実行時] 309
 メッセージの一覧 [コマンド実行時] 310
 メッセージの記載形式 [監査ログ] 337
 メッセージの記載形式 [コマンド実行時] 309
 メッセージの形式 [コマンド実行時] 309
 メッセージの詳細 [監査ログ] 338
 メッセージの通知単位 48
 メンバ追加お知らせ機能デフォルト値 51

も

- 文字コード 1 [コンソール] 43
- 文字コード 2 [コンソール] 43
- 文字コード情報 [コンソール] 43
- 文字コード [データベースに登録] 39
- 文字コードの指定 [メール配信時] 279
- 文字コードの変更 11
- 文字コード [メール配信時] 42
- 文字数カウント単位デフォルト値 54
- モデルケースごとの RD エリアの容量 162
- モデルケースごとのデータベース容量 159
- モデルケースごとのテーブルおよびインデクスのセグメント数 167

や

- 役職表示デフォルト値 [レイアウト] 58
- 役職表示デフォルト値 [ワークスペース] 55

ゆ

- 有効期限表示位置 [レイアウト] 60
- 有効期限表示位置 [ワークスペース] 57
- ユーザ ID に使用できない文字 280
- ユーザ LOB 用 RD エリアの見積もりで使用する値 257
- ユーザ権限の設定 11
- ユーザ情報 [コマンド実行時] 281
- ユーザの登録 [投稿メールの受信] 17
- ユーザ名 39
- ユーザ名 [投稿されたメールの取得] 45
- ユーザ用 RD エリアの容量見積もりで使用する値 208
- ユティリティコマンドの設定 24
- ユティリティの設定 275
- ユティリティのセットアップ 24

よ

- 容量見積もりの前提条件 206

り

- リストア 392
- リストア (会議室) [コマンド] 132
- リストア [会議室] 84
- リソースとして指定できる言語コードの一覧 41
- リトライ境界値 51
- リバースプロキシに対応する場合の設定 276
- 利用可否の決定 [個人 (ユーザ自身) の会議室] 94
- 利用状態 [個人 (ユーザ自身) の会議室] 50
- 利用の抑止 [個人 (ユーザ自身) の会議室] 94

- 利用抑止の設定方法 [個人 (ユーザ自身) の会議室] 94

れ

- [レイアウトごとの設定] タブに関するシステムパラメタの設定情報 57
- レコードの更新と設定 270
- レコードの更新・設定 266
- 連携で指定する言語 [Collaboration - Directory Access または Collaboration - Online Community Management] 278

ろ

- ログ出力制御 [メールヘッダ] 46
- ログ情報 36
- ログ情報のエンコーディング値 38
- ログファイルのサイズ 37
- ログファイルの出力先ディレクトリ名 36
- ログファイルの面数 37
- ログレベル 37

わ

- [ワークスペースごとの設定] タブに関するシステムパラメタの設定情報 54
- 割り当て [グローバルバッファ] 266